

静岡県三島市

DAISAKI-A

# 台崎 A 遺跡

館原山中ひびきバス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（その4）

2018

三島市教育委員会





台崎 A 遺跡全景



1-7 地点休場中層掘削作業風景 東から



1-7 地点休場中層遺物出土状況 西から



1-6 地点二セローム層～第Ⅱ黒色帶遺物出土状況 東から



1-10 地点二セローム層～第Ⅱ黒色帶遺物出土状況 南から



漸移層・休場層出土尖頭器（下段表探資料）(S=1/1)



1-2・4・6・7・10 地点休場層出土ナイフ型石器 1 (S=1/1)



1-2・6・7・9・10 地点休場層出土ナイフ型石器 2 (S=1/1)



1-6・10 地点ニセローム層・第Ⅱ黒色帶出土ナイフ型石器 (S=1/1)



1-4 地点第 I 黒色帶～ニセローム層出土ラウンドスクレーパー (S=1/1)



1-4 地点出土繩文土器 (S=1/3)・軽石製品 (S=1/1)

## 序 文

私たちの住む三島市は市域の東に箱根山、北に富士山・愛鷹山を望み、眼前には広大な三島・田方平野が広がり、さらに駿河湾を見渡せる自然豊かで風光明媚なまちです。古くは箱根山西麓に旧石器時代の人々が住みつき、三島・田方平野には弥生時代以降に開発された条里水田が広がっています。そして伊豆国の国府所在地となってからは、伊豆地域における政治、経済、文化の中心として、伊豆一宮である「三嶋神明」を中心に栄えてまいりました。

三島市ではこうした先人の遺産を後世に継承できるよう、種々の施策を実施して保存・活用に努めておりますが、やむなく破壊されてしまう遺跡については、発掘調査を実施して記録保存を図っています。一般国道1号笛原中山バイパスは箱根山西麓の遺跡密集地を大きく蛇行しながら通過するため、工事着工前に多くの発掘調査を実施し、本書は4冊目の発掘調査報告書になります。

今回発掘調査報告書にまとめました台崎A遺跡は、箱根山西麓の標高390～430mに位置し、笛原中山バイパスの三島市側の起点に相当します。調査は平成18年12月から平成23年1月にかけて実施しました。広範囲かつ長期間に亘る発掘調査であったため、熱暑の夏場には熱中症が心配されました。幸い大きな事故もなく終了することができました。調査の詳しい内容は本文に譲りますが、発掘調査では旧石器時代の石器類12,790点が出土するといった大きな成果を上げることができました。一例を挙げると、ここで出土した石器は主にナイフ形石器で、その中にはこれまでにあまり類例の無い極小のナイフ形石器が数多く含まれているということです。こうした成果を詳細に報告した本書が多くの方々に活用され、三島市民の皆さんの郷土史理解の一助としてのみならず、日本の旧石器時代文化研究の進展にわずかなりとも寄与することを願ってやみません。

最後になりましたが、台崎A遺跡の発掘調査ならばに報告書作成にあたっては、国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所、静岡県教育委員会をはじめ多くの関係諸機関にご指導ご協力を賜りました。また、長期に渡る発掘調査に従事された作業員の方々に対し、心よりお礼を申し上げまして刊行のご挨拶といたします。

平成30年3月

三島市教育委員会  
教育長 西島 玉枝

## 例　　言

1. 本書は、三島市菅原新田地内に位置する台崎 A 遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、一般国道 1 号菅原山中バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、国土交通省中部地方整備局の委託を受け、三島市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は辻真人が担当し、株式会社シン技術コンサルが発掘調査支援を行い、平成 18 年 12 月 19 日から平成 22 年 1 月 29 日まで実施した。各年度の担当監督員は以下の通りである。  
平成 18 年度 山本久、平成 19 年度 矢島博文、平成 20 年度～平成 22 年度 相澤正信
4. 出土遺物の整理は、平成 20 年度から平成 27 年度まで断続的に 5 ケ年で実施し、報告書の作成は平成 25 年度から平成 29 年度事業として平成 25 年 7 月 11 日から平成 30 年 3 月 16 日まで実施した。
5. 出土遺物・採取資料に関する分析・同定は、次の方々に依頼し玉稿を賜った。記して感謝申し上げる。  
黒曜石産地同定（元）国立沼津工業高等専門学校 望月昭彦氏  
放射性炭素年代測定、ローム層花粉分析 パリノ・サーヴェイ株式会社
6. 現地での測量業務、計測業務、航空写真の撮影は、株式会社シン技術コンサルが行い、遺構・遺物の測量は株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を利用して計測し、さらに図化を行った。
7. 本遺跡の遺物整理は、旧石器時代の石器について相澤が、周辺の遺跡分布図、遺跡一覧表については辻が整理員を指導して行った。石材鑑定は、有限会社考古石材研究所の柴田徹氏に代表的な岩石の石材分類を依頼し、それを基に相澤が行った。本書の執筆は、第 1 章第 1 節を辻が、第 1 章第 2 節～第 10 章を相澤が、第 11 章第 1 節～第 5 節をパリノ・サーヴェイ株式会社が、第 11 章第 6 節を望月が行い、編集は新井かおり（株式会社シン技術コンサル）が行った。各調査事業、整理事業の計画・調整業務は辻が行った。
8. 平成 19 年度調査に於いて一部土層の誤認が認められているが、出土層位の再認定については、不確定要素が大きくならない混乱をきたすため、修正は行っていない。
9. 本報告における図面、写真、遺物等の調査資料は三島市教育委員会で保管している。
10. 三島市教育委員会の発掘調査・整理事務局の体制は以下の通りである。

### 【平成 18 年度】三島市教育委員会

教育部長	有尾 克人
文化振興課長	佐野 隆一
文化振興課課長補佐	徳野 茂雄
文化振興係副主任	池田 智美 松田 孝之
文化振興係主任	大林 敦 岩田 和史
文化振興係主任学芸員	鈴木 敏中
文化振興係学芸員	芦川 忠利 寺田 光一郎 辻 真人

### 【平成 19 年度】三島市教育委員会

教育部長	有尾 克人
文化振興課長	佐野 隆一
文化振興課課長補佐	石川 道久
文化振興係副主任	鈴木 敏中
文化振興係主任	池田 智美
文化振興係主任	山川 美香 大林 敦 岩田 和史
文化振興係学芸員	芦川 忠利 寺田 光一郎 辻 真人

【平成 20 年度】三島市教育委員会

教育部長	梅原 薫
文化振興課長	稻木 久男
文化振興課長補佐	大庭 一敏
文化振興課主幹	鈴木 敏中
文化振興係副主任	池田 智美
文化振興係主任	山川 美香 大林 素
文化振興係主任補	井上 慎介
文化振興係学芸員	芦川 忠利 寺田 光一郎 達 真人

【平成 21 年度】三島市教育委員会

教育部長	梅原 薫
教育部参事	稻木 久男
文化振興課副参事	大庭 一敏
文化振興課主幹	鈴木 敏中
文化振興係副主任	池田 智美 小川 京子 大林 素
文化振興係主任	井上 慎介
文化振興係学芸員	芦川 忠利 寺田 光一郎 達 真人

【平成 22 年度】三島市教育委員会

教育部長	杉山 孝二
文化振興課長	青木 良雄
文化振興課主幹	中野 行男
文化振興係長	池田 健二
文化振興係副主任	小川 京子
文化振興係主任	大庭 弓子
文化振興係主任補	井上 慎介
文化振興係主任学芸員	伊東 親次
文化振興係学芸員	芦川 忠利 寺田 光一郎 達 真人

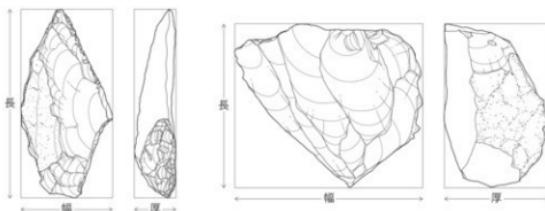
【平成 29 年度】三島市教育委員会

教育推進部長	小池 満
郷土文化財室長	芦川 忠利
郷土文化財室主幹	寺田 光一郎
郷土文化財室主任学芸員	達 真人
郷土文化財室副主任	石間 可奈子
郷土文化財室臨時学芸員	吉野 文彬

11. 遺跡の調査、遺物整理では次の方面に御教示・御協力を頂いた。記して御礼申し上げる。(五十音順 敬称略)  
麻生順司 池谷信之 石田典子 大場正善 小原俊行 桜井美枝 鰐原千賀子 鰐原芳郎 須藤隆司 調訪間順  
大工原豊 津島秀章 堀 隆 中川律子 前島秀張 山田しょう

## 凡　例

1. 本書で使用した地図は第1、3図が三島市都市計画図 10,000分1、2,500分1を、第2図が国土地理院発行地形図 50,000分1「沼津」、「御殿場」、「小田原」、「熱海」を一部改変し使用している。
2. 本書における方位は、世界測地系第Ⅷ区に基づく座標北である。標高(T.P.)を各土層断面に記している。但し、本書は測地成果 2011には対応していない。
3. 遺構挿図の縮尺
  - 【旧石器時代】
    - ・全体図 (1/300・1/400・1/500)
    - ・遺物分布図 (1/40・1/60・1/80・1/100)
    - ・土層柱状図 (縦1/80・横1/160)
  - 【縄文時代】
    - ・全体図 (1/300・1/400・1/600)
    - ・遺物分布図 (1/100)
    - ・遺構図 (1/40・1/60)
4. 遺物挿図の縮尺(縮尺の異なるものは明記した)
  - 【旧石器時代】
    - ・石器 (1/1・2/3・1/2・1/3)
    - ・接合資料 (1/1・2/3・1/3)
  - 【縄文時代】
    - ・土器 (1/3)
    - ・石器 (1/1)
5. 石器、遺構の分類は、初音ヶ原遺跡(1999鈴木ほか)に準じている。
6. 遺物番号は、台崎A遺跡全体で連続番号を付してあり、本文・挿図・表・写真図版とも一致する。
7. 遺物写真は、遺物図と同縮尺を基本としているが、レイアウトの都合で一部配置、縮尺を変更したものもある。
8. 石器の計測は、次の基準で行った。





## 目 次

巻頭図版 1 ~ 8	
序 文	
例 言	
凡 例	
第1章 調査と環境 .....	1
第1節 発掘調査に至る経緯 .....	1
第2節 遺跡の立地と歴史的環境 .....	3
1. 遺跡の立地 .....	3
2. 歴史的環境 .....	3
第3節 発掘調査の経過と概要 .....	7
第4節 遺跡の層序 .....	10
第2章 一次調査 .....	19
第1節 1-3 地点 .....	20
1. 1-3 地点 .....	21
2. 1-5 地点 .....	22
3. 1-8 地点 .....	22
第3章 1-1 地点 .....	23
第1節 YL 層準の遺構・遺物 .....	24
1. 検出された遺構 .....	24
2. 出土遺物 .....	28
第2節 縄文時代の遺物 .....	31
1. 出土遺物 .....	31
第4章 1-2 地点 .....	32
第1節 YL 層準の遺構・遺物 .....	32
1. 検出された遺構 .....	32
2. 出土遺物 .....	39
第2節 縄文時代の遺構・遺物 .....	47
1. 検出された遺構 .....	47
2. 出土遺物 .....	48
第3節 表面採取遺物 .....	50
1. 表面採取遺物 .....	50
第5章 1-4 地点 .....	52
第1節 YL 層準出土の遺構・遺物 .....	52
1. 検出された遺構 .....	52
2. 出土遺物 .....	68
第2節 BB I ~ NL 層の遺構・遺物 .....	99
1. 検出された遺構 .....	99
2. 出土遺物 .....	106
第3節 NL ~ BBIII 層の遺構・遺物 .....	121
1. 検出された遺構 .....	121
2. 出土遺物 .....	134
第4節 縄文時代の遺構・遺物 .....	167
1. 検出された遺構 .....	167
2. 出土遺物 .....	175
第6章 1-7 地点 .....	179
第1節 YL 層準出土の遺構・遺物 .....	179
1. 検出された遺構 .....	179
2. 出土遺物 .....	202
第2節 BB II 層の遺構・遺物 .....	253
1. 検出された遺構 .....	253

2. 出土遺物	254
第3節 繩文時代の遺構・遺物	255
1. 検出された遺構	256
2. 出土遺物	257
第7章 1-10 地点	259
第1節 YL 層準出土の遺構・遺物	259
1. 検出された遺構	259
2. 出土遺物	272
第2節 NL～BBIIの遺構・遺物	319
1. 検出された遺構	319
2. 出土遺物	325
第3節 繩文時代の遺物	344
1. 出土遺物	344
第8章 1-6 地点	345
第1節 YL 層準出土の遺構・遺物	345
1. 検出された遺構	345
2. 出土遺物	359
第2節 埋没谷	375
1. 埋没谷	375
2. 出土遺物	377
第3節 NL～BBII層の遺構・遺物	381
1. 検出された遺構	381
2. 出土遺物	391
第4節 繩文時代の遺物	409
1. 出土遺物	410
第5節 耕作土出土の遺物	412
1. 出土遺物	412
第9章 1-9 地点	414
第1節 YL 層準出土の遺構・遺物	414
1. 検出された遺構	414
2. 出土遺物	419
第2節 NL 層出土の遺構・遺物	433
1. 検出された遺構	433
2. 出土遺物	433
第3節 繩文時代の遺構・遺物	434
1. 検出された遺構	434
2. 出土遺物	435
第10章 調査の成果と課題	436
第1節 台崎A 遺跡の調査成果	436
1. 調査の概要	436
2. 旧石器時代における各層準の遺物	436
3.YL 層準出土の小型ナイフ形石器群について	442
第11章 台崎A 遺跡の自然科学分析	447
第1節 はじめに	447
1.1-4 地点の分析	447
2.1-7 地点および1-9 地点の分析	447
3.1-6 地点および1-10 地点の分析	447
第2節 試料	447
1.1-4 地点の分析	447
2.1-7 地点および1-9 地点の分析	447
3.1-6 地点および1-10 地点の分析	448

第3節 分析方法	448
1. 放射性炭素年代測定	448
2. 樹種同定	448
3. 植物珪酸体分析	449
4. 微細物分析	449
第4節 結果	449
1.1-4 地点第2号礫群	449
2.1-7 地点および1-9地点の分析	451
3.1-6 地点および1-10地点の分析	453
第5節 考察	455
1.1-4 地点の分析	455
2.1-7 地点および1-9地点の分析	456
3.1-6 地点および1-10地点の分析	458
第6節 蛍光x線分析による出土黒曜石石器群の原産地同定	467
主要参考文献	
付 表	
写 真 図 版	
抄 錄	

## 挿図目次

第1図 菅原山中バイパス開通道路全体配置図	2	第5・6 ブロック遺物分布図	58
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	4	第44図 1-4 地点 YL層準	
第3図 道路の範囲と調査地の位置	9	第7 ブロック遺物分布図	59
第4図 台崎A遺跡の層序1-1・2地点	12	第45図 1-4 地点 YL層準	
第5図 台崎A遺跡の層序1-3・4地点	13	第8 ブロック遺物分布図	60
第6図 台崎A遺跡の層序1-5地点	14	第46図 1-4 地点 YL層準	
第7図 台崎A遺跡の層序1-6地点	15	第9～11 ブロック遺物分布図	62
第8図 台崎A遺跡の層序1-7地点	16	第47図 1-4 地点 YL層準	
第9図 台崎A遺跡の層序1-8・10地点	17	第12・13 ブロック遺物分布図	63
第10図 台崎A遺跡の層序1-9地点	18	第48図 1-4 地点 YL層準 第1・2号縦群	
第11図 1-3・5・8地点 全体図	19	第1～3号配石遺物分布図	65
第12図 1-3地点 遺物分布図・出土遺物	20	第49図 1-4 地点 YL層準 第3～6号縦群	
第13図 1-5地点 遺物分布図・出土遺物	21	第4～11号配石遺物分布図	66
第14図 1-8地点 遺物分布図・出土遺物	22	第50図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(1)	70
第15図 1-1地点 全体図	23	第51図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(2)	71
第16図 1-1地点 第1ブロック遺物分布図	24	第52図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(3)	72
第17図 1-1地点 第2ブロック遺物分布図	25	第53図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(4)	73
第18図 1-1地点 第3ブロック遺物分布図	26	第54図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(5)	74
第19図 1-1地点 第1号縦群		第55図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(6)	75
第1号配石遺物分布図	27	第56図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(7)	76
第20図 1-1地点 YL層準 出土遺物(1)	28	第57図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(8)	77
第21図 1-1地点 YL層準 出土遺物(2)	30	第58図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(9)	78
第22図 1-1地点 縄文時代遺物分布図・出土遺物	31	第59図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(10)	79
第23図 1-2地点 YL層準 全体図	32	第60図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(11)	80
第24図 1-2地点 YL層準 第1ブロック遺物分布図	34	第61図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(12)	81
第25図 1-2地点 YL層準 第2ブロック遺物分布図	35	第62図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(13)	82
第26図 1-2地点 YL層準 第3ブロック遺物分布図	36	第63図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(14)	83
第27図 1-2地点 YL層準 第1号縦群		第64図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(15)	84
第1号配石遺物分布図	37	第65図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(16)	85
第28図 1-2地点 YL層準 第2号縦群		第66図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(17)	86
第2号配石遺物分布図	38	第67図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(18)	87
第29図 1-2地点 YL層準 出土遺物(1)	40	第68図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(19)	88
第30図 1-2地点 YL層準 出土遺物(2)	41	第69図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(20)	89
第31図 1-2地点 YL層準 出土遺物(3)	42	第70図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(21)	90
第32図 1-2地点 YL層準 出土遺物(4)	43	第71図 1-4 地点 YL層準 出土遺物(22)	91
第33図 1-2地点 YL層準 出土遺物(5)	44	第72図 1-4 地点 YL層準 接合資料(1)	92
第34図 1-2地点 YL層準 接合資料	46	第73図 1-4 地点 YL層準 接合資料(2)	93
第35図 1-2地点 縄文時代 全体図	47	第74図 1-4 地点 YL層準 接合資料(3)	94
第36図 1-2地点 第1号土坑	48	第75図 1-4 地点 YL層準 接合資料(4)	95
第37図 1-2地点 縄文時代出土遺物	49	第76図 1-4 地点 YL層準 接合資料(5)	96
第38図 1-2地点 表面採取遺物	51	第77図 1-4 地点 YL層準 接合資料(6)	97
第39図 1-4地点 YL層準 全体図	53	第78図 1-4 地点 YL層準 接合資料(7)	98
第40図 1-4地点 YL層準 第1ブロック遺物分布図	54	第79図 1-4 地点 BB1～NL層 全体図	100
第41図 1-4地点 YL層準 第2ブロック遺物分布図	55	第80図 1-4 地点 BB1～NL層 第1ブロック遺物分布図	101
第42図 1-4地点 YL層準		第81図 1-4 地点 BB1～NL層 第2ブロック遺物分布図	102
第3・4ブロック遺物分布図	56		
第43図 1-4地点 YL層準			

第 82 図	1-4 地点 BB I ~ NL 層	第 123 図	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (15) .....	149	
	第 3 ブロック遺物分布図 .....	第 124 図	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (16) .....	150	
第 83 図	1-4 地点 BB I ~ NL 層	第 125 図	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (17) .....	151	
	第 4 ブロック遺物分布図 .....	第 126 図	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (18) .....	152	
第 84 図	1-4 地点 BB I ~ NL 層	第 127 図	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (19) .....	153	
	第 1・2 号縛群、第 1 号配石遺物分布図 .....	第 128 図	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (20) .....	154	
第 85 図	1-4 地点 BB I ~ NL 層 出土遺物 (1) .....	第 129 図	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (21) .....	155	
第 86 図	1-4 地点 BB I ~ NL 層 出土遺物 (2) .....	第 130 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (22) .....	156	
第 87 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 出土遺物 (3) .....	第 131 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 接合資料 (1) .....	158	
第 88 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 出土遺物 (4) .....	第 132 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 接合資料 (2) .....	159	
第 89 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 出土遺物 (5) .....	第 133 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 接合資料 (3) .....	160	
第 90 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 出土遺物 (6) .....	第 134 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 接合資料 (4) .....	161	
第 91 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 出土遺物 (7) .....	第 135 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 接合資料 (5) .....	162	
第 92 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 出土遺物 (8) .....	第 136 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 接合資料 (6) .....	163	
第 93 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 出土遺物 (9) .....	第 137 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 接合資料 (7) .....	164	
第 94 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 出土遺物 (10) .....	第 138 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 接合資料 (8) .....	165	
第 95 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 接合資料 (1) .....	第 139 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 接合資料 (9) .....	166	
第 96 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 接合資料 (2) .....	第 140 国	1-4 地点 繩文時代 全体図 .....	168	
第 97 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 接合資料 (3) .....	第 141 国	1-4 地点 第 1 号住居跡 (1) .....	169	
第 98 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 接合資料 (4) .....	第 142 国	1-4 地点 第 1 号住居跡 (2) .....	170	
第 99 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 接合資料 (5) .....	第 143 国	1-4 地点 第 1・8・10 号土坑 .....	172	
第 100 国	1-4 地点 BB I ~ NL 層 接合資料 (6) .....	第 144 国	1-4 地点 第 9 号土坑 .....	173	
第 101 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 全体図 .....	第 145 国	1-4 地点 第 1 号集石 .....	174	
第 102 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層	第 146 国	1-4 地点 第 9 号土坑出土遺物 .....	175	
	第 1・2・3 ブロック遺物分布図 .....	第 147 国	1-4 地点 第 1 号住居跡出土遺物 (1) .....	177	
第 103 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層	第 148 国	1-4 地点 第 1 号住居跡出土遺物 (2) .....	178	
	第 4 ブロック、第 1・2 号配石遺物分布図 .....	第 149 国	1-7 地点 YL 層準 全体図 .....	180	
第 104 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層	第 150 国	1-7 地点 YL 層準 第 1 ブロック遺物分布図 .....	181	
	第 5 ブロック遺物分布図 .....	第 151 国	1-7 地点 YL 層準 第 2 ブロック遺物分布図 .....	182	
第 105 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層	第 152 国	1-7 地点 YL 層準 第 3 ブロック遺物分布図 .....	183	
	第 6 ブロック遺物分布図 .....	第 153 国	1-7 地点 YL 層準 第 4 ブロック遺物分布図 .....	184	
第 106 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層	第 154 国	1-7 地点 YL 層準 第 5 ブロック遺物分布図 .....	185	
	第 7 ブロック遺物分布図 .....	第 155 国	1-7 地点 YL 層準 第 6 ブロック遺物分布図 .....	186	
第 107 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 第 1・2 号縛群、 第 4 ~ 16・20 号配石遺物分布図 .....	第 156 国	1-7 地点 YL 層準 第 7 ~ 10 ブロック、 第 11・15 号配石遺物分布図 .....	187	
第 108 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層	第 157 国	1-7 地点 YL 層準 第 11 ブロック遺物分布図 .....	189	
	第 3 号縛群、第 17・19 号配石遺物分布図 .....		第 11 ブロック遺物分布図 .....	189	
第 109 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (1) .....	第 158 国	1-7 地点 YL 層準		
第 110 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (2) .....		第 12・13 ブロック遺物分布図 .....	190	
第 111 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (3) .....	第 159 国	1-7 地点 YL 層準		
第 112 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (4) .....		第 14 ~ 16 ブロック遺物分布図 .....	191	
第 113 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (5) .....	第 160 国	1-7 地点 YL 層準		
第 114 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (6) .....		第 17・18 ブロック遺物分布図 .....	193	
第 115 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (7) .....	第 161 国	1-7 地点 YL 層準		
第 116 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (8) .....		第 19 ブロック遺物分布図 .....	195	
第 117 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (9) .....	第 162 国	1-7 地点 YL 層準 第 1 ~ 6 号縛群、 第 1 ~ 6 号配石遺物分布図 .....	197	
第 118 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (10) .....		第 163 国	1-7 地点 YL 層準 第 7 ~ 9 号縛群、 第 13・14 号配石遺物分布図 .....	199
第 119 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (11) .....		第 164 国	1-7 地点 YL 層準 出土遺物 (1) .....	202
第 120 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (12) .....	第 165 国	1-7 地点 YL 層準 出土遺物 (2) .....	204	
第 121 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (13) .....				
第 122 国	1-4 地点 NL ~ BB III 層 出土遺物 (14) .....				

第 166 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (3) .....	205	第 215 図	1-7 地点	縄文時代	第 3・4 号土坑 .....	257
第 167 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (4) .....	206	第 216 図	1-7 地点	縄文時代	出土遺物 .....	258
第 168 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (5) .....	207	第 217 図	1-10 地点	YL 層準	全体図 .....	259
第 169 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (6) .....	208	第 218 図	1-10 地点	YL 層準		
第 170 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (7) .....	209				第 20 ブロック遺物分布図 .....	260
第 171 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (8) .....	210	第 219 図	1-10 地点	YL 層準		
第 172 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (9) .....	212				第 21 ブロック遺物分布図 .....	262
第 173 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (10) .....	213	第 220 図	1-10 地点	YL 層準		
第 174 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (11) .....	215				第 22 ブロック遺物分布図 .....	263
第 175 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (12) .....	216	第 221 図	1-10 地点	YL 層準		
第 176 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (13) .....	217				第 23 ブロック遺物分布図 .....	264
第 177 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (14) .....	218	第 222 図	1-10 地点	YL 層準		
第 178 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (15) .....	219				第 24 ブロック遺物分布図 .....	265
第 179 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (16) .....	220	第 223 図	1-10 地点	YL 層準		
第 180 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (17) .....	221				第 25 ブロック遺物分布図 .....	267
第 181 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (18) .....	222	第 224 図	1-10 地点	YL 層準	第 10・11 号縄群、	
第 182 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (19) .....	223				第 16～22 号配石遺物分布図 .....	268
第 183 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (20) .....	224	第 225 図	1-10 地点	YL 層準		
第 184 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (21) .....	225				第 12 号縄群遺物分布図 .....	269
第 185 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (22) .....	226	第 226 図	1-10 地点	YL 層準		
第 186 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (23) .....	227				第 13 号縄群遺物分布図 .....	270
第 187 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (24) .....	228	第 227 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (1) .....	273
第 188 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (25) .....	229	第 228 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (2) .....	274
第 189 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (26) .....	230	第 229 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (3) .....	275
第 190 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (27) .....	231	第 230 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (4) .....	276
第 191 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (28) .....	232	第 231 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (5) .....	278
第 192 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (29) .....	233	第 232 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (6) .....	279
第 193 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (30) .....	234	第 233 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (7) .....	280
第 194 図	1-7 地点	YL 層準	出土遺物 (31) .....	235	第 234 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (8) .....	281
第 195 図	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (1) .....	236	第 235 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (9) .....	282
第 196 図	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (2) .....	237	第 236 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (10) .....	283
第 197 図	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (3) .....	238	第 237 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (11) .....	284
第 198 図	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (4) .....	240	第 238 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (12) .....	285
第 199 図	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (5) .....	241	第 239 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (13) .....	286
第 200 図	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (6) .....	242	第 240 図	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (14) .....	287
第 201 図	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (7) .....	243	第 241 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (15) .....	288
第 202 国	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (8) .....	244	第 242 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (16) .....	289
第 203 国	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (9) .....	245	第 243 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (17) .....	290
第 204 国	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (10) .....	246	第 244 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (18) .....	292
第 205 国	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (11) .....	247	第 245 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (19) .....	293
第 206 国	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (12) .....	248	第 246 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (20) .....	294
第 207 国	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (13) .....	249	第 247 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (21) .....	295
第 208 国	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (14) .....	250	第 248 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (22) .....	296
第 209 国	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (15) .....	251	第 249 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (23) .....	297
第 210 国	1-7 地点	YL 層準	接合資料 (16) .....	252	第 250 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (24) .....	298
第 211 国	1-7 地点	BB II 層	全体図・第 1 号縄群遺物分布図 .....	253	第 251 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (25) .....	299
第 212 国	1-7 地点	BB II 層	出土遺物 .....	254	第 252 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (26) .....	300
第 213 国	1-7 地点	縄文時代	全体図 .....	255	第 253 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (27) .....	301
第 214 国	1-7 地点	縄文時代	第 1・2 号土坑 .....	256	第 254 国	1-10 地点	YL 層準	出土遺物 (28) .....	302
			接合資料 (1) .....	304	第 255 国	1-10 地点	YL 層準		

第 256 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (2) .....	305		第 35 ブロック遺物分布図 .....	354	
第 257 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (3) .....	306	第 299 図	1-6 地点	YL 層準 第 14 ~ 16 号縄群、 第 23 号配石遺物分布図 .....	355
第 258 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (4) .....	307				
第 259 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (5) .....	308	第 300 図	1-6 地点	YL 層準 第 17 ~ 19 号縄群、 第 24 ~ 29 号配石遺物分布図 .....	357
第 260 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (6) .....	309	第 301 図	1-6 地点	YL 層準 出土遺物 (1) .....	360
第 261 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (7) .....	310	第 302 図	1-6 地点	YL 層準 出土遺物 (2) .....	361
第 262 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (8) .....	311	第 303 図	1-6 地点	YL 層準 出土遺物 (3) .....	362
第 263 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (9) .....	313	第 304 図	1-6 地点	YL 層準 出土遺物 (4) .....	363
第 264 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (10) .....	314	第 305 図	1-6 地点	YL 層準 出土遺物 (5) .....	364
第 265 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (11) .....	315	第 306 図	1-6 地点	YL 層準 出土遺物 (6) .....	365
第 266 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (12) .....	316	第 307 図	1-6 地点	YL 層準 出土遺物 (7) .....	366
第 267 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (13) .....	317	第 308 図	1-6 地点	YL 層準 出土遺物 (8) .....	367
第 268 図	1-10 地点	YL 層準	接合資料 (14) .....	318	第 309 図	1-6 地点	YL 層準 出土遺物 (9) .....	368
第 269 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	全体図 .....	319	第 310 図	1-6 地点	YL 層準 出土遺物 (10) .....	369
第 270 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	第 1・2 ブロック、第 3 号配石遺物分布図 .....	321	第 311 図	1-6 地点	YL 層準 接合資料 (1) .....	371
第 271 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	第 3・4 ブロック、第 4 号配石遺物分布図 .....	322	第 312 図	1-6 地点	YL 層準 接合資料 (2) .....	372
第 272 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	第 1 号縄群、第 1・2 号配石遺物分布図 .....	323	第 313 図	1-6 地点	YL 層準 接合資料 (3) .....	373
					第 314 図	1-6 地点	YL 層準 接合資料 (4) .....	374
第 273 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	出土遺物 (1) .....	325	第 315 図	1-6 地点	埋没谷 全体図 .....	375
第 274 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	出土遺物 (2) .....	326	第 316 図	1-6 地点	埋没谷 遺物分布図 .....	376
第 275 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	出土遺物 (3) .....	327	第 317 図	1-6 地点	埋没谷 出土遺物 (1) .....	378
第 276 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	出土遺物 (4) .....	328	第 318 図	1-6 地点	埋没谷 出土遺物 (2) .....	379
第 277 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	出土遺物 (5) .....	329	第 319 図	1-6 地点	埋没谷 出土遺物 (3) .....	380
第 278 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	出土遺物 (6) .....	330	第 320 図	1-6 地点	NL ~ BB II 層 全体図 .....	381
第 279 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	出土遺物 (7) .....	331	第 321 図	1-6 地点	NL ~ BB II 層	
							第 1 ブロック遺物分布図 .....	382
第 280 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	出土遺物 (8) .....	332	第 322 図	1-6 地点	NL ~ BB II 層	
第 281 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	接合資料 (1) .....	334			第 2 ブロック遺物分布図 .....	383
第 282 図	1-10 地点	NL ~ BB II 層	接合資料 (2) .....	335	第 323 国	1-6 地点	NL ~ BB II 層	
第 283 国	1-10 地点	NL ~ BB II 層	接合資料 (3) .....	336			第 3 ブロック遺物分布図 .....	384
第 284 国	1-10 地点	NL ~ BB II 層	接合資料 (4) .....	337	第 324 国	1-6 地点	NL ~ BB II 層	
第 285 国	1-10 地点	NL ~ BB II 層	接合資料 (5) .....	338			第 4 ブロック遺物分布図 .....	385
第 286 国	1-10 地点	NL ~ BB II 層	接合資料 (6) .....	339	第 325 国	1-6 地点	NL ~ BB II 層	
第 287 国	1-10 地点	NL ~ BB II 層	接合資料 (7) .....	340			第 5 ブロック遺物分布図 .....	386
第 288 国	1-10 地点	NL ~ BB II 層	接合資料 (8) .....	341	第 326 国	1-6 地点	NL ~ BB II 層 第 1 ~ 4 号縄群、 第 1 ~ 11 号配石遺物分布図 .....	388
第 289 国	1-10 地点	NL ~ BB II 層	接合資料 (9) .....	342				
第 290 国	1-10 地点	NL ~ BB II 層	接合資料 (10) .....	343	第 327 国	1-6 地点	NL ~ BB II 層 出土遺物 (1) .....	391
第 291 国	1-10 地点	縄文時代	遺物分布図・出土遺物 .....	344	第 328 国	1-6 地点	NL ~ BB II 層 出土遺物 (2) .....	392
第 292 国	1-6 地点	YL 層準	全体図 .....	346	第 329 国	1-6 地点	NL ~ BB II 層 出土遺物 (3) .....	393
第 293 国	1-6 地点	YL 層準	第 26 ブロック遺物分布図 .....	347	第 330 国	1-6 地点	NL ~ BB II 層 出土遺物 (4) .....	394
					第 331 国	1-6 地点	NL ~ BB II 層 出土遺物 (5) .....	395
第 294 国	1-6 地点	YL 層準	第 27 ~ 29 ブロック、 第 30 号配石遺物分布図 .....	349	第 332 国	1-6 地点	NL ~ BB II 层 出土遺物 (6) .....	396
					第 333 国	1-6 地点	NL ~ BB II 层 出土遺物 (7) .....	397
第 295 国	1-6 地点	YL 層準	第 30 ブロック遺物分布図 .....	350	第 334 国	1-6 地点	NL ~ BB II 层 出土遺物 (8) .....	398
第 296 国	1-6 地点	YL 層準	第 31 ブロック遺物分布図 .....	351	第 335 国	1-6 地点	NL ~ BB II 层 出土遺物 (9) .....	399
第 297 国	1-6 地点	YL 層準	第 32 ~ 34 ブロック遺物分布図 .....	353	第 336 国	1-6 地点	NL ~ BB II 层 出土遺物 (10) .....	400
第 298 国	1-6 地点	YL 層準			第 337 国	1-6 地点	NL ~ BB II 层 出土遺物 (11) .....	401
					第 338 国	1-6 地点	NL ~ BB II 层 出土遺物 (12) .....	402
					第 339 国	1-6 地点	NL ~ BB II 层 出土遺物 (13) .....	403
					第 340 国	1-6 地点	NL ~ BB II 层 出土遺物 (14) .....	404

第341図	1-6地点 NL～BBII層 出土遺物 (15).....	405	第357図	1-9地点 YL層準 出土遺物 (4).....	424
第342図	1-6地点 NL～BBII層 接合資料 (1).....	406	第358図	1-9地点 YL層準 出土遺物 (5).....	425
第343図	1-6地点 NL～BBII層 接合資料 (2).....	407	第359図	1-9地点 YL層準 出土遺物 (6).....	426
第344図	1-6地点 NL～BBII層 接合資料 (3).....	408	第360図	1-9地点 YL層準 出土遺物 (7).....	427
第345図	1-6地点 繩文時代 遺物分布図.....	409	第361図	1-9地点 YL層準 出土遺物 (8).....	428
第346図	1-6地点 繩文時代 出土遺物 (1).....	410	第362図	1-9地点 YL層準 出土遺物 (9).....	429
第347図	1-6地点 繩文時代 出土遺物 (2).....	411	第363図	1-9地点 YL層準 接合資料 (1).....	431
第348図	1-6地点 耕作土 出土遺物 (1).....	412	第364図	1-9地点 YL層準 接合資料 (2).....	432
第349図	1-6地点 耕作土 出土遺物 (2).....	413	第365図	1-9地点 NL層 全体図.....	433
第350図	1-9地点 YL層準 全体図.....	415	第366図	1-9地点 NL層 遺物分布図・炭化物集中域・出土遺物.....	434
第351図	1-9地点 YL層準 第1ブロック遺物分布図.....	416	第367図	1-9地点 繩文時代遺物分布図・出土遺物.....	435
第352図	1-9地点 YL層準 第1号罐群遺物分布図.....	418	第368図	YL層準 小型ナイフ形石器集成 (1).....	443
第353図	1-9地点 YL層準 第1号土坑.....	419	第369図	YL層準 小型ナイフ形石器集成 (2).....	444
第354図	1-9地点 YL層準 出土遺物 (1).....	421	第370図	YL層準 小型ナイフ形石器集成 (3).....	445
第355図	1-9地点 YL層準 出土遺物 (2).....	422	第371図	YL層準 小型ナイフ形石器集成 (4).....	446
第356図	1-9地点 YL層準 出土遺物 (3).....	423			

## 表 目 次

第 1 表	箱根山西麓周辺遺跡一覧表.....	5	第 32 表	1-4地点第4ブロック 石材器種組成表.....	102
第 2 表	調査区年度別一覧.....	8	第 33 表	1-4地点罐群・配石組成表.....	105
第 3 表	1-1地点 YL層準 石材器種組成表.....	26	第 34 表	1-4地点 NL～BBIII層 石材器種組成表.....	123
第 4 表	1-1地点第1ブロック 石材器種組成表.....	26	第 35 表	1-4地点第1ブロック 石材器種組成表.....	123
第 5 表	1-1地点第2ブロック 石材器種組成表.....	26	第 36 表	1-4地点第2ブロック 石材器種組成表.....	124
第 6 表	1-1地点第3ブロック 石材器種組成表.....	26	第 37 表	1-4地点第3ブロック 石材器種組成表.....	124
第 7 表	1-1地点罐群・配石組成表.....	27	第 38 表	1-4地点第4ブロック 石材器種組成表.....	125
第 8 表	1-2地点 YL層準 石材器種組成表.....	33	第 39 表	1-4地点第5ブロック 石材器種組成表.....	126
第 9 表	1-2地点第1ブロック 石材器種組成表.....	34	第 40 表	1-4地点第6ブロック 石材器種組成表.....	127
第 10 表	1-2地点第2ブロック 石材器種組成表.....	35	第 41 表	1-4地点第7ブロック 石材器種組成表.....	128
第 11 表	1-2地点第3ブロック 石材器種組成表.....	36	第 42 表	1-4地点罐群・配石組成表.....	130
第 12 表	1-2地点罐群・配石組成表.....	37	第 43 表	1-7地点 YL層準 石材器種組成表.....	179
第 13 表	1-4地点 YL層準 石材器種組成表.....	52	第 44 表	1-7地点第1ブロック 石材器種組成表.....	181
第 14 表	1-4地点第1ブロック 石材器種組成表.....	54	第 45 表	1-7地点第2ブロック 石材器種組成表.....	182
第 15 表	1-4地点第2ブロック 石材器種組成表.....	55	第 46 表	1-7地点第3ブロック 石材器種組成表.....	183
第 16 表	1-4地点第3ブロック 石材器種組成表.....	56	第 47 表	1-7地点第4ブロック 石材器種組成表.....	185
第 17 表	1-4地点第4ブロック 石材器種組成表.....	57	第 48 表	1-7地点第5ブロック 石材器種組成表.....	185
第 18 表	1-4地点第5ブロック 石材器種組成表.....	57	第 49 表	1-7地点第6ブロック 石材器種組成表.....	186
第 19 表	1-4地点第6ブロック 石材器種組成表.....	57	第 50 表	1-7地点第7ブロック 石材器種組成表.....	187
第 20 表	1-4地点第7ブロック 石材器種組成表.....	59	第 51 表	1-7地点第8ブロック 石材器種組成表.....	187
第 21 表	1-4地点第8ブロック 石材器種組成表.....	61	第 52 表	1-7地点第9ブロック 石材器種組成表.....	187
第 22 表	1-4地点第9ブロック 石材器種組成表.....	62	第 53 表	1-7地点第10ブロック 石材器種組成表.....	188
第 23 表	1-4地点第10ブロック 石材器種組成表.....	62	第 54 表	1-7地点第11ブロック 石材器種組成表.....	188
第 24 表	1-4地点第11ブロック 石材器種組成表.....	62	第 55 表	1-7地点第12ブロック 石材器種組成表.....	190
第 25 表	1-4地点第12ブロック 石材器種組成表.....	63	第 56 表	1-7地点第13ブロック 石材器種組成表.....	190
第 26 表	1-4地点第13ブロック 石材器種組成表.....	63	第 57 表	1-7地点第14ブロック 石材器種組成表.....	191
第 27 表	1-4地点罐群・配石組成表.....	65	第 58 表	1-7地点第15ブロック 石材器種組成表.....	191
第 28 表	1-4地点 BB I～NL層 石材器種組成表.....	101	第 59 表	1-7地点第16ブロック 石材器種組成表.....	191
第 29 表	1-4地点第1ブロック 石材器種組成表.....	101	第 60 表	1-7地点第17ブロック 石材器種組成表.....	194
第 30 表	1-4地点第2ブロック 石材器種組成表.....	101	第 61 表	1-7地点第18ブロック 石材器種組成表.....	194
第 31 表	1-4地点第3ブロック 石材器種組成表.....	102	第 62 表	1-7地点第19ブロック 石材器種組成表.....	194

第 63 表	1-7 地点礫群・配石組成表	198
第 64 表	1-7 地点 BBII 層 磷群・配石組成表	253
第 65 表	1-10 地点 YL 層準 石材器種組成表	260
第 66 表	1-10 地点第 20 ブロック 石材器種組成表	260
第 67 表	1-10 地点第 21 ブロック 石材器種組成表	262
第 68 表	1-10 地点第 22 ブロック 石材器種組成表	263
第 69 表	1-10 地点第 23 ブロック 石材器種組成表	264
第 70 表	1-10 地点第 24 ブロック 石材器種組成表	264
第 71 表	1-10 地点第 25 ブロック 石材器種組成表	266
第 72 表	1-10 地点礫群・配石組成表	268
第 73 表	1-10 地点 NL～BBII 層 石材器種組成表	320
第 74 表	1-10 地点第 1 ブロック 石材器種組成表	321
第 75 表	1-10 地点第 2 ブロック 石材器種組成表	321
第 76 表	1-10 地点第 3 ブロック 石材器種組成表	323
第 77 表	1-10 地点第 4 ブロック 石材器種組成表	323
第 78 表	1-10 地点礫群・配石組成表	323
第 79 表	1-6 地点 YL 層準 石材器種組成表	345
第 80 表	1-6 地点第 26 ブロック 石材器種組成表	347
第 81 表	1-6 地点第 27 ブロック 石材器種組成表	348
第 82 表	1-6 地点第 28 ブロック 石材器種組成表	348
第 83 表	1-6 地点第 29 ブロック 石材器種組成表	348
第 84 表	1-6 地点第 30 ブロック 石材器種組成表	350
第 85 表	1-6 地点第 31 ブロック 石材器種組成表	351
第 86 表	1-6 地点第 32 ブロック 石材器種組成表	353
第 87 表	1-6 地点第 33 ブロック 石材器種組成表	353
第 88 表	1-6 地点第 34 ブロック 石材器種組成表	353
第 89 表	1-6 地点第 35 ブロック 石材器種組成表	354
第 90 表	1-6 地点礫群・配石組成表	356
第 91 表	1-6 地点埋没谷 石材器種組成表	375
第 92 表	1-6 地点 NL～BBII 層 石材器種組成表	383
第 93 表	1-6 地点第 1 ブロック 石材器種組成表	383
第 94 表	1-6 地点第 2 ブロック 石材器種組成表	384
第 95 表	1-6 地点第 3 ブロック 石材器種組成表	384
第 96 表	1-6 地点第 4 ブロック 石材器種組成表	385
第 97 表	1-6 地点第 5 ブロック 石材器種組成表	386
第 98 表	1-6 地点礫群・配石組成表	387
第 99 表	1-9 地点 YL 層準 石材器種組成表	414
第 100 表	1-9 地点第 1 ブロック 石材器種組成表	417
第 101 表	1-9 地点礫群・配石組成表	418
第 102 表	YL 層準 石材器種組成表	440
第 103 表	BBI～NL 層 石材器種組成表	441
第 104 表	NL～BBII 層 石材器種組成表	441
第 105 表	NL～BBIII 層 石材器種組成表	441
第 106 表	台崎 A 出露 判別図法、判別分析による 推定結果（1-1～1-10 地点）	467

## 図版目次

### 図版 1

- 1.1-1 地点調査前全景（南から）  
2.1-1 地点 ZN 層調査状況遠景（東から）

### 図版 2

- 1.1-1 地点 YLM 層遺物出土状況全景（北から）  
2.1-1 地点 YLM 層遺物出土状況（北から）  
3.1-1 地点調査区北側 YL 層遺物出土状況（南から）

### 図版 3

- 1.1-1 地点 Y-22 グリッド YLL 層剥片（No.10331・10332）  
出土状況（南から）

### 図版 4

- 1.1-2 地点調査前全景（東から）  
2.1-2 地点 ZN 層調査状況遠景（東から）

### 図版 5

- 1.1-2 地点 YLM 層遺物出土状況全景（南から）  
2.1-2 地点 YLM 層第 2 ブロック遺物出土状況（南から）

### 図版 6

- 1.1-2 地点一次調査グリッド完掘全景（南から）  
2.1-2 地点一次調査グリッド西壁土層断面（東から）  
3.1-2 地点第 1 号土坑完掘状況（東から）

### 図版 7

- 1.1-3 地点調査前全景（西から）

### 2.1-3 地点一次調査グリッド完掘全景（垂直）

### 3.1-3 地点 X-23 グリッド西壁土層断面（東から）

### 図版 8

### 1.1-4 地点調査前全景（北西から）

### 2.1-4 地点 YLL 層遺物出土状況遠景（南から）

### 図版 9

### 1.1-4 地点 P-24 グリッド YLL 層ナイフ形石器（No.2142） 出土状況（東から）

### 2.1-4 地点 O-P-23 グリッド BBI～NL 層遺物出土状況（東から）

### 3.1-4 地点 BBII～NL 層第 4 ブロック・第 2 号礫群・ 円形彌器（No.2703）出土状況（北から）

### 図版 10

### 1.1-4 地点 NL～BBIII 層遺物出土状況（西から）

### 2.1-4 地点 NL～BBIII 層第 3 ブロック・第 3 号配石遺物出土状況 (南から)

### 図版 11

### 1.1-4 地点 NL～BBIII 層遺物出土状況（東から）

### 2.1-4 地点 NL～BBIII 層第 2 号礫群出土状況（南から）

### 3.1-4 地点 Q-25 グリッド東壁土層断面（西から）

### 図版 12

### 1.1-4 地点一次調査グリッド完掘全景（西から）

### 2.1-4 地点 Q-24 グリッド西壁土層断面（東から）

### 図版 13

### 1.1-4 地点第 1 号住居完掘状況（西から）

### 2.1-4 地点第 9 号土坑遺物出土状況（北から）

#### 図版 14

- 1.1-5 地点調査前全景（南から）  
2.1-5 地点一次調査グリッド完掘全景（垂直）  
3.1-5 地点 L-23 グリッド西壁上層断面（東から）  
**図版 15**  
1.1-6 地点調査前全景（西から）  
2.1-6 地点西側調査区 YLM 層完掘全景（モザイク）（垂直）  
**図版 16**  
1.1-6 地点西側調査区 YLM 層遺物出土状況遠景（西から）  
2.1-6 地点東側調査区 YLM 層遺物出土状況遠景（西から）  
3.1-6 地点 F-20 グリッド YLU 層尖頭器（No. 8200）  
　出土状況（南から）

#### 図版 17

- 1.1-6 地点東側調査区 NL～BBII 層遺物出土状況遠景（東から）  
2.1-6 地点東側調査区 NL～BBII 層遺物出土状況全景（垂直）  
**図版 18**  
1.1-6 地点東側調査区 NL～BBII 層遺物出土状況全景（東から）  
2.1-6 地点 NL～BBII 層第 3 ブロック・第 3 号縄群遺物出土状況  
（南から）

#### 図版 19

- 1.1-7 地点調査前全景（東から）  
2.1-7 地点 YLM 層遺物出土状況遠景（東から）

#### 図版 20

- 1.1-7 地点 YLM 層遺物出土状況全景（垂直）  
2.1-7 地点 YLM 層第 19 ブロック遺物出土状況（南から）  
**図版 21**  
1.1-7 地点 E-11 グリッド YLL 層ナイフ形石器（No. 6693）  
　出土状況（南から）  
2.1-7 地点 F-9 グリッド BBIII 層第 1 号縄群出土状況（東から）  
**図版 22**

- 1.1-7 地点 E-10 グリッド北壁土層断面（南から）  
2.1-7 地点 YLM 層据削作業（東から）  
3.1-7 地点第 1 号土坑完掘状況（南から）

#### 図版 23

- 1.1-8 地点調査前全景（南西から）  
2.1-8 地点調査前全景（南東から）  
3.1-8 地点一次調査グリッド完掘状況遠景（南西から）

#### 図版 24

- 1.1-9 地点調査前遠景（西から）  
2.1-9 地点 YLM 層遺物出土状況遠景（南東から）  
**図版 25**  
1.1-9 地点 YLM 層遺物出土状況全景（南から）  
2.1-9 地点 L-3 グリッド YLM 層石核（No. 3520）  
　出土状況（南から）  
3.1-9 地点 YLL 層第 1 号縄群遺物出土状況（東から）  
**図版 26**  
1.1-9 地点 M-4 グリッド NL 層櫻形石器（No. 3727）出土状況  
（南から）  
2.1-9 地点 L-4 グリッド NL 層炭化物集中域 1 出土状況（南から）  
3.1-9 地点 M-4 グリッド一次調査東壁上層断面（西から）

#### 図版 27

- 1.1-10 地点調査前全景（北から）  
2.1-10 地点 YLM 層遺物出土状況遠景（東から）  
**図版 28**  
1.1-10 地点 YLM 層遺物出土状況全景（北から）  
2.1-10 地点 YLM 層第 19～21・24 ブロック遺物出土状況  
（北から）  
3.1-10 地点 G-13 グリッド YLL 層ナイフ形石器（No. 13806）  
　出土状況（南から）

#### 図版 29

- 1.1-10 地点一次調査グリッド完掘全景（南から）  
2.1-10 地点 NL～BBII 層遺物出土状況全景（北から）

#### 図版 30

- 1.1-10 地点 NL～BBII 層第 1～3 ブロック・第 1 号縄群出土状況  
（南から）  
2.1-10 地点 NL～BBII 層第 1～4 ブロック・第 1 号縄群出土状況  
（南から）

#### 図版 31

1. 1-3 地点 YLU 層 出土遺物
2. 1-5 地点 YLM 層 出土遺物
3. 1-8 地点 BBII 層 出土遺物
4. 1-1 地点 YL 層準 出土遺物
5. 1-1 地点 繩文時代 出土遺物
6. 1-2 地点 YL 層準 YL 層準 出土遺物（1）

#### 図版 32

1. 1-2 地点 YL 層準 YL 層準 出土遺物（2）

#### 図版 33

1. 1-2 地点 YL 層準 繩文時代 出土遺物
2. 1-4 地点 YL 層準 出土遺物（1）

#### 図版 34

1. 1-4 地点 YL 層準 出土遺物（2）

#### 図版 35

1. 1-4 地点 YL 層準 出土遺物（3）

#### 図版 36

1. 1-4 地点 YL 層準 出土遺物（4）

#### 図版 37

1. 1-4 地点 YL 層準 出土遺物（5）

#### 図版 38

1. 1-4 地点 YL 層準 出土遺物（6）

#### 図版 39

1. 1-4 地点 YL 層準 出土遺物（7）

#### 図版 40

1. 1-4 地点 BB I～NL 層 出土遺物（1）

#### 図版 41

1. 1-4 地点 BB I～NL 层 出土遺物（2）

#### 図版 42

1. 1-4 地点 BB I～NL 層 出土遺物（3）

2. 1-4 地点 NL～BBIII 層 出土遺物（1）

#### 図版 43

1. 1-4 地点 NL～BBIII 層 出土遺物（2）

#### 図版 44

1. 1-4 地点 NL～BBIII 層 出土遺物（3）

#### 図版 45

1. 1-4 地点 NL～BBIII 層 出土遺物（4）

#### 図版 46

1. 1-4 地点 NL～BBIII 層 出土遺物（5）

#### 図版 47

1. 1-4 地点 NL～BBIII 層 出土遺物（6）

- 図版 48**  
1. 1-4 地点 繩文時代 出土遺物
- 図版 49**  
1. 1-7 地点 YL層準 出土遺物 (1)
- 図版 50**  
1. 1-7 地点 YL層準 出土遺物 (2)
- 図版 51**  
1. 1-7 地点 YL層準 出土遺物 (3)
- 図版 52**  
1. 1-7 地点 YL層準 出土遺物 (4)
- 図版 53**  
1. 1-7 地点 YL層準 出土遺物 (5)
- 図版 54**  
1. 1-7 地点 YL層準 出土遺物 (6)
- 図版 55**  
1. 1-7 地点 YL層準 出土遺物 (7)
2. 1-7 地点 BB II層 出土遺物
- 図版 56**  
1. 1-7 地点 繩文時代 出土遺物
- 図版 57**  
1. 1-10 地点 YL層準 出土遺物 (1)
- 図版 58**  
1. 1-10 地点 YL層準 出土遺物 (2)
- 図版 59**  
1. 1-10 地点 YL層準 出土遺物 (3)
- 図版 60**  
1. 1-10 地点 YL層準 出土遺物 (4)
- 図版 61**  
1. 1-10 地点 YL層準 出土遺物 (5)
- 図版 62**  
1. 1-10 地点 YL層準 出土遺物 (6)
- 図版 63**  
2. 1-10 地点 NL～BB II層 出土遺物 (1)
- 図版 64**  
1. 1-10 地点 NL～BB II層 出土遺物 (2)

- 図版 65**  
1. 1-10 地点 NL～BB II層 出土遺物 (3)
- 図版 66**  
1. 1-10 地点 NL～BB II層 出土遺物 (4)
2. 1-10 地点 繩文時代 出土遺物
- 図版 67**  
1. 1-6 地点 YL層準 出土遺物 (1)
- 図版 68**  
1. 1-6 地点 YL層準 出土遺物 (2)
- 図版 69**  
1. 1-6 地点 YL層準 出土遺物 (3)
- 図版 70**  
1. 1-6 地点 埋没谷 出土遺物
- 図版 71**  
1. 1-6 地点 NL～BB II層 出土遺物 (1)
- 図版 72**  
1. 1-6 地点 NL～BB II層 出土遺物 (2)
- 図版 73**  
1. 1-6 地点 NL～BB II層 出土遺物 (3)
- 図版 74**  
1. 1-6 地点 NL～BB II層 出土遺物 (4)
- 図版 75**  
1. 1-6 地点 繩文時代 出土遺物
2. 1-6 地点 耕作土 出土遺物
- 図版 76**  
1. 1-9 地点 YL層準 出土遺物 (1)
- 図版 77**  
1. 1-9 地点 YL層準 出土遺物 (2)
- 図版 78**  
1. 1-9 地点 NL層 出土遺物
2. 1-9 地点 繩文時代 出土遺物
3. 1-2 地点 表面採取遺物

## 第1章 調査と環境

### 第1節 発掘調査に至る経緯

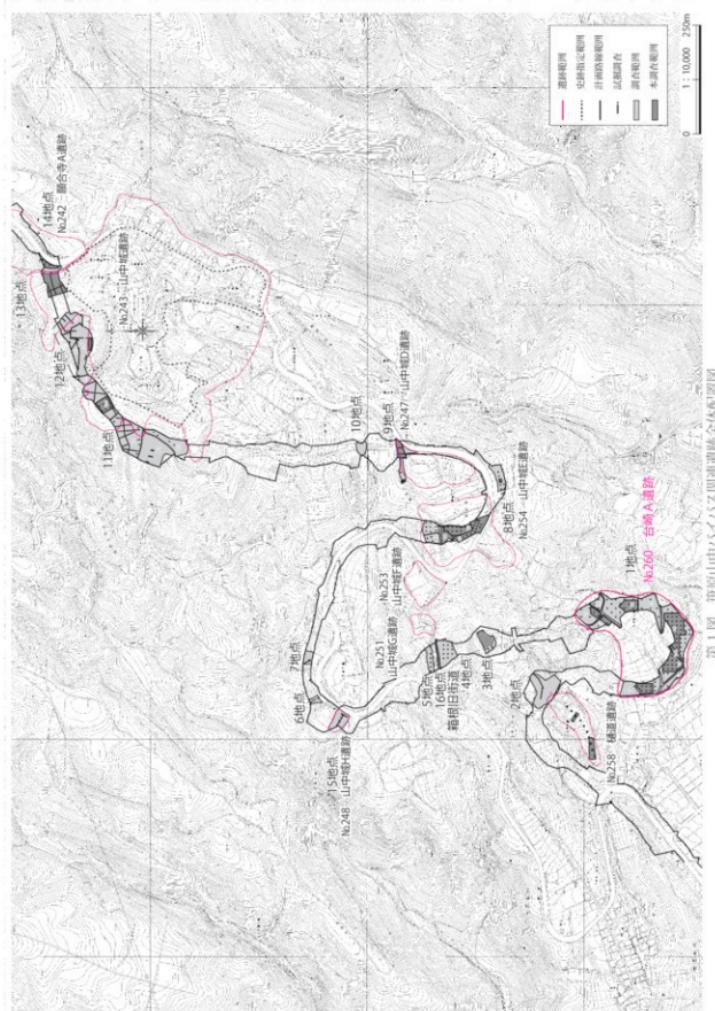
昭和61年12月19日、静岡県教育委員会と三島市教育委員会は建設省沼津工事事務所（当時）より、一般国道1号山中道路路線計画ルート内の文化財について照会を受けた。この計画は国道1号のうち神奈川・静岡県境の箱根峠より三島市街地に至る区間は幅員が狭小で平面線形が悪く急勾配のうえに、沿道にはいくつかの集落が並がっているため、交通安全等の面から局部改良の一環として道路整備を計画するものであった。これに対して市教育委員会は、昭和62年1月12日付で当該路線区域内には国指定史跡山中城跡、国指定史跡候補地箱根旧街道が存在している旨の報告を行い、さらに昭和62年6月3日付で「計画道路の通過が許されない文化財とその範囲」と「発掘調査が必要な文化財とその範囲」の報告を行った。そして昭和63年1月の打合せでは、建設省から道路と山中城ラオシバ曲輪との交差部分はトンネル、箱根旧街道の交差部分は歩道橋という案が示され、これに対して市教育委員会は複数回に及ぶ文化庁との協議と指導に基づいて、道路と箱根旧街道が交差する3箇所は立体交差化するよう改善を要望を提出した。

ところが平成元年になると建設省から、山中城ラオシバ曲輪との交差部分はトンネル構造からオープン掘削構造に、箱根旧街道との交差部分2箇所はボックス構造、残る1箇所は平面交差とする変更要請が出された。しかし、こうした変更はラオシバ曲輪の消滅を意味し、また箱根旧街道が道路によって分断されることとは計画している史跡指定が困難になるため、文化財保護の立場からは決して容認できる内容ではなかった。そのため市教育委員会と県教育委員会は文化庁との協議を度々行い、平成2年7月27日にラオシバは重要な曲輪でありルート変更されたい、箱根旧街道との交差部分2箇所はボックス構造として旧街道の復元をされたい、平面交差となる箇所についてはルート変更されたい、との要求を行った。

これに対して建設省からは、すでに地権者との用地立合も完了しているのでルートの変更是計画の白紙撤回と同じであり無理であること、構造上トンネル化はできない、箱根旧街道との平面交差部分は横断歩道橋で検討する、との回答であった。ルート変更を求める教育委員会と、現ルートの中で構造対応を主張する建設省、両者の主張は平行線をたどり交渉は長期化した。

しかし平成3年1月19日の建設省、市教育委員会と県教育委員会の協議で建設省より、ラオシバ曲輪と西ノ丸西側はバイブルーフ構造のトンネルにして遺跡を保護する、西ノ丸北側は植栽により景観に配慮する等の、構造対応による新提案が出された事により交渉は一気に前進する。そして平成3年3月25日の建設省、県教育委員会の協議において、山中城についてはラオシバ曲輪と西ノ丸西側の尾根はバイブルーフ工法によりトンネルとする、トンネル出入口部分は城跡との景観に調和したものにする、両トンネル間に植栽を施して山中城からバイパスが見えないように景観に配慮する。箱根旧街道については、浅間平地区東側は景観に調和した横断歩道橋（後に横断歩道に変更）を設置する、浅間平地区西側と上長坂地区は消滅範囲を最小限にしてボックスカルバート工法で施工後に旧街道の姿を復元する、という工事内容について合意して文化庁に報告、今後は市教育委員会を窓口として協議、発掘を進めいくことになった。

発掘調査は平成5年度に着手したが、建設省の予算措置の都合により平成7年度から13年度まで中断し、平成14年度に再開して25年度に計画範囲の発掘調査を終了した。本報告書に掲載した台崎A遺跡の発掘調査は、平成18年12月19日から平成23年1月29日まで断続的に実施した。



第1図 鹿合寺山中A/B/C間連道路全体制図

## 第2節 遺跡の立地と歴史的環境

### 1. 遺跡の立地

今回、発掘調査が行われた台崎A遺跡は、静岡県東部の中核都市である三島市に所在する。三島市は、太平洋に向かって南に延びる伊豆半島の付け根部分に位置し、北側を裾野市、南側を沼津市、函南町、西側を長泉町、清水町、東側を神奈川県箱根町と境を接している。また、古代伊豆国の大字所在地であり、古代から交通の要衝として栄え、中世には三嶋大社の門前町として、近世には東海道五十三次の宿場町として栄えた歴史を持つ。地形的には、北西に富士山と愛鷹山が位置し、北から東には標高1,438mの箱根山、南側には多賀火山、天城山が連なり、西には香貫山をはじめとする静浦山地、山々の間に沼津・三島平野と田方平野が開けている。

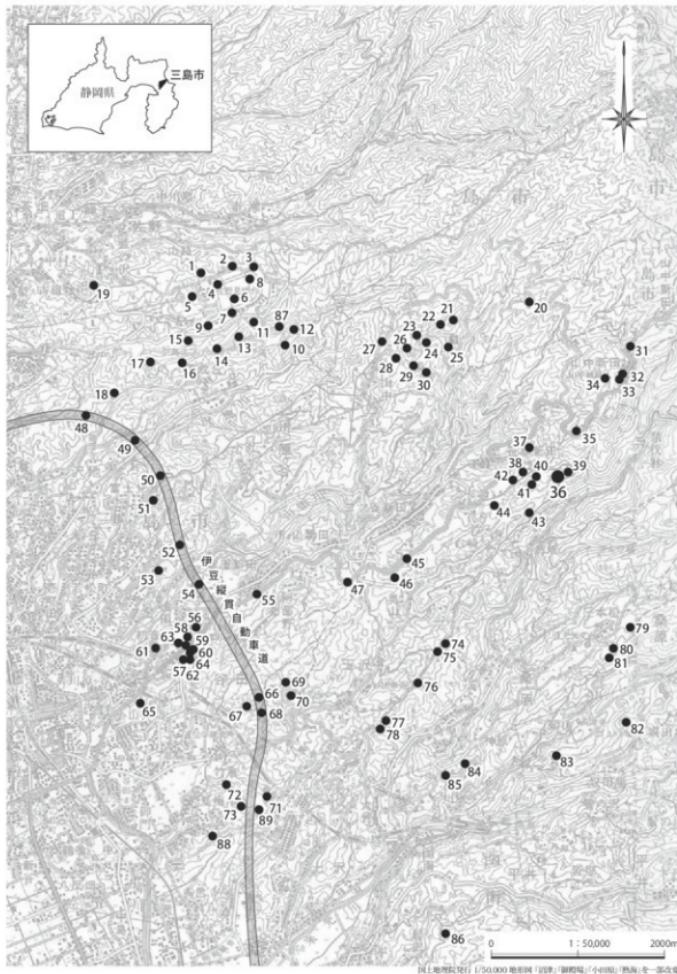
三島市の地勢は、その地形と地質的特徴により、大きく四区分されている。第一は、市域の北部から、三島駅付近までの「三島溶岩流地」である。今から約14,000年前に噴火した新富士火山の溶岩によって形成されたものであり、厚い所では約90mにも及ぶ。第二は、三島駅付近から中郷温水池に至る「三島扇状地」あるいは「黄瀬川扇状地」と呼ばれている地域である。第三は、市域の南側に広がる田方平野の「狩野川流域低地」である。第四は、本遺跡が位置する市域の約3分2を占める「箱根火山山麓地」である。箱根山は、約40万年前に活動を開始した標高2,700mにも及ぶ成層火山であり、その後の噴火の繰り返しによるカルデラの形成、侵食によって隔てられた3回の活動によって形成されたと長らく言われてきた。しかし、近年箱根火山の形成史の再検討がなされ、箱根山は約65～35万年前に活動が開始された火山であり、中小規模の成層火山と單成火山群から構成されており複数の小型カルデラの形成・連結等によって現在の山体が形成されたと考えられている。また、約10万年前から活動を開始した古富士火山は、多量のスコリアや火山灰を降下させ、厚いローム層を形成し、箱根山西麓になどらかな緩傾斜地を形成している。この緩傾斜地を山田川や来光川が始めとする多くの中小河川が開拓することにより、小さな尾根を幾つも派生させた八つ手状の丘陵地形が形成された。本遺跡の位置する丘陵も、こうした丘陵のひとつである。台崎A遺跡は、箱根山西麓の南方向に延びる尾根幅約300mの丘陵の南斜面の標高約388～427mに立地している。

### 2. 歴史的環境

本遺跡の位置する箱根山西麓は、斜面地に作られた広範な畑作地が主であり、開発の少なさから遺跡の存在が知られるようになったのは最近のことであった。東駿河湾環状道路、国道1号線バイパス建設や煙地帯総合整備事業、ゴルフ場建設、住宅地造成等の開発が進み、多くの旧石器時代遺跡の調査が実施されてきた。このような中で、前述したように鍵層となるローム層と火山灰の堆積が良好な箱根山西麓や愛鷹山東南麓は、旧石器時代を研究する上で重要な地域となっている。

三島市域で最初に大規模な旧石器時代の遺跡が発掘調査されたのは、昭和49年の塚原初音原遺跡(55)である。国道1号線塚原バイパス建設工事に伴う発掘調査によって、1,550点ものナイフ形石器群終末期の石器が出土した。箱根山西麓で確認された最古の遺跡としては、第IV～VII黑色帶で遺物が出土している佐野片平山G遺跡(2)、第I文化層、初音ヶ原A遺跡第1地点(56)、初音ヶ原A遺跡第2地点(58)、第V文化層、初音ヶ原B遺跡第3地点(60)、第V文化層、生茨沢遺跡(66)BB VI層があり、ナイフ形石器、台形様石器、楔形石器等が少量出土している。

AT降下以前の第II黑色帶・第III黑色帶の調査では、初音ヶ原A遺跡第2地点第III文化層、初音ヶ原B遺跡第3地点第III文化層で石刃技法を技術基盤としたナイフ形石器石器群が出土している。また、出土遺物



第2図 遺跡の位置と周辺の道路

第1表 箱根山西麓周辺遺跡一覧表

組合番号	遺跡名	時代	三島市道路番号	調査者
1	磯山山下遺跡	旧石器・縄文（早）	32	加藤学園
2	吉野片平山G遺跡	旧石器・縄文（早）	21	加藤学園
3	吉野片平山F遺跡	旧石器・縄文（早）	17	加藤学園
4	吉野片平山H遺跡	縄文・弥生	24	加藤学園
5	磯山H遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳	34	加藤学園
6	吉野片平山S遺跡	旧石器・縄文（中）	28	加藤学園
7	吉野片平山T遺跡	旧石器・縄文（早・前）	35	加藤学園
8	コスダケ遺跡	旧石器・縄文・弥生	18	加藤学園
9	吉野片平山K遺跡	旧石器・縄文（中）	36	加藤学園
10	徳敷片平山J遺跡	旧石器・縄文（早・前）	25	三島市教委
11	徳敷片平山B遺跡	旧石器・縄文（早・中）・弥生・古墳	29	三島市教委
12	徳敷片平山D遺跡	旧石器・縄文・弥生	20	三島市教育委
13	中山C遺跡	旧石器・縄文（中）	39	三島市教委
14	片山遺跡	旧石器・縄文（中）・古墳	40	三島市教委
15	ソジエサレモ遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳	37	三島市教委
16	徳敷片平山K遺跡	旧石器・縄文（早・前）	61	三島市教委
17	徳敷片平山L遺跡	旧石器・縄文（早～中）	63	三島市教委
18	徳敷片平山E遺跡	旧石器・縄文（早）	87	加藤学園
19	乾谷寺遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳	64	加藤学園・三島市教委
20	北山菅原跡	旧石器・縄文（早）	172	三島市教委
21	五輪遺跡	旧石器・縄文（前）	178	三島市教委
22	鶴見洞G遺跡	旧石器・縄文（早～中）	182	三島市教委
23	元山中C遺跡	旧石器・縄文（早～中）	189	三島市教委
24	唯野A遺跡	旧石器・縄文（中）	185	三島市教委
25	鶴見洞H遺跡	旧石器・縄文（早・中）	183	三島市教委
26	唯野B遺跡	旧石器・縄文（早～中）	196	三島市教委
27	元山中D遺跡	旧石器・縄文（早）・吉野・中世	200	加藤学園
28	唯野C遺跡	旧石器・縄文（早～中）	197	三島市教委
29	唯野E遺跡	旧石器・縄文（早～中）・弥生・奈良・平安	198	三島市教委
30	鶴見洞I遺跡	旧石器・縄文（早・中）・弥生・古墳	191	三島市教委
31	鶴見寺A遺跡	旧石器・縄文・近世	242	三島市教委
32	山中城跡三ノ丸第1地点	旧石器・縄文・近世	243	三島市教委
33	山中城跡三ノ丸第2地点	旧石器・縄文・近世	243	三島市教委
34	山中城跡第26次調査	旧石器・縄文・近世	243	三島市教委
34	山中城跡第19次調査	旧石器・縄文・古墳	243	三島市教委
35	山中城E遺跡	旧石器・縄文（早・中）・中世・近世	254	三島市教委
36	台場A遺跡	旧石器・縄文（早・中）	260	三島市教委
37	緑道遺跡	縄文向山遺跡	258	日本大学三島高等学校
38	菅原向山遺跡	旧石器・縄文（前）	266	三島市教委
39	台場B遺跡	旧石器・縄文（早～中）	261	三島市教委
40	天王B遺跡	旧石器・縄文（早～中）	267	三島市教委
41	中村分遺跡	旧石器・縄文（早～中）	268	三島市教委
42	台場C遺跡	旧石器・縄文（早～中）	270	三島市教委
43	台場D遺跡	旧石器・縄文（早・中）	274	加藤学園
44	山中C遺跡	旧石器・縄文（早～中）	273	加藤学園・三島市教委
45	菅原向山遺跡	旧石器・縄文（早・中）	286	三島市教委
46	北山遺跡	縄文（前～後）	289	三島市教委
47	カシラガシA遺跡	旧石器・縄文（前・中）	291	加藤学園・三島市教委
48	上ノ池遺跡	旧石器・縄文・古墳	404	静岡県埋蔵文化財調査研究所
49	八日原遺跡	旧石器・縄文（早・中）・中世・近世	113	静岡県埋蔵文化財調査研究所
50	加須ノ洞B遺跡	旧石器・縄文（早～中）	156	静岡県埋蔵文化財調査研究所
51	加須・山中遺跡	旧石器・古墳	157	三島市教委
52	海老瀬跡A地点	旧石器・縄文（早～後）・中世・近世	155	静岡県埋蔵文化財調査研究所
52	海老瀬跡B地点	旧石器・縄文（早～中）・中世	155	静岡県埋蔵文化財調査研究所
53	十日原遺跡	旧石器・縄文（前・中）・中世	161	三島市教委
54	下ノ遺跡	旧石器・縄文（早・中）	237	静岡県埋蔵文化財調査研究所
55	保原初期原遺跡	旧石器・縄文	239	三島市教委
56	初音ヶ原A遺跡第1地点	旧石器・縄文（早・中）	326	三島市教委
57	初音ヶ原B遺跡第1地点	旧石器	327	三島市教委
58	初音ヶ原B遺跡第2地点	旧石器・縄文（早～後）・近世	326	三島市教委
59	初音ヶ原A遺跡第3地点	旧石器	326	三島市教委

査定番号	遺跡名	時代	三島市遺跡番号	調査者
60 初音ヶ原 B 遺跡第3地点	旧石器・縄文(早～後)・近世	327	三島市教委	
61 初音ヶ原 A 遺跡第4地点	旧石器	326	三島市教委	
62 初音ヶ原 B 遺跡第4地点	旧石器	327	三島市教委	
63 初音ヶ原 A 遺跡第5地点	旧石器	326	三島市教委	
64 初音ヶ原 B 遺跡第6地点	旧石器	327	三島市教委	
65 神の遺跡	旧石器・弥生	333	三島市教委	
66 生糸穴遺跡	旧石器・縄文(中)・古墳	315	静岡県埋蔵文化財調査研究所	
67 桜林 A 遺跡	旧石器・縄文(早～中)・弥生～中世	317	静岡県埋蔵文化財調査研究所	
68 中瀬遺跡	旧石器・縄文(前)・中世	324	静岡県埋蔵文化財調査研究所	
69 小平 B 遺跡	旧石器・縄文(早～中)・古墳	312	三島市教委	
70 小平 C 遺跡	旧石器・縄文(早・中)・～古墳	313	三島市教委	
71 鹿庭遺跡	縄文(中)・弥生～古墳	418	三島市教委	
72 清平 A 遺跡	旧石器～古墳	400	三島市教委	
73 清平 B・C 遺跡	縄文(中)・古墳	422	三島市教委	
74 麻山遺跡	旧石器・縄文(中)	380	三島市教委	
75 舟音 II・D 遺跡	縄文(早・中)・弥生	381	三島市教委	
76 東山遺跡	旧石器・縄文(前)・中	382	三島市教委	
77 南山 D 遺跡第2地点	旧石器・縄文・古墳	386	三島市教委	
78 南山 D 遺跡第1地点	旧石器・縄文・古墳	386	三島市教委	
79 加茂 B 遺跡	旧石器・縄文(早～中)	-	田原町教委	
80 加茂 C 遺跡	旧石器・縄文(早～中)	-	田原町教委	
81 加茂 D 遺跡	旧石器・縄文(早～中)	-	田原町教委	
82 大奴田場 A 遺跡	旧石器・縄文(早・中)	-	田原町教委	
83 上黒岩遺跡	旧石器・縄文(早～中)	-	田原町教委	
84 上原遺跡	旧石器	-	田原町教委	
85 中原遺跡	旧石器	-	田原町教委	
86 焼場遺跡	旧石器	-	田原町教委	
87 倍森片山 H 遺跡	縄文・弥生	24	三島市教委	
88 向山古墳群	古墳	424	三島市教委	
89 葉崎木古墳群	古墳(後)	395	三島市教委	

以外では、第III黒色帯の時期に構築されたと考えられている土坑が検出されている。これらは初音ヶ原遺跡群の中で広範囲に確認されており、総数60基を数える。近隣の遺跡では、八田原遺跡(49)7基、加茂ノ洞B遺跡(50)17基、焼場遺跡A地点(52)2基、下原遺跡(54)7基、押切遺跡(65)1基と同様の土坑が相次いで検出されている。また、押切遺跡では単独の土坑検出事例であり、初音ヶ原遺跡群等で確認されている土坑群とは対照的である。市域外では、鉢平遺跡7基、細尾遺跡17基、向田A遺跡5基、富士石遺跡30基、塚松遺跡で26基等が検出され、箱根山西麓から愛鷹山南麓にかけてAT降灰以前の時代に広範囲にわたって土坑が分布する事が明らかになっている。AT降灰後の第I黒色帯では、銀音洞G遺跡(22)第I黒色帯、陰洞B遺跡(26)第I黒色帯、上ノ池遺跡(48)第II文化層、加茂ノ洞B遺跡第I黒色帯があり、角錐状石器、ナイフ形石器、円形搔器を中心とした石器群が出土している。

箱根山西麓のローム層の最上層である休場層では、遺跡数が急増する。「砂川式期」の石器群は、片平山遺跡(14)、初音ヶ原A遺跡第2地点第I文化層、南山D遺跡第1地点(78)第II文化層等で検出されている。市域外では、函南町の大奴田場A遺跡(82)第II文化層、上黒岩遺跡(83)、上原遺跡(84)第II文化層等で検出されている。これに対してナイフ形石器石器群の終末期の石器群は、塚原初音原遺跡、佐野片平山G遺跡第III文化層、北原音遺跡(20)第I文化層、山中城遺跡第28次調査(34)YLM層、天台B遺跡(40)ZN～YLU層・YLM層、松林A遺跡(67)YLU層・YLM層等がある。

三島市域では尖頭器石器群の存在は稀薄であり、山中城跡三ノ丸第1地点(32)第II文化層、天台B遺跡ZN～YLU層・東山遺跡(76)第II文化層で確認されているだけであったが、第二東名関連、東駿河湾環状道路等の発掘調査事例が増える中で、鉢平遺跡第V文化層、桜畠上遺跡I第V文化層、梅ノ木沢遺跡第XII文化層等で尖頭器石器群が検出されている。更なる検討資料の増加に期待したい。

細石刃石器群の検出例は多く、山中城跡三ノ丸第1地点(32) 第I文化層、山中城E遺跡(35) 第I文化層、順合寺A遺跡(31) 第I文化層等がある。

箱根山西麓の縄文時代以降は、当地域の既刊報告書に詳述されているため、今報告では特徴的な遺跡のみを記載する。縄文時代草創期に相当する遺跡は、市内では最古となる逆茂木施設のある土坑4基が検出された下原遺跡や、平底で無文の小形土器が出土している初音ヶ原A遺跡第2地点がある。早期の遺跡では、井草式併行期と考えられる撫糸文の土器が出土した北原菅遺跡、野島式、茅手下層式等の土器が纏まって出土した焼場遺跡A地点、早期末葉から前期初頭の住居跡が2軒検出された陰洞C遺跡(28)がある。前期の遺跡では、諸磯b式期の住居跡が検出された下原遺跡、前期末葉の十三菩提式期の土器が出土した五輪遺跡(21)等がある。中期の遺跡では、曾利I式期の住居跡3軒、曾利II式期の住居跡1軒、加曾利E3式期の住居跡1軒が検出された観音洞B遺跡(25)、加曾利EIV式期の敷石住居跡が1軒検出された十石洞遺跡(53)がある。後期になると箱根山西麓では遺跡数が減少し、堀之内II式の敷石住居跡、加曾利B1式までの串跡、住居跡等が検出された北山遺跡(46)がある。

箱根山西麓の弥生時代の遺跡は稀薄であり、丘陵末端部に位置する猪追面遺跡(71)では、弥生時代後期の住居跡2軒、弥生時代後期～古墳時代初頭の方形周溝墓が4基検出され、源平C遺跡(73)では弥生時代後期～古墳時代初頭の方形周溝墓2基、住居跡が2軒検出されている。

古墳時代の遺跡では、三島市域で最も古い4世紀中頃～6世紀前に築造された向山古墳群(88)があり、円墳14基、前方後円墳2基の合計16基がこれまでに確認されている。また、夏梅木古墳群(89)では6世紀末～7世紀初頭の円墳19基が確認されている。箱根山西麓ではこれ以降、後北条氏第3代北条氏康によって築城されたと伝えられる山中城築城まで人々の痕跡が極めて稀薄な地域となっている。

### 第3節 発掘調査の経過と概要

国土交通省沼津河川国道事務所によって建設が計画された国道1号線笛原中山バイパスの建設工事は、笛原大曲から山中新田までの総延長約4kmに及び、その間に存在する7遺跡11地点で遺跡を分断するほか、遺跡の存在が推定される3地点を通過する計画となっていた。これらの遺跡の中には、国指定史跡の山中城をはじめとして、旧石器時代の有望な遺跡が含まれていることから、この14地点(総面積42,130m<sup>2</sup>)を対象とした発掘調査が道路建設工事に先駆けて順次行われることとなった。本報告は、上記の14地点の内、1地点と呼称される台崎A遺跡についての発掘調査成果の報告書である。

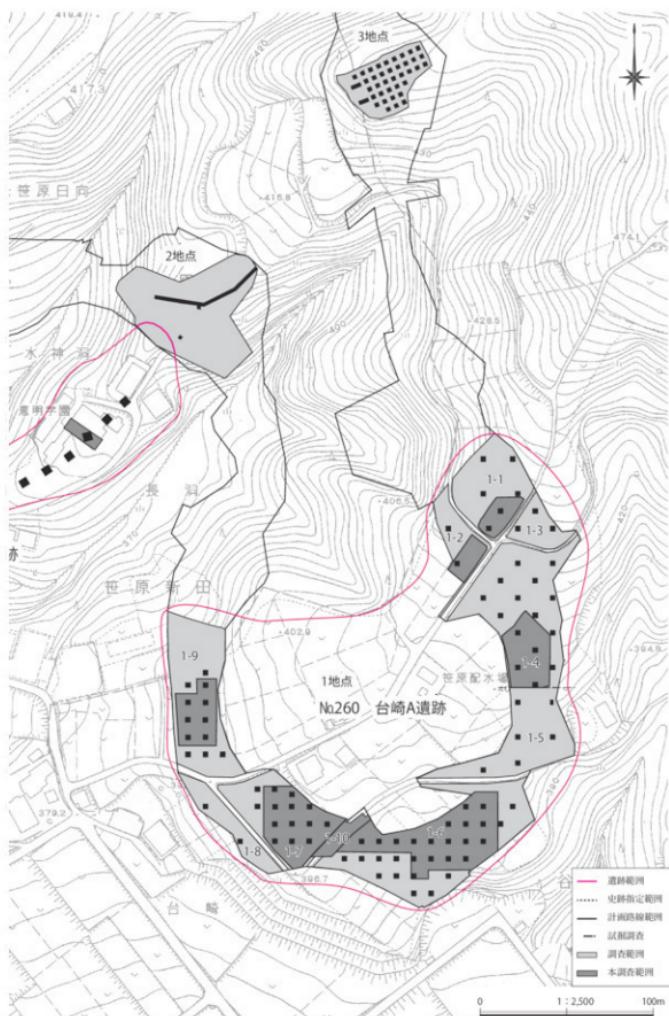
台崎A遺跡の調査は、上述の笛原中山バイパス建設工事に伴うものであり、調査地点は、笛原大曲から約400m北東に進んだ丘陵上に所在する。調査区の規模は東西約240m、南北約280m、平面形は北側が開いた馬蹄形を呈しており、農道を境界として北から南に向かって1-1～9地点の調査地点を設定した。1-10地点に関しては、1-6地点と1-7地点に挟まれた農道下であったが、両地点の石器ブロックの広がりから、遺物の出土が予見されたため、農道を切り回した上で平成22年度に新たに調査区を設定した。調査区は、世界測地系を使用し、グリッドはX=44080、Y=94760を基点とし、南から北にアルファベット(A・B・C)を使用し、Z以降はAAを用いた。西から東方向はアラビア数字(1・2・3)を用いて10×10mのグリッド設定を行った。一次調査は、この10mグリッドに沿う形で3m×3mの一次調査グリッドを設定し、人力で掘り下げを行った。この一次調査の結果を基に、三島市教育委員会文化振興課と国土交通省沼津河川国道事務所で協議を行った結果1-3地点、1-5地点、1-8地点を除いた調査地点を二次調査の対象とする事となった。二次調査は、平成19年度に1-4地点から着手し、平成20年度に1-7・9地点、平成21年

度に1・6地点、平成22年度に1・1・2・10地点の調査を行った。調査は、表土を重機で除去した後、人力による掘り下げを行った。掘り下げは、鍬籠を使用し層位ごとに遺構・遺物の検出作業を慎重に行った。遺物が集中するグリッドでは両刃鎌を使用し、微細な碎片を見逃さないよう掘り下げを行った。検出された遺物は、トータルステーション、データコレクターを使用し、全点記録作業を行い、疊群等の遺構の計測には写真測量を併用して迅速かつ詳細な調査記録の作成に努めた。また、各地点の休場中層（YLM層）の掘り下げ完了時を基本として、ローリングタワーからの遺物出土状況の全景写真撮影、ラジコンヘリコプターを用いた空中写真撮影を行った。休場層（YL層）掘り下げ後、下層遺物の包含を確認するための一次調査グリッドを設定し、第0黒色帶（BBO層）から第Ⅲ黒色帶層（BBⅢ層）にかけて掘り下げを行った。この結果、1・4・6・7・9・10地点のニセローム層（NL層）から第Ⅲ黒色帶（BBⅢ層）にかけて、遺物の包含が確認された。下層調査は、遺物の出土した各グリッドをつなぐ形で調査区の設定を行い、層位ごとの掘り下げを行った。掘り下げ完了後、ローリングタワーからの遺物出土状況の全景写真撮影、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行った。地計測量、土層断面図等の調査記録を作成した後、重機を用いて埋戻し作業を行い、各地点の調査を完了した。

各調査地点の調査年度と面積は以下の表の通りである（第2表）。

第2表 調査区年度別一覧

調査地点	一次調査		調査期間	二次調査		調査期間
	調査年度	面積		調査年度	面積	
1-1地点	平成18年度	54m <sup>2</sup>	平成18年12月19日～ 平成19年3月19日	平成22年度 36m <sup>2</sup> （下層調査）	1,176m <sup>2</sup> 平成22年9月1日～10月15日	
1-2地点	平成18年度	18m <sup>2</sup>	平成18年12月19日～ 平成19年3月19日	平成22年度 27m <sup>2</sup> （下層調査）	945m <sup>2</sup> 平成22年7月1日～9月1日	
1-3地点	平成18年度	27m <sup>2</sup>	平成18年12月19日～ 平成19年3月19日	-	-	-
1-4地点	平成18年度	135m <sup>2</sup>	平成18年12月19日～ 平成19年3月19日	平成19年度 1,400m <sup>2</sup>	4,948m <sup>2</sup> 平成19年7月2日～12月26日	
1-5地点	平成18年度	45m <sup>2</sup>	平成18年12月19日～ 平成19年3月19日	-	-	-
1-6地点	平成20年度	180m <sup>2</sup>	平成20年7月7日～8月8日	平成21年度 4,948m <sup>2</sup>	4,948m <sup>2</sup> 平成21年7月1日～3月19日	
1-7地点	平成19年度	135m <sup>2</sup>	平成20年1月7日～1月18日	平成20年度 1,321m <sup>2</sup>	1,321m <sup>2</sup> 平成20年10月30日～ 平成21年3月3日	
1-8地点	平成18年度	18m <sup>2</sup>	平成18年12月19日～ 平成19年3月19日	-	-	-
1-9地点	平成19年度	108m <sup>2</sup>	平成20年1月11日～1月18日	平成20年度 773m <sup>2</sup>	773m <sup>2</sup> 平成20年8月8日～11月18日	
1-10地点	平成22年度	-	-	平成22年度 970m <sup>2</sup>	970m <sup>2</sup> 平成22年10月15日～ 平成23年1月29日	



第3図 遺跡の範囲と調査地点の位置

## 第4節 遺跡の層序

遺跡のある箱根山西麓は、箱根西麓ローム層と呼称されるローム層が発達しており、山麓部では層厚40～50mにも及ぶ。このローム層は、下位ローム層（Lローム層）・中位ローム層（Mローム層）・上位ローム層（Uローム層）に3分され、上位ローム層を更に2分（U2ローム層・U1ローム層）して、大きく4層位に区分（高橋 1976）されている。

本遺跡で今回調査を実施したローム層は、富士火山を主要供給源として発達したU1ローム層であり、関東ローム層の最上部ローム層である立川ローム層・愛鷹山南麓に発達する愛鷹ローム層の上部ローム層に対比できる。本遺跡など箱根山西麓中腹に立地する遺跡では、休場層の層厚が増しており、休場層中に認められる、休場第1スコリア層（YL-S1層）・休場第2スコリア層（YL-S2層）・休場第3スコリア層（YL-S3層）の堆積が良好である。また、黒色帶（第Ⅷ黒色帶～第0黒色帶）の脱色化が顕著であり、第Ⅲスコリア帯下位の黒色帶はほぼ確認できぬ。休場層のスコリア層の発達、黒色帶の脱色化といった特徴は、箱根山西麓中腹の遺跡で普遍的に認められる。

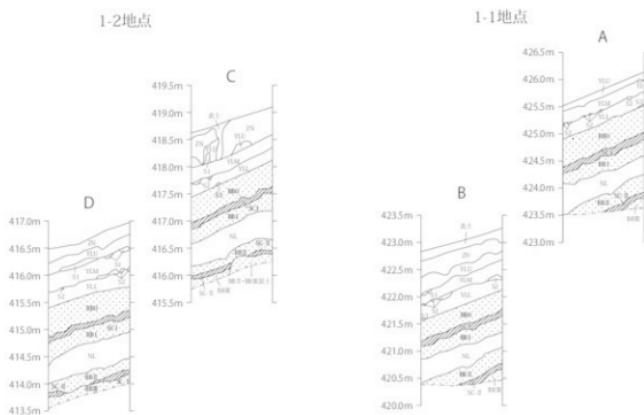
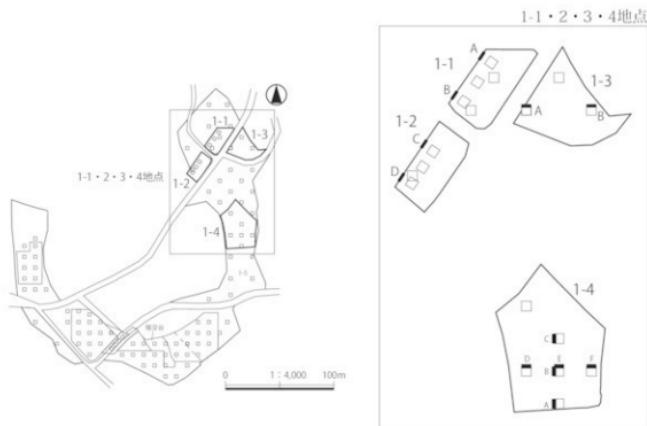
U1ローム層の上部には、新期富士火山活動起源の腐食土層が形成され、本来の堆積では富士黒色土層（FB層）、その上位に暗褐色土層が堆積するが、斜面地であることと後世の耕作により、上部層位の残存が良好ではなく、1地区の全ての調査地点で確認できなかった。

基本層序は以下の通りである。（第4～10図）

- 第1層 黒色土層 表土層で粘性・しまり無い耕作土層である。
- 第2層 黄灰色土層 粘性有り、しまり有り。ローム漸移層（ZN層）でφ1～2mm大的黒色、赤色スコリアを含む。休場上層（YLU層）よりやや黒灰色が強い。
- 第3層 黄褐色土層 粘性有り、しまりやや弱い。φ1～2mm大的赤色スコリア、φ1～3mm大的黒色スコリアを少量混入する。ソフトローム層で休場上層（YLU層）である。ZN層、YLM層に比べ明度が高く、黄色が強い。
- 第4層 赤褐色土層 粘性弱く、しまり有り。φ3～5mm大的赤褐色、赤橙色スコリアにより構成される。休場第1スコリア層（YL-S1層）である。休場第3スコリア層（YL-S3層）に類似する。休場第2スコリア層（YL-S2層）より赤褐色が強い。
- 第5層 黄褐色土層 粘性やや有り、しまり強い。休場上層（YLU層）、休場下層（YLL層）より色調が暗い。φ3～10mm大的赤色、黒色スコリアを含む。休場中層（YLM層）である。
- 第6層 赤褐色土層 粘性弱く、しまり有り。φ3～10mm大的赤橙色、肌色、黒色スコリアにより構成される。休場第1スコリア層（YL-S1層）、休場第3スコリア層（YL-S3層）より黄色が強い。休場第2スコリア層（YL-S2層）である。
- 第7層 黄褐色土層 粘性有り、しまり強い。硬く締まったローム層である。φ3～10mm大的赤色、灰色、黒色スコリアを含む。休場下層（YLL層）である。
- 第8層 赤褐色土層 粘性有り、しまり強い。赤橙色、赤褐色スコリア層により構成され、休場第1スコリア層（YL-S1層）と類似する。休場第3スコリア層（YL-S3層）である。
- 第9層 暗黄褐色土層 粘性有り、しまり強い。φ1～3mm大的白色スコリアを多く含む。φ2～12mm大的赤褐色、灰色、黒色スコリアを含む。休場層の下部に発達する黒色帶で第0黒色帶（BBO層）である。

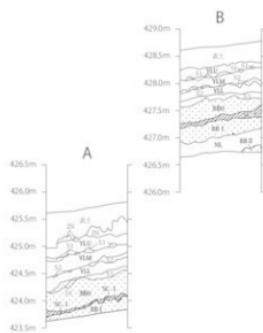
- 第10層 赤褐色土層 粘性有り、しまり有り。φ 2～10mm 大の赤褐色スコリアを主体とし、黒色スコリアを含む。第Ⅰスコリア帯 (SC-Ⅰ層) である。
- 第11層 暗褐色土層 粘性有り、しまり強い。φ 2～7mm 大の赤色、黒色スコリアを小量～中量含む。第Ⅰ黒色帯 (BBⅠ層) である。明度は第0黒色帯 (BBO 層) のほうが若干暗い。
- 第12層 黄褐色土層 粘性有り、しまり強い。第Ⅰ黒色帯 (BBⅠ層)、第Ⅱ黒色帯 (BBⅡ層) に比べ非常に硬くする。φ 2～10mm 大の黒色、青灰色スコリアを層中に均等に含む。第Ⅱ黒色帯 (BBⅡ層) との層離面に近づく程褐色が強くなり、粘性を帯びる。ニセローム層 (NL 層) である。また、φ 5～50mm 大の始良 Tn 火山灰層 (AT) をパッチ状に含む。始良 Tn 火山灰層 (AT) は褐色～黄褐色であり、粒子が非常に細かい。
- 第13層 暗褐色土層 粘性有り、しまり強い。ニセローム層 (NL 層) に比べ、明度が暗く粘性が強い。φ 2～4mm 大の赤色、赤橙色、黒色スコリアを少量含む。第Ⅱ黒色帯 (BBⅡ層) である。
- 第14層 暗褐色土層 粘性有り、しまり有り。φ 2～5mm 大の赤褐色～赤橙色、黄色スコリアが均質に入る。第Ⅱ黒色帯 (BBⅡ層)、第Ⅲ黒色帯 (BBⅢ層) と比べ明度が高く、しまり、粘性ともに弱い。第Ⅱスコリア帯 (SC-Ⅱ層) である。
- 第15層 暗褐色土層 粘性有り、しまり強い。φ 2～7mm 大の赤褐色スコリアを少量含む。第Ⅱ黒色帯 (BBⅡ層) に比べ黒色度が強く、粘性は強い。第Ⅲ黒色帯 (BBⅢ層) である。
- 第16層 黄褐色土層 粘性有り、しまり非常に強い。φ 5～20mm 大の黒色スコリアを主体とし、赤褐色スコリアが層中に均等に含まれる。第Ⅲスコリア帯である。愛鷹地域のような黒色化はしておらず、脱色化が著しい。当地域における第Ⅲスコリア帯 (SC-Ⅲ層) ～第VII黒色帯 (BB VII層) の細分は非常に困難である。鍵層となるベアスコリア層までの層厚は約 0.5m である。

以下、本文中ににおいての層位名称は、漸移層を「ZN 層」、休場上層を「YLU 層」、休場中層を「YLM 層」、休場下層を「YLL 層」、第0黒色帯を「BBO 層」、第Ⅰスコリア帯を「SC-Ⅰ層」、第Ⅰ黒色帯を「BBⅠ層」、ニセローム層を「NL 層」、第Ⅱ黒色帯を「BBⅡ層」、第Ⅱスコリア帯を「SC-Ⅱ層」、第Ⅲ黒色帯を「BBⅢ層」、第Ⅲスコリア帯を「SC-Ⅲ層」と表記している。また、YLU～YLL 層を中心に出土した遺物については、「YL 層準」という名称も使用している。

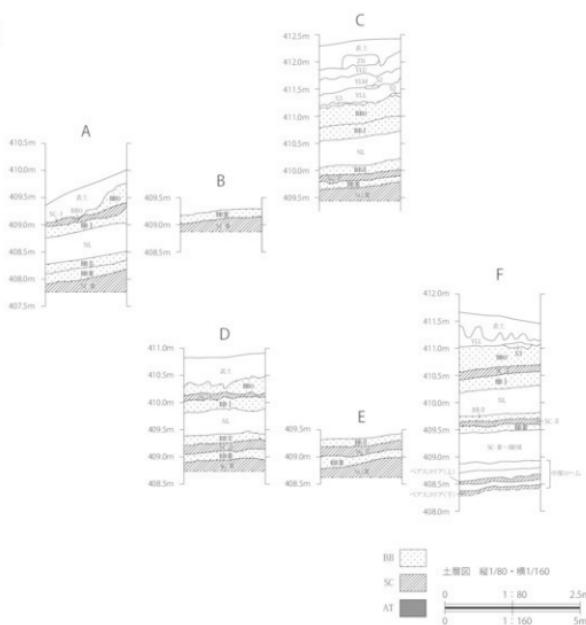


第4図 台崎A遺跡の層序 1-1・2地点

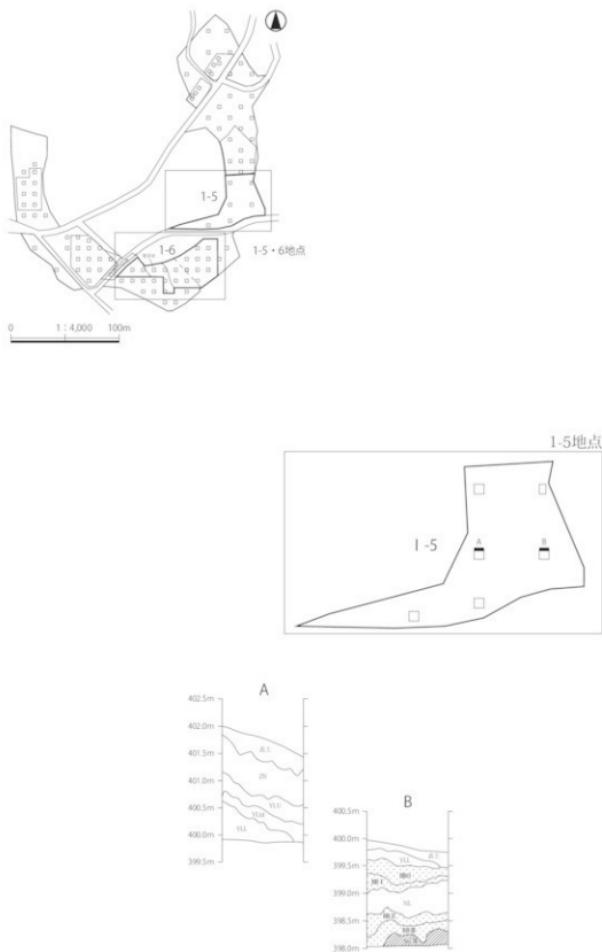
1-3地点



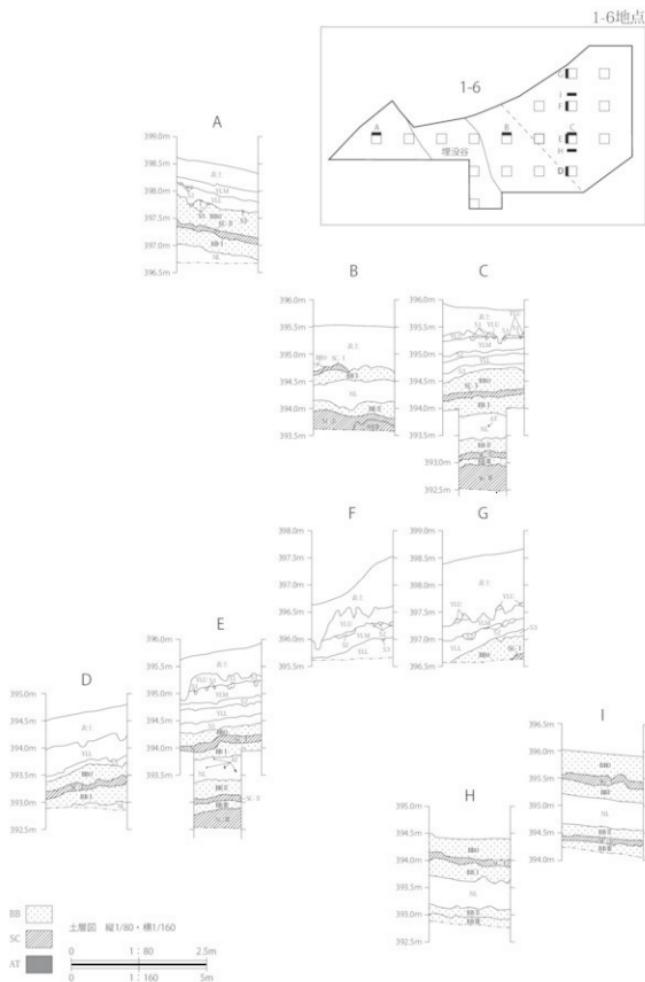
1-4地点



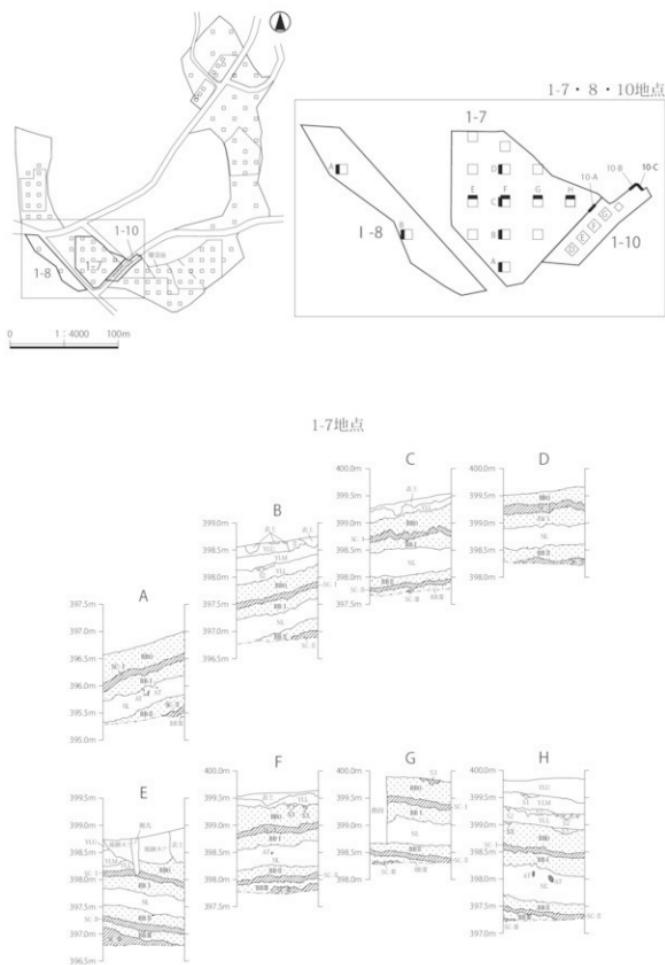
第5図 台崎A遺跡の層序 1-3・4地点



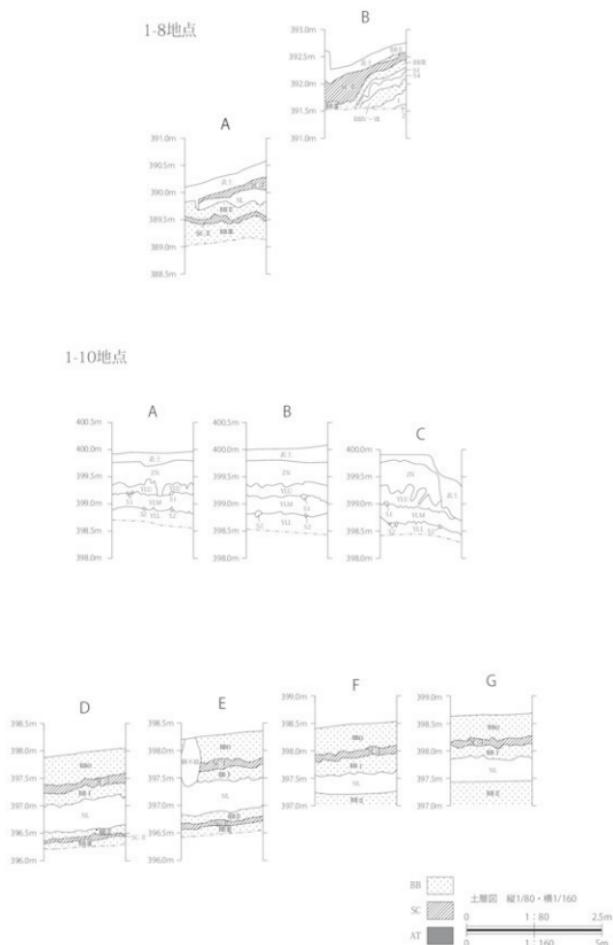
第6図 台崎A遺跡の層序 1-5地点



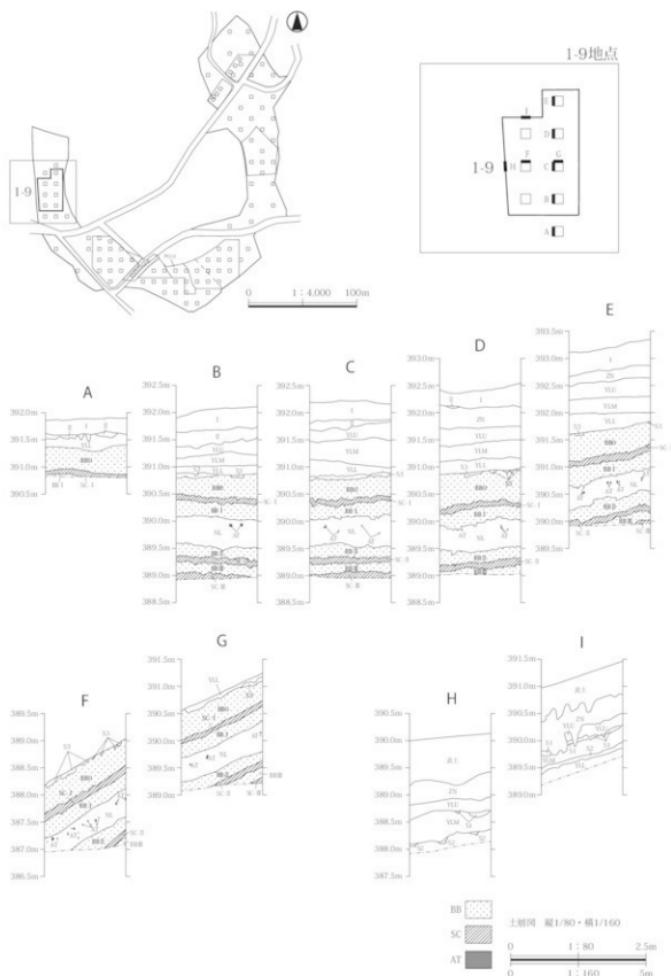
第7図 台崎A道路の層序 1-6地点



第8図 台崎A遺跡の層序 1-7 地点



第9図 台崎A遺跡の層序 1-8・10地点

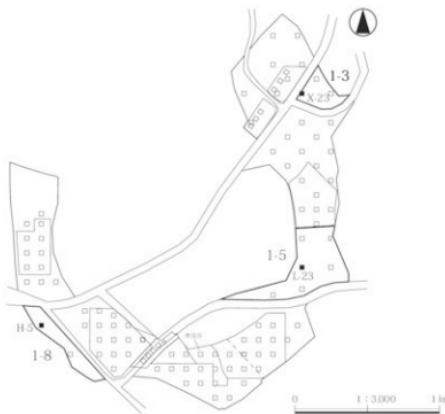


第10図 台崎A遺跡の層序 1-9地点

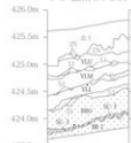
## 第2章 一次調査

本遺跡の一次調査は、事業地内の遺構、遺物の分布範囲の確認と二次調査面積の確定を目的として平成18年度から平成20年度の3ヶ年に分けて行われ、平成18年度は1-1～1-5地点、平成19年度は1-7～1-9地点、平成20年度に1-6地点の一次調査を実施した。一次調査は、事業範囲全体に設定した10×10mの大グリッドに沿う形で各地点に3×3mの一次調査グリッドを設定した。各地点のグリッド数は、調査対象面積の約9%となるように配置し、YL層準を中心として遺物、遺構の精査を行った後、写真撮影、図面類の作成等の記録保存を行い、調査を終了した。本章では、一次調査のみで終了した調査地点について記載する。

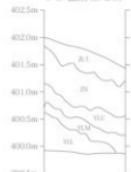
1-3・5・8地点



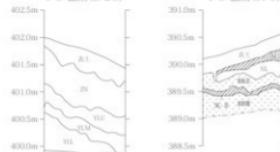
1-3地点(X-23)



1-5地点(L-23)



1-8地点(H-5)



土割図 比例1:80・概1:160  
0 1 2.5m  
0 1 160 5m

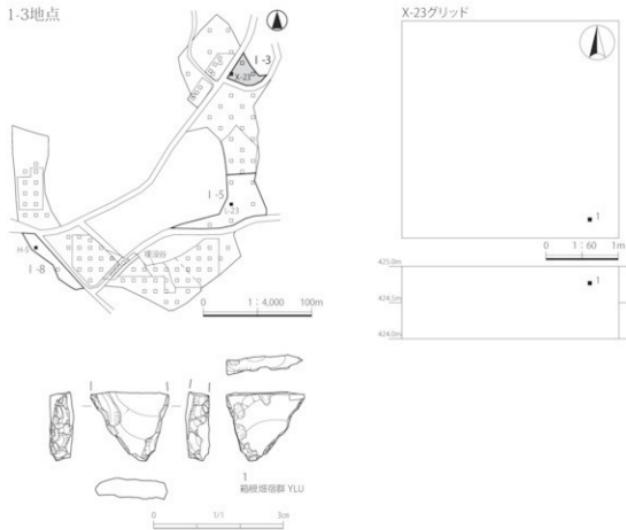
第11図 1-3・5・8地点 全体図

## 第1節 1-3 地点

本地点は、調査区北部の1-1地点と農道を挟んだ東側に位置し、南東方向へ大きく傾斜する。標高は、425.26～428.80mである。土層堆積は、南西へ緩やかに傾斜する堆積状況を呈しており、現況とは異なる。遺物は、X-23グリッドのYLU層からナイフ形石器が1点出土している。

### 出土遺物（第12図）

Ⅲ類：欠損品分類される中間部付近で折損したナイフ形石器である。二側縁加工のナイフ形石器の基部と考えられる。背面構成、主要剥離面の観察から、両設打面の石核から剥離されたものと考えられる。プランディングは主要剥離面から行われる。箱根烟宿群の黒曜石であり、球果が顕著に認められる。



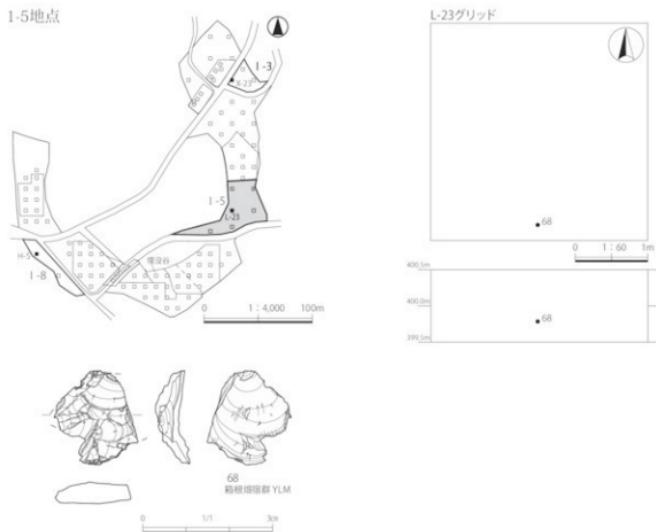
第12図 1-3地点 遺物分布図・出土遺物

## 第2節 1-5地点

本地点は、調査区中央部の1-4地点、1-6地点に挟まれた南東方向への急傾斜地に位置する。標高は399.02m～408.25mである。土層堆積は現況地形と大きな相違ではなく、南東方向へ急傾斜する堆積状況を呈する。遺物は、L-23グリッドのYLM層から剥片が1点出土しているが、丘陵上位の1-4地点付近からの流れこみと考えられ、本来の位置を保ってはいないものと考えられる。

### 出土遺物（第13図）

両側縁部を折損する剥片である。背面構成から、複設打面の石核から剥離されたものと考えられる。



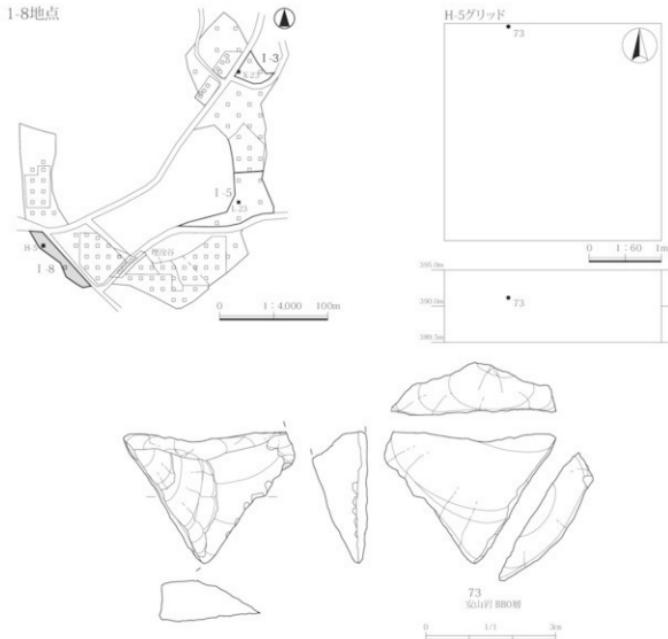
第13図 1-5地点 遺物分布図・出土遺物

## 第3節 1-8 地点

本地点は、調査区南部の1-7地点と農道を挟んだ南側の急傾斜地に位置する。標高は390.05m～393.64mである。土層堆積は現況地形と大きな相違はなく、南へ急傾斜する堆積状況を呈し、不安定な堆積の様相が確認された。遺物は、H-5グリッドのBBO層から剥片が1点出土しているが、後述する1-7地点の出土状況を鑑みれば、本来の出土層位はYL層準のいずれかに帰属するものと考えられる。

## 出土遺物（第14図）

打点部、左側縁部を折損する剥片である。背面構成から、複設打面の石核から剥離されたものと考えられる。



第14図 1-8地点 遺物分布図・出土遺物

### 第3章 1-1 地点

本地点は、調査区の中で最も北側に位置し、最も標高の高い地点である。標高は約422.40～429.30mであり、急傾斜な調査地点である。ZN層、YLU層からYLL層までの間で石器31点と礫9点が出土し、その出土状況から3箇所の石器ブロックと礫群1基、配石1基として認識された。また、調査区南端部西側にて縄文時代の石器4点と礫2点が出土した。



第15図 1-1 地点 全体図

## 第1節 YL 層準の遺構・遺物

### 1. 検出された遺構

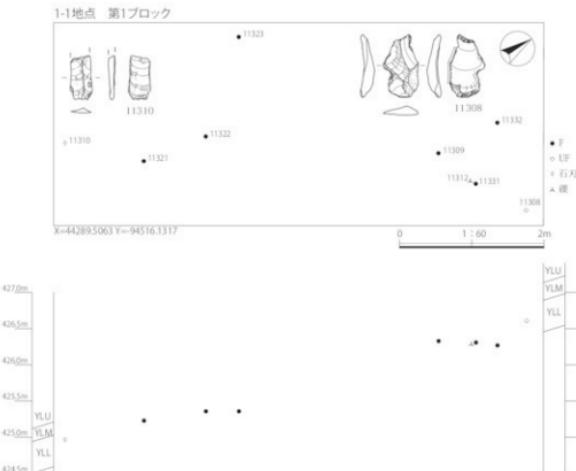
本地点からは前述のように31点の石器が出土し、3箇所の石器ブロックとして認識され、このうち第3ブロックでは第1号礫群、第1号配石がほぼ同位置で検出されている。前述したように調査地点が急傾斜地であり、このような散漫とした遺物の分布状況が地勢的な要因によって形成された可能性は否定できないが、以下に個別に記述することとする。

#### (1) 石器ブロック

31点の石器が出土し、3箇所の石器ブロックとして認識されていることは上述したが、このうち第3ブロックではわずか3点ばかりのブロック構成数であり、本来は単独の石器として取り扱うべきであるが、礫群、配石と重複しており、関連性が窺われることから、ここでは石器ブロックとしている。

#### 第1ブロック（第16図）

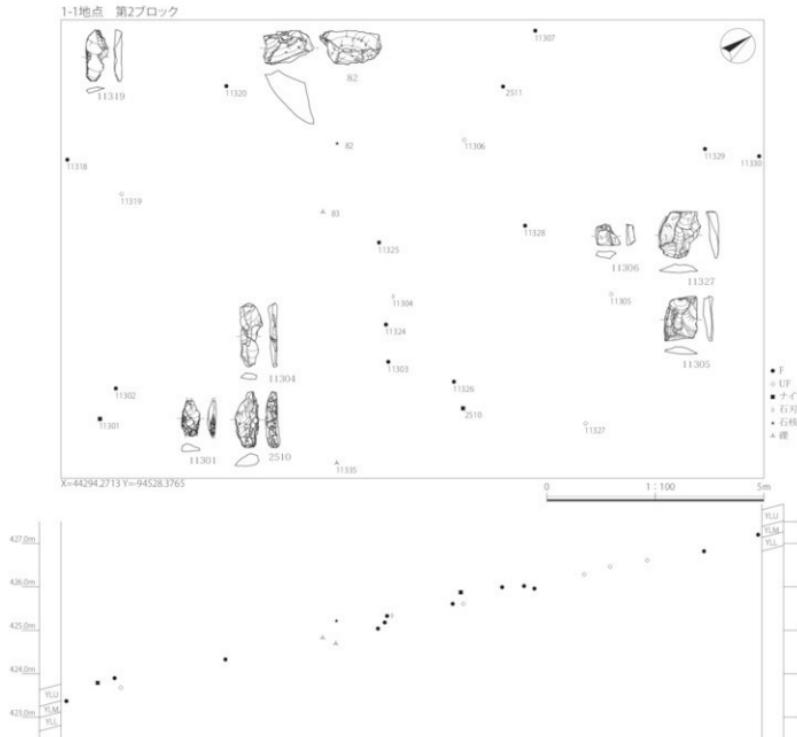
本ブロックは調査区の北端部のY-21・22グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸約6.0m、短軸約1.9mであり、石器は分布範囲全体に散在するように出土している。垂直分布は、標高424.97～426.61m、比高差は1.64mである。出土層位はYLM～YLL層である。出土石器は、小石刃1点、二次加工ある剥片1点、剥片4点、碎片2点の合計8点である。また、ブロック内から単独礫1点が出土している。接合資料は無い。



第16図 1-1 地点 第1ブロック遺物分布図

## 第2ブロック（第17図）

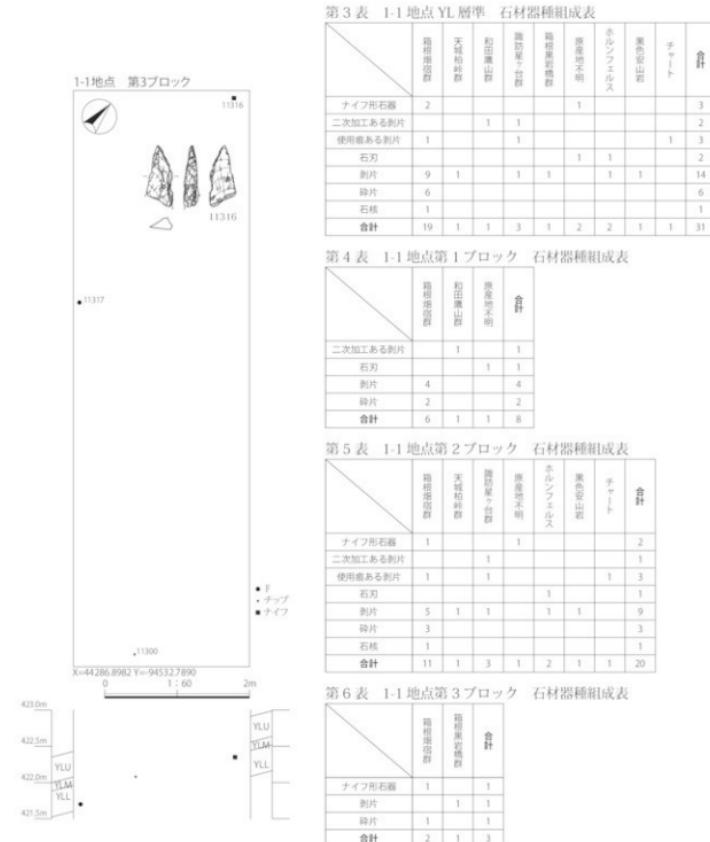
本ブロックは調査区の北端～中央東半部のX-21・22、Y-21～23 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸約 15.9m、短軸約 9.0m であり、石器は分布範囲全体に散在するように出土している。垂直分布は、標高 423.37 ～ 427.20m、比高差は 3.83m である。出土層位は YLU ～ YLL 層である。出土石器は、ナイフ形石器 2 点、二次加工ある剥片 1 点、使用痕ある剥片 3 点、石核 1 点、石刃 1 点、剥片 9 点、碎片 3 点の合計 20 点である。また、ブロック内で単独縫 2 点が出土している。接合資料は無い。



第17図 1-1 地点 第2ブロック遺物分布図

## 第3ブロック（第18図）

本ブロックは調査区の南端部のW-21・X-21 グリッドで確認されている。第1号砾群とほぼ同位置で重複し、ブロックの外縁南側に第1号配石が位置する。石器分布範囲の規模は、長軸約7.7m、短軸約3.7mであり、石器はブロック全体に散在するように出土している。垂直分布は、標高421.70～422.35m、比高差は0.65mである。出土層位はYLM～YLL層である。出土石器は、ナイフ形石器1点、剣片1点、碎片1点である。接合資料は無い。



第18図 1-1地点 第3ブロック遺物分布図

## (2) 磬群

本地点を含め、台崎A遺跡では、『初音ヶ原遺跡』(鈴木ほか 1999)に準じ重量900g以下の4点以上の磬が集中するものを視覚的に分離し、磬群として報告する。本地点では9点の磬が出土し、このうちの4点が第1号磬群として確認されている。

## 第1号磬群 (第19図)

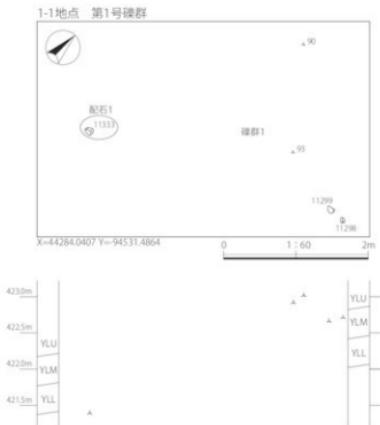
本磬群は、調査区南端部のX-21 グリッドで確認されている。第3ブロックとほぼ同位置で重複し、約3m南に第1号配石が位置する。磬群の規模は、長軸2.52m、短軸0.45mである。磬の分布状況は、散在した状況である。垂直分布は標高422.67 ~ 423.02mであり、比高差は0.35mである。出土層位はZN ~ YLU層である。構成する磬は4点であり、総重量2,225gを測る。このうち2点に被熱の痕跡が認められる。

## (3) 配石

被熱の有無に関係なく、重量900gを超える磬を配石として分離した。配石は、石器ブロック内や磬群の範囲内で確認されるものがほとんどであり、その配置に密接な関連性があったものと考えられる。

## 第1号配石 (第19図)

本配石は、調査区南端部のX-21 グリッドで確認されている。第1号磬群から南へ約3m離れて出土した。出土層位はYLL層下面、出土レベルは標高421.40mである。磬は重量995gの直角磬であり、被熱の痕跡は確認されない。



第7表 1-1 地点磬群・配石組成表

	長軸 m	短軸 m	磬 点数	標高 m	被熱 点数	被熱 磬
第1号磬群	2.52	0.45	4	2,225	2	
第1号配石			1	995		

第19図 1-1 地点 第1号磬群・第1号配石遺物分布図

## 2. 出土遺物

## (1) 石器

本調査地点で確認された石器は、3箇所のブロックの合計31点である。以下に出土した石器の器種毎の特徴を把握しながら石器群を見ていく。

## ナイフ形石器（第20図 2510）

1-1 地点からは3点のナイフ形石器が出土しており、台崎 A 遺跡全体を見渡してみれば、複数の形態が確認される。ここでは第I群：二側縁加工のもの、第II群：一側縁加工のもの、第III群：欠損の形態不明のものの3群に大別し、それぞれの群の中で更に細別し記述していく。

## 第I群 b 類（第20図 2510）

二側縁加工のナイフ形石器で大きさが3cm以上5cm以下の中型のものを本類とした。2510は刃部先端の一部を欠損しており、復元値での分類となる事をはじめにお断りしておきたい。打点部は刃部先端側に配置され、プランティング加工によって大きく除去される。また両側縁のプランティング加工は主要剥離面方向から入念に施される。先端部付近には使用の際に剥離したと考えられる微細剥離痕が確認される。

## 第I群 c 類（第20図 11301）

二側縁加工のナイフの中で最大長が3cm以下の小型のものを本類とした。11301は刃部先端の一部を欠損しており、復元値での分類となる事をはじめにお断りしておきたい。背面構成、主要剥離面の観察から、複設打面を持つ石核から剥離された横長剥片を素材としており、背面には一部自然面が残る。打点部はプランティング加工によって大きく除去され、急角度を呈している。器面は灰色を呈し、光沢が失われており、被熱した可能性も考えられる。

ナイフ形石器



第20図 1-1 地点 YL 層準 出土遺物 (1)

**第三群** (第20図 11316)

ナイフ形石器の欠損品である。刃部先端から中央部付近のみ残存し、中央部から基部を欠損する。縱長剥片を素材とし、背面構成から石核は単設の打面であった事が窺われる。プランディングは右側縁にのみ確認され、主に主要剥離面方向から施され、背面側からの調整も一部確認される。刃部先端付近には使用の際に剥離したと考えられる微細剥離痕が観察される。

**彫刻刀形石器** (第21図 11319)

11319は所謂ボジ・ボジ剥片を素材とし、表面右側にファシットが2条確認される。ファシットには側方より連続した剥離が確認され、使用の痕跡と考えられる。表面の左側縁部、裏面の右側縁部にはほぼ同位置から始まるつぶれ状の微細剥離痕が確認される。

**二次加工ある剥片** (第21図 11308)

11308は複設打面を持つ石核より剥離された剥片を素材とする。背面の一部に自然面を有し、先端部、上部に二次加工を施す。左側縁部には調査時の欠損が確認される。

**使用痕ある剥片** (第21図 11305、11306、11327)

使用痕ある剥片は、3点確認されている。剥片には、単設打面の石核より剥離されたもの(11305)、複設打面の石核より剥離されたもの(11306、11327)がある。11305は両側縁部、折れ面端部に微細剥離痕が確認される。11306は折れ面、右側縁部に微細剥離痕が確認される。11327は両側縁部に微細剥離痕が確認される。

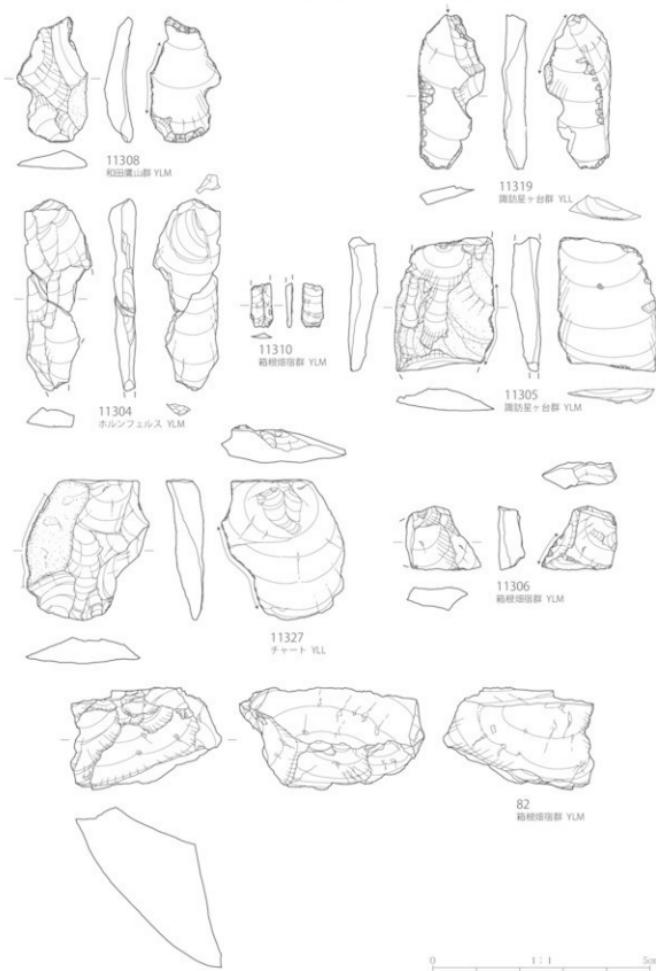
**石刃** (第21図 11304、11310)

2点確認されている。いずれも単設打面の石核より剥離される。11304は中間部付近で折損しており、表面は著しい風化で灰白色を呈する。打面は平坦打面であり、背面構成から、単設の打面を持つ石核より剥離されている事が確認される。11310は打点部を欠損する所謂小石刃である。意図的に分割されたものではなく、折れ面に観察される球果が折損の原因と考えられる。

**石核** (第21図 82)

1点確認されている。厚手の剥片を素材とし、90度の打面転移が確認される。打面調整は行われず、目的的な剥片剥離も左面、正面に観察されるのみである。球果が多く、剥片剥離が進まない状態で廃棄された可能性が高い。

彫刻刀形石器・二次加工ある剥片・使用痕ある剥片・石刃・石核



第21図 1-1地点 YL層準 出土遺物(2)

## 第2節 縄文時代の遺物

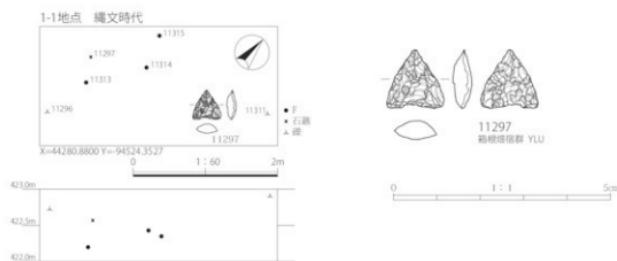
本地区のX-21 グリッドのZN層からYLL層より4点の石器と2点の礫が出土した。出土層位に幅が認められるが、急傾斜地での不安定な堆積によるものと考えられる。出土石器は、石鎌1点、剥片2点、碎片1点が出土した。全て箱根烟宿群の黒曜石であり、同一母岩と考えられる。礫は2点とも、被熱の痕跡は確認されない。また、土器が出土していないため詳細な時期については不明である。

### 1. 出土遺物

#### (1) 石器

##### 石鎌（第22図 11297）

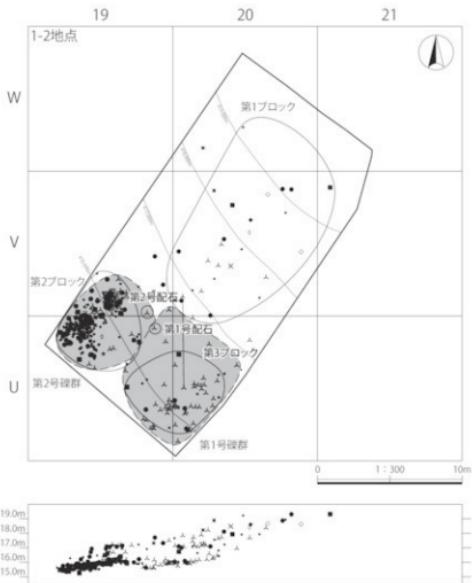
円基無茎の石鎌である。平面形状はおむね正三角形、断面形状はレンズ状を呈する。全周囲から押圧剥離により整形される。



第22図 1-1 地点 縄文時代遺物分布図・出土遺物

## 第4章 1-2地点

本地点は、1-1 地点と農道を挟んだ南側に位置する。標高は 415.36 ~ 420.49m であり、調査地点は、やや傾斜面から緩傾斜面となる地形の変換点にある。YLU 層から YLL 層までの間で 377 点の石器と礫 63 点が出土し、その出土状況から 3箇所の石器ブロックと礫群 2基、配石 2基として確認された。また、表土除去後に時期不明の土坑 1基を検出し、調査区南半部にて縄文時代の石器 29 点と土器 1 点、礫 24 点が出土した。



第23図 1-2地点 YL層準 全体図

## 第1節 YL層準の遺構・遺物

### 1. 検出された遺構

本地点からは前述のように 377 点の石器が出土し、3箇所の石器ブロックとして確認された。調査区北側に第 1 ブロックが、南半部西側に第 2 ブロックが、その南半部東側に第 3 ブロックが確認された。第 2・3 ブロックに関しては、傾斜面から緩傾斜面への地形の変換点で検出され、第 1・2 号礫群、第 1・2 号配石と重複している。

## (1) 石器ブロック

前述したように 377 点の石器が出土し、3 個所の石器ブロックが検出されているが、第 1 ブロックでは散漫な遺物の検出状況であり、地形的な要因によって石器ブロックが形成された可能性が高い。第 2・3 ブロックではそれぞれの石器ブロックの中心部で縦群と重複し、外縁部において配石が重複する。以下に詳述する。

## 第 1 ブロック (第 24 図)

本ブロックは調査区の北部から中央付近の V-20・21、W-20 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸 12.91m、短軸 5.74m である。石器は分布範囲全体に散在するように出土している。垂直分布は、標高 417.0 ~ 419.32m、比高差は 2.32m である。出土層位は YLU ~ YLL 層である。出土石器は、ナイフ形石器 2 点、二次加工ある剝片 2 点、使用痕ある剝片 1 点、剝片 5 点、石刃 2 点、碎片 6 点の合計 18 点である。また、ブロック内から単独縦 3 点が出土している。接合資料は 1 個体あり、本ブロックの剝片と第 2 ブロックの石核、ナイフ形石器、石刃、剝片が接合する。

## 第 2 ブロック (第 25 図)

本ブロックは調査区の南端部西側の U・V-19 グリッドで確認されている。第 2 号縦群と重複する。また、ブロック北側の外縁付近で第 1・2 号配石が検出されている。石器分布範囲の規模は、長軸 5.97m、短軸 5.29m である。石器は分布範囲の中心部から南側に集中し、本調査地点では最大の石器ブロックとなる。垂直分布は、標高 415.24 ~ 416.61m、比高差は 1.37m である。出土層位は YLU ~ YLL 層である。出土石器はナイフ形石器 14 点、二次加工ある剝片 3 点、使用痕ある剝片 2 点、石刃 12 点、石核 1 点、敲石 2 点、剝片 35 点、碎片 276 点の合計 345 点である。接合資料は 1 個体あり、本ブロックの石核、ナイフ形石器 1 点、石刃 9 点、剝片 2 点が第 1 ブロックの剝片と接合する。

## 第 3 ブロック (第 26 図)

本ブロックは調査区の南端部東側の U-19・20 グリッドで確認されている。第 1 号縦群と重複する。また、ブロック西側の外縁付近で第 1 号配石が検出されている。石器分布範囲の規模は、長軸 5.54m、短軸 4.53m である。石器は分布範囲の中心から南側に集中している。垂直分布は、標高 415.62 ~ 416.81m、比高差は 1.19m である。出土層位は YLM ~ YLL 層である。出土石器は、ナイフ形石器 2 点、剝片 4 点、碎片 8 点の合計 14 点である。接合資料は無い。

第 8 表 1-2 地点 YL 層準 石材器種組成表

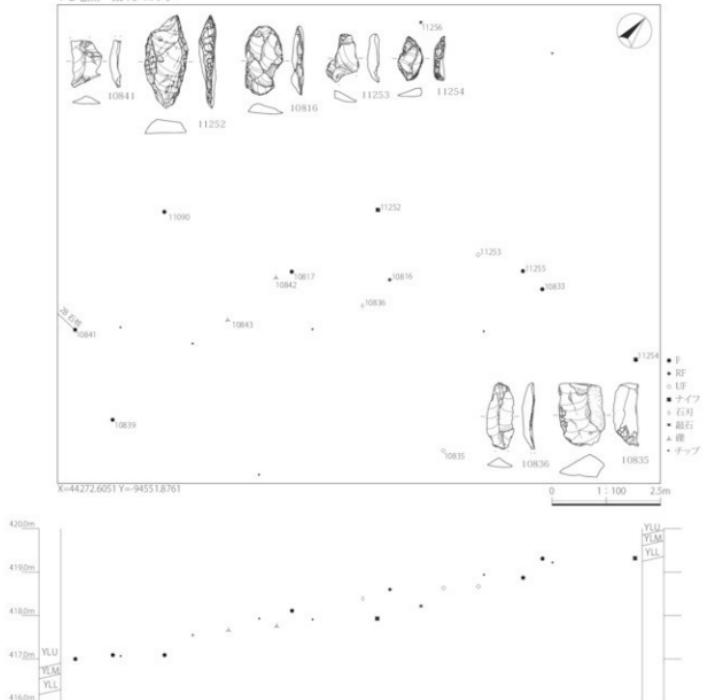
	縦群 縦群 縦群	天 然 石 縫 縫	和 田 山 群	和 田 山 群	御 前 山 群	合 計							
ナイフ形石器	6	3	1	1		1	1	3		2		18	
二次加工ある剝片	2		1		1			1			1	1	5
使用痕ある剝片					1					1	1		3
石刃		11			1		1	1		0		14	
石核		1										1	
敲石									2	2			
剝片	14	5				1	4	7	10		3	44	
碎片	67	13	6		4		186	2	9	1	2	290	
合計	89	33	8	1	7	1	191	11	24	1	8	2	377

第4章 1-2地点

第9表 1-2 地点第1ブロック 石材器種組成表

	葛根鹿(群)	天城鹿(群)	和田鹿(群)	鹿(群)	蓼科鹿(群)	奥牧鹿(群)	ホルンフェルス	黒色山岩	合計
ナイフ石器	1		1						2
二次加工ある鉄片	1			1					2
使用ある鉄片				1					1
石刃		1		1					2
剣片	2				1		1	1	5
鉄片	4			1		1			6
合計	8	1	1	4	1	1	1	1	18

1-2地点 第1ブロック

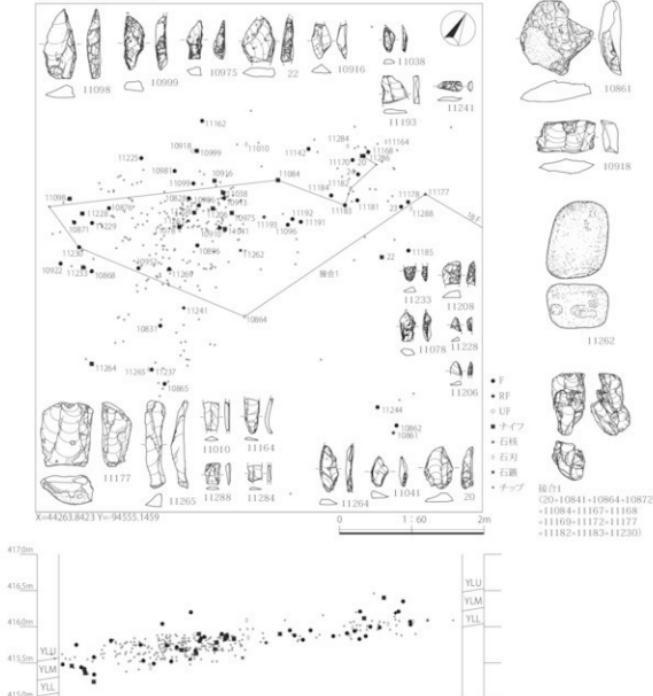


第24図 1-2地点 YL層準 第1ブロック遺物分布図

第10表 1-2地点第2ブロック 石材器種組成表

	箱根彌富層	天城相模層	和田塚山層	御前塚・白雲層	東岸壁不明	ホルンブッシュ層	栗色姿山層	青岩	桂化木	チャート	輝石姿山層	合計
ナイフ形石器	5	3			1	1	2			2		14
二次加工ある剝片	1		1				1					3
使用痕ある剝片								1				2
石刃	10					1	1			1		12
石核	1											1
敲石											2	2
剝片	10	5			4	6	7			3		35
碎片	61	13	6	3	184	2	4	1		2		276
合計	77	32	7	3	189	10	15	1	1	8	2	345

1-2地点 第2ブロック



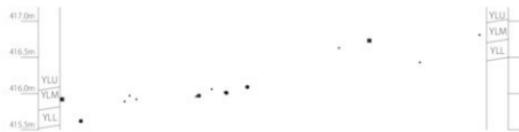
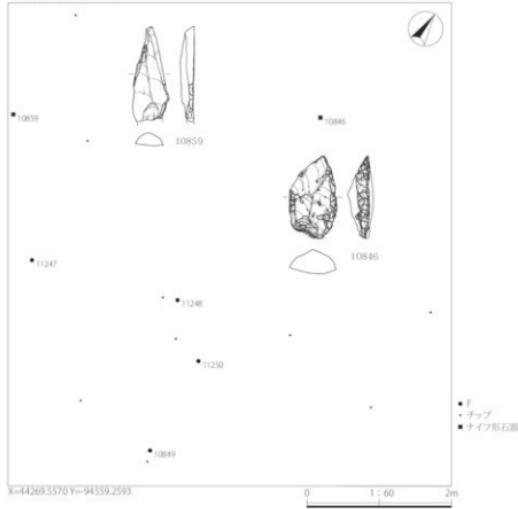
第25図 1-2地点 YL層準 第2ブロック遺物分布図

第4章 1-2地点

第11表 1-2地点第3ブロック 石材器種組成表

	新潟県 和田 岩手県 青森県 合計	新潟県 和田 岩手県 青森県 合計	新潟県 和田 岩手県 青森県 合計	
ナイフ形石器	1		1	2
剣片	2		2	4
鉈片	2		1	3
合計	4	1	1	14

1-2地点 第3ブロック



第26図 1-2地点 YL層準 第3ブロック遺物分布図

## (2) 碑群

碑群は2基確認された。碑群の分布状況は、前述したようにいずれも石器ブロックと重複しており、調査区南端部の傾斜面から緩傾斜面への地形変換点で確認されている。

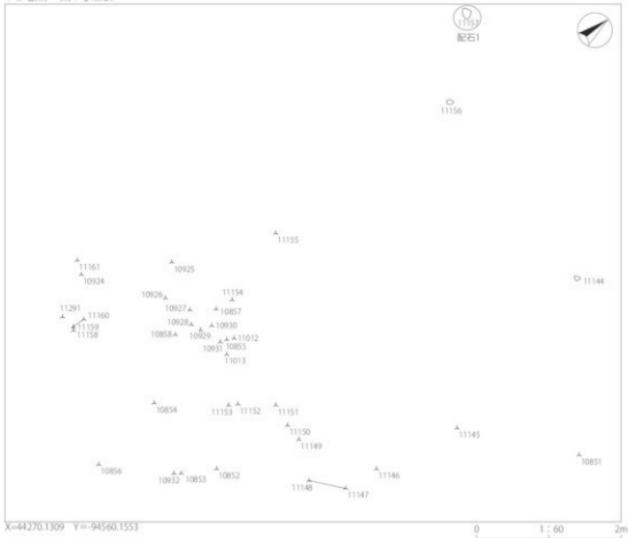
第1号碑群(第27図)

本碑群は、調査区南部のU・V-19・20グリッドで確認されている。第3ブロックとほぼ同位置で重複する。長軸7.41m、短軸5.86mである。碑の分布状況は分布範囲の中心から南半部に集中する。垂直分布は、標高415.63m

第12表 1-2地点碑群・配石組成表

	高 さ m	短 軸 m	碑 の 数	総 重 量 g	被 害 点 数	保 持 状 態 物
第1号碑群	7.41	5.86	37	9,281	17	10
第2号碑群	5.11	2.88	21	6,148	10	6
第1号配石			1	1,957		
第2号配石			1	941		

1-2地点 第1号碑群

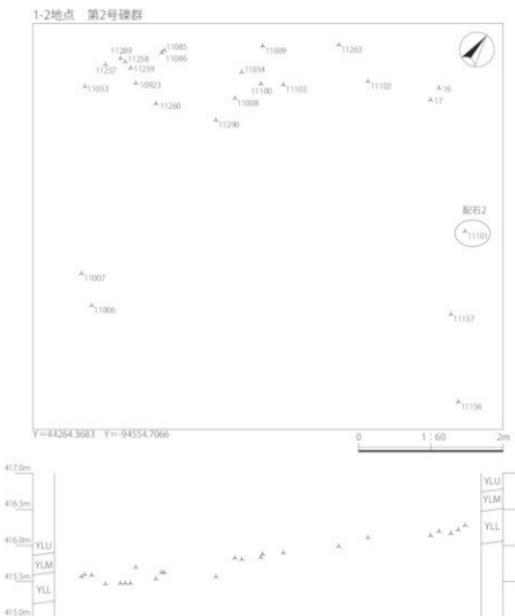


第27図 1-2地点 YL層準 第1号碑群・第1号配石遺物分布図

416.98m であり、比高差は 1.35m である。出土層位は YLM ~ YLL 層である。構成する礫は 37 点であり、総重量 9.281g を測る。このうちの 17 点に被熱の痕跡が認められ、また、10 点には煤状付着物が確認される。このうち、礫群内で 2 個体 5 点の接合関係が認められる。

#### 第2号礫群（第28図）

本礫群は、調査区南西部の U・V-11 グリッドで確認されている。第2ブロックと重複する。長軸 5.11m、短軸 2.88m である。礫の分布状況は分布範囲の中心から西側に集中する。垂直分布は標高 415.48 ~ 416.20m であり、比高差は 0.72m である。出土層位は YLM ~ YLL 層である。構成する礫は 21 点であり、総重量 6.148g を測る。10 点に被熱の痕跡が認められ、このうち 6 点には煤状付着物が確認される。また、礫群内で 1 個体 2 点の接合関係が認められる。



第28図 1-2地点 YL層準 第2号礫群・第2号配石遺物分布図

## (3) 配石

配石は2基確認された。配石はいずれも礫群、石器ブロックの外縁付近で確認されている。

## 第1号配石（第27図）

本配石は、調査区南部のU-19 グリッドで確認されている。第3ブロックの西側外縁付近、第1号礫群から西へ約1.2m離れて出土した。出土層位はYLL層下面、出土レベルは標高416.17mである。礫は重量1,957gの亜角礫である。

## 第2号配石（第28図）

本配石は、調査区南部のV-19 グリッドで確認されている。第2ブロックの北側外縁付近、第1号礫群から東へ約2m離れて出土している。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高416.29mである。礫は重量941gの亜角礫である。

## 2. 出土遺物

本調査地点で確認された石器は、3箇所のブロックの合計377点で構成される。前述したように、調査地点が傾斜面から緩傾斜面となる地形変換点にあり、第1ブロックでは散漫とした遺物の分布状況となり、第2・3ブロックでは比較的まとまった分布状況である。このような遺物の分布状況が地勢的な要因によって形成された可能性は否定できないが、ここでは出土した石器の器種毎の特徴を把握しながら石器群を見ていくたい。

## (1) 石器

本調査地点で確認された石器は、3箇所のブロックの合計377点で構成されている。これら石器類の器種の内訳は、ナイフ形石器18点、石核1点、石刃14点、二次加工ある剥片5点、使用痕ある剥片3点、剥片44点、敲石2点、碎片290点である。これらの器種組成から見ると、石器群の主体を占める器種がナイフ形石器である事に間違いなく、出土層位がYL層準内であり、多様な形態のナイフ形石器で構成されている事からみても、本地点で検出された石器群が所謂ナイフ形石器群の終末期である事が推定される。以下では、各器種の特徴を把握しながら、石器群の様相を捉えていきたい。

## ナイフ形石器（第29・30図）

本調査地点からは18点のナイフ形石器が出土している。台崎A遺跡全体で出土したナイフ形石器をみると、複数の形態が確認されている。ここでは第1群：二側縁加工のもの、第2群：一側縁加工のもの、第3群：欠損の形態不明のものの3群に分類し、それぞれの群の中で更に細別し、詳述していく。

## 第1群b類（第29図 10846、11098、11252、11264）

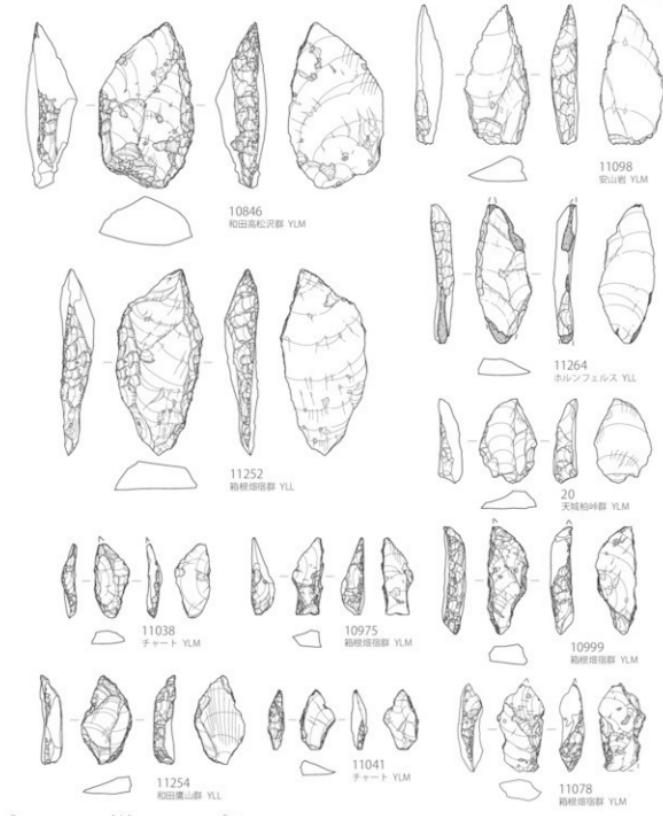
二側縁加工のナイフ形石器で大きさが3cm以上5cm以下の中型ものを本類とした。4点確認された。このうち11264は刃部先端の一部を欠損しており、復元値での分類となる事をはじめにお断りしておきたい。素材は全て縱長剥片であり、剥離面の構成から単設打面の石核より剥離されるもの（10846、11252、11264）、両設打面の石核より剥離されるもの（11098）がある。プランティング加工は、背面・主要剥離面の二方向からのもの（11264）、他は主要剥離面の一方からである。また、素材の方向は、打点部を刃

部方向へ用いるもの（11252）、他はすべて基部方向へ用いるものである。基部形状については、平坦もしくはやや弧状を呈するもの（10846、11098）、尖頭状を呈するもの（11252、11264）がある。

#### 第Ⅰ群c類（第29図 20、11038、10975、10999、11254、11041、11078）

二側縁加工のナイフの中で最大長が3cm以下のものを本類とした。（10999、11038、11078）は、刃部先端のごく一部を欠損しており、復元値での分類となる事をはじめにお断りしておきたい。平面形状は

ナイフ形石器①



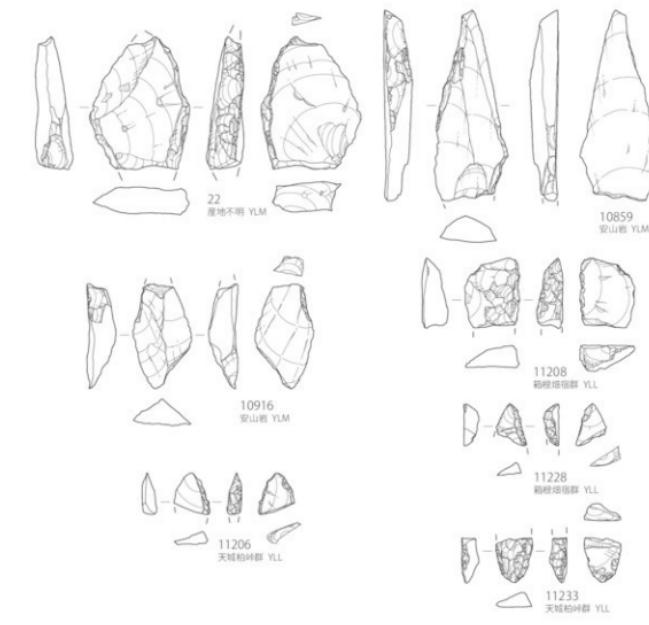
第29図 1-2地点 YL層準 出土遺物(1)

大部分が切出形石器の形状を呈する。素材は、小石刃を素材とするもの(20)、他は剥片を素材する。剥離面の構成から單設打面の石核より剥離されるもの(20、10999)、両設打面の石核より剥離されるもの(11254)、他は複数の方向が確認されるものがある。また、素材の方向は打点部を基部方向へ用いるもの(20、10975、11254)、他は全て側方へ用いるものである。基部形状については、平坦もしくはやや弧状を呈するもの(20、10975、11078)、他は尖頭状を呈する。プランティング加工は主要剥離面側からの一方向のもの(11038)、他は両方向から行われ、これは小型であるため、片手で素材の保持が出来ず、台石等を利用し、プランティング加工を施した結果と考えられる。

### 第III群 (第30図 22, 10859, 10916, 11206, 11208, 11228, 11233)

本群はナイフ形石器の欠損品を一括した。22, 10859, 10916は欠損部位の観察からI群b類の範疇に収まるナイフ形石器と推測される。他は刃部(11208、11206、11228)、基部(11233)と部分的な残存のため全体を窺い知る情報は少ないが、前述のI群b・c類の欠損品と推測される。

ナイフ形石器②



第30図 1-2 地点 YL 層準 出土遺物 (2)

敲石（第31図 11261、11262）

11261は、やや扁平な碟の周縁部に敲打痕が確認される。11262は拳大の円碟の上下端部に弱い敲打痕が確認される。

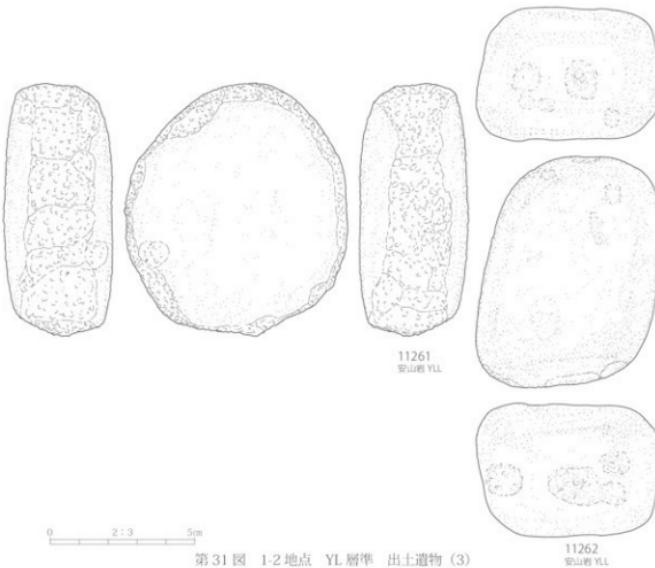
二次加工ある剥片（第32図 10816、10835、10861、11193、11241）

二次加工ある剥片は、5点確認されている。剥片の周縁や一部に二次加工を施すものである。これらは、当該期のいわゆる器種を作成するために二次加工が施されたものであるが、調整が明確ではないことから二次加工ある剥片として一括した。10816は主要剥離面方向から全周縁に二次加工が施される。10835は打点部を欠損しており、下端部に二次加工が施される。左側縁部には使用の際の微細剥離痕が認められる。11193は剥片の中央部から先端部を欠損する。左側縁部に連続した二次加工が観察される。11241は細かな二次加工が連続して観察される。10861は背面側には自然面を残す。剥片の下端に主要剥離面側から二次加工が施される。

使用痕ある剥片（第32図 10918、11164、11253）

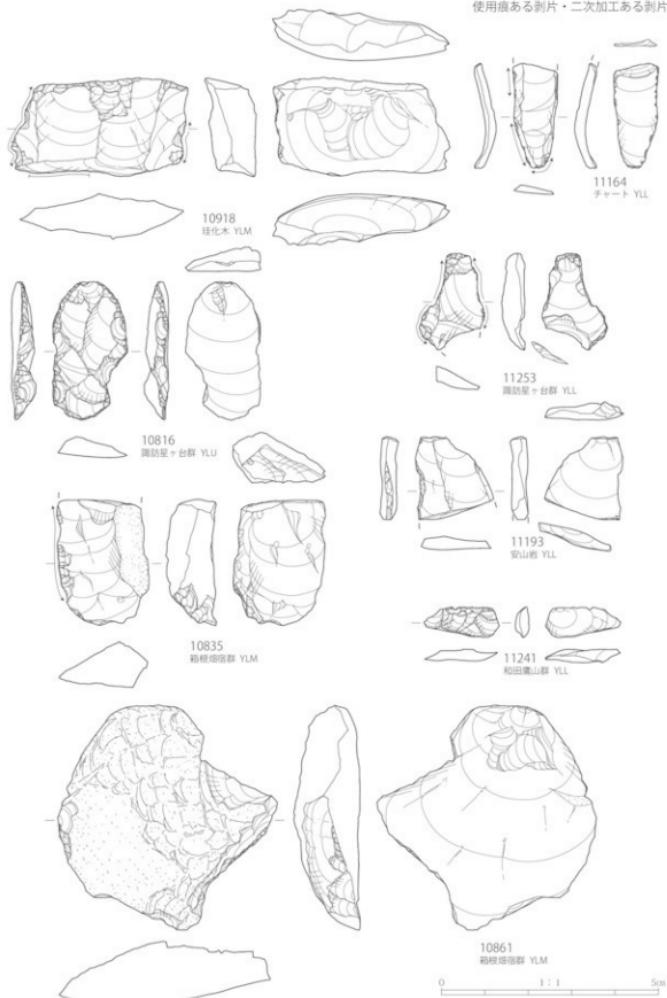
3点確認された。10918は、両側縁部、折れ面の一部に微細な剥離痕跡が確認される。折れ面は切断調整ではなく、一次剥離の際に同時に折れたものと考えられる。11164は、石刃の両側縁部に微細な剥離痕

敲石



第31図 1-2地点 YL層準 出土遺物（3）

使用痕ある剥片・二次加工ある剥片

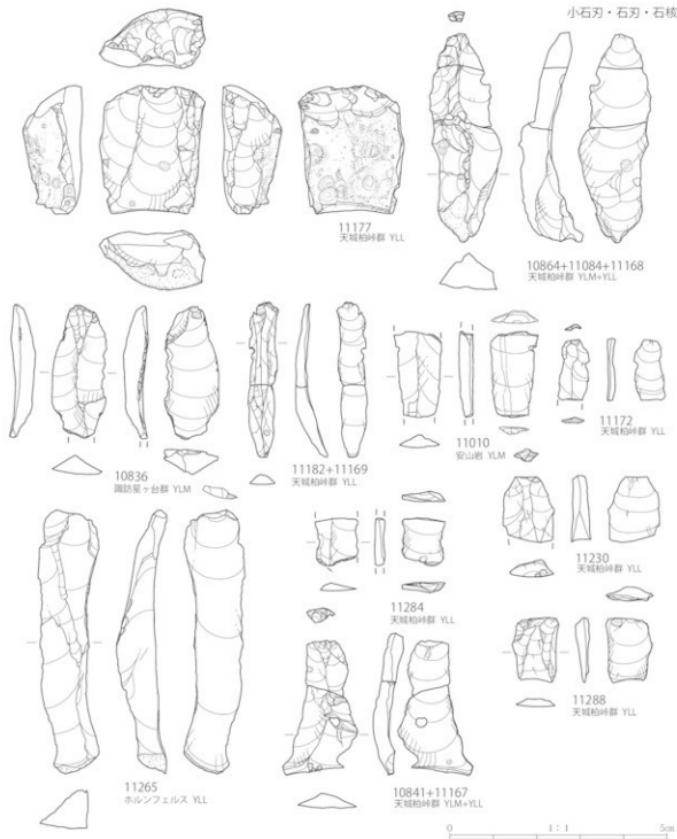


第32図 1-2地点 YL層準 出土遺物(4)

が確認される。11253は、両側縁部に微細剥離痕が確認される。主要剥離面先端部、左侧面、打点の観察から両極剥離技法を用いて剥離された可能性が高いものと考えられる。

**小石刃・石刃**（第33図 10836、11010、10864+11084+11168、11182+11169、11265、11284、11288、10841+11167、11172、11230）

10点確認されている。11265は棊上に90度の打面転移が確認されるが、他は全て上設打面からの一方



第33図 1-2地点 YL層準 出土遺物(5)

向に限定される。11010は両端部を欠損する。11265は平坦な剥離面を打面とし、稜上に一部微細な剥離痕が確認される。10864+11084+11168、10841+11167、11182+11169、11172、11230、11284、11288は天城柏崎群の黒曜石であり、同一母岩と考えられる。打面の確認できるものは、全てに細かな調整が施される。このうち4点が石核11177と接合する。詳細は接合資料の中で後述することとする。

#### 石核（第33図 11177）

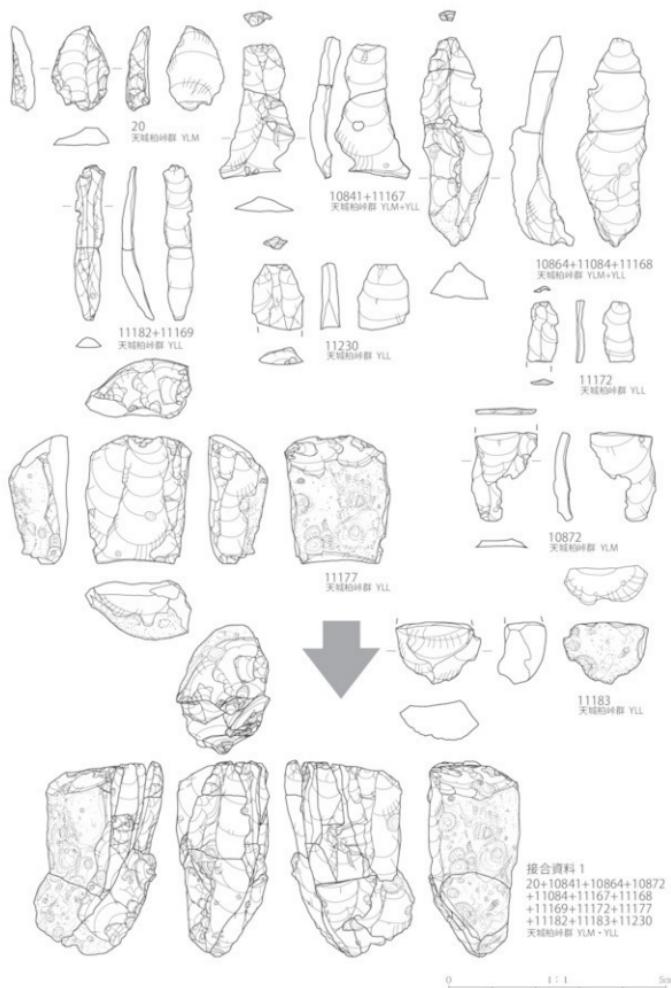
石核はa類：剥片剥離方向が一方向に限定されるもの、b類：90度の打面転移が行われているもので、複数ある剥片剥離作業面では交差する剥片剥離は行われてはいないもの、c類：90度の打面転移が頻繁に行われ、剥片剥離作業面に交差する剥離面が観察されるもの、d類：求心的な剥片剥離が行われているものの4類に大別される。本調査地点ではa類が1点出土している。打面は調整打面であり、剥片剥離作業面方向から調整され、裏面には自然面が大きく残る。石材は天城柏崎群の黒曜石であり、内部に間隣、球果が認められる。詳細は接合資料の中で後述することとする。

#### （2）接合資料

本調査地点で確認された接合資料は、1個体である。石核とナイフ形石器、小石刃5点、剥片2点が接合する。これは小石刃、小型ナイフ形石器を理解する上で非常に良好な接合資料と考えられる。以下に詳述する。

#### 接合資料No.1（第34図 20～11230）

第1ブロックより出土した剥片と第2ブロックより出土したナイフ形石器、石核、小石刃の接合資料である。石材は天城柏崎群の黒曜石であり、石核裏面、10864には自然面が確認され、原石は鶏卵程度であったと推測される。10864+11084+11168の稜上には細かな棱調整が確認される。打面は上設の単設打面であり、作業面方向からの細かな打面調整が施され、連續した小石刃が剥離される。剥離された小石刃は幅7～15mm程度であり、11182+11169や11172は一見細石刃と見間違うような形状である。また、20から11084+10864+11168の間が抜けており、これらは何らかのツールを製作し、遺跡から持ち出されたものと考えられる。



第34圖 1-2 地點 YL 層準 接合資料

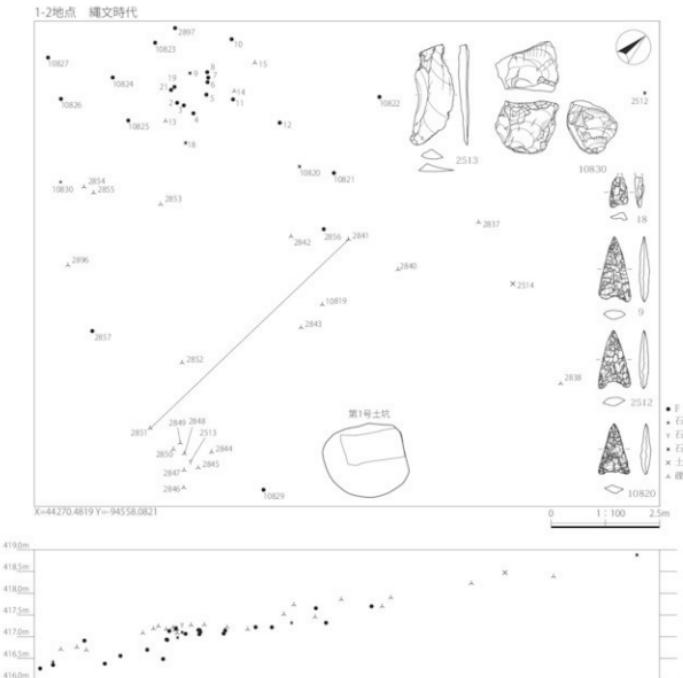
## 第2節 縄文時代の遺構・遺物

本地区のU-20 グリッドのYLU層上面で土坑1基を検出した。時期は不明であるが、他地点に於いて縄文時代の土坑が複数検出されており、それらと類似していることから縄文時代に帰属する可能性が高いものと考えられる。V-19・20、U-19・U-20 グリッドのZN層では散在的に29点の石器と土器片1点、24点の礫が出土した。

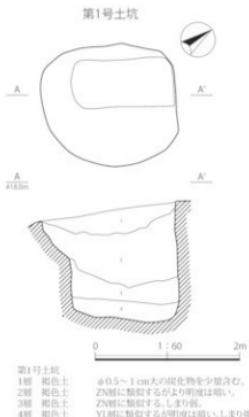
### 1. 検出された遺構

#### (1) 第1号土坑(第36図)

調査区南東部のU-20 グリッドで検出した。平面形は概ね円形を呈しており、規模は長軸1.83m、短軸1.61m、深さ1.68mである。断面形状は上部がやや開く漏斗形を呈し、底面は平坦である。逆茂木等は確認されなかった。覆土は4層に細分され、いずれも粘性、しまりのある褐色土である。



第35図 1-2 地点 縄文時代 全体図



第36図 1-2地点 第1号土坑

## 2. 出土遺物

### (1) 繩文土器 (第37図 2514)

深鉢形土器の胴部片である。2条の沈線と5条の刻目が確認される。

### (2) 石器

#### 石鎚 (第37図 9、18、2512、10820)

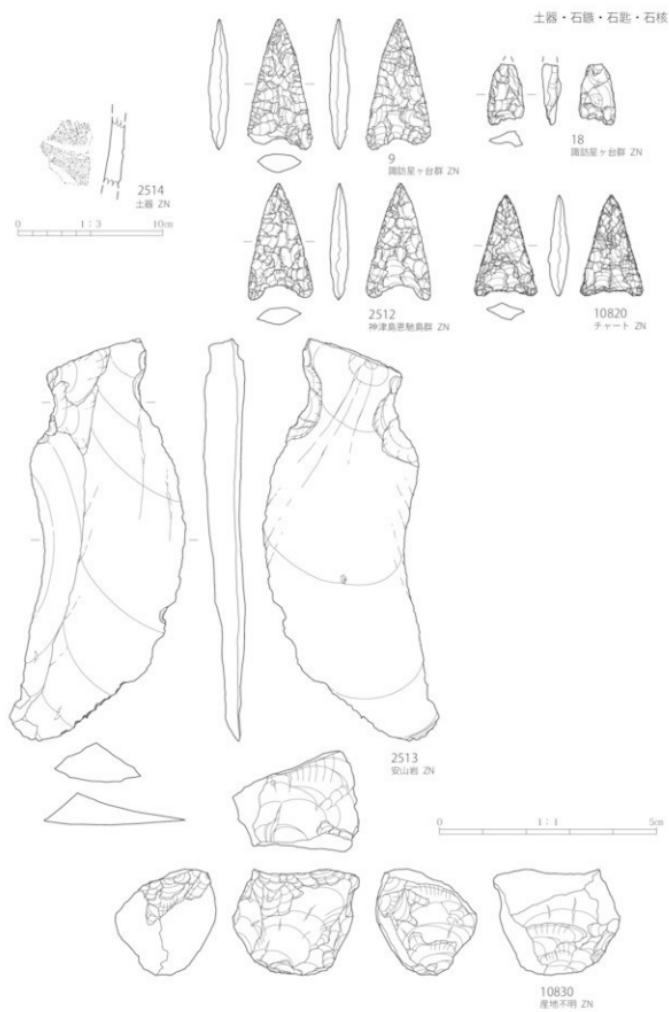
18は先端部を欠損する。全体の調整が粗く、主要剥離面側は基部付近のみに調整が確認される。製作中に欠損、廃棄された可能性が高い。9、2512、10820は二等辺三角形の形状を有する凹基無茎の石鎚であり、全周縁に細かな押圧剥離による調整が入る。

#### 石匙 (第37図 2513)

製作途中の未製品と考えられる。大型の縱長削片を素材とし、つまみ部の周辺にのみ二次加工が入る。

#### 石核 (第37図 10830)

小型の石核である。打面を転移させ、剥片剥離を行っている。正面に見られる剥離痕の観察では上下端部に細かな剥離が確認されるが、目的的な剥片剥離を生産したものとは考えにくい。剥離面のリングに反転等は確認されないが、両極剥離技法を用いて剥片剥離作業を行っていたものと考えられる。石材は灰色を呈し、被熱の痕跡が確認される。



第37図 1-2地点 繩文時代出土遺物

### 第3節 表面採取遺物

地元の方が40年以上前に本地点周辺の耕作地より表面採取した遺物であり、後期旧石器時代末から縄文時代にかけての希少な遺物と考えられるため、ここで掲載する。

#### 1. 表面採取遺物

##### (1) 石器

###### 尖頭器（第38図 14099～14104）

14099、14100、14103は、柳葉形の尖頭器である。14099は、先端部を一部欠損する。丁寧な調整が全周に施され、一次剥離面は確認されない。14100は、器体中央部を耕作の影響か折損している。裏面中央部には一次剥離面が確認され、縱長剥片が素材となっている。14103は、表裏面に古い剥離面を有しており、複設打面を持つ石核より剥離された剥片を素材とする。裏面左側縁部の調整には押圧剥離による痕跡が認められる。肉眼観察では和田群の黒曜石に類似する。14104は、有舌尖頭器であり、耕作の影響か先端部に新しい欠損が確認される。表裏面を平坦剥離により整形した後、周縁部に細かな調整を加え鋸歯状の周縁部を作出する。14101、14102は、木葉形の尖頭器である。14101は、器体中央部で欠損する。14102は、幅広の平坦剥離で器体を整形し、部分的に細かな調整が施される。部分的な調整の在り方や右側縁部に自然面を有すること、左右非対称であることから未製品の可能性も考えられる。

###### 石斧（第38図 14105）

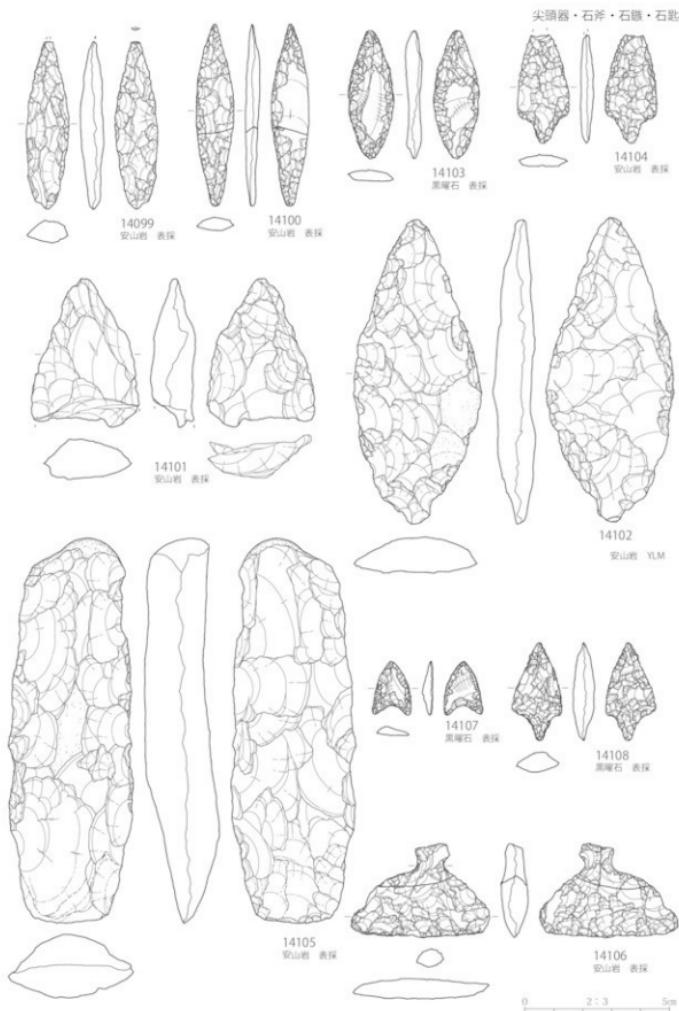
14105は、最大幅を器体中央部から刃部側に持ち、刃部側がやや狭い短冊形を呈する。裏面刃部付近には周縁部から細かな調整が施されており、刃部付近に弱い摩耗の痕跡が確認される。

###### 石鎌（第38図 14107、14108）

14107は、円基無茎の石鎌である。所謂ボジ・ボジ剥片を素材として押圧剥離で周縁を加工する。素材剥片に歪みが少ないため、周縁部のみ加工されたものと推測される。肉眼観察では和田群の黒曜石に類似する。14108は、凸基有茎の石鎌である。両面に押圧剥離による細かな調整が施される。肉眼観察では天城柏崎群の黒曜石に類似する。

###### 石匙（第38図 14106）

14106は、安山岩の石匙である。周縁から両面に平坦剥離が施され、刃部には細かな二次加工が確認される



第38図 1-2地点 表面採取遺物

第5章 1-4 地点

本地点は、1-3 地点と農道を挟んだ南側に位置する。標高は約 408.82 ~ 414.62m であり、調査地点は南へ傾斜する斜面地である。南半部は斜面が段り切れ平坦な耕作地になっており、南端部付近においては YL 層準の残存がほとんど認められない状況であった。このため、整理段階に於いて遺物出土層位の認証が確認された。これは調査区西部付近の BB I ~ NL 層出土の遺物を、上位の YLL ~ SC -I 層と認証し、遺物の取り上げを行ったものと推測された。また、一部 SC -III b1・b2 層での取り上げも確認された。これは BB III 層下部付近の遺物を SC -III b1・b2 層として取り上げたものと推測される。調査図面や写真、調査所見の精査、遺物の個体別分類、接合作業、遺物の垂直分布の検討等を行った結果、BB I 層下部～NL 層と NL ~ BB III 層に遺物を分離させることはできたが、各層ごとの地形測量も層位を認証した可能性が疑われるため、遺物の出土層位の再認定については、不確定要素が大きく不要な混亂をきたすため修正は行わず、遺物垂直分布図、遺物観察表の出土層位については調査時の記録を基に作成してあることを明記しておく。YL 層準の遺物は、YLU ~ BB I 層最上部までの間で 13箇所の石器ブロックに分類される 2,286 点の石器と単独の石器 20 点、5 基の礎群に分類される 128 点の礎と単独の礎 13 点が出土した。YL 層準調査後の下層調査では BB I 層下部～NL 層にかけて 5 箇所の石器ブロックからなる 407 点の石器と単独の石器 4 点、2 基の礎群に分類される 57 点の礎と単独礎 15 点、NL ~ BB III 層にかけて 7 箇所の石器ブロックに分類される 129 点の石器と単独の石器 4 点、3 箇所の礎群に分類される 18 点の礎と 20 基の配石、単独礎 16 点を確認している。繩文時代では、ZN 層上面で堅穴住居跡 1 軒、土坑 10 基、集石 1 基、単独で出土した土器片 4 点、礎 6 点を検出している。

## 第1節 YL層準出土の遺構・遺物

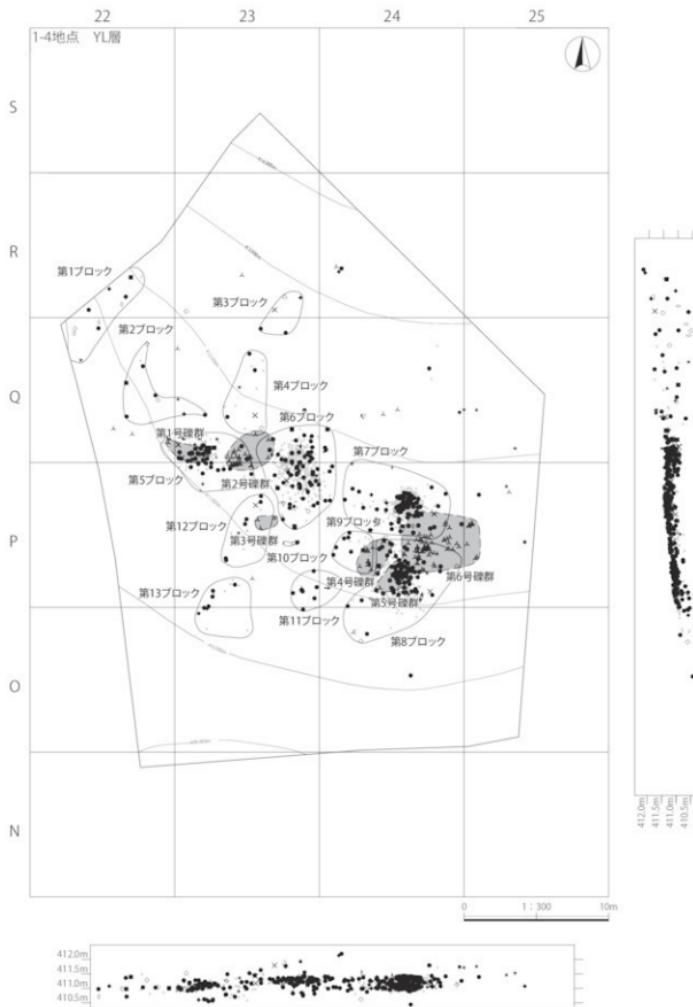
## 1. 検出された遺構

本地点のYLU～BB I層最上部にかけて、前述のように2,306点の石器が出土し、このうち2,286点が13箇所の石器ブロックとして確認された。これらの石器ブロックの外縁付近には簇群が構成されるという特徴的な検出状況が認められる。石器は、前述したようにYLU層からBB I層上部に跨って検出されており、これらの石器には複数の文化層が存在するものと考えられるが、個体別資料分類や接合資料からこれらを分

第13表 1-4 地点YL層準 石材器種組成表

	箱根強烈地震	天城強烈地震	奥羽山脈	黒岩不明	ホルンフェルス	黒岳巣岩	桂圓西面	桂圓東面	桂圓底灰岩	チャート	深部岩	合計	
火砲器	8		1			1						10	
ナイフ形石器	16	3	1	1	1	2	1					25	
石劍	1	1								1		3	
マッチ	1											1	
スクレイバー	3			1		1						6	
二世加川ある鉄片	14			1	1	1		1		1		19	
使用ある鉄片	10	1	3	1								15	
石刀	7		2	3	1							15	
剣	205	1	2	4	54	14	3			2		285	
鉄片	707	3		21	1,136	2	6	1	4	1	3	1,186	
石椎	17					2	2					21	
合計	989	6	10	33	1,194	22	15	3	4	1	3	5	1,226

第5章 1-4地点



第39図 1-4地点 YL層準 全体図

離しようと試みたが不可能であったため、今回はブロックごとに報告させていただく。

### (1) 石器ブロック

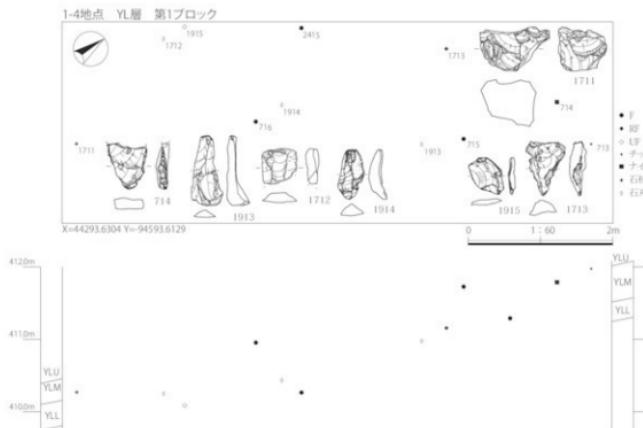
前述したように YLU～BB I 層最上部にかけて、2,306 点の石器が出土し、このうち 2,286 点が 13 個所の石器ブロックとして検出されており、これらの石器ブロックは標高 410～412m に集中する。また、第 5～9 ブロックではそれぞれのブロック間に疊群が検出されており、密接な関連が窺われる。以下に詳述する。

#### 第 1 ブロック（第 40 図）

本ブロックは、調査区北西部の Q・R 22 グリッドで確認されている。分布状況から調査区外の北側へのびる可能性が高い。石器分布範囲の規模は、長軸 7.11m、短軸 1.88m 以上である。垂直分布は、標高 410.08～411.97m、比高差は 1.89m である。出土層位は YLU～YLL 層であり、各層に平均的に分布する。

第 14 表 1-4 地点第 1 ブロック 石材器種組成表

	箱 相 應 羣	謹 防 羣	ホ ル フ ル ス	合 計
ナイフ形石器	1			1
二重加工ある剣片	1			1
使用痕ある剣片		1		1
石刃	1	1	1	3
剣片	2	1		3
碎片	1			1
石核	1			1
合計	7	3	1	11



第 40 図 1-4 地点 YL 層準 第 1 ブロック遺物分布図

出土した石器は、ナイフ形石器 1 点、石核 1 点、二次加工ある剥片 1 点、使用痕ある剥片 1 点、石刃 3 点、剥片 3 点、碎片 1 点の合計 11 点である。接合資料は無い。

#### 第2ブロック（第41図）

本ブロックは、調査区北西部の Q-22・23 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸 6.01m、短軸 5.23m である。垂直分布は、標高 410.43 ~ 411.56m、比高差は 1.13m である。出土層位は YLU ~ YLL 層であり、YLM 層に遺物の垂直分布が集中する。出土した石器は、ナイフ形石器 1 点、石核 1 点、二次加工ある剥片 1 点、使用痕ある剥片 2 点、剥片 4 点、碎片 2 点の合計 11 点である。接合資料は無い。

第15表 1-4 地点第2ブロック 石材器種組成表

	箱 相 當 量 群	東 側 面 上 部	合 計
ナイフ形石器		1	1
二次加工ある剥片	1		1
使用痕ある剥片	2		2
剥片	4		4
碎片	2		2
石核		1	1
合計	9	2	11



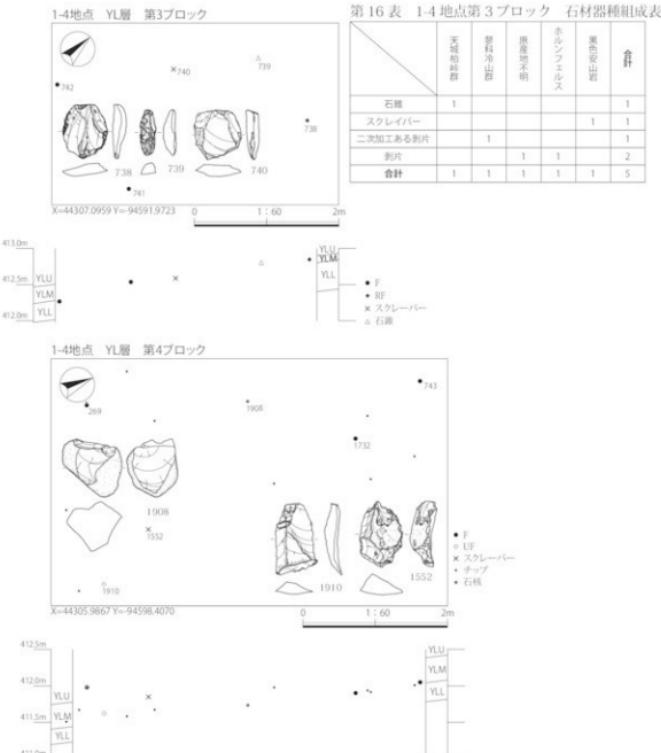
第41図 1-4 地点 YL 層準 第2ブロック遺物分布図

## 第3ブロック（第42図）

本ブロックは、調査区北部中央のQ・R-23 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸 3.54m、短軸 1.73m である。垂直分布は、標高 412.26 ~ 412.85m、比高差は 0.59m である。出土層位は YLM 層である。出土した石器は、ラウンドスクレイバー 1 点、二次加工ある剝片 1 点、石錐 1 点、剝片 2 点の合計 5 点である。接合資料は無い。

## 第4ブロック（第42図）

本ブロックは、調査区北部中央の Q-23 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸 5.29m、短軸 2.28m である。垂直分布は、標高 411.50 ~ 412.05m、比高差は 0.55m である。出土層位は YLU ~



第42図 1-4 地点 YL 層準 第3・4ブロック遺物分布図

## 第5章 1-4 地点

YLL層であり、YLM層に遺物の垂直分布が集中する。出土した石器は、石核1点、サイドスクレイパー1点、使用痕ある剥片1点、剥片3点、碎片9点の合計15点である。接合資料は無い。

### 第5ブロック（第43図）

本ブロックは、調査区中央部のQ22・23、P23グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸6.58m、短軸4.37mである。垂直分布は、標高410.72～411.56m、比高差は0.84mである。出土層位はYLU～BBⅠ層上部であり、YLM層、YLL層に遺物の垂直分布が集中する。本ブロックと第6ブロックの間に第2号礫群が位置している。出土した石器は、石核5点、ナイフ形石器5点、二次加工ある剥片3点、使用痕ある剥片4点、石刃2点、石錐1点、剥片37点、碎片149点の合計206点である。接合資料は3個体あり、接合資料3では本ブロックの石核、剥片1点が第6ブロックの石核、剥片2点が接合する。接合資料6は本ブロックの剥片が第6ブロックの剥片と接合する。接合資料60は本ブロック内で剥片2点が接合する。

### 第6ブロック（第43図）

本ブロックは、調査区中央部のP・Q23・24グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸6.86m、短軸5.14mである。垂直分布は、標高411.08～411.86m、比高差は0.78mである。出土層位はYLU～BBⅠ層の最上部であり、YLM層に遺物の垂直分布が集中する。また、本ブロックと第5ブロックの間に第2号礫群が位置している。出土した石器は、石核7点、ナイフ形石器7点、エンドスクレイパー1点、二次加工ある剥片3点、使用痕ある剥片2点、石刃1点、剥片57点、碎片408点の合計486点である。接合資料は5個体あり、接合資料3では本ブロックの石核、剥片2点が第5ブロックの石核、剥片1点が接合する。接合資料6は本ブロックの剥片1点が第6ブロックの剥片1点と接合する。接合資料10は、本ブロックの剥片と二次加工ある剥片が接合する。接合資料55は本ブロックの剥片2点が接合する。接合資料61は本ブロック内で石核とエンドスクレイパー1点、剥片1点が接合する。

第17表 1-4地点第4ブロック 石材器種組成表

	頭骨頭骨	頭骨頭骨	頭骨頭骨	合計
スクレイパー	1			1
使用痕ある剥片	1			1
剥片	3			3
碎片	8	1	9	
石核		1	1	
<b>合計</b>	<b>13</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>15</b>

第18表 1-4地点第5ブロック 石材器種組成表

	頭骨頭骨	頭骨頭骨	ホルンブックス	頭骨頭骨	頭骨頭骨	チャート	合計
ナイフ形石器	4				1		5
石錐	1						1
二次加工ある剥片	3						3
使用痕ある剥片	4						4
石刃	1	1					2
剥片	24	7	5			1	37
碎片	68	78	2		1		149
石核	5						5
<b>合計</b>	<b>110</b>	<b>86</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>206</b>

第19表 1-4地点第6ブロック 石材器種組成表

	頭骨頭骨	天井板	頭骨頭骨	頭骨頭骨	ホルンブックス	頭骨頭骨	チャート	合計
ナイフ形石器	2		3	1	1			7
スクレイパー					1			1
二次加工ある剥片					1	1	1	3
使用痕ある剥片	1		1					2
石刃				1				1
剥片	41			11	4		1	57
碎片	154	3		250	1			408
石核	5				2			7
<b>合計</b>	<b>203</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	<b>262</b>	<b>10</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>486</b>

第5章 1-4地点



第43図 1-4地点 YL層準 第5・6ブロック遺物分布図

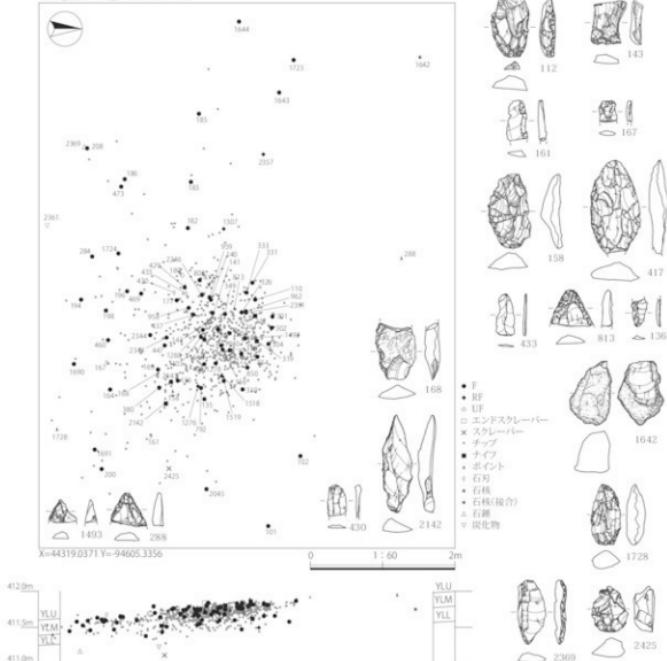
## 第7ブロック（第44図）

本ブロックは、調査区東部のP-24 グリッドで確認されている。本地点最大の石器ブロックであり、本ブロックと第8ブロックの間に第5号縄群が位置している。石器分布範囲の規模は、長軸 7.19m、短軸 4.81m である。垂直分布は、標高 411.11m ~ 411.94m、比高差は 0.83m である。出土層位は YLU 層 ~ BB1 層上部であり、YLM 層に遺物の垂直分布が集中する。出土した石器は、石核 1 点、ナイフ形石器 3 点、エンドスクレイバー 2 点、尖頭器 6 点、

第20表 1-4地点第7ブロック 石材器種組成表

	圓錐形 刮削器	葉状刮削器	圓錐形 石器	ホルタラクルス	黑色安山岩	チャート	合計
尖頭器	4	1		1		6	
ナイフ形石器	2			1		3	
石核					1	1	
スクレイバー	1	1				2	
二次加工ある削片	2					2	
使用痕ある削片	1	1				2	
石刃	2	3				5	
削片	53	4	9	1	1	68	
碎片	230	16	498	1	1	746	
石核	1					1	
合計	296	26	507	2	4	1	836

1-4地点 YL層 第7ブロック

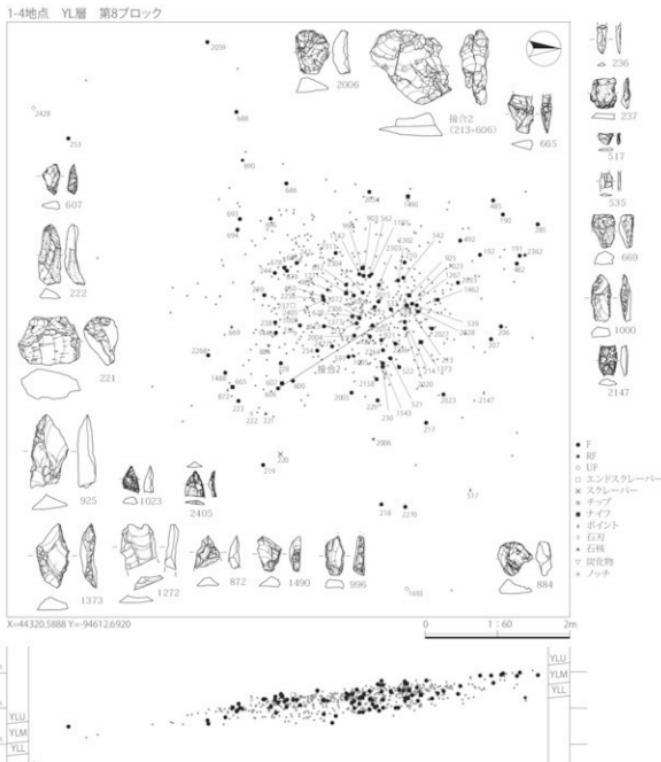


第44図 1-4地点 YL層準 第7ブロック遺物分布図

石錐 1 点、二次加工ある剥片 2 点、使用痕ある剥片 2 点、石刃 5 点、剥片 68 点、碎片 746 点の合計 836 点である。接合資料は無い。

#### 第8 ブロック（第45図）

本ブロックは、調査区南東部の O・P-24 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸 8.04m、短軸 5.26m である。垂直分布は、標高 410.24 ~ 411.53m、比高差は 1.29m である。出土層位は YLU ~ BB I 層上部であり、YLU ~ YLM 層に遺物の垂直分布が集中する。また、本ブロックと第7ブロックの間に第5号縄群が、第9ブロックとの間に第4号縄群が位置している。出土した石器は、石核 4 点、ナイフ形石器 8 点、エンドスクレイバー 1 点、尖頭器 4 点、ノッチ 1 点、二次加工ある剥片 5 点、使用痕ある剥片 2 点、



第45図 1-4地点 YL層 第8ブロック遺物分布図

第21表 1-4地点第8ブロック 石材器種組成表

	縦相應面群	天端相應面群	豎斜面群	裏面無不規	ホルダーフラスル	裏の密止差	柱頭面群	直面	斜面	チャート	合計	
尖頭器	4										4	
ナイフ形石器	7	1									8	
ノッチ	1										1	
スクレイパー	1										1	
二次加工ある剝片	4		1								5	
使用痕ある剝片	1	1									2	
石刃	3		1								4	
剝片	57	1	22	3							83	
碎片	227	5	300		3	1	2	1	3	1	543	
石核	4										4	
合計	309	2	6	324	3	3	1	2	1	3	1	655

石刃4点、剝片83点、碎片543点の合計655点である。接合資料は1個体あり、接合資料2は本ブロックの剝片2点が接合する。

#### 第9ブロック（第46図）

本ブロックは、調査区中央部のP-24 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸2.82m、短軸2.63mである。垂直分布は、標高410.98～411.51m、比高差は0.53mである。出土層位はYLU、YLL層であり、YLL層に遺物の垂直分布が集中する。また、本ブロックと第8ブロックの間に第4号礫群が位置している。出土した石器は、二次加工ある剝片1点、剝片7点、碎片9点の合計17点である。接合資料は無い。

#### 第10ブロック（第46図）

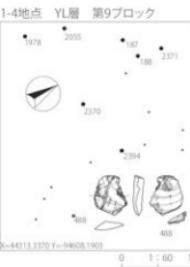
本ブロックは、調査区中央部のP-23 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸0.98m、短軸0.13mである。垂直分布は、標高410.83～411.27m、比高差は0.44mである。出土層位はYLM、YLL層であり、YLL層に遺物の垂直分布が集中する。また、本ブロックと第12ブロックの間に第3号礫群が位置している。出土した石器は、剝片1点、碎片3点の合計4点である。接合資料は無い。

#### 第11ブロック（第46図）

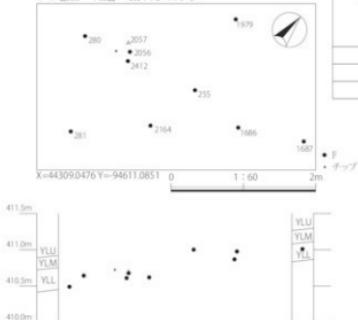
本ブロックは、調査区南部のO・P-23、P-24 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸3.39m、短軸1.88mである。垂直分布は、標高410.49～411.01m、比高差は0.52mである。出土層位はYLU～YLL層上部であり、YLL層に遺物の垂直分布が集中する。出土した石器は、剝片9点、碎片1点の合計10点である。また、ブロック内で単独礫1点が出土している。接合資料は無い。

#### 第12ブロック（第47図）

本ブロックは、調査区中央部のP-23 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸4.99m、短軸1.50mである。垂直分布は、標高410.49～411.63m、比高差は1.14mである。出土層位はYLU～BB I層上部であり、YLL層に遺物の垂直分布が集中する。また、本ブロックとほぼ同位置に第3号礫群が位置している。出土した石器は、石核1点、二次加工ある剝片1点、剝片6点、碎片8点の合計16点である。接合資料は無い。



1-4地点 YL層 第11ブロック

411.5m  
411.0m  
YLU  
YLM  
410.5m  
YLL  
410.0m

第22表 1-4 地点第9ブロック 石材器種組成表

	縦相面剥離部	横産剥離部	裏の剥離部	合計
二次加工ある剥片	1			1
剥片	5	1	1	7
碎片	7	2		9
合計	13	3	1	17

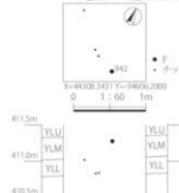
第23表 1-4 地点第10ブロック 石材器種組成表

	縦相面剥離部	横産剥離部	裏の剥離部	合計
剥片		1	1	2
碎片	2	1		3
合計	2	2	1	4

第24表 1-4 地点第11ブロック 石材器種組成表

	縦相面剥離部	横産剥離部	裏の剥離部	合計
剥片		8	1	9
碎片	1		1	2
合計	8	2	1	10

1-4地点 YL層 第10ブロック

411.5m  
411.0m  
YLU  
YLM  
410.5m  
YLL  
410.0m

第46図 1-4 地点 YL層準 第9～11 ブロック遺物分布図

### 第13ブロック（第47図）

本ブロックは、調査区南部のO・P23 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸 3.78m、短軸 3.36m である。垂直分布は、標高 410.11 ~ 410.56m、比高差は 0.45m である。出土層位は YLL、BB I 層上部である。出土した石器は、二次加工ある剥片 1 点、使用痕ある剥片 1 点、剥片 5 点、碎片 7 点の合計 14 点である。接合資料は無い。

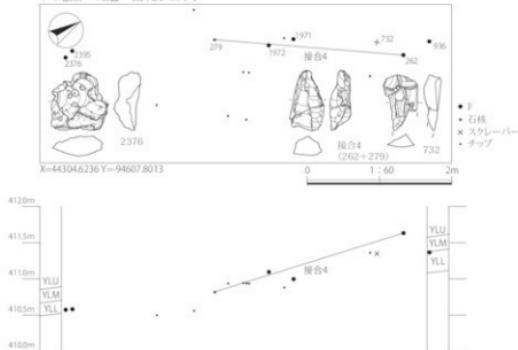
#### (2) 碓群

本調査地点において碓群は 6 基確認された。検出された碓群の分布状況は、調査区中央部付近に集中しており、標高 411 ~ 412m の等高線間に平行するように分布する。第5ブロックと同位置で重複する 1 号

第25表 1-4地点第12ブロック 石材器種組成表

	精細選別標	粗略選別標	複合選別標	合計
二次加工ある剣片	1			1
剣片	4	1	1	6
鉋片	4		3	8
石核	1			1
合計	10	1	4	16

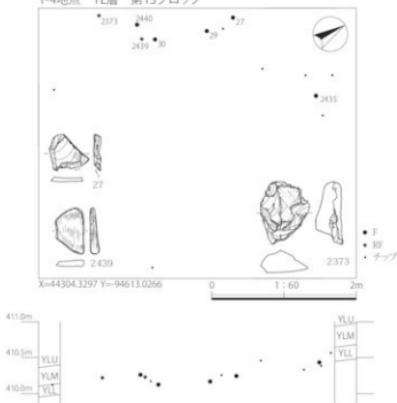
1-4地点 YL層 第12ブロック



第26表 1-4地点第13ブロック 石材器種組成表

	精細選別標	粗略選別標	複合選別標	合計
二次加工ある剣片	1			1
使用痕ある剣片		1		1
剣片	4		1	5
鉋片	4		3	7
合計	9	1	3	14

1-4地点 YL層 第13ブロック



第47図 1-4地点 YL層 第12・13ブロック遺物分布図

礫群を除き、他の4基は、石器ブロックの中間に位置している。

#### 第1号礫群（第48図）

本礫群は、調査区西部のQ-22・23グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第5ブロックと重複する。礫群の規模は長軸2.62m、短軸0.78m、礫の分布状況は、第5ブロックの遺物集中部とほぼ同位置に礫が集中する。垂直分布は標高411.10～411.20mであり、比高差は0.1mである。出土層位はYLM層である。構成する礫は4点であり、総重量429gを測る。このうちの2点に被熱の痕跡が認められた。2点には煤状付着物も確認される。

#### 第2号礫群（第48図）

本礫群は、調査区中央部のP・Q-23グリッドで確認されている。礫群の規模は長軸2.51m、短軸1.79m、礫の分布状況は、第5ブロックと第6ブロックの間に礫が集中する。垂直分布は標高411.06～411.32mであり、比高差は0.26mである。出土層位はYLL層である。構成する礫は26点であり、総重量5.517gを測る。このうちの15点に被熱の痕跡が認められ、このうち3点には煤状付着物が確認される。礫群内で4個体10点の接合関係が認められる。

#### 第3号礫群（第49図）

本礫群は、調査区中央部のP-23グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第12ブロックと重複する。3点ではあるが、被熱の痕跡やブロックとの重複などから礫群と認定した。礫群の規模は長軸1.15m、短軸0.61m、礫の分布状況は、第6ブロック、第12ブロックの遺物集中部の間に礫が集中する。垂直分布は標高411.09～411.17mであり、比高差は0.08mである。出土層位はYLM層である。構成する礫は3点であり、総重量359gを測る。このうち2点に被熱の痕跡が認められた。

#### 第4号礫群（第49図）

本礫群は、調査区中央部東側のP-24グリッドで確認されている。礫群の規模は長軸2.23m、短軸1.38m、礫の分布状況は、第8ブロック、第9ブロックの遺物集中部との間に礫が集中する。垂直分布は標高410.98～411.24mであり、比高差は0.26mである。出土層位はYLU層である。構成する礫は6点であり、総重量1.503gを測る。このうちの3点に被熱の痕跡が認められた。

#### 第5号礫群（第49図）

本礫群は、調査区東部のP-24グリッドで確認されている。礫群の規模は長軸1.41m、短軸0.23m、礫の分布状況は、第8ブロック、第9ブロックの遺物集中部との間に礫が集中する。垂直分布は標高410.94～411.12mであり、比高差は0.18mである。出土層位はYLL層である。構成する礫は5点であり、総重量998gを測る。このうちの4点に被熱の痕跡が認められた。また、被熱した4点のうち3点には煤状付着物も確認され、これら3点の接合関係が認められる。

## 第6号礫群（第49図）

本礫群は、調査区東部のP-24・25グリッドで確認されている。本標準では最大の礫群である。礫群の規模は長軸4.79m、短軸3.60m、礫の分布状況は、第7ブロック、第8ブロックの遺物集中部との間に礫が集中する。垂直分布は標高411.07～411.55mであり、比高差は0.48mである。出土層位はYLL層である。構成する礫は64点であり、総重量14.259gを測る。このうちの41点に被熱の痕跡が認められた。また、被熱した41点のうち16点に煤状付着物が確認される。

## (3) 配石

本調査地点において、配石は11基確認された。配石は礫群の外縁付近で重複するものと、礫群の中心付近で重複するものがあり、大部分の配石には被熱の痕跡や煤状の付着物が確認され、礫群との密接な関連が窺われる。

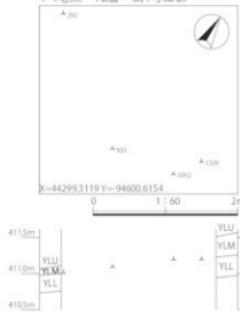
## 第1号配石（第48図）

本配石は、調査区中央部のQ-23グリッドで確認されている。第2号礫群の中心から北へ約2.3m離れて出土し、第2号礫群の礫片2点と接合する。検出された層位はYLL層、垂直分布は標高411.07～411.28m、比高差は0.21mである。重量1.293gの亜角礫であり、被熱した痕跡が確認され、礫全面に煤状付着物も確認される。

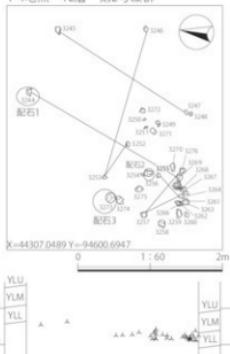
第27表 1-4地点礫群・配石組成表

	面積 m <sup>2</sup>	距離 m	個数	総面積 g	被 熱 点 数	保 持 行 物
第1号礫群	2.62	0.78	4	429	2	2
第2号礫群	2.51	1.79	26	5,537	15	3
第3号礫群	1.15	0.61	3	359	2	
第4号礫群	2.23	1.38	6	1,503	3	
第5号礫群	1.41	0.23	5	998	4	3
第6号礫群	4.79	3.60	64	14,259	41	16
第1号配石			1	1,293	1	1
第2号配石			1	1,260	1	1
第3号配石			1	1,718	1	
第4号配石			1	1,578	1	
第5号配石			1	1,171	1	1
第6号配石			1	2,422		
第7号配石			1	1,258	1	1
第8号配石			1	1,111	1	1
第9号配石			1	1,023	1	1
第10号配石			1	939	1	1
第11号配石			1	1,674	1	

## 1-4地点 YL層 第1号礫群

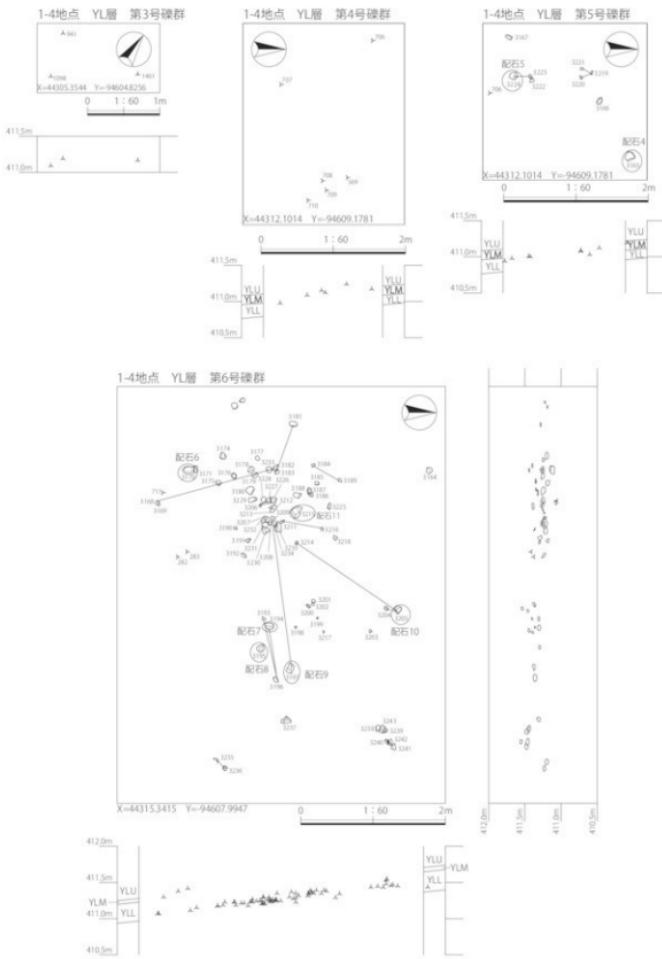


## 1-4地点 YL層 第2号礫群



第48図 1-4地点 YL層 第1・2号礫群、第1～3号配石遺物分布図

第5章 1-4地点



第49図 1-4地点 YL層準 第3～6号砾群、第4～11号配石遺物分布図

#### 第2号配石（第48図）

本配石は、調査区中央部のQ-23 グリッドで確認されている。第2号礫群の中央部で出土し、周囲の礫片3点と接合する。検出された層位はYLL層であり、垂直分布は標高411.09～411.1m、比高差は0.01mである。重量1,260gの亜角礫であり、被熱した痕跡が確認され、煤状付着物も確認される。

#### 第3号配石（第48図）

本配石は、調査区中央部のQ-23 グリッドで確認されている。第1号礫群の外縁北側付近で出土した。検出された層位はYLL層であり、出土レベルは標高411.13mである。礫は重量1,718gの亜角礫であり、被熱した痕跡が確認される。

#### 第4号配石（第49図）

本配石は、調査区東部のP-24 グリッドで確認されている。第5号礫群から北へ約0.8m離れて出土した。検出された層位はYLL層上面、出土レベルは標高411.19mである。礫は重量1,578gの亜角礫であり、被熱した痕跡が確認される。

#### 第5号配石（第49図）

本配石は、調査区東部のP-24 グリッドで確認されている。第4号礫群と第5号礫群の中間で出土し、周囲の礫片2点と接合する。検出された層位はYLL層であり、出土レベルは標高410.98～411.01m、比高差は0.03mである。礫は重量1,171gの亜角礫であり、被熱した痕跡が確認され、煤状付着物も確認される。

#### 第6号配石（第49図）

本配石は、調査区東部のP-24 グリッドで確認されている。第6号礫群の外縁南側付近で出土した。検出された層位はYLL層であり、出土レベルは標高411.12mである。礫は重量2,422gの亜角礫であり、被熱した痕跡は確認されないが、全周に割れが確認される。

#### 第7号配石（第49図）

本配石は、調査区東部のP-24 グリッドで確認されている。第6号礫群の外縁東側付近出土し、周囲の礫片2点と接合する。検出された層位はYLL層である。出土レベルは標高411.30～411.35m、比高差は0.05mである。礫は重量1,258gの亜角礫であり、被熱した痕跡が確認され、全周に煤状付着物が確認される。

#### 第8号配石（第49図）

本配石は、調査区東部のP-24 グリッドで確認されている。第6号礫群の外縁東側付近、第7号配石の約0.4m東側で出土した。検出された層位はYLL層である。出土レベルは標高411.29mである。礫は重量1,111gの亜角礫であり、被熱した痕跡が確認され、煤状付着物も確認される。

#### 第9号配石（第49図）

本配石は、調査区東部のP-24 グリッドで確認されている。第6号礫群の外縁東側付近、第8号配石の約0.4m北側で出土した。検出された層位はYLL層である。出土レベルは標高411.37mである。礫は重量1,023gの亜角礫であり、被熱した痕跡が確認され、全周に煤状付着物が確認される。

**第10号配石（第49図）**

本配石は、調査区東部のP-24 グリッドで確認されている。第6号礫群の外縁北側付近で出土し、周囲の礫片1点、第6号礫群の中央部の礫片1点と接合する。検出された層位はYLL層であり、出土レベルは標高411.29m～411.53m、比高差は0.24mである。礫は重量939gの亜角礫であり、被熱した痕跡が確認され、全周に煤状付着物が確認される。

**第11号配石（第49図）**

本配石は、調査区東部のP-24 グリッドで確認されている。第6号礫群の中央部で出土した。検出された層位はYLL層であり、出土レベルは標高411.23mである。礫は重量1,674gの亜角礫であり、被熱した痕跡が確認される。

**2. 出土遺物**

本調査地点のYLU層からBBⅠ層で確認された石器は、第1ブロックから第13ブロックで出土した2,286点と散在的に確認された20点の計2,306点で構成される。本来であれば、この中から複数の文化層を抽出し、文化層ごとに記載していくことが最も望ましいと考えられるが、小石刃、尖頭器、ナイフ形石器の出土層位がYLU～YLL層に拡散し、同一ブロック内で重複する出土状況であった。これらの石器を分離し、それぞれの文化層を抽出する事は不可能であるため、ここでは出土した石器を器種毎に記載していく。

**(1) 石器**

前述の通り、本調査地点で確認された石器は、第1ブロックから第13ブロックの2,286点、散在的に出土した20点の計2,306点で構成されている。これらの器種の内訳は、尖頭器10点、ナイフ形石器25点、石核21点、石刃15点、二次加工ある剥片19点、スクレイバー6点、石錐3点、ノッチ1点、使用痕ある剥片15点、剥片285点、碎片1,886点である。以下では、各器種の特徴を把握しながら、石器群の様相を捉えていきたい。

**ナイフ形石器**

本地点からは25点のナイフ形石器が出土している。ここでは第I群：二側縁加工のもの、第II群：一側縁加工のもの、第III群：欠損の形態不明のもの3群に分類し、それぞれの群の中で更に細別し、詳述していく。

**第I群a類（第50図 2142）**

二側縁加工のナイフ形石器で大きさが5cm以上の大型ものを本類とした。2142は単設打面の石核から剥離された縱長剥片を素材としており、打点部を刃部方向へ用いる。打点部はプランティングが施され大きく整形し除去される。右側縁部は基部付近に一部プランティングが施される。プランティングは主に主要剥離面方向から施され、刃部先端付近で一部背面側から施される。

**第I群b類（第50図 78、2166）**

二側縁加工のナイフ形石器で大きさが3cm以上5cm以下の中型ものを本類とした。2点出土している。78は両設打面の石核から剥離された縱長剥片を素材としており、刃部を除く両側縁部に主要剥離面側からプラン

ンティングが施され、尖頭状の基部が作出される。刃部先端には調査時の傷が確認される。2166は、縦長剥片を素材とし、打点部を主要剥離面側の一方向からプランディングによって大きく整形し、急角度を呈する。刃部の主要剥離面側には使用の際に生じた微細剥離痕が確認される。

#### 第I群c類 (第50図 607、925、1000、1089、1328、1373、1480、1490、2167、2202)

二側縁加工のナイフ形石器で大きさが3cm以下の小型ものを本類とした。12点出土している。112は基部、1328は刃部の一部を欠損しており、復元値での分類となる事をはじめにお断りしておきたい。平面形状は大部分が切出形石器の形状を呈する。すべて剥片を素材としたものであり、背面構成から單設打面の石核より剥離されたもの(607、925、1480、1490)、他は全て複設打面の石核より剥離されたものである。また、素材の方向は打点部を刃部方向へ用いるもの(1000、1373、2167)、基部方向へ用いるもの(925、1089、1330、1328、1480、1490、2202)、横位に用いるもの(112、607)がある。基部形状が緩やかな弧状ないし平基を呈するもの(112、925、1000、1330、1490)、尖頭状を呈するもの(607、1328、1480、2167、2202)がある。

#### 第III群 (第51図 517、665、717、714、718、996、1886、1893、1841、1493)

本群はナイフ形石器の欠損品を一括した。1493はナイフ形石器の刃部先端である。他は中央部~基部である。全体を窺い知る資料は少ないが、小型のナイフ群が主体を占めているものと推測される。ただし、714のように復元長が5cm程度になると推定されるものも存在する。これらの中には素材として石刃や縦長剥片を用いるもの(717、718、1893)、横長剥片を素材とするもの(517、665、714、996、1493、1886)がある。

#### 尖頭器

本地点からは11点の尖頭器が出土している。ここでは、a類:両面加工のもの、b類:片面加工のもの、c類:周縁加工のもの、d類:半両面加工のものの4類に分類し、詳述していく。ただし、分類したものの中には欠損したものが含まれており、全容を窺い知る資料ではなく不完全な分類である事をお断りしておきたい。

##### a類: (第52図 158、1023、1728)

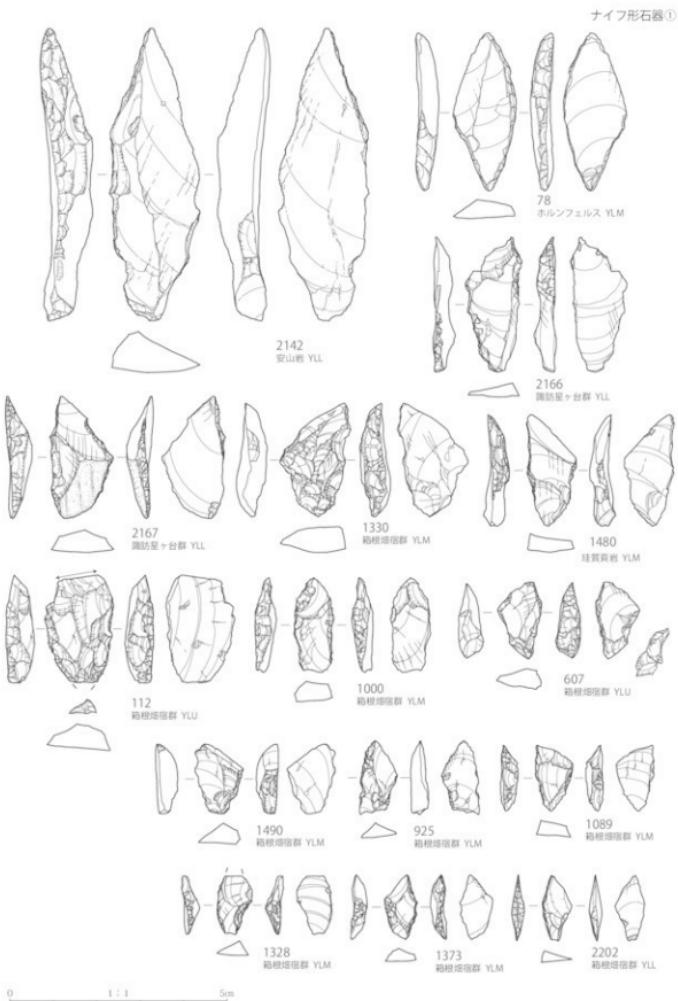
158は主要剥離面の一部が残存する。左右非対称である事、細かな調整が少ない事から未製品の可能性も考えられる。1728は両面に面的な二次加工が施される。外縁には周間にわたり細かな二次加工が施される。断面形状は寸詰まりの厚いレンズ状を呈する。1023は尖頭器の先端部である。両面に細かな二次加工が施される。

##### b類: (第52図 872)

872は縦長剥片を素材とし、主要剥離面方向より調整が施され、尖頭部を作出する。

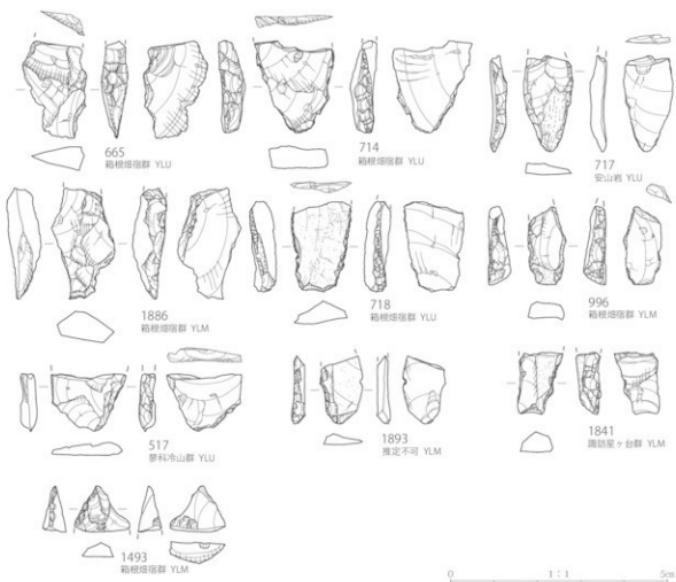
##### c類: (第52図 288、753、813、2405)

いずれも先端部、先端部から中間部付近であり、全容を窺い知り得る資料ではない。288は縦長剥片を素材とし、周縁に連続する二次加工が施される。753は尖頭部に主要剥離面側からプランディング加工に



第50図 1-4地点 YL層準 出土遺物(1)

## ナイフ形石器②

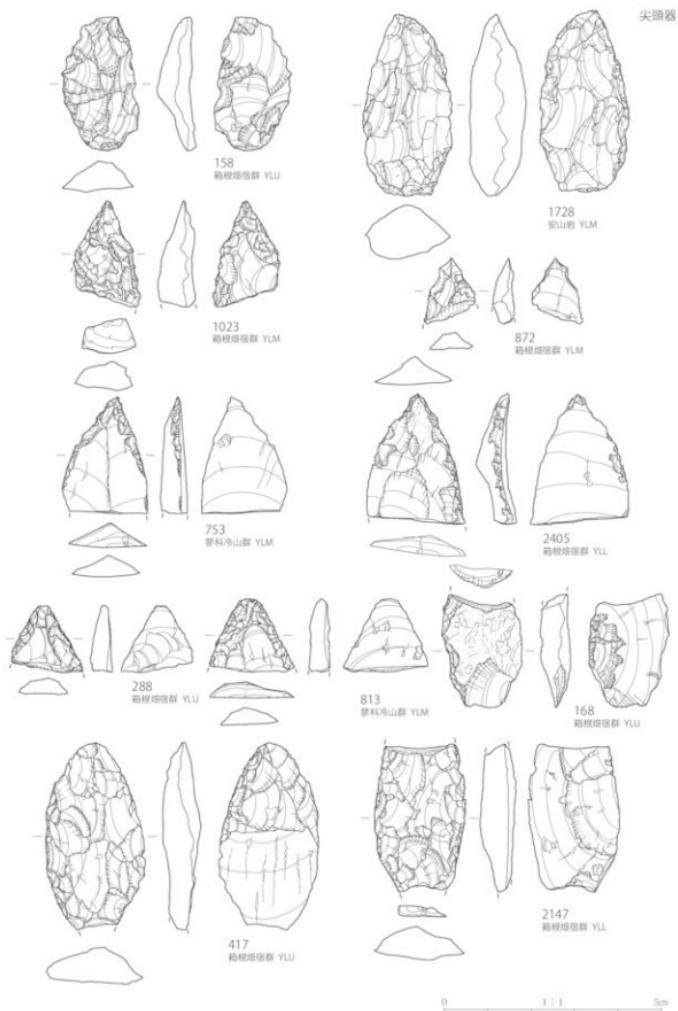


第51図 1-4地点 YL層準 出土遺物(2)

類似する調整が施される。813は先端部を中心に細かな連続する二次加工が施される。先端部の形状はやや丸みを帯びるため基部の可能性も考えられる。2405は背面の一一部に自然面を有する。背面構成から單設の石核より剥離された纖長剥片を素材としている。先端部の左側縁には不連続な二次加工が、右側縁部では連続したプランティング加工に類似した調整が施される。

## d類: (第52図 168, 417、2147)

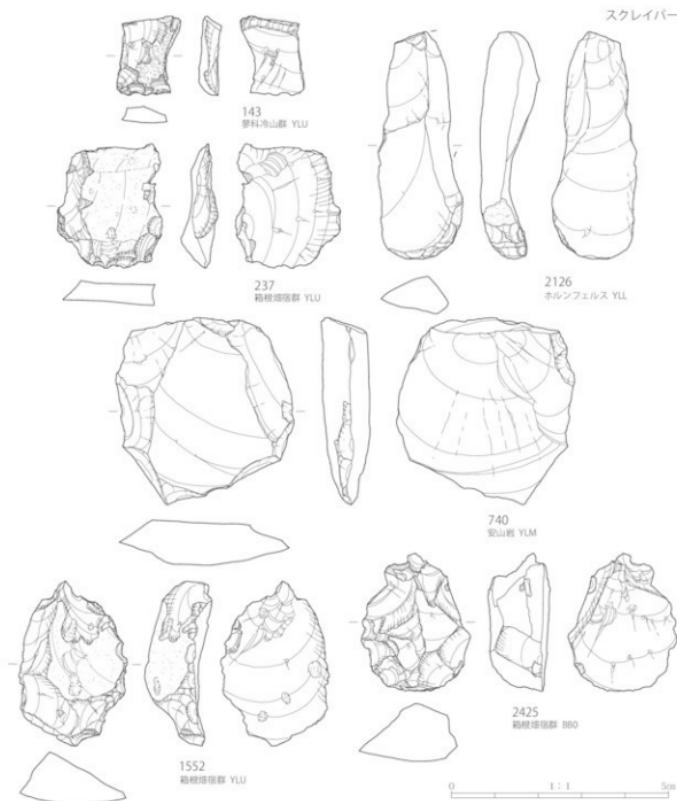
417は基部末端を折損する。裏面の下半部から基部付近には二次加工は認められない。裏面の右側縁部には2条の縦状剥離が確認される。168は背面に自然面を残す。横長の剥片を素材としており、主要剥離面では打点部周辺に二次加工を施し、打点部を除去する。折損後の調整は認められない。2147は先端部と基部を折損する。横長剥片を素材として主要剥離面側では打点部の除去を目的とした二次加工が施される。



第52図 1-4地点 YL層準 出土遺物(3)

## スクレイバー (第53図 143、237、740、1552、2126、2425)

素材剥片に連続した二次加工を施し、スクレイバーの刃部を作出したものを分類した。2126は、石刃を素材とし、他は剥片を素材とする。143は剥片の端部に連続する二次加工を施し、平坦な刃部を作出する。237は背面に自然面を有しており、端部に外湾する刃部を作出する。2126は石刃の末端部に連続する二次加工を施すエンドスクレイバーである。剥片、石核と接合する。740はやや大型の横長剥片を素材とし、縁辺部に二次加工を施す。刃部の厚みは比較的薄く鋭角である。1552は縦長剥片を素材とし、背面には一部自然面を有する。剥片端部から右側縁部に連続する二次加工を施す。刃部の厚みは比較的厚い。2425は周縁部に連続する二次加工を施し、外湾する刃部を作出する。刃部は厚く半円形状を呈している。



第53図 1-4 地点 YL 層準 出土遺物 (4)

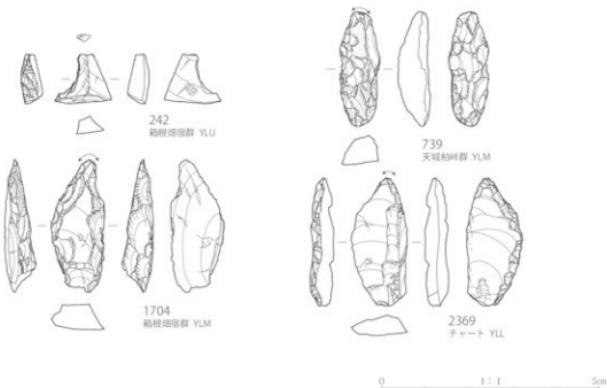
## ノック (第54図 242)

剥片の一部に抉り状の二次加工を施す。二次加工は主要剥離面方向から施される。

## 石錐 (第54図 739、1704、2369)

剥片の末端部に細い尖頭部を作出したものを分類した。739は両面に細かな二次加工が施され、端部には著しい摩耗が確認される。1704は横長の剥片を素材とし、周縁部に二次加工を施し、尖頭部を作出している。端部には摩耗が確認される。2369は小石刃を素材とし、二次加工を施し尖頭部を作出する。主要剥離面の右側縁部には連続する細かな調整が施される。端部には摩耗、つぶれ状の微細剥離痕が確認される。

ノック・石錐



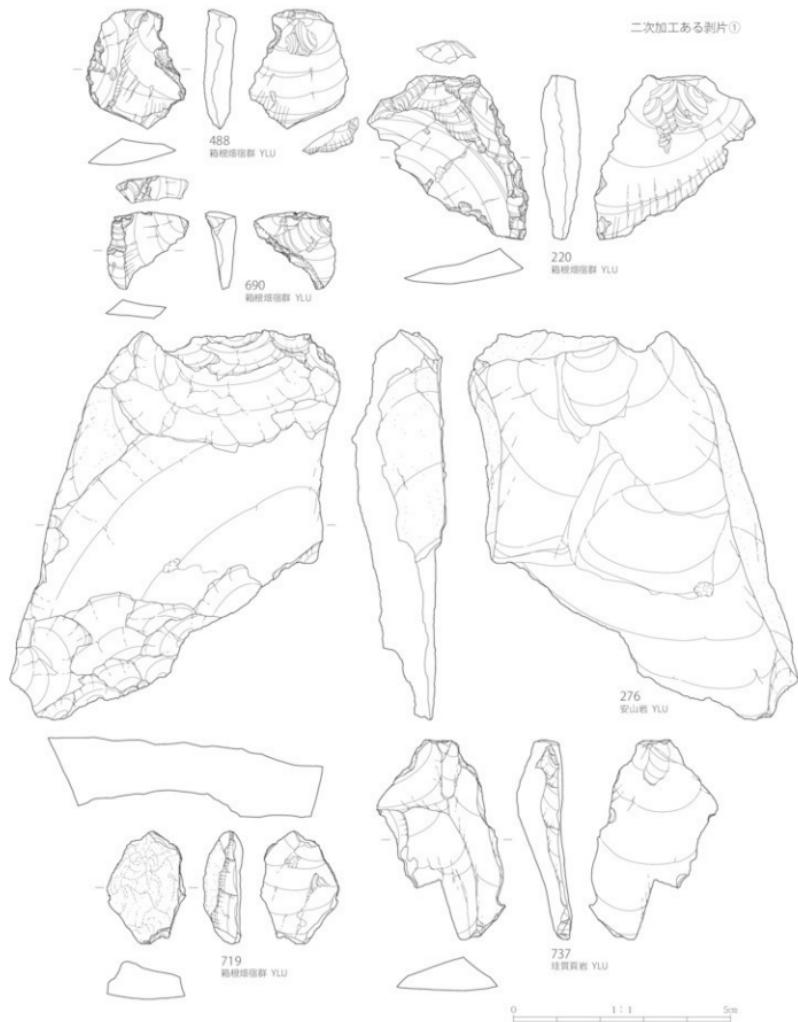
第54図 1-4地点 YL層準 出土遺物(5)

二次加工ある剥片 (第55～57図 220、276、488、690、719、737、738、744、930、987、1005、1713、1307、1922、1952、2121、2362、2357、2399、2373、2900)

二次加工ある剥片は、21点確認されている。いずれも剥片の一部に二次加工が施される。剥片剥離技術をみると単設打面の石核より剥離されたもの (719、737、744、1922、1952、2357、2399)、複設打面の石核より剥離されたもの (220、276、488、690、738、930、987、1005、1307、1713、2373、2900) がある。打面が調整打面のもの (737) は1点だけであり、他は平坦打面である。また、1922はナイフ形石器の未製品の可能性もある。

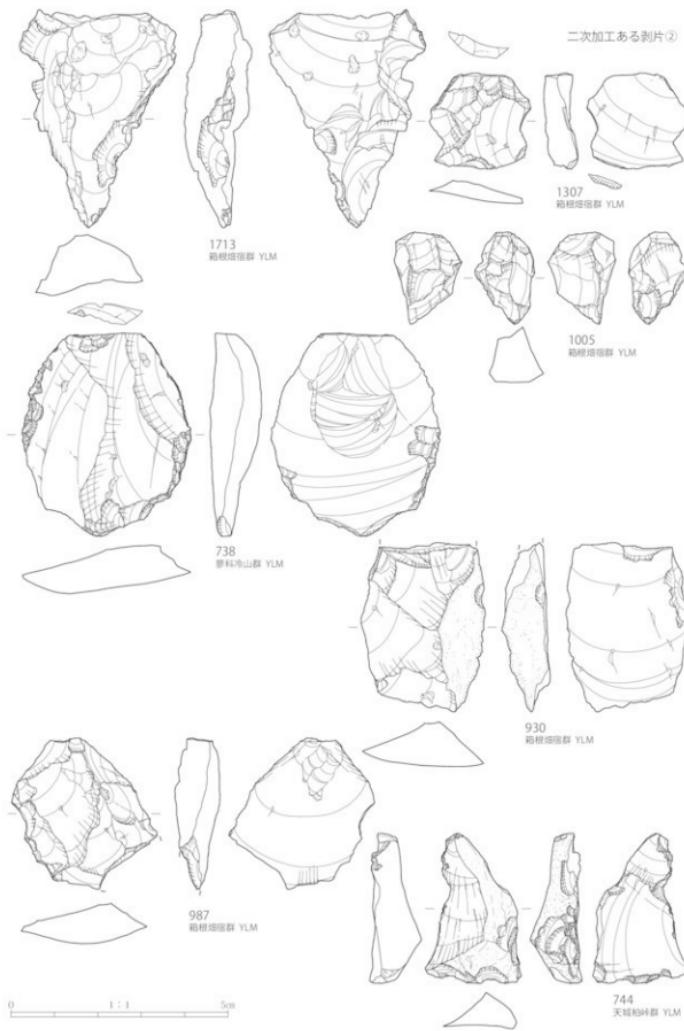
使用痕ある剥片 (第58・59図 25、27、180、259、293、270、1518、934、1693、1708、1852、1910、1915、1939、2290、2422、2428)

剥片の一部に使用による微細な剥離痕を有するものを分類した。17点確認された。いずれも剥片の側縁

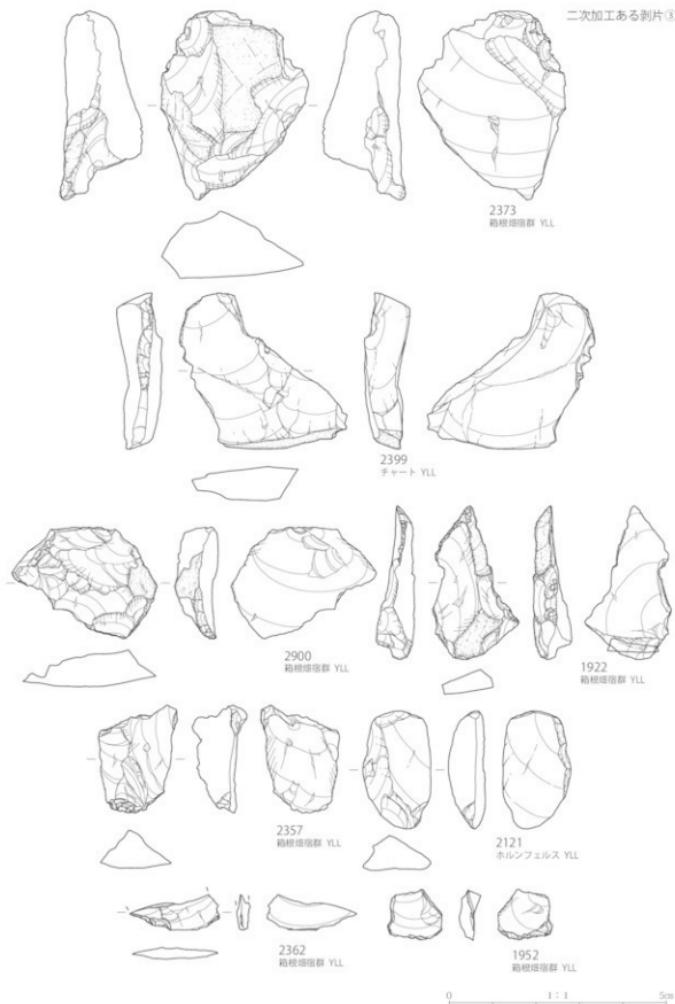


第55図 1-4地点 YL層準 出土遺物(6)

第5章 1-4地点

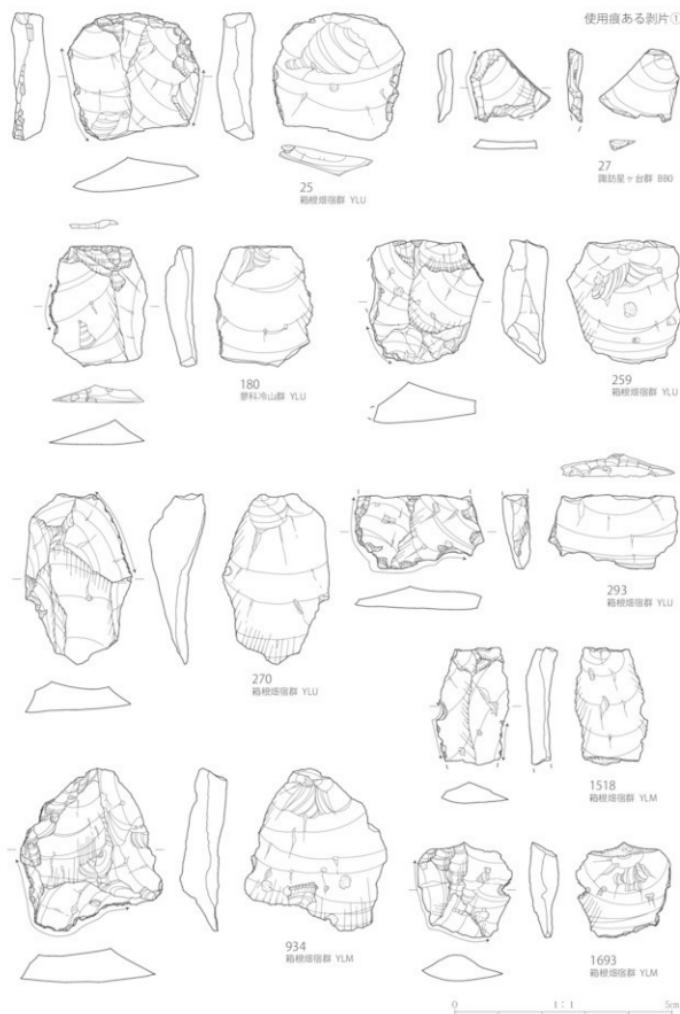


第56図 1-4地点 YL層準 出土遺物(7)

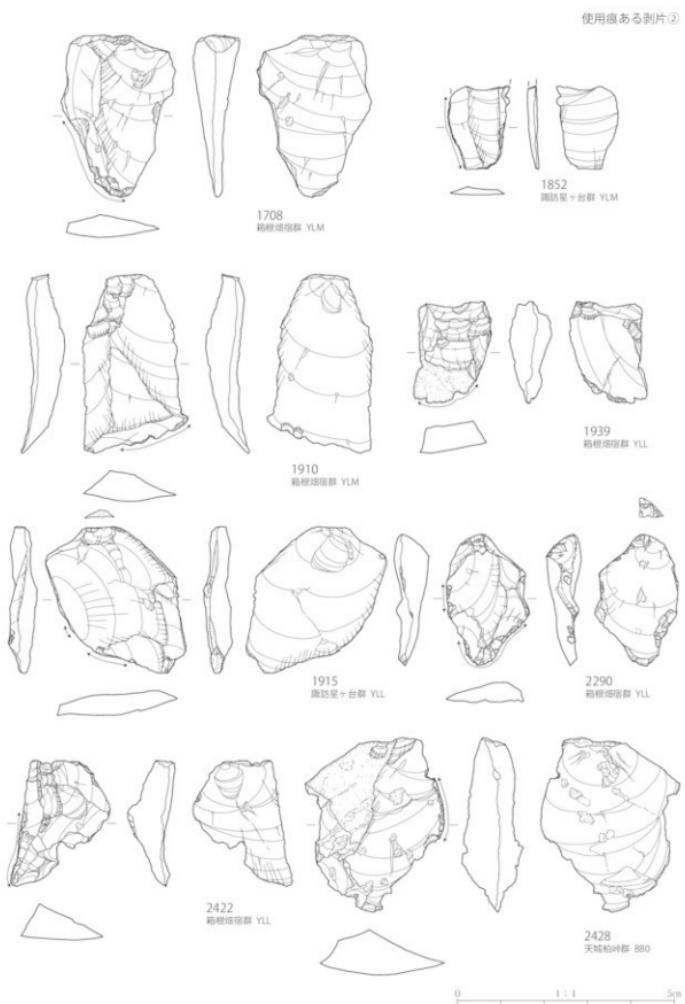


第57図 1-4地点 YL層準 出土遺物(8)

第5章 1-4地点



第58図 1-4地点 YL層準 出土遺物(9)

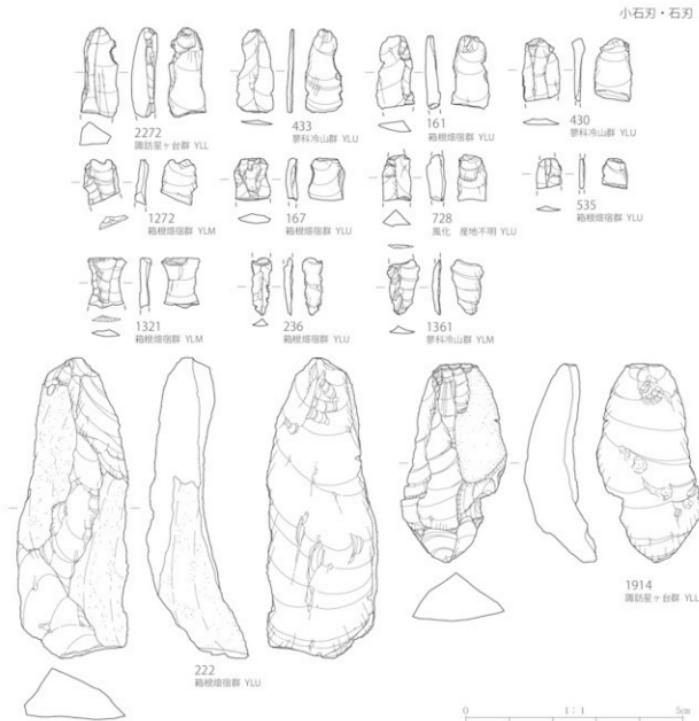


第59圖 1-4地点 YL層準 出土遺物(10)

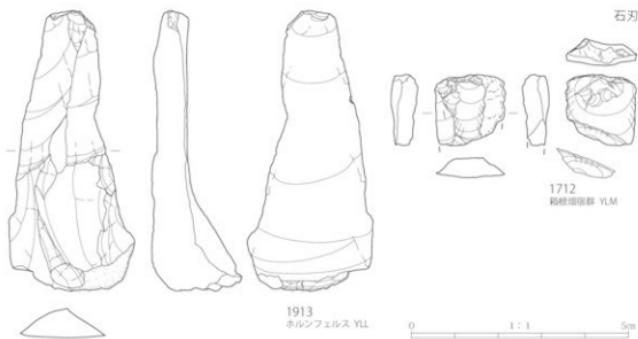
部や端部に微細な剥離痕を有する。これらの剥片剥離技術をみると単設打面の石核より剥離されたもの(25、1852)、他は複設打面の石核より剥離されたものである。また、打面調整が施されたものは確認されない。これは後述する石核の在り方と同様であり、打面を転移させながら剥片を獲得するという剥片剥離技術が多用されていた結果と考えられる。

## 小石刃・石刃 (第 60・61 図 161 ~ 2272)

15 点確認されている。最大幅が 1cm 以下の 161 から 2272 までの小石刃 11 点、222 ~ 1914 までの石刃 4 点に分類される。小石刃は、完形のもの (433)、打面部から中央部のもの (161 ~ 430)、両端部を欠損するもの (728 ~ 1321)、中央部から末端部のもの (236、1361) がある。いずれも単設の打面を持つ



第60図 1-4地点 YL層準 出土遺物 (11)



第61図 1-4地点 YL層準 出土遺物(12)

石核より剥離される。石刃は、完形のもの（1913、1914）、打面部から中央部のもの（1712）に分類される。これらの小石刃・石刃は一定した剥片剥離方向を持つ石核から剥離されたもの（161、167、236、430、535、728、1272、1321、1361、1712）、180度剥離方向の違う剥離痕が認められるもの（222、1914、2272）、複数の打面を持つもの（1913）がある。このことから、本地点の小石刃・石刃剥離技術には3種類の工程が確認され、小石刃では單設打面を持つ石核から小石刃を剥離するものが一般的であったと考えられ、石刃では複数の技術で石刃を獲得していたことが理解される。

#### 石核（第62～71図）

本地点では石核が25点出土している。石核はa類：単設打面で剥片剥離方向が一方向に限定されるもの、b類：両設の打面を持つもので、180度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が180度異なるもの、c類：複設の打面を持つもので90度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が90度異なるもの、d類：求心的な剥片剥離が行われているものの4類に大別される。本調査地点ではa類が4点、b類が4点、c類が16点、d類が1点出土している。以下に詳述していく。

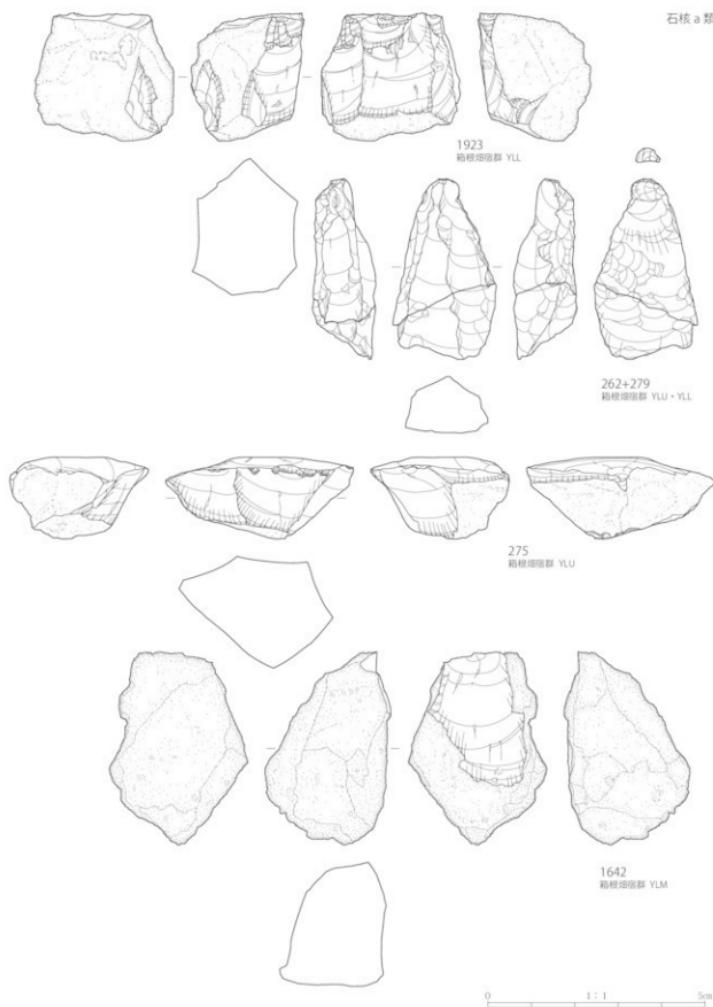
#### a類：（第62図 262-279、275、1642、1923）

単設の打面を持つ石核である。全て最大長が5cm未満の小型の石核である。また、1923はc類の1874と接合関係を持つ。

#### b類：（第63図 884、927、2006、2211）

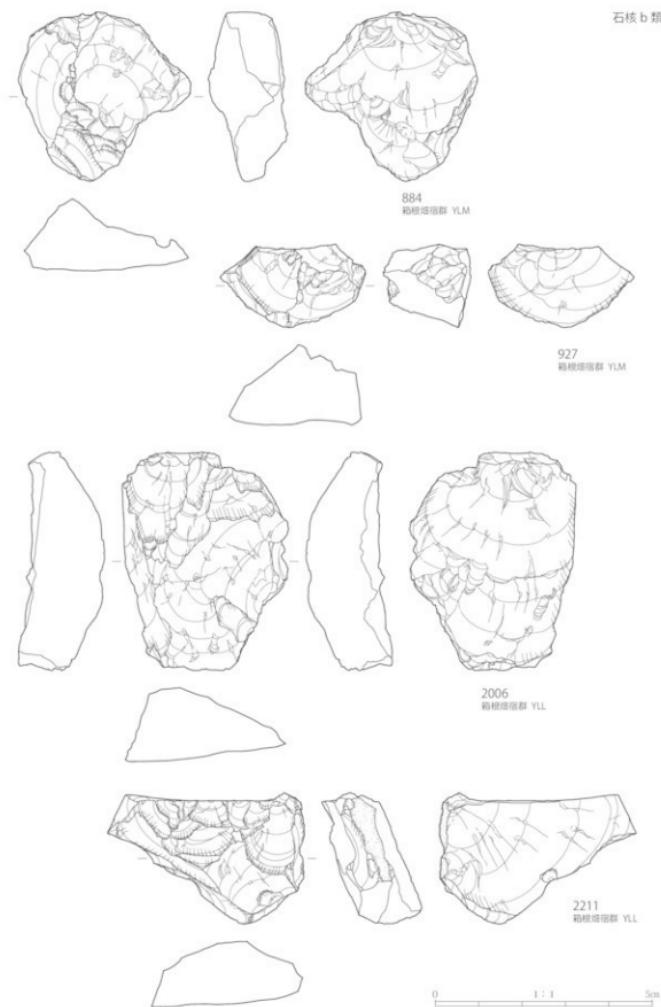
両設の打面を持つ石核であるが、厳密な180度の打面転移ではない事をはじめにお断りしておきたい。いずれの石核も平坦面を打面としており、打面調整は認められない。全て最大長が5cm未満の小型の石核であり、小型の剥片を目的的に剥離したものと考えられる。

第5章 1-4地点



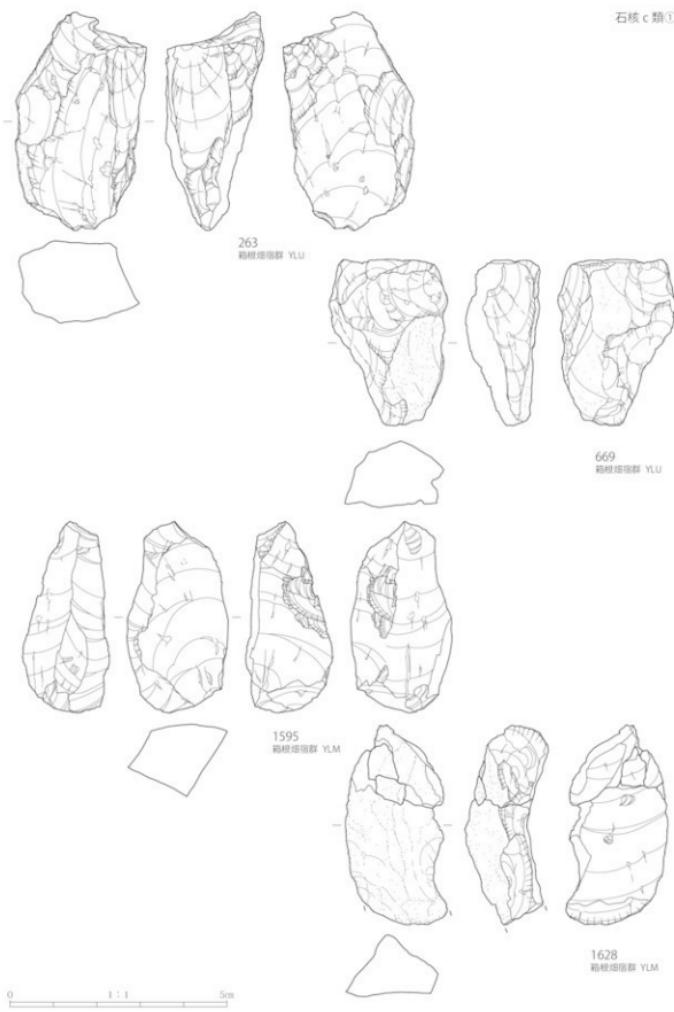
第62圖 1-4地点 YL層帶 出土遺物 (13)

石核b類



第63圖 1-4地点 YL層準 出土遺物 (14)

第5章 1-4地点



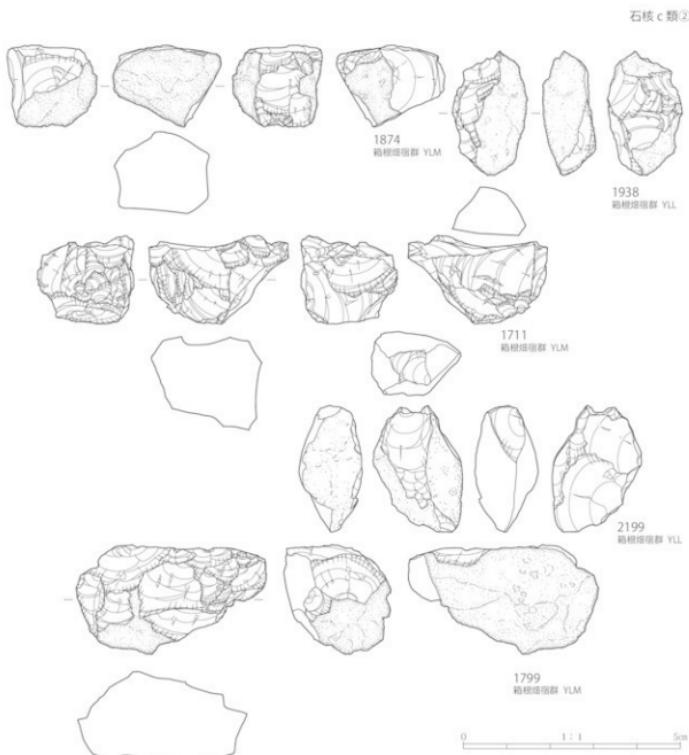
第64圖 1-4地点 YL層準 出土遺物 (15)

## c類: (第 64 ~ 71 図)

複数の打面を持つもので、90 度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が 90 度異なるものの中でも、全長が 5cm 以下のものを c-1 類として、5cm を超えるものを c-2 類として分類した。本類が最も出土数が多く、本地点の YL 層準において標準的な剥片剥離技術であったものと考えられる。

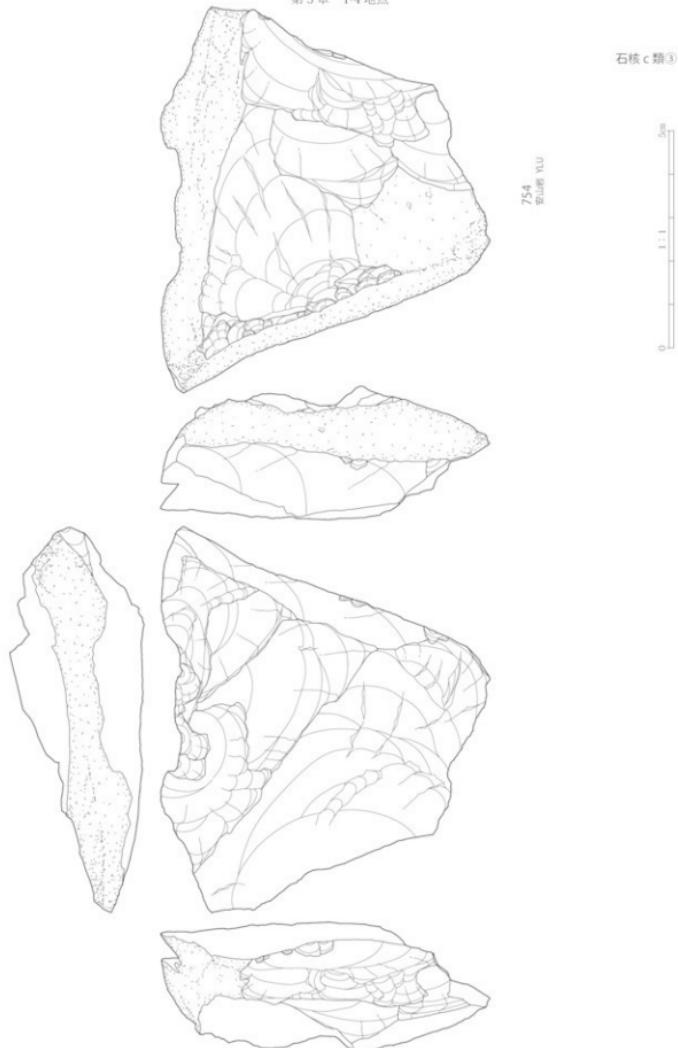
## c-1 類: (第 64・65 図 263, 669, 1595, 1628, 1711, 1799, 1874, 1938, 2199)

在地系の石材を多用する傾向にあり、必然的に小型の石核となる。打面を調整する事なく、打面を転移する事で剥片剥離を行う。



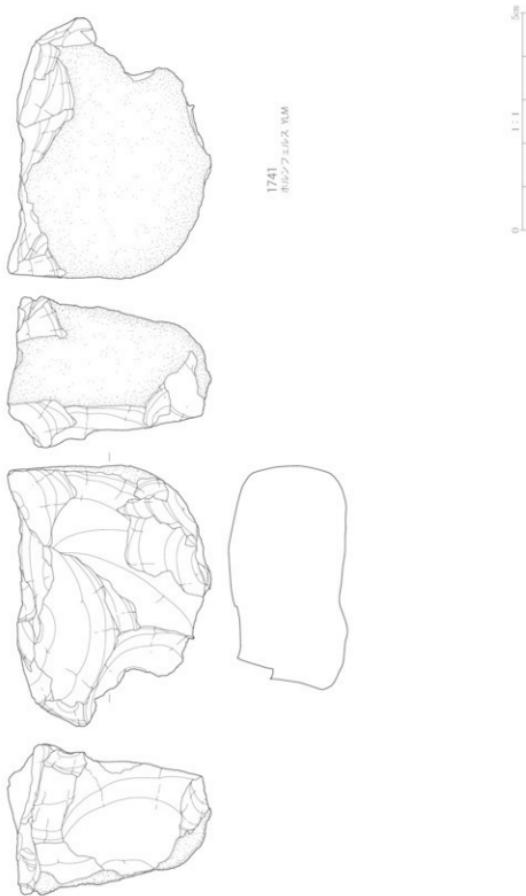
第65図 1-4 地点 YL 層準 出土遺物 (16)

第5章 1-4地点



第66圖 1-4地点 YL層準 出上遺物 (17)

石核C類③

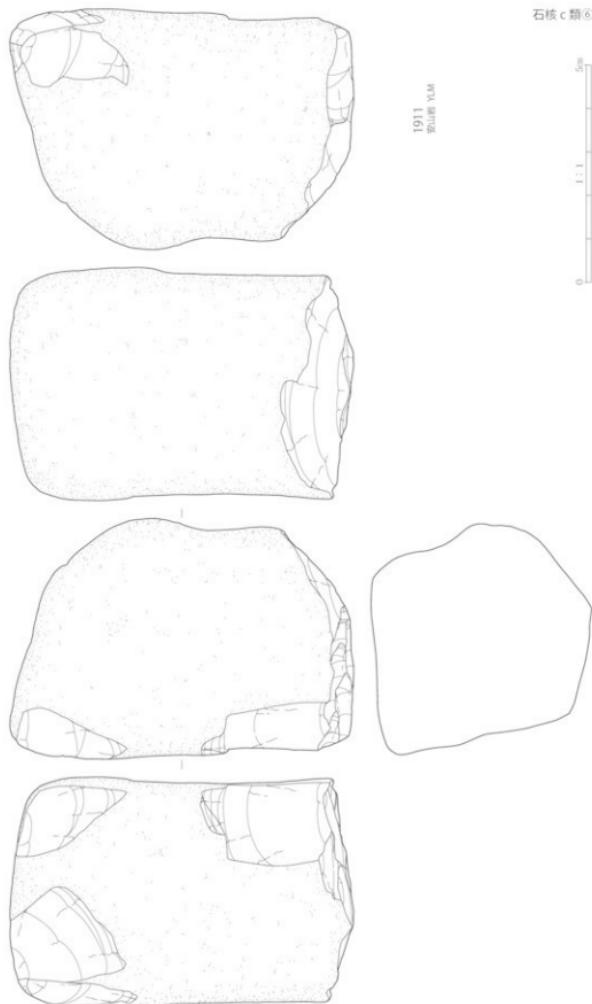


第67圖 1-4地点 YL層準 出土遺物 (18)

石核C類③

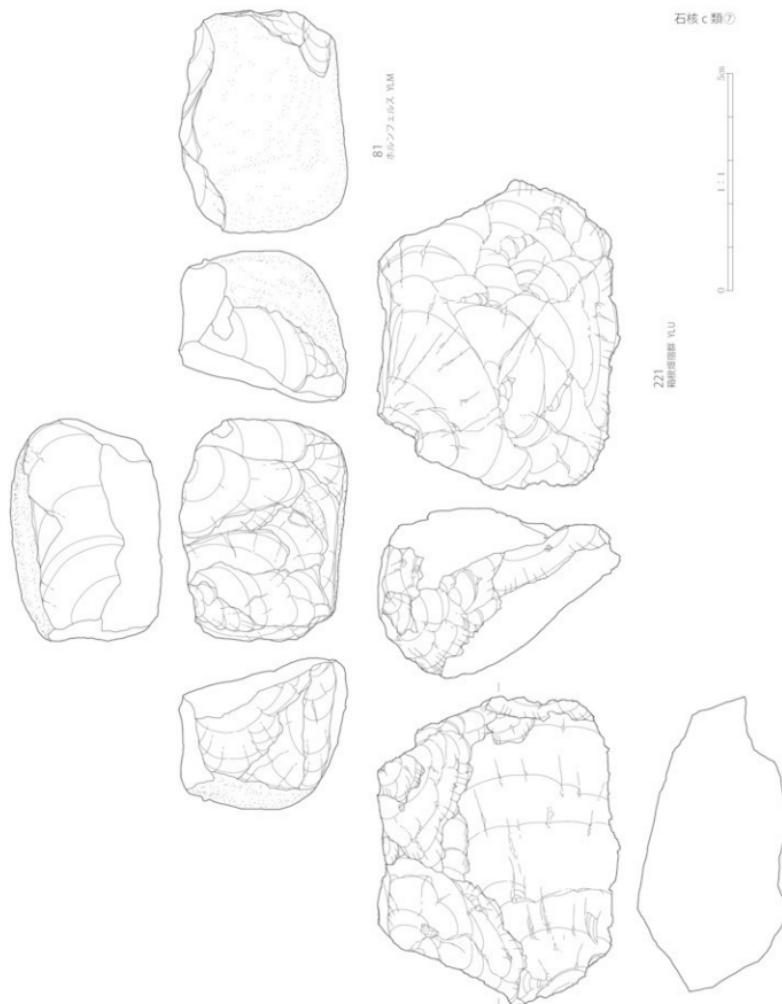


第68圖 1-4地点 YL層準 出土遺物 (19)

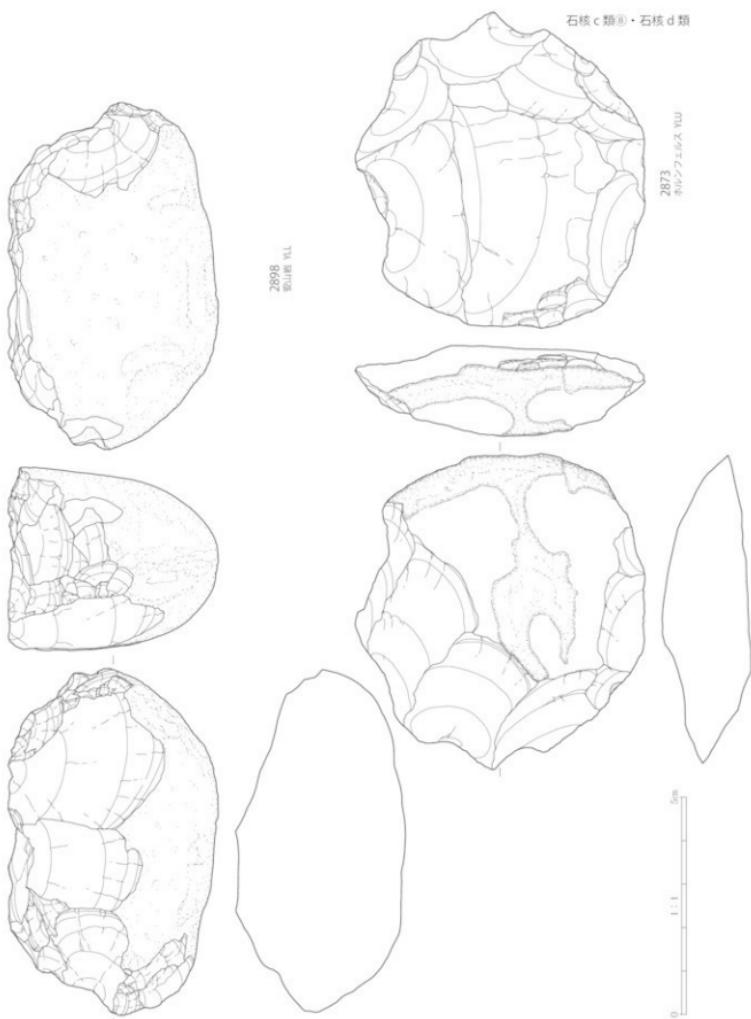


第69圖 1-4 地點 YL層準 出土遺物 (20)

第5章 1-4地点



第70圖 1-4 地點 YL層準 出土遺物 (21)



第71圖 1-4地点 YL層準 出土遺物 (22)

## c-2類: (第 66 ~ 71 図 754, 81, 221, 1741, 1908, 1911, 2898)

大型の剥片素材のもの (754)、他はすべて礫素材である。754 は安山岩の大型剥片を素材とし、平坦な自然面を打面とする。礫素材のうち、ホルンフェルスでは円礫を素材としている。221 は箱根烟宿群の黒曜石であるが、脈状の節理が著しく、剥片剥離が進まず廃棄されたものと考えられる。

## d 類: (第 71 図 2873)

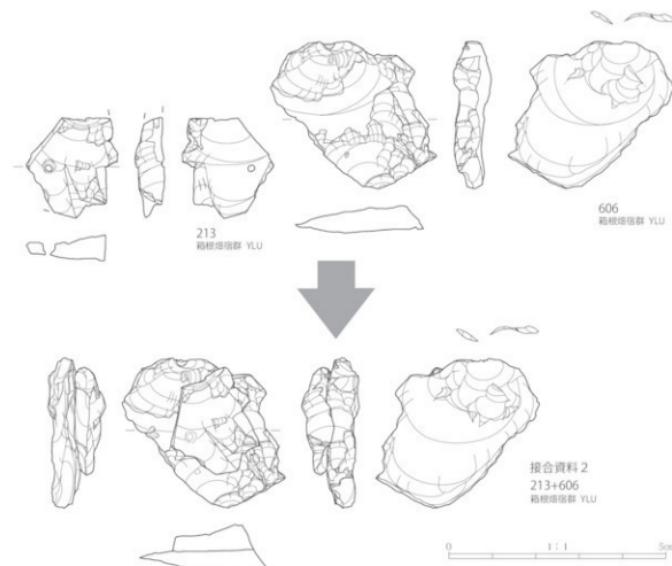
1 点出土している。大型の剥片を素材としており、背面側に一部自然面を有する。求心的な剥片剥離が行われている。目的的剥片は最大長が 3cm 程度であり、打面調整は行われない。このため、背面側では縦長剥片、主要剥離面側では横長剥片を剥離している。

## (2) 接合資料

本調査地点で確認された接合資料は、8 個体である。以下に詳述する。

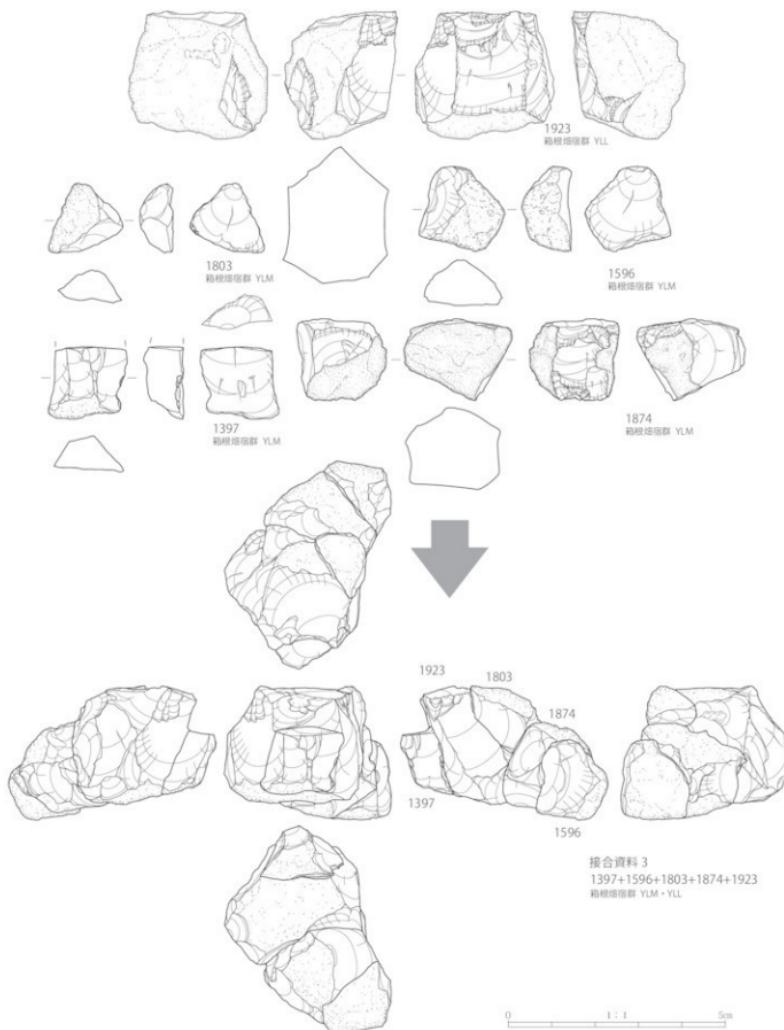
## 接合資料 No.2 (第 72 図 213, 606)

第 8 ブロックより出土した剥片 2 点の接合資料である。606 の背面構成から両設の打面を持つ石核から剥離される。213 は剥片剥離の際の偶発的な剥離によって打点部を欠損する。



第 72 図 1-4 地点 YL 層準 接合資料 (1)

第 5 章 1-4 地點



第 73 圖 1-4 地點 YL 層準 接合資料 (2)

接合資料 No.3 (第73図 1397、1596、1803、1874、1923)

第5ブロックより出土した剥片1点、石核1点、第6ブロックの剥片2点と石核1点の接合資料である。原石は亜角礫状であり、石核（1923）は上設打面より縦長剥片を剥離する。

接合資料 No.4 (第74図 262、279)

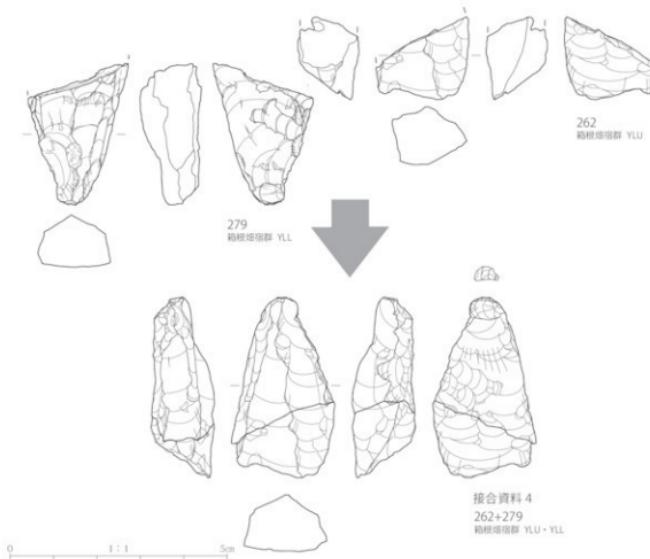
第12ブロックより出土した小石刃石核の接合資料である。中央部から偶発的に割れたものである。

接合資料 No.6 (第75図 1607、1960)

第5ブロックより出土した剥片1点、第6ブロックの剥片1点の接合資料である。打面は平坦打面であり、背面構成から複数の打面を持つ石核から求心的な剥片剥離されているのが観察される。

接合資料 No.10 (第76図 2118、2399)

第6ブロックより出土した剥片1点、二次加工ある剥片1点の接合資料である。背面には自然面を有する。打面は平坦打面であり、90度の打面転移を繰り返しながら2399を2118と同一方向より剥離する。



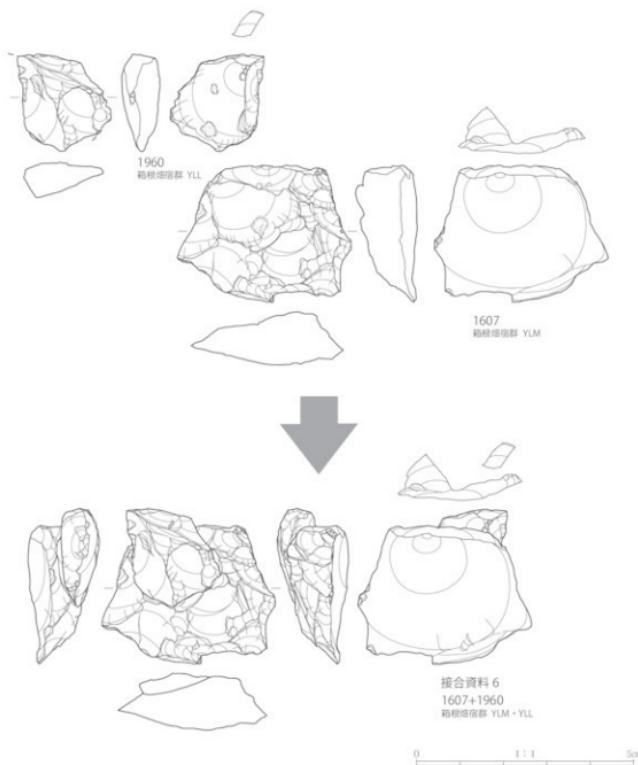
第74図 1-4 地点 YL 層準 接合資料 (3)

接合資料 No.55 (第77図 1630、1640)

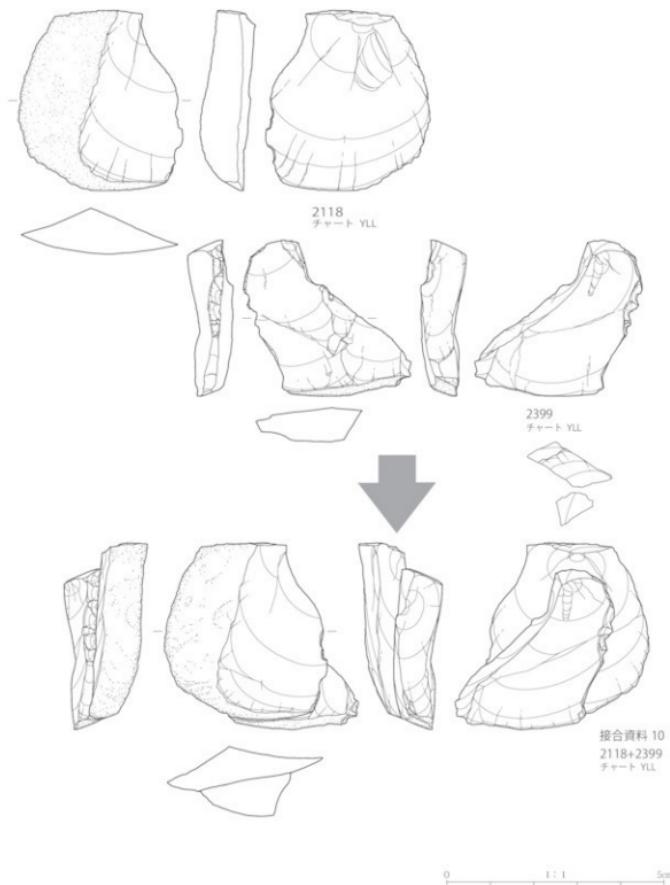
第6ブロックより出土した剥片同士の接合である。背面には自然面を有する。打面は平坦打面であり、剥片剥離の際に偶発的な割れで剥片中央部から折損したものである。

接合資料 No.60 (第77図 2382、2418)

第5ブロックより出土した大型の縦長剥片と、その縁辺より同時割れした剥片の接合である。大型の縦長剥片は細かな打面調整が行われる。背面は自然面であり、側縁部には細かな剥離が観察されるが、意図的なものではなく偶発的なものと考えられる。

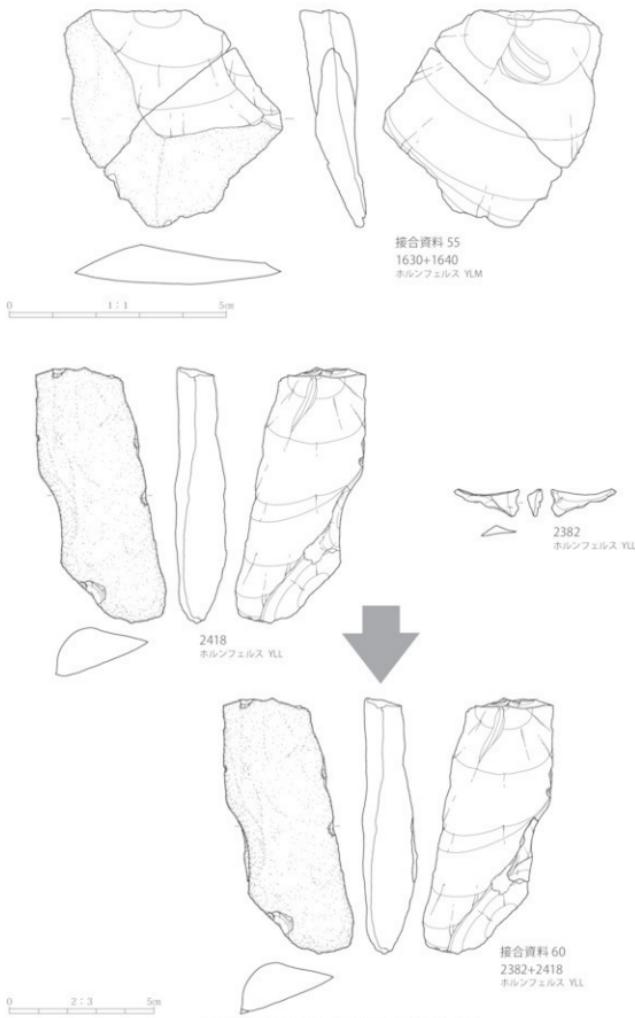


第75図 1-4 地点 YL層準 接合資料(4)



第76図 1-4地点 YL層準 接合資料(5)

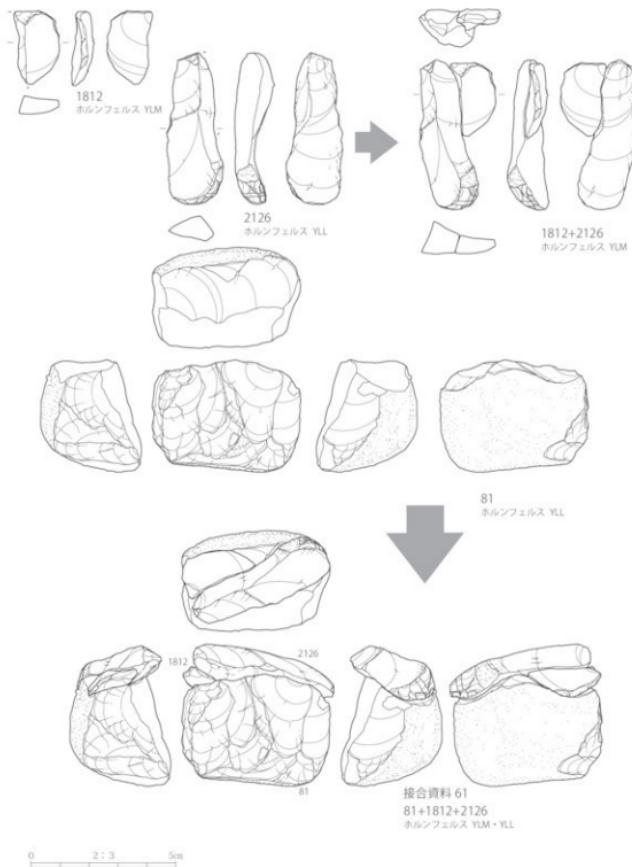
第5章 1-4 地点



第77図 1-4 地点 YL 層準 接合資料 (6)

接合資料 No.61 (第78図 81、1812、2126)

第5ブロックより出土した石核、エンドスクレイパー、剥片の接合である。石核は円礫を素材としており、自然面を有する。90度の打面転移を行い、石刃・縦長剥片を目的的に剥離する。



第78図 1-4地点 YL層準 接合資料 (7)

## 第2節 BB I ~ NL 層の遺構・遺物

4地点ではYLL層までの掘削が完了した後、調査区内に $3 \times 3\text{m}$ の下層遺物の有無を確認するための一回調査グリッドを8箇所設定し調査を行った。この結果、Q24、P23・24、O23・24グリッドのBB I層下部～BB III層にて遺物が出土し、この遺物の出土した南半部を全面調査に切り替え下層調査を行った。前述した通り、本地点では耕作による土層の乱れが確認された。西端部付近は耕作土直下がBB I層下部からNL層となっており、整理段階に於いて遺物出土層位の誤認が確認された。調査図面や写真、調査所見の精查、遺物の個体別分類、接合作業等を行った結果、BB I～NL層とNL～BB III層に遺物を分離させることができた。ここではBB I～NL層に分布する遺構と石器群を記載する。

### 1. 検出された遺構

本地点のBB I～NL層にかけて、412点の石器が出土し、このうち407点が4箇所の石器ブロックとして確認され、このうちの第3・4ブロックと重複するように櫛群が2基検出されている。櫛群はそれぞれ21点、36点の櫛が集中して検出されている。以下に各遺構を詳述する。

#### (1) 石器ブロック

上述したようにBB I～NL層にかけて、412点の石器が出土し、このうち407点が4箇所の石器ブロックとして確認された。このブロックは調査区西半部に集中し、特に第3ブロックでは天城柱崎群の黒曜石、第4ブロックでは箱根烟宿群の黒曜石を用いてラウンドスクレイバーが集中的に製作されている。

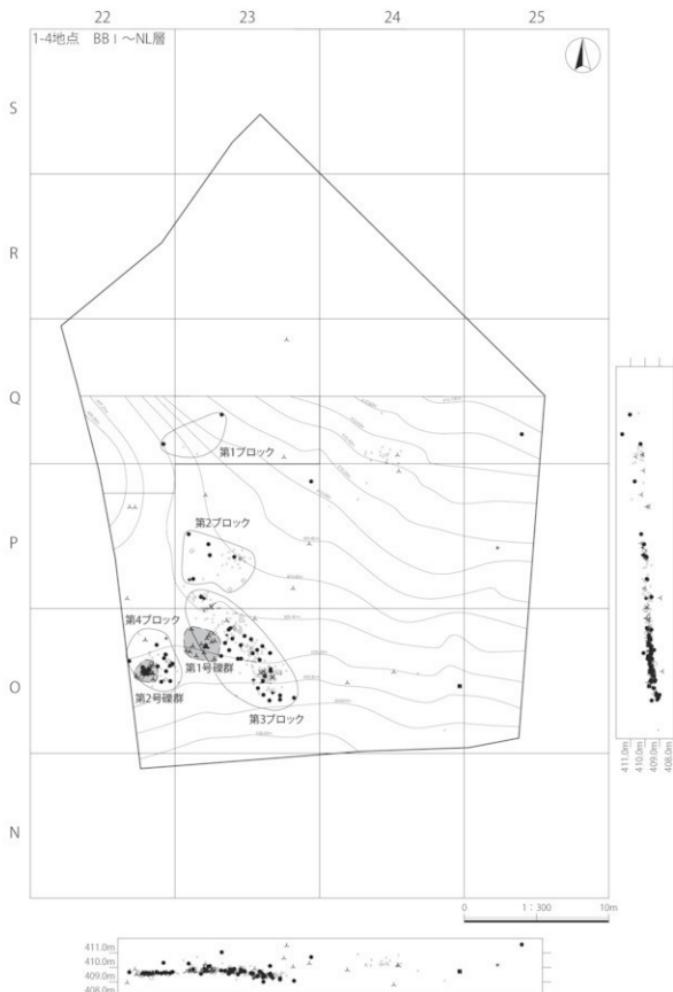
#### 第1ブロック（第80図）

本ブロックは、調査区西部のQ22・23グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸4.50m、短軸2.42mである。垂直分布は、標高410.31～411.04m、比高差は0.73mである。出土層位はBB O層となっているが本来はBB I～NL層と考えらる。出土した石器は、剥片2点、碎片2点の合計4点である。接合資料は無い。

#### 第2ブロック（第81図）

本ブロックは、調査区南西部のP23グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸4.57m、短軸3.61mである。垂直分布は、標高409.54～410.28m、比高差は0.73mである。出土層位はBB I～BB II層最上部であり、BB I～NL層上面にかけて遺物の垂直分布が集中する。出土した石器は、二次加工ある剥片1点、使用痕ある剥片4点、剥片5点、スクレイバー刃部調整片10点、碎片16点の合計36点である。接合資料は1個体あり、本ブロックの剥片2点が接合する。

第5章 1-4地点



第79図 1-4地点 BB I ~ NL層 全体図

## 第5章 1-4地点

第28表 1-4地点 BB I ~ NL層 石材器種組成表

	縦相巻刃群	天端相巻刃群	圓防縫巻刃群	裏縫冷溶出群	裏縫熱溶出群	黒色安山岩群	合計
ナイフ形石器						1	1
砲孔刃形石器	1						1
椎形石器	2						2
スクレイバー	2	5					7
二次加工ある剝片	3				1	4	
使用痕ある剝片	2	11		1			14
剝片	11	22	1	5	5	44	
万能調整片	54						56
碎片	22	80		181	1	282	
石核	1					1	
合計	38	178	1	1	186	8	412

第29表 1-4地点第1ブロック 石材器種組成表

	縦相巻刃群	天端相巻刃群	合計
剝片	1	1	2
碎片	2		2
合計	3	1	4

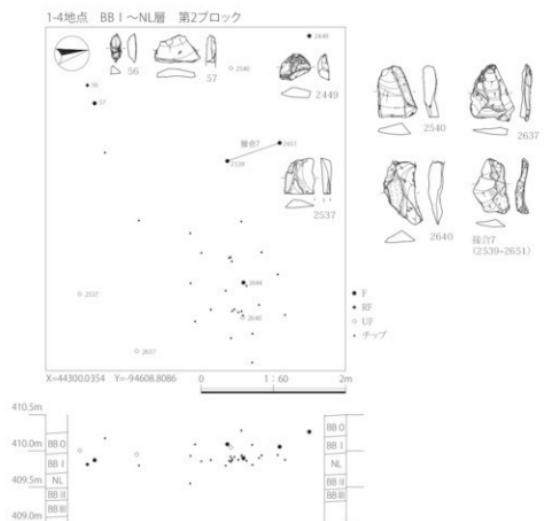
第30表 1-4地点第2ブロック 石材器種組成表

	縦相巻刃群	天端相巻刃群	圓防縫巻刃群	裏縫冷溶出群	黒色安山岩群	合計
二次加工ある剝片		1				1
使用痕ある剝片		4				4
剝片		3	1		1	5
万能調整片		10				10
碎片	1	5		9	1	16
合計	1	23	1	9	2	36

1-4地点 BB I ~ NL層 第1ブロック



第80図 1-4地点 BB I ~ NL層 第1ブロック遺物分布図



第81図 1-4地点 BB I ~ NL層 第2ブロック遺物分布図

第31表 1-4地点第3ブロック 石材器種組成表

	箱根層 天竜層 御前山層 群	原生層 不明	黒川層 御前山岩	合計
形刻刃石器	1			1
楔形石器	1			1
スクレイバー	5			5
二次加工ある剝片	2	1	3	
使用痕ある剝片	7			7
剝片	1 17 2	4	24	
刃部剥離片	44	2		46
碎片	1 73	135		209
合計	2 150	139	6	296

※スクレイバー刃部片含む

第32表 1-4地点第4ブロック 石材器種組成表

	箱根層 天竜層 御前山層 群	原生層 不明	黒川層 御前山岩	合計
スクレイバー	2			2
使用痕ある剝片	2		1	3
剝片	9			9
碎片	17 1		34	52
石核	1			1
合計	31	1	1	36 69

## 第3ブロック（第82図）

本ブロックは、調査区南西部のO・P-23 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸 10.03m、短軸 3.85m である。垂直分布は、標高 409.00 ~ 410.13m、比高差は 1.13m である。出土層位は YLL ~ NL 層となっているが、本来は BB I 層下部 ~ NL 層と考えられる。第1号縄群とほぼ同位置で重複する。出土した石器は、彫刻刀形石器 1 点、楔形石器 1 点、ラウンドスクレイバー 4 点、スクレイバー刃部片 1 点、スクレイバー刃部調整片 46 点、二次加工ある剝片 3 点、使用痕ある剝片 7 点、剝片 24 点、碎片 209 点の合計 296 点であり、集中的にスクレイバー群を製作しているブロックである。接合資料は 7 個体あり、接合資料 8 は本ブロックの剝片と使用痕ある剝片が接合する。接合資料 9 は二次加工ある剝片と剝片が接合する。接合資料 62 は剝片 2 点と碎片 2 点が接合する。接合資料 63 はラウンドスクレイバー

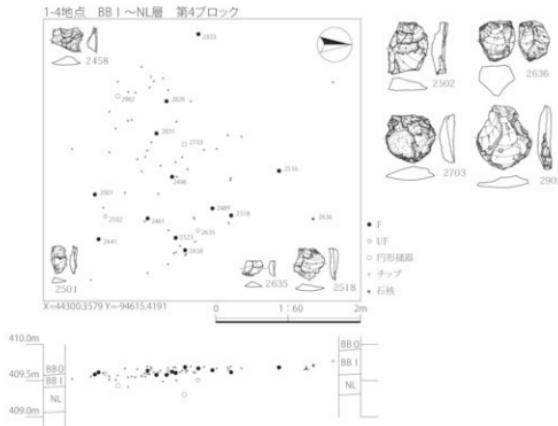


第82図 1-4地点 BB I ~ NL層 第3ブロック遺物分布図

2点と刃部調整片1点が接合する。接合資料64は剥片1点と碎片2点が接合する。接合資料85はラウンドスクレイバーと刃部調整片1点が接合する。接合資料86はラウンドスクレイバーと刃部調整片が1点接合する。

#### 第4ブロック（第83図）

本ブロックは、調査区南西端部のO-22・23グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸4.32m、短軸3.30mである。垂直分布は、標高409.30～409.76m、比高差は0.46mである。出土層位はYLL～BB I層となっているが、本来はBB I層下部～NL層と考えられる。第2号礫群とほぼ同位置で重複する。出土した石器は、石核1点、ラウンドスクレイバー2点、使用痕ある剥片3点、剥片11点、碎片52点の合計69点である。接合資料は無い。



第83図 1-4地点 BB I～NL層 第4ブロック遺物分布図

#### (2) 磕群

BB I～NL層では調査区南西端部付近で2基の磕群が確認され、いずれも石器ブロックと重複する。磕群はBB I～SC-I層での検出となっているが、前述したように本来はBB I層下部～NL層の出土と考えられる。

#### 第1号磕群（第84図）

本磕群は、調査区南西部のO-23グリッドで確認されている。磕群の規模は長軸2.63m、短軸1.69m、磕の分布状況は、第3ブロックの遺物集中部とほぼ同位置に磕が集中する。垂直分布は標高409.73～409.77mであり、比高差は0.03mである。出土層位はSC-I～BB I層となっているが、本来はBB I層下部

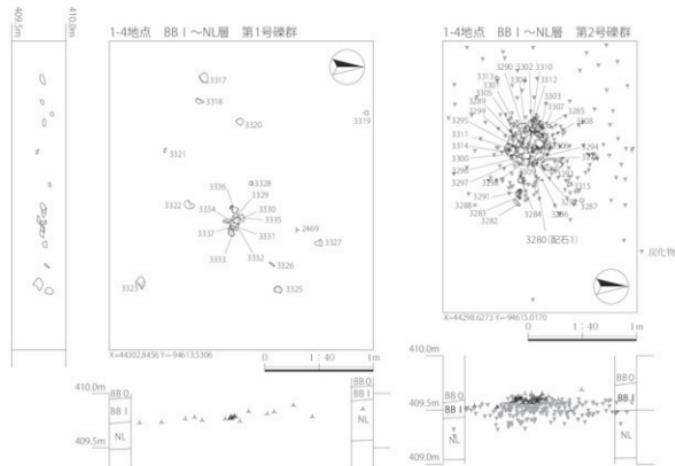
~NL層と考えられる。構成する礫は21点であり、総重量2,609gを測る。このうちの17点に被熱の痕跡が認められた。また、被熱した17点のうち4点に煤状付着物が確認される。礫群内の接合関係は1個体2点確認される。

#### 第2号礫群（第84図）

本礫群は、調査区南西部のO-22グリッドで確認されている。礫群の規模は長軸1.16m、短軸1.02m、礫の分布状況は、第4ブロックの遺物集中部の中心に礫が集中する。垂直分布は標高409.50~409.69mであり、比高差は0.19mである。出土層位はSC-I層となっているが、本来はBB I層下部~NL層と考えられる。構成する礫は35点であり、総重量は6,137gを測る。このうちの32点に被熱の痕跡が認められた。また、被熱した32点のうち8点に煤状付着物が確認される。出土礫の石材は、安山岩であり、礫群内の接合関係は2個体4点確認される。また、礫群を中心として長軸約2.4m、短軸約1.7mの範囲で239点の炭化物が確認されている。これらの炭化物をサンプリングし、放射性炭素年代測定を行ったところ、24,550±90BP、24,520±80BPであった。詳細は第11章を参照していただきたい。

第33表 1-4地点礫群・配石組成表

	長軸 m	短軸 m	礫 点数	総 重量 g	被 熱 点 数	煤 状 付 着 物 有 無 い か 数
第1号礫群	2.63	1.69	21	2,609	17	4
第2号礫群	1.16	1.02	35	6,137	32	8
第1号配石				5,650		



第84図 1-4地点 BB I ~ NL層 第1・2号礫群、第1号配石遺物分布図

## (3) 配石

配石は第2号礫群と重複して1基確認されている。

## 第1号配石（第84図）

調査区南西部のO-22グリッドで確認されている。第2号礫群の中心付近で出土した。出土層位はSC-I層となっているが、本来はBB I層下部～NL層と考えられる。出土レベルは標高409.60mである。礫は重量5,650gの亜円礫であり、被熱した痕跡は確認されない。

## 2. 出土遺物

本調査地点のBB I層下部からNL層上部で確認された石器は、第1ブロックから第4ブロックで出土した408点と散在的に出土した3点の計412点で構成される。ここでは出土した石器を器種毎に記述していく。

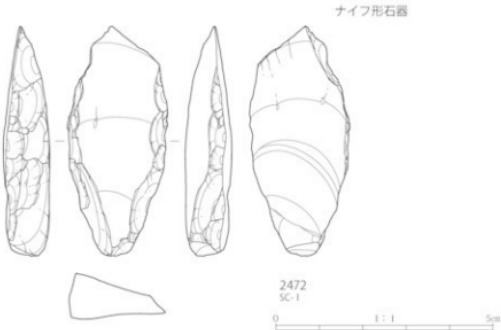
## (1) 石器

前述の通り、本調査地点で確認された石器は、第1ブロックから第4ブロックの408点、散在的に出土した4点の計412点で構成されている。これらの器種の内訳は、ナイフ形石器1点、石核1点、彫刻刀形石器1点、楔形石器2点、スクレイバー7点、スクレイバー刃部調整片56点、二次加工ある剥片4点、使用痕ある剥片14点、剥片44点、碎片282点である。以下では、各器種の特徴を把握しながら、石器群の様相を捉えていきたい。

## ナイフ形石器

## 第1群a類（第85図 2472）

二側縁加工のナイフ形石器で大きさが5cm以上の大型ものを本類とした。調査区南東部のO-24グリッドにて単独で出土したナイフ形石器である。单設打面の石核から剥離された縱長剥片を素材とする。刃部を除く両側縁部すべてにプランディングが施される。プランディングは主要剥離面側からの一方向で施され、急角度を呈する。

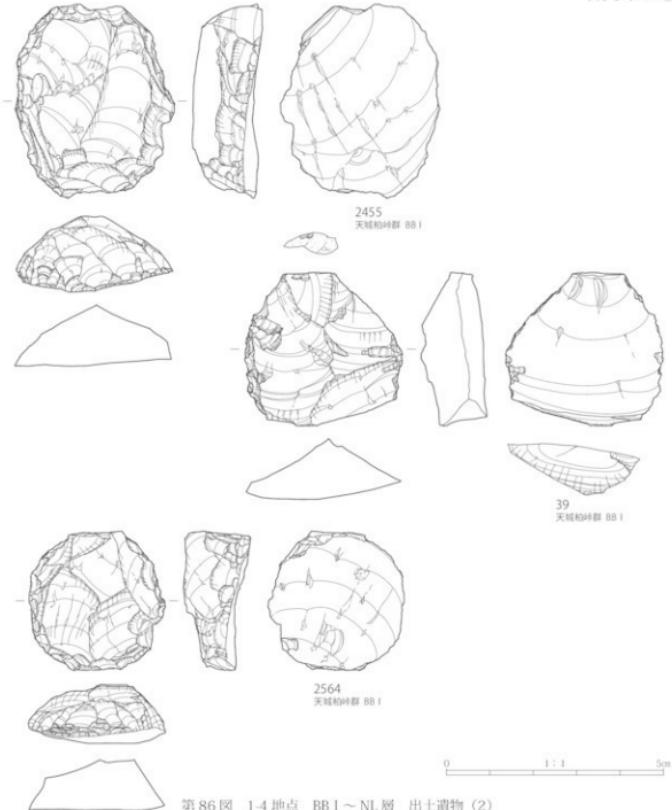


第85図 1-4 地点 BB I～NL層 出土遺物(1)

## スクレイバー (第86～88図 39、2455、2564 2703、2710、2902、2802)

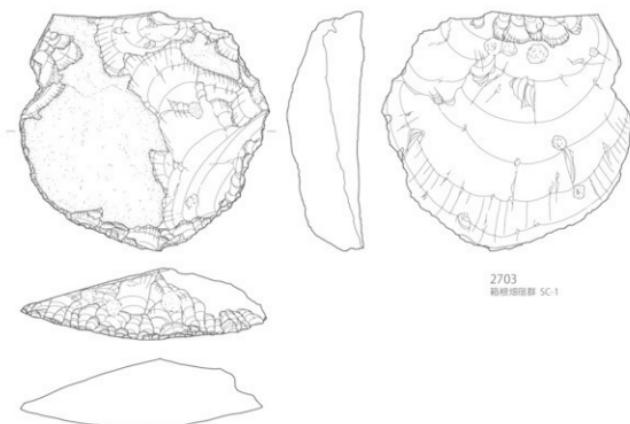
素材剥片に連続した二次加工を施し、スクレイバーの刃部を作出したものを分類した。いずれも第3・4ブロックからの出土である。特に第3ブロックではラウンドスクレイバー4点、スクレイバーの刃部1点、刃部調整片が46点出土しており、ラウンドスクレイバーを集中的に製作したブロックである事が分かる。39は縦長剥片を折断し、両側縁部に二次加工を施す。調整が全周に及ばない事から未製品と考えられる。2455と接合関係が確認される。2455は39と同一の縦長剥片を折断し、周縁に連続した二次加工を施し、ラウンドスクレイバーの刃部を作出す。2564は横長の剥片を素材とし、周縁全てに二次加工を

スクレイバー①

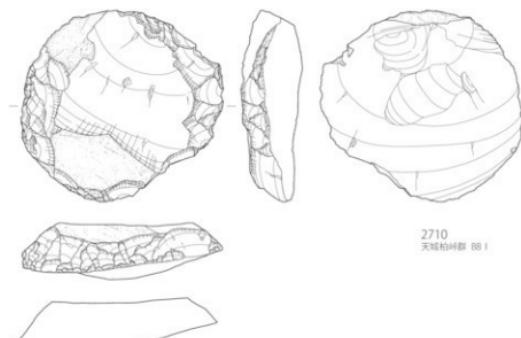


第86図 1-4地点 BB I～NL層 出土遺物 (2)

スクレイパー③



2703  
筋根面群 SC-1



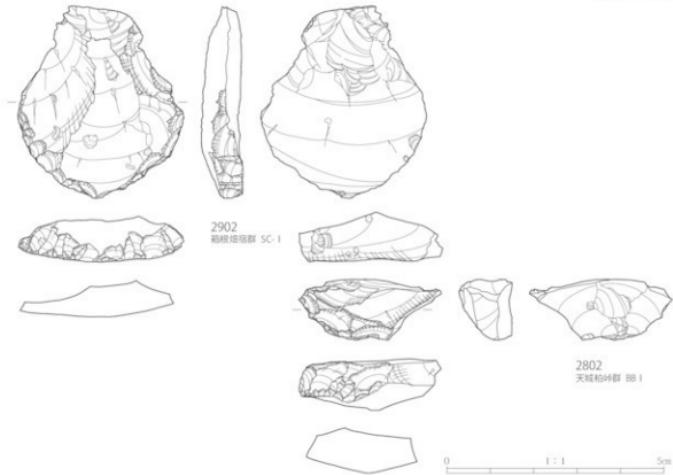
2710  
天城柏岡群 BB I



第87図 1-4地点 BB I ~ NL層 出土遺物 (3)

施し、ラウンドスクレイバーの刃部を作出する。2703はやや横長の剥片を素材とし、周縁全周に連続する二次加工を施す。打面は自然面の平坦打面であり、背面の構成から複数の打面を持つ石核より剥離される。また、主要剥離面にはバブルを除去するための平坦剥離が施される。2710は自然面の平坦打面よりやや横長の剥片を剥離し、打点部付近を除く全周に連続する二次加工を施す。2902はやや横長の剥片を素材とし、側縁中央部から端部にかけて連続する二次加工を施す。背面構成から複数の打面を持つ石核より剥離される。2802はスクレイバーの刃部付近の折損したものである。外湾する刃部形状であり、やや粗い二次加工が施される。ラウンドスクレイバー製作時に欠損、廃棄されたものと考えられる。上述のように素材剥片には39、2455のように縱長剥片を折断し素材とする個体もあるが、他は横長剥片であり、横長剥片を素材とするものが一般的であったと考えられる。石材に関しては、2703、2902が箱根烟宿群の黒曜石であり、他は全て天城柏崎群の黒曜石の同一母岩と考えられる。

スクレイバー③



第88図 1-4地点 BB I ~ NL層 出土遺物(4)

## 彫刻刀形石器（第89図 2609）

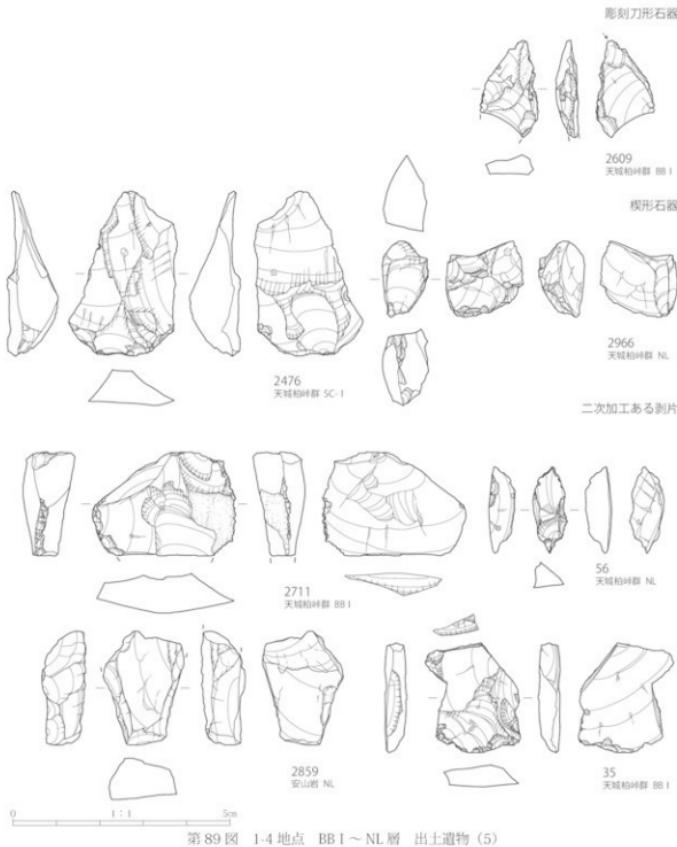
2609は縱長剥片を素材とし、背面に一部自然面を有する。右側縁部に連続する二次加工を施しており、主要剥離面右側にファシットが確認される。器体中央から基部付近を欠損する。

## 模形石器（第89図 2476, 2966）

2点確認された。2476はエンドスクレイバーから模形石器へ転用されたものである。背面には上端部に両極剥離の衝撃による2条の細長い剥離と刃部付近の階段状の微細剥離痕が確認され、主要剥離面には両極剥離による上下方向からの剥離痕が確認される。2966は下端部に衝撃による細かな潰れ状の剥離が確認され、右側縁には衝撃による穂状剥離が確認される。

## 二次加工ある剥片（第89図 35、56、2859、2711）

二次加工ある剥片は、4点確認されている。いずれも複設打面の石核より剥離された剥片の一部に二次加工が施される。35は剥片の末端部に不連続の二次加工が施される。56は剥片の端部付近に細かな二次加工が施される。2711は剥片の左側縁部に細かな二次加工が施される。右側縁部には使用の際に生じた微細な剥離痕が確認される。2859は剥片の両側縁部に主要剥離面方向から粗いプランディング状の急角度を呈する二次加工が施される。ナイフ形石器の基部の可能性も考えられるが、確認がないためここでは二次加工ある剥片としている。

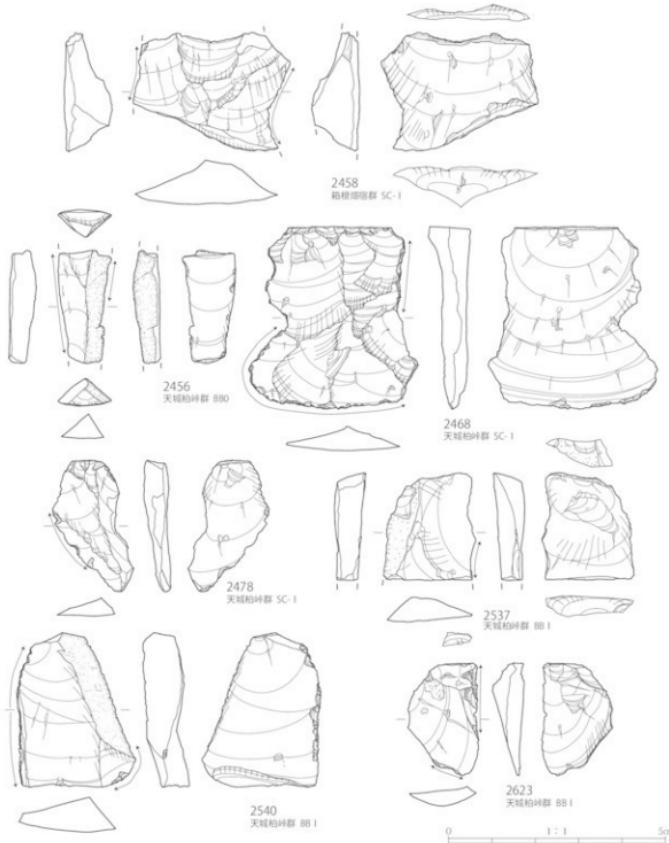


第89図 1-4地点 BB I ~ NL層 出土遺物(5)

使用痕ある剥片（第90・91図 2456、2458、2478、2468、2537、2540、2623 2502、2631、2635、2637、2640、2691、2762）

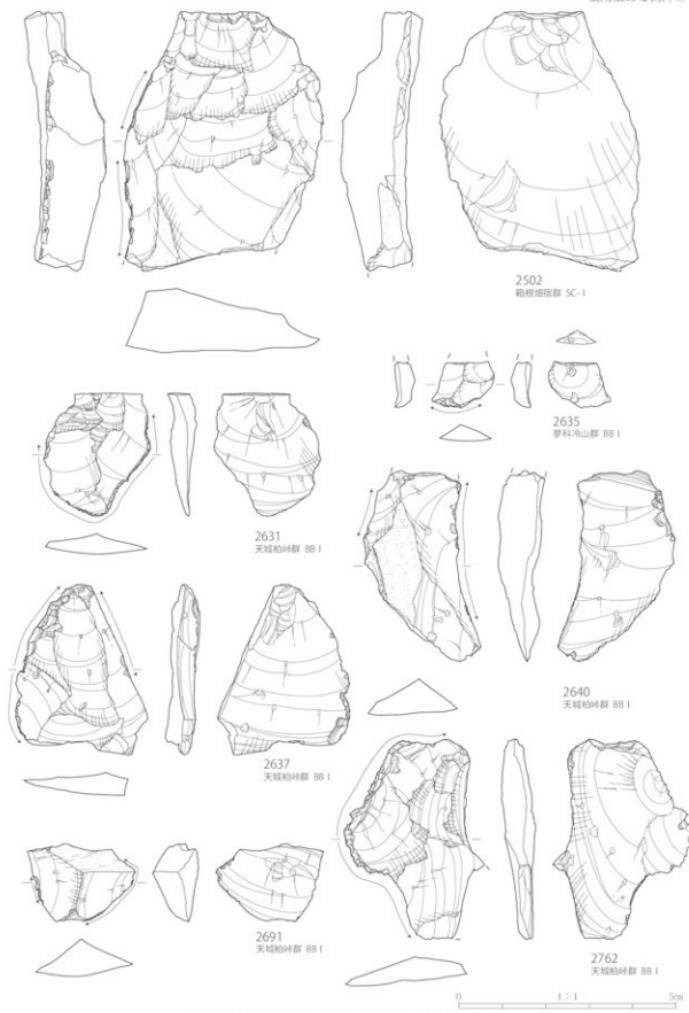
剥片の一部に使用による微細な剥離痕を有するものを分類した。単設打面の石核より剥離されるもの（2458、2478、2631）、両設打面の石核より剥離されるもの（2456）、他は複設打面を持つ石核より剥離されたものである。いずれも剥片の側縁部や端部に微細剥離痕を有する。打面は調整打面を持つものは確認されず。いずれも自然面ないしは平坦な剥離面を打面としている。

使用痕ある剥片①



第90図 1-4地点 BB I～NL層 出土遺物 (6)

使用痕ある剥片②

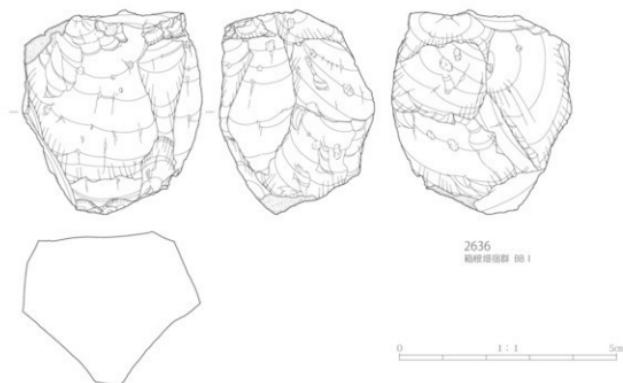


第91図 1-4地点 BB I ~ NL層 出土遺物 (7)

石核（第92図 2636）

複数の打面を持つ石核であり、一部自然面を有する。打面は平坦打面であり、打面調整を行わず、90度の打面の転移を繰り返す。前述した二次加工ある剥片、使用痕ある剥片、後述する剥片の在り方とも符合し、本筋の石器群は打面を転移させながら剥片を獲得するという剥片剥離技術が多用されていたものと考えられる。

石核

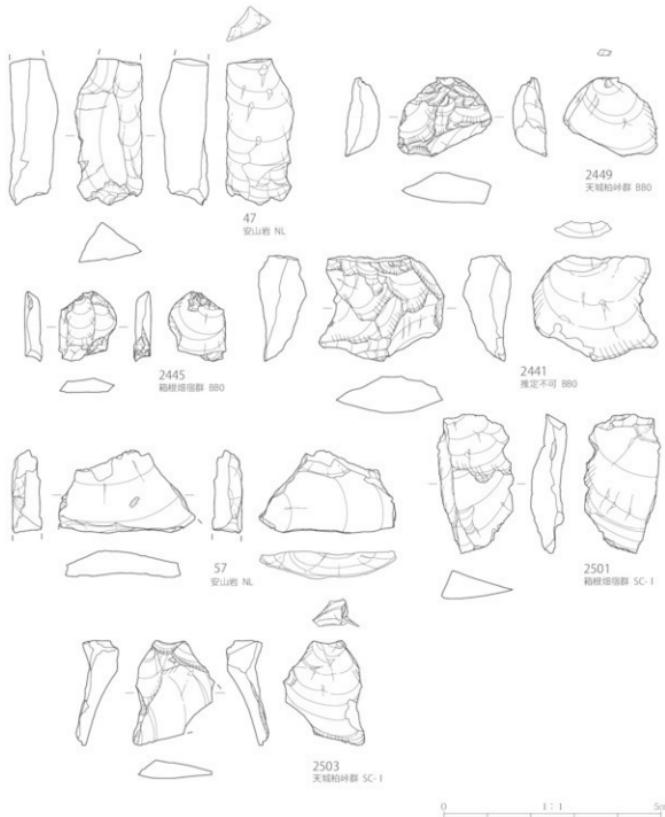


第92図 1-4 地点 BB1～NL層 出土遺物 (8)

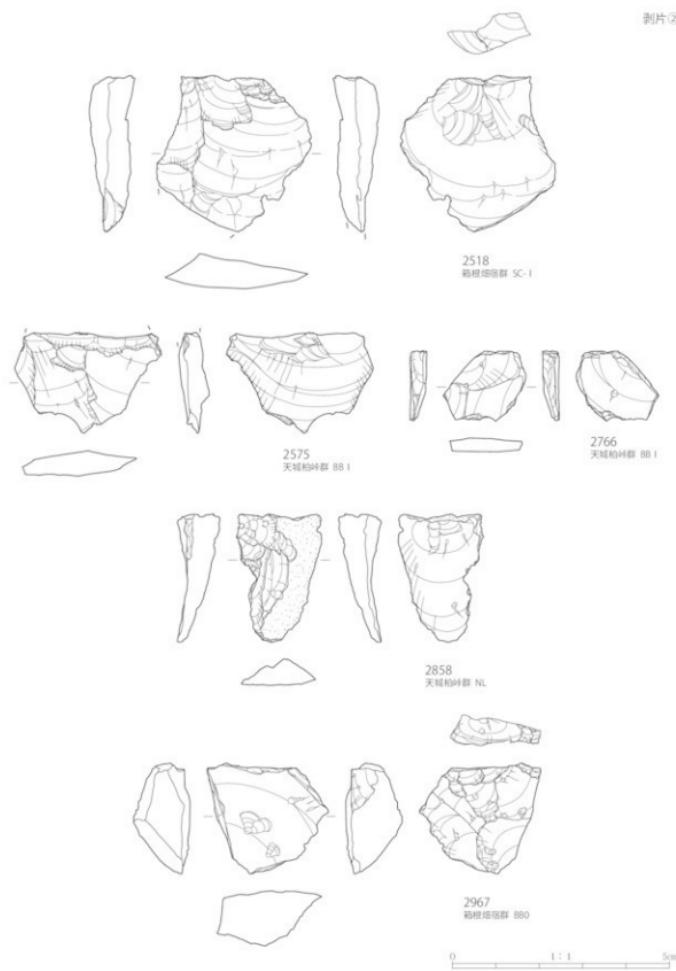
剥片（第93・94図 47、57、2441、2445、2449、2501、2503、2518、2575、2967、2858、2766）

本地点では44点の剥片が出土しており、このうち12点を図示した。このうち、2449はラウンドスクリーパー製作時の調整剥片と考えられる。この調整剥片を除く11点のうち単設打面の石核より剥離されたものは2点（2501、2518）であり、他の9点は複設打面を持つ石核より剥離される。

剥片①



第93図 1-4地点 BB I ~ NL層 出土遺物（9）



第94图 1-4地点 BB I ~ NL层 出土遗物 (10)

## (2) 接合資料

本調査地点で確認された接合資料は、8個体である。以下に詳述する。

## 接合資料 No.7 (第95図 2539、2651)

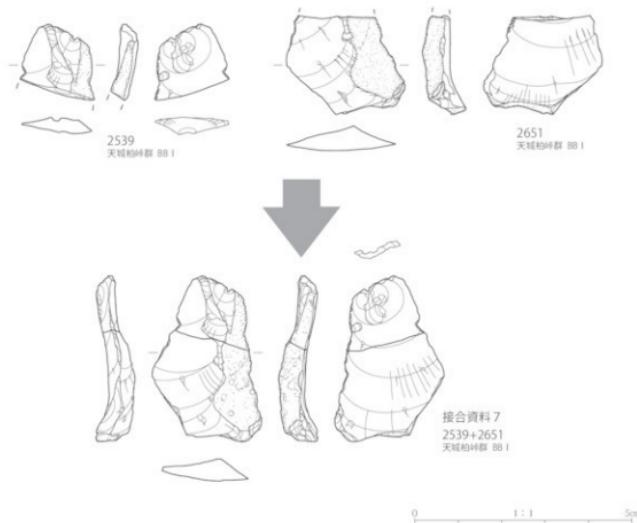
第2ブロックより出土した剥片同士の接合資料である。背面構成から単設打面の石核から剥離される。右側縁部は自然面を有する。石材は天城柏岬群の黒曜石である。

## 接合資料 No.8 (第96図 2602、2691)

第3ブロックより出土した剥片と使用痕ある剥片の接合資料である。背面構成から複設打面の石核から剥離され、背面には自然面を有する。折れ面の観察から剥片剥離時の同時割れによって折損している。

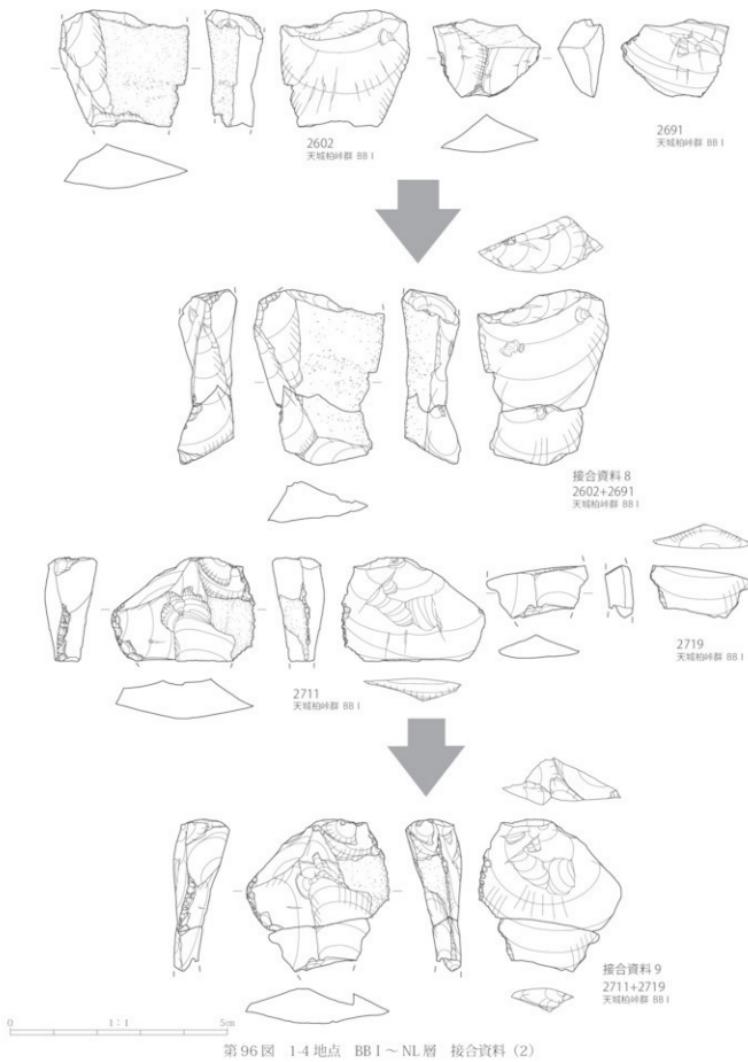
## 接合資料 No.9 (第96図 2711、2719)

第3ブロックより出土した剥片と使用痕ある剥片の接合資料である。背面構成から複設打面の石核から剥離され、背面には自然面を有する。折れ面の観察から折断調整ではなく、剥片剥離時の偶発的な同時割れによって折損したものと考えられる。



第95図 1-4地点 BB I ~ NL層 接合資料(1)

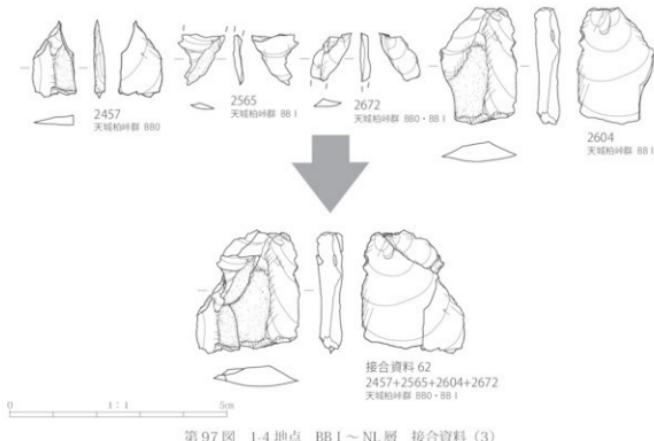
第5章 1-4地点



第96圖 1-4 地點 BB I ~ NL 層 接合資料 (2)

## 接合資料 No.62 (第97図 2457、2565、2604、2672)

第3ブロックより出土した剥片2点と碎片の接合資料である。背面構成から複設打面の石核から剥離される。背面には自然面を有し、折れ面の観察から剥片剥離時の偶発的な同時割れによって折損している。



第97図 1-4地点 BB1～NL層 接合資料(3)

## 接合資料 No.63 (第98図 39、44、2455)

第3ブロックより出土したラウンドスクレイパー、未製品、刃部調整片の接合資料である。複設打面の石核から剥離される粒状剥片を素材とする。打面は自然面の平坦打面であり、剥片中央部で折断調整を行った後、2455は全周に二次加工を施しスクレイパーエッジを作出する。39は左側縁部に二次加工が施されしており、折れ面との関係から製作途中のものと考えられる。

## 接合資料 No.64 (第99図 2608、2770、2773)

第3ブロックより出土した剥片1点と碎片2点の接合資料である。背面は自然面であり、剥片剥離の際の衝撃で同時割れを起こしたものと考えられる。

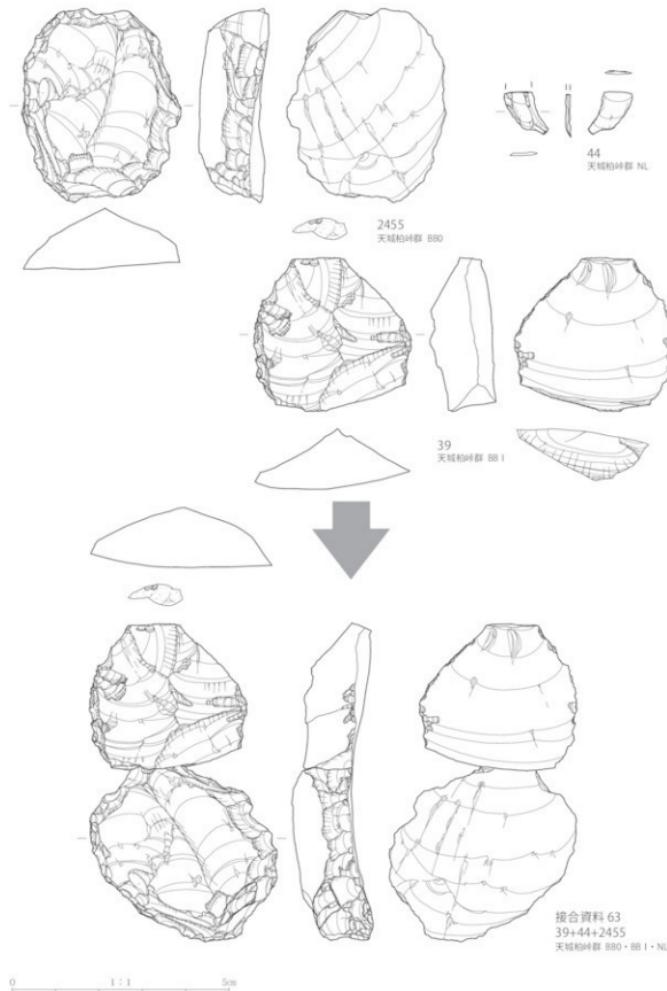
## 接合資料 No.85 (第99図 2564、2574)

第3ブロックより出土したラウンドスクレイパーと刃部調整片1点の接合資料である。2574の主要剥離面左側には調査時の欠損が確認される。刃部の作出は主要剥離面方向より行われ、刃部は急角度を呈する。

## 接合資料 No.86 (第100図 2710、2823)

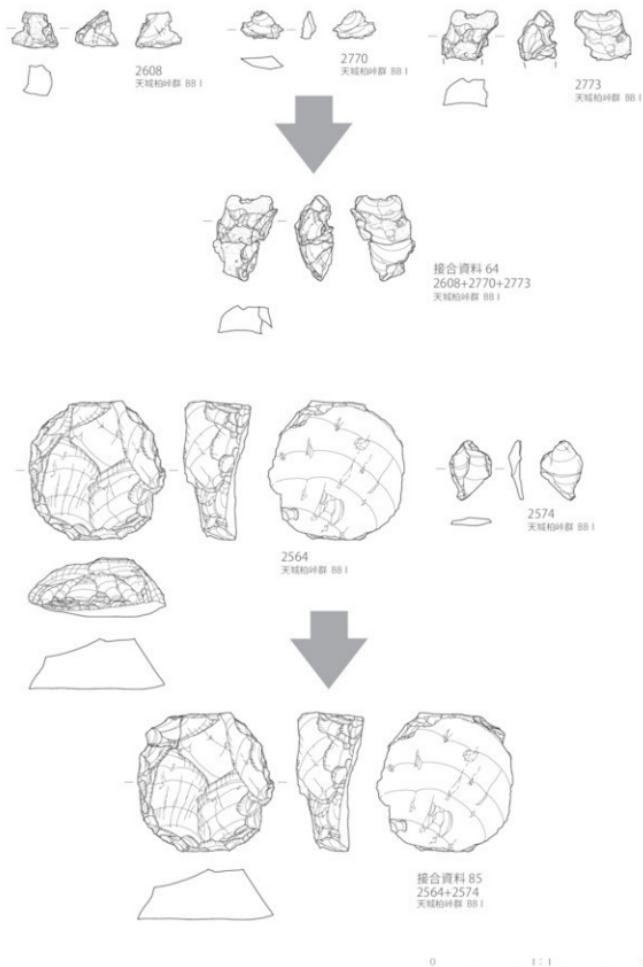
第3ブロックより出土したラウンドスクレイパーと刃部調整片1点の接合資料である。刃部の作出は主要剥離面方向より行われ、刃部はやや急角度を呈する。

第5章 1-4地点

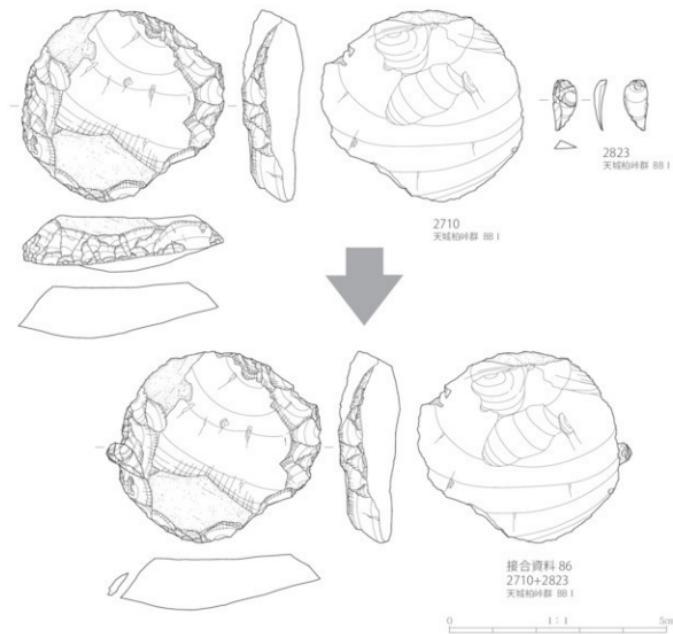


第98圖 1-4 地點 BB I ~ NL 層 接合資料 (4)

第5章 1-4地点



第99圖 1-4地点 BB I ~ NL層 接合資料 (5)



第100図 1-4地点 BB I～NL層 接合資料 (6)

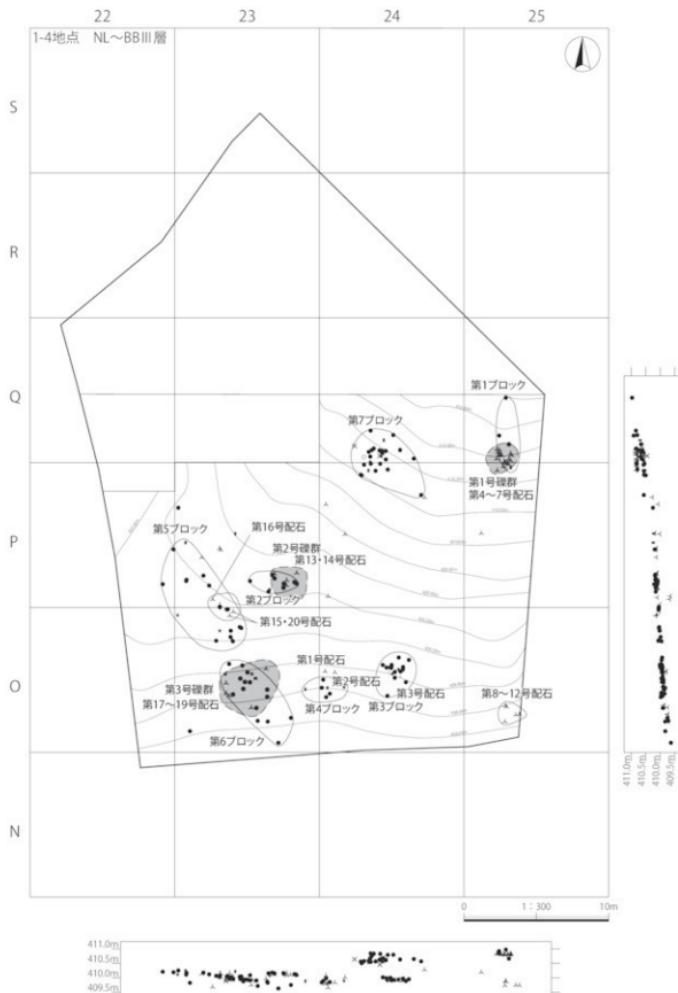
### 第3節 NL～BBⅢ層の遺構・遺物

前述した通り、本地点の南部では耕作による土層の乱れが確認され、西端部付近は耕作土直下がBB I層下部～NL層となっており、遺物検出層位の認証が確認されていたが、調査図面や調査写真、調査所見の精査、整理作業における接合作業等を行った結果、BB I～NL層とNL～BBⅢ層に分離できた。ここではNL～BBⅢ層に分布する石器群と遺構について記載する。

#### 1. 検出された遺構

本地点のNL～BBⅢ層にかけて、133点の石器が出土し、このうち130点が7箇所の石器ブロックとして確認された。また、砾群は3基検出されており、石器ブロックとほぼ同位置で重複する。配石は石器ブロックと重複する配石3基、砾群と重複する配石が9基、配石のみが7基検出されている。以下に各遺構を詳述する。

第5章 1-4地点



第101図 1-4地点 NL～BB III層 全体図

## (1) 石器ブロック

前述のように NL～BBⅢ層にかけて、133点の石器が出土し、このうち130点が7箇所の石器ブロックとして確認された。これらの石器ブロックでは、YL層準、BBⅠ～NL層の石器群と比べ安山岩、ホルンフェルスの検出数が増加し、石材の選択性に大きな変化が認められる。

## 第1ブロック（第102図）

本ブロックは、調査区東部のP・Q-25グリッドで確認されている。第1号礫群、第4～7号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸3.68m、短軸0.64mである。垂直分布は、標高410.32～410.94m、比高差は0.62mである。出土層位はBBⅡ、SC-Ⅲb2層であり、BBⅡ層に垂直分布が集中する。出土石器は二次加工ある剥片1点、剥片3点の合計4点である。接合資料は無い。

## 第2ブロック（第102図）

本ブロックは、調査区中央部南側のP-23グリッドで確認されている。第2号礫群、第13～14号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸3.21m、短軸1.18mである。垂直分布は、標高409.16～409.36m、比高差は0.20mである。出土層位はBBⅢ層である。出土石器は、すべて安山岩であり、石核1点、剥片8点の合計9点である。接合資料は3個体確認され、接合資料12では剥片2点が接合する。接合資料14では剥片2点が接合する。接合資料17では石核と剥片が接合する。

## 第3ブロック（第102図）

本ブロックは、調査区南部のO-24グリッドで確認されている。第3号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸2.88m、短軸1.98mである。垂直分布は、標高408.77～409.03m、比高差は0.26mである。出土層位はBBⅡ、BBⅢ層であり、BBⅢ層に垂直分布が集中する。出土石器は、すべてホルンフェルスの同一母岩と考えられ、石核1点、二次加工ある剥片1点、剥片14点、碎片4点の合計20点である。接合資料は1個体確認され、接合資料15では二次加工ある剥片と剥片が接合する。

第34表 1-4地点NL～BBⅢ層 石材器種組成表

	青 白 相 互 通 用 器 群	天 然 石 器 群	黄 金 産 地 石 群	赤 シ ン ジ カル ス	黒 色 要 素 石 器 群	安 山 岩 器 群	特 異 質 石 器 群	合 計
ナイフ形石器				1				1
二次加工ある剥片		3		3	4	1	11	
使用痕ある剥片	1							1
剥片	1	9	1	27	40	4	82	
碎片	1	10	5	10	2		28	
石核				6	3			9
敲石	2	23	6	47	49	1	5	133
合計								

第35表 1-4地点第1ブロック 石材器種組成表

	天 然 石 器 群	赤 シ ン ジ カル ス	黒 色 要 素 石 器 群	合 計
二次加工ある剥片				1
剥片	1	2		3
合計	1	2	1	4

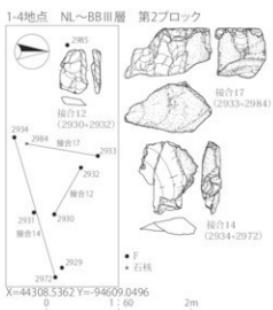
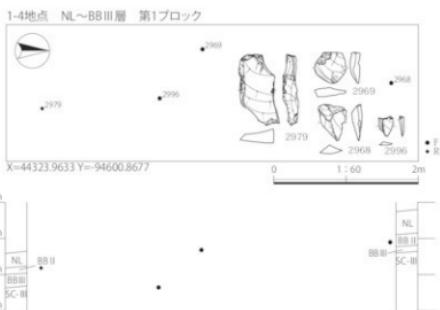
第5章 1-4地点

第36表 1-4 地点第2ブロック 石材器種組成表

	黑色安山岩	合計
剥片	8	8
石核	1	1
合計	9	9

第37表 1-4 地点第3ブロック 石材器種組成表

	ホルンブッシュ	合計
二次加工ある剝片	1	1
剝片	14	14
碎片	4	4
石核	1	1
合計	20	20



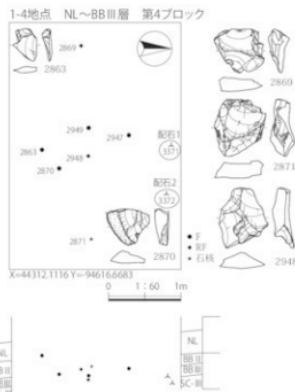
第102図 1-4地点 NL～BBⅢ層 第1・2・3ブロック遺物分布図

## 第4 ブロック（第103図）

本ブロックは、調査区南部のO-23・24グリッドで確認されている。第1・2号配石と本ブロックの外縁部が重複する。石器分布範囲の規模は、長軸2.67m、短軸1.21mである。垂直分布は、標高408.62～408.96m、比高差は0.34mである。出土層位はNL～BBⅢ層であり、BBⅢ層に垂直分布が集中する。出土石器は、石核1点、二次加工ある剝片2点、剝片4点の合計7点である。すべてホルンフェルスの同一母岩と考えられるが、接合資料は無い。

第38表 1-4 地点第4ブロック 石材器種組成表

	ホルンフェルス	合計
二次加工ある剝片	2	2
剝片	4	4
石核	1	1
合計	7	7



第103図 1-4 地点 NL～BBⅢ層 第4ブロック、第1・2号配石遺物分布図

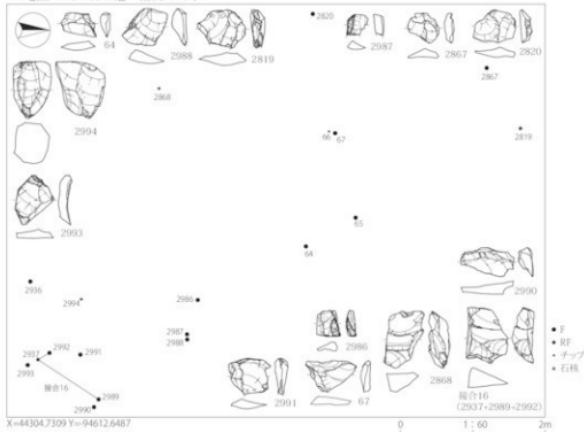
## 第5ブロック（第104図）

本ブロックは、調査区西部のO-23、P-22・23グリッドで確認されている。第15・16号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸7.55m、短軸3.15mである。垂直分布は、標高408.91～409.48m、比高差は0.57mである。遺物の取り上げ層位はBBⅡ～SC-Ⅲb2層とあるが、これは本来BBⅡ～BBⅢ層下部の遺物と考えられる。遺物はBBⅢ層に垂直分布が集中する。出土石器は、石核2点、二次加工ある剥片2点、剥片14点、碎片1点の合計19点である。接合資料は2個体確認され、接合資料16は本ブロックの二次加工ある剥片と剥片が接合する。接合資料18は本ブロックの剥片とブロック外の二次加工ある剥片が接合する。

第39表 1-4地点第5ブロック 石材器種組成表

種類 未確認 不明	ホル ブル エ ス ル 入 化 入	東 北 安 山 岩	合 計
二次加工ある剥片		2	2
剥片	1	13	14
碎片		1	1
石核		1	2
合計	1	17	19

1-4地点 NL～BBⅢ層 第5ブロック



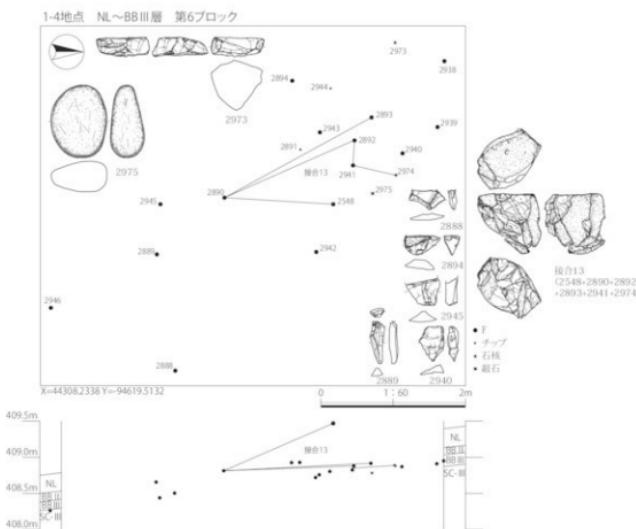
第104図 1-4地点 NL～BBⅢ層 第5ブロック遺物分布図

## 第6ブロック（第105図）

本ブロックは、調査区南部の0-23グリッドで確認されている。第3号礫群、第17～19号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 6.42m、短軸 2.38m である。垂直分布は、標高 408.26～409.40m、比高差は 1.14m である。出土層位は BB1～BB3Ⅲ層である。遺物は BB3Ⅲ層に垂直分布が集中する。出土石器は、敲打石 1 点、石核 1 点、剥片 15 点、碎片 2 点、二次加工ある剥片 1 点の合計 20 点である。接合資料は 1 個体確認され、接合資料 13 は石核と剥片 5 点が接合する。

第40表 1-4 地点第6ブロック 石材器種組成表

	未シルフタル 化アクリル	東南安山岩	安山岩	珪藻土	合計
二次加工ある割片	1				1
剥片	14			1	15
鉢片	1	1			2
石核		1			1
剥石			1		1
合計	1	17	1	1	20



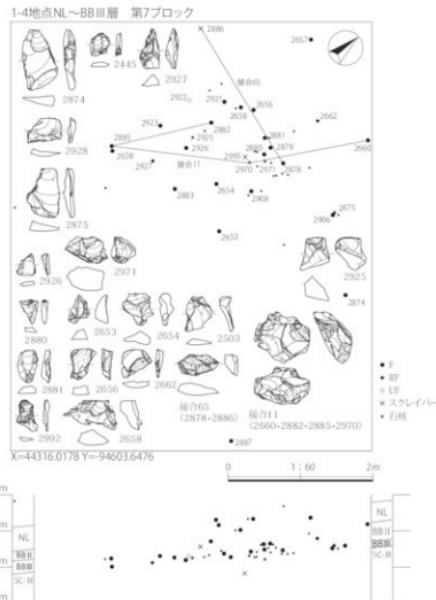
第105図 1-4地点 NL～BBⅢ層 第6ブロック遺物分布図

## 第7ブロック（第106図）

本ブロックは、調査区中央部のP・Q-24 グリッドで確認されている。石器分布範囲の規模は、長軸 6.46m、短軸 3.73m である。垂直分布は、標高 409.91 ~ 410.83m、比高差は 0.92m である。出土層位は BB I ~ SC III 層である。遺物は BB II 層下部 ~ BB III 層に垂直分布が集中する。出土石器は、ナイフ形石器 1 点、二次加工ある剝片 4 点、使用痕ある剝片 1 点、石核 3 点、剥片 21 点、碎片 21 点の合計 51 点である。接合資料は 2 個体確認され、接合資料 11 は石核と剝片 3 点が接合する。接合資料 65 は剝片 2 点が接合する。

第41表 1-4地点第7ブロック 石材器種組成表

	直 角 形 石 器	天 然 石 核	原 始 石 器	ホ ル ン ブ ル ス	集 魚 型 石 器	其 他 石 器	合 計
ナイフ形石器				1			1
二次加工ある剝片	3				1	4	
使用痕ある剝片	1					1	
剝片	1	8	7	2	3	21	
碎片	1	10	5	5		21	
石核				3		3	
合計	2	22	5	16	2	4	51



第106図 1-4地点 NL ~ BB III層 第7ブロック遺物分布図

### (2) 碓群

検出された碓群はすべて石器ブロック、配石と重複した検出状況を呈する。また、第2・3号碓群は碓群の基準となる4点以上に満たない碓の構成数であるが、配石との関連性を窺うためここでは碓群として分類している。

#### 第1号碓群（第107図）

本碓群は、調査区東部のP・Q-25 グリッドで確認されている。碓群の規模は長軸 1.50m、短軸 1.29m、碓の分布状況は、第1ブロックとほぼ同位置に碓が集中する。また、本碓群の中心付近に第4～7号配石が検出されている。垂直分布は標高 410.60～410.71m であり、比高差は 0.11m である。出土層位は BB II 層である。構成する碓は 13 点であり、総重量は 5,250g を測る。7 点に被熱の痕跡が認められ、被熱した 7 点のうち 1 点に煤状付着物が確認される。また、碓群周辺に 15 点の炭化物が確認されている。

#### 第2号碓群（第107図）

本碓群は、調査区中央部南側のP-23 グリッドで確認されている。構成する碓は 3 点であるが、第13・14号配石、第2ブロックとの関連性が窺われることから碓群と認定した。碓群の規模は長軸 2.00m、短軸 0.24m、碓の分布状況は、第2ブロックとほぼ同位置に碓が集中し、第13・14号配石が隣接する。垂直分布は標高 409.22～409.34m であり、比高差は 0.12m である。出土層位は BB III 層である。構成する碓は 3 点であり、総重量は 603g を測る。3 点すべてに被熱の痕跡が認められた。

#### 第3号碓群（第108図）

本碓群は、調査区南部のO-23 グリッドで確認されている。構成する碓は 2 点であるが、第17～19号配石、第6ブロックとの関連性が窺われることから碓群と認定した。碓群は 2 点の碓が約 3.2m 離れて分布しており、碓は第6ブロックの外縁付近で重複する。垂直分布は標高 408.77～408.96m であり、比高差は 0.19m である。出土層位は BB II～BB III 層である。構成する碓は 2 点であり、総重量は 624g を測る。このうち 1 点に被熱の痕跡が認められた。

### (3) 配石

配石は 20 基確認されている。石器ブロックと重複するもの、碓群と重複するもの、両者と重複するもの、単独のものがある。また、配石が 5 基集中して検出される例もあり、被熱の痕跡を有するものが多いことから、これら配石は碓群構成としての機能を有していた可能性がある。また、第15号配石は重量が 843g と本来は碓群構成としてるべきであるが、被熱の痕跡が無く、第16・20号配石と隣接して検出されることからここでは配石としている。

#### 第1号配石（第103図）

第1号配石は、調査区南部のO-24 グリッドで確認されている。第4ブロックと北側外縁付近で重複し、第2号配石と 0.65m 離れた距離で東西方向に並ぶように検出された。出土層位は BB III 層である。出土レベルは標高 408.58m である。碓は重量 4,750g の亜円形であり、被熱の痕跡が認められる。

第5章 1-4地点



第42表 1-4地点砾群·配石組成表

	長軸 m	短軸 m	種類 數	絶対面積 g	被 認定 面積
第1号砾群	1.50	1.29	13	5,250	7
第2号砾群	2.00	0.24	3	603	3
第3号砾群	2	624	1		
第1号配石	1	4,750	1		
第2号配石	1	4,400			
第3号配石	1	7,150			
第4号配石	1	1,091	1		
第5号配石	1	2,398	1		
第6号配石	1	2,384	1		
第7号配石	1	2,570	1		
第8号配石	1	1,286	1		
第9号配石	1	908	1		
第10号配石	1	1,445	1		
第11号配石	1	1,498	1		
第12号配石	1	1,445			
第13号配石	1	2,693			
第14号配石	1	4,500	1		
第15号配石	1	843			
第16号配石	1	2,900			
第17号配石	1	5,100			
第18号配石	1	1,016	1		
第19号配石	1	1,877			
第20号配石	1	8,500			

**第2号配石（第103図）**

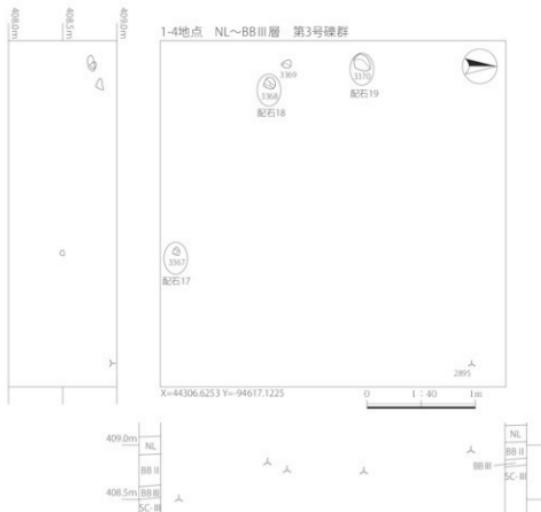
第2号配石は、調査区南部のO-24 グリッドで確認されている。第4ブロックと北側外縁付近で重複し、第1号配石と0.65m離れた距離で東西方向に並ぶように検出された。出土層位はBBⅢ層である。出土レベルは408.68mである。礫は重量4.400gの亜角礫である。

**第3号配石（第102図）**

第3号配石は、調査区南部のO-24 グリッドで確認されている。第3ブロックの中央部付近で検出された。出土層位はBBⅢ層である。出土レベルは408.83mである。礫は重量7.150gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められないが、配石の周囲には炭化物の分布が確認される。炭化物は3号配石を中心として約0.5mの範囲内に8点が分布する。

**第4号配石（第107図）**

第4号配石は、調査区東部のP-25 グリッドで確認されている。第1号礫群と重複しており、第4～7号配石が礫群の中央部付近で並ぶように検出された。礫の分布状況は、東西約0.91m、南北方向0.32mの範囲に4基の配石が集中する。出土層位はBBⅢ層である。出土レベルは標高410.63mである。礫は重量1.091gの亜角礫であり、被熱の痕跡が認められる。第1号礫群との関連が窺われる。



第108図 1-4地点 NL～BBⅢ層 第3号礫群、第17～19号配石遺物分布図

#### 第5号配石（第107図）

第5号配石は、調査区東部のQ-25 グリッドで確認されている。第1号礫群と重複しており、第4～7号配石が礫群の中央部付近で並ぶように検出された。出土層位はBBIII層である。出土レベルは標高410.61mである。礫は重量2,398gの板状礫であり、被熱の痕跡が認められる。第1号礫群との関連が窺われる。

#### 第6号配石（第107図）

第6号配石は、調査区東部のQ-25 グリッドで確認されている。第1号礫群と重複しており、第4～7号配石が礫群の中央部付近で並ぶように検出された。出土層位はBBIII層である。出土レベルは標高410.59mである。礫は重量2,384gの円礫であり、被熱の痕跡が認められる。第1号礫群との関連が窺われる。

#### 第7号配石（第107図）

第7号配石は、調査区東部のQ-25 グリッドで確認されている。第1号礫群と重複しており、第4～7号配石が礫群の中央部付近で並ぶように検出された。出土層位はBBIII層である。出土レベルは標高410.67mである。礫は重量2,570gの円礫であり、被熱の痕跡が認められる。1号礫群との関連が窺われる。

#### 第8号配石（第107図）

第8号配石は、調査区南東端部のO-25 グリッドで確認されている。第8～12号配石が約1mの範囲に集中して分布する。出土層位はBBIII層である。出土レベルは標高408.79mである。礫は重量1,286gの亜角礫であり、被熱の痕跡が認められる。また、集中する5基の配石のうち第12号配石を除く4基に被熱の痕跡が確認され、礫群礫としての機能を有していた可能性も考えられる。

#### 第9号配石（第107図）

第9号配石は、調査区南東端部のO-25 グリッドで確認されている。第8～12号配石が約1mの範囲に集中して分布する。出土層位はBBIII層である。出土レベルは標高408.74mである。礫は重量908gの亜角礫であり、被熱の痕跡が認められ、礫群礫としての機能を有していた可能性も考えられる。

#### 第10号配石（第107図）

第10号配石は、調査区南東端部のO-25 グリッドで確認されている。第8～12号配石が約1mの範囲に集中して分布する。出土層位はBBIII層である。出土レベルは標高408.49mである。礫は重量1,445gの亜角礫であり、被熱の痕跡が認められ、礫群礫としての機能を有していた可能性も考えられる。

#### 第11号配石（第107図）

第11号配石は、調査区南東端部のO-25 グリッドで確認されている。第8～12号配石が約1mの範囲に集中して分布する。出土層位はBBIII層である。出土レベルは標高408.50mである。礫は重量1,498gの亜角礫であり、被熱の痕跡が認められ、礫群礫としての機能を有していた可能性も考えられる。

#### 第12号配石（第107図）

第12号配石は、調査区南東端部のO-25 グリッドで確認されている。第8～12号配石が約1mの範囲に集中して分布する。出土層位はBBIII層である。出土レベルは標高408.47mである。礫は重量1,445gの

亜角礫である。集中する5基の配石の中で唯一被熱の痕跡が認められない。

**第13号配石（第107図）**

第13号配石は、調査区中央部南側のP-23グリッドで確認されている。第2号礫群の中央付近に位置し、第14号配石と約0.9m離れた距離で検出された。出土層位はBBⅢ層である。出土レベルは標高409.17mである。礫は重量2,693gの亜円礫である。

**第14号配石（第107図）**

第14号配石は、調査区中央部南側のP-23グリッドで確認されている。第2号礫群の外縁付近に位置し、第13号配石と約0.9m離れた距離で検出された。出土層位はBBⅢ層である。出土レベルは標高409.17mである。礫は重量4,500gの亜円礫であり、被熱の痕跡が認められる。

**第15号配石（第107図）**

第15号配石は、調査区南西部のP-23グリッドで確認されている。第5ブロックの中心に位置し、第16号配石と約1m離れた距離で検出された。出土層位はBBⅢ層である。出土レベルは標高409.05mである。礫は重量843gの亜円礫である。

**第16号配石（第107図）**

第16号配石は、調査区南西部のO-23グリッドで確認されている。第5ブロックの外縁付近に位置し、第15号配石と約1m離れた距離で検出された。出土層位はBBⅢ層である。出土レベルは標高409.08mである。礫は重量2,900gの板状礫である。

**第17号配石（第108図）**

第17号配石は、調査区南西部のO-23グリッドで確認されている。第3号礫群、第6ブロックの外縁付近に位置し、第18号配石と約1.7m離れた距離で検出された。出土層位はBBⅢ層である。出土レベルは標高408.51mである。礫は重量5,100gの円礫である。

**第18号配石（第108図）**

第18号配石は、調査区南西部のO-23グリッドで確認されている。第3号礫群、第6ブロックの外縁付近に位置し、第19号配石と約0.9m離れた距離で検出された。出土層位はBBⅢ層である。出土レベルは標高408.85mである。礫は重量1,016gの亜角礫であり、被熱の痕跡が認められる。

**第19号配石（第108図）**

第19号配石は、調査区南西部のO-23グリッドで確認されている。第3号礫群、第6ブロックの外縁付近に位置し、第18号配石と約0.9m離れた距離で検出された。出土層位はBBⅢ層である。出土レベルは標高409.76mである。礫は重量1,877gの亜角礫である。

**第20号配石（第107図 2705）**

第20号配石は、調査区南西部のO-23グリッドで確認されている。第5ブロックの外縁付近に位置し、

第15号配石と約0.4m離れた距離で検出された。出土層位はBBⅠ層であるが、本来はNL層下部～BBⅡ層と考えられる。出土レベルは標高409.34mである。礫は重量8.500gの亜角礫である。

## 2. 出土遺物

本調査地点のNL～BBⅢ層で確認された石器は、第1～7ブロックで出土した130点と散在的に確認された3点の計133点で構成される。ここでは出土した石器を器種毎に記載していく。

### (1) 石器

前述の通り、本調査地点で確認された石器は、第1ブロックから第7ブロックの129点、散在的に出土した4点の計133点で構成されている。これらの器種の内訳は、ナイフ形石器1点、石核9点、敲石1点、二次加工ある剥片11点、使用痕ある剥片1点、剥片82点、碎片28点である。また、接合資料は8個体確認されている。以下では、各器種の特徴を把握しながら、石器群の様相を捉えていきたい。

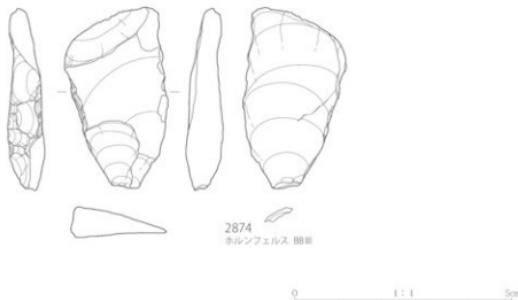
#### ナイフ形石器

本遺跡では第I群：二側縁加工のもの、第II群：一側縁加工のもの、第III群：欠損の形態不明のものの3群に分類しており、NL～BBⅢ層では第II群のナイフ形石器が1点出土している。

#### 第II群 b類（第109図 2874）

ナイフ形石器で大きさが3cm以上5cm以下の中型のものを本類とした。一側縁加工のナイフ形石器である。複設打面の石核から剥離された縱長剥片を素材としており、打点部を基部方向へ用いる。左側縁部には背面、主要剥離面の二方向からプランティングが施されており、プランティングは急角度を呈する。

ナイフ形石器



第109図 1-4地点 NL～BBⅢ層 出土遺物（1）

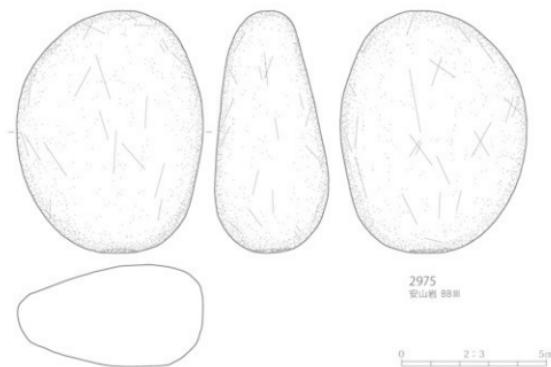
敲石（第110図 2975）

第6ブロックから出土している。上下端部に敲打痕が確認される。表、裏面には弱い線状痕が認められる。

二次加工ある剥片（第111～114図 2662、2819、2869、2875、2927、2948、2958、2995、2937、2979、2973）

二次加工ある剥片は、11点確認されている。いずれも剥片の一部に二次加工が施されており、これらの剥片剥離技術をみると、単設打面の石核より剥離されるものや両設打面の石核より剥離されるものは確認されず、複設打面の石核より剥離されたもの（2662、2875、2927、2958、2937、2973、2979、2995）、求心的な剥片剥離が行われたもの（2819、2869、2948）がある。

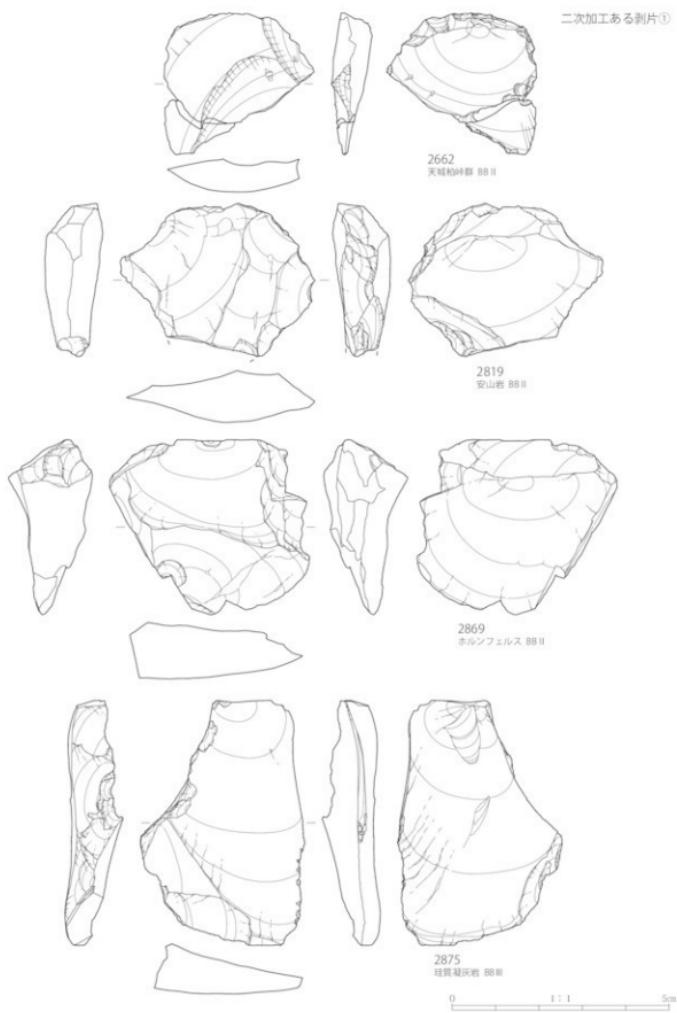
敲石



第110図 1-4 地点 NL～BB層 出土遺物 (2)

第5章 1-4地点

二次加工ある剝片①

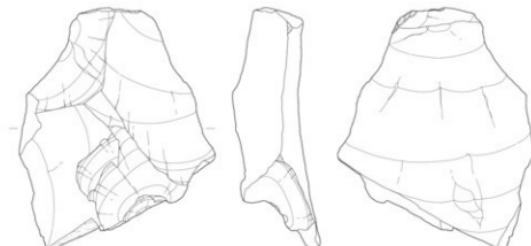


第111図 1-4地点 NL ~ BBⅢ層 出土遺物 (3)

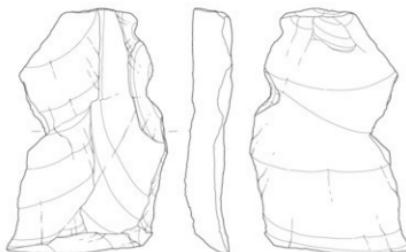
二次加工ある剥片③



2927  
天城相模群 BBⅢ



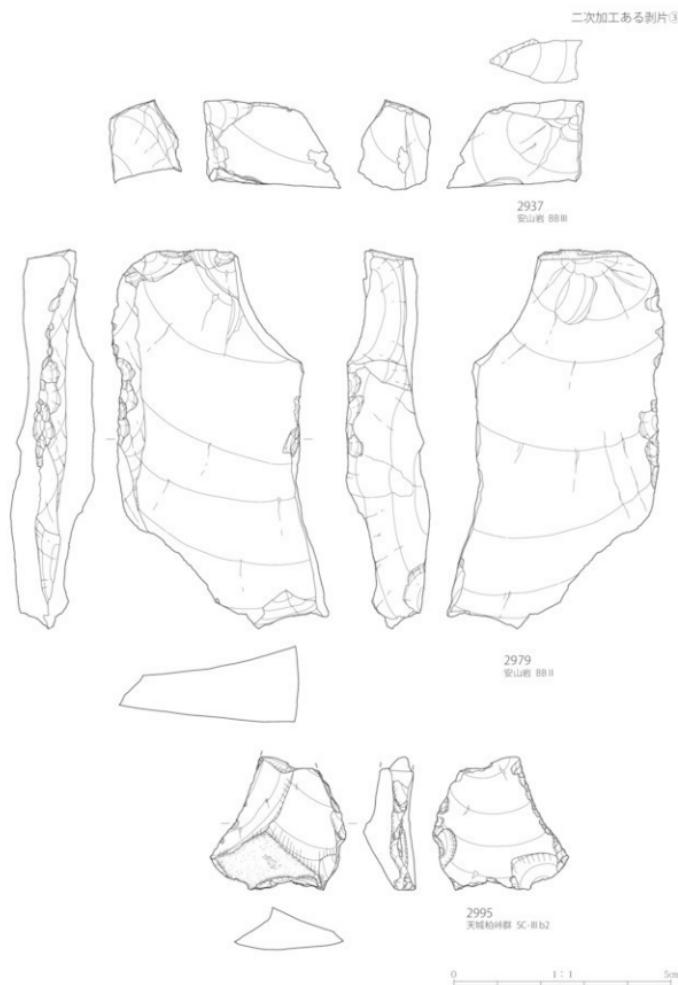
2948  
ホルンフェルス BBⅢ



2958  
ホルンフェルス BBⅢ



第112図 1-4 地点 NL ~ BBⅢ層 出土遺物 (4)

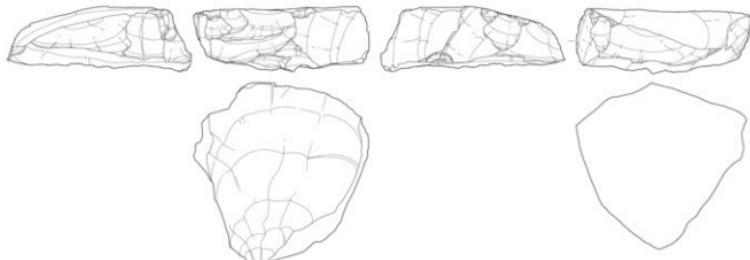


第113図 1-4地点 NL ~ BBⅢ層 出土遺物(5)

使用痕ある剥片（第114図 2922）

1点確認されている。複設打面を持つ石核より剥離された剥片の右側縁部に使用の際に生じた剥離痕が観察される。

二次加工ある剥片④



0 2:3 5mm

使用痕ある剥片



0 1:1 5mm

第114図 1-4 地点 NL ~ BB層 出土遺物 (6)

### 石核

本地点では9点出土している。石核はa類: 単設打面で剥片剥離方向が一方向に限定されるもの、b類: 両設の打面を持つもので、180度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が180度異なるもの、c類: 複設の打面を持つもので90度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が90度異なるもの、d類: 求心的な剥片剥離が行われているものの4類に大別される。本調査地点ではb類が2点、c類が7点出土している。以下に詳述していく。

#### b類: (第115図 2974、第116図 2984)

両設の打面を持つ石核であるが、厳密な180度の打面転移ではない事をはじめにお断りしておきたい。いずれの石核も自然面の平坦面を打面としており、打面の調整は認められない。石材はいずれも安山岩であるが、粗粒の安山岩であり、剥片剥離が進んでいない状況で廃棄されたものと考えられる。

#### c類: (第117～119図)

複設の打面を持つもので90度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が90度異なるものの中で、全長が5cm以下のものをc-1類として、5cmを超えるものをc-2類として分類した。

#### c-1類: (第117図 2925、2955、2971)

全てホルンフェルスであり、2925、2955は剥片素材、2971は円盤素材である。2925、2955は石核というよりは残核という方が正確であろう。

#### c-2類: (第118・119図 2868、2871、2994、2970)

2868は頻繁な打面転移を繰り返して剥片を剥離する。2871は表面、裏面の剥離方向が90度転位する。2970は第7ブロックから出土した剥片3点と接合する。剥離方向を90度転移させながら剥片剥離を行う。2994は下端に一部自然面を有しており、縦長剥片を意識的に剥離する。

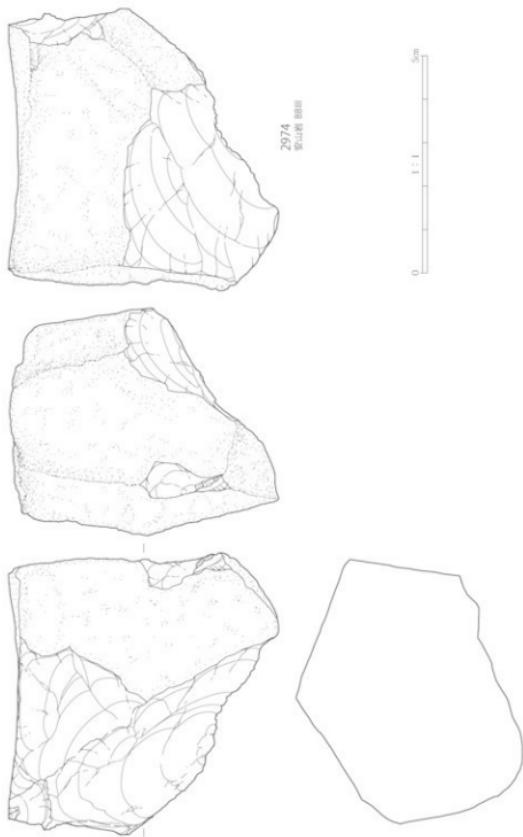
### 剥片 (第120～130図 64～2977)

剥片は82点出土しているが、このうちの55点をここで図示した。背面構成、主要剥離面の観察から、単設打面の石核より剥離されたもの5点(2866、2887、2940、2956、2969)、両設打面の石核より剥離されたもの4点(2926、2965、2881、2985)、他の46点は複設打面の石核より剥離されたものである。

打点部の残存するものでは、打面調整されるものはわずか4点(2880、2961、2968、2996)であり、他はすべて自然面や平坦な剥離面を利用した平坦打面である。

本層準の剥片は、剥離方向が90度異なるものが数量的に最も多く、前述の石核においても複設打面の石核が多数を占める。本層準では、複数の剥片剥離技術が認められているが、90度の打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行う剥片剥離技術に高く依存していることが理解される。

石核 b 類①



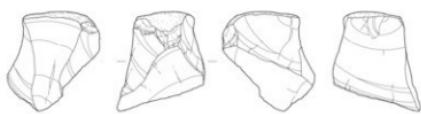
第115圖 1-4 地點 NL ~ BB層 出土遺物 (7)

第5章 1-4地点

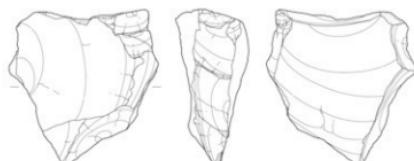


第116図 1-4地点 NL～BBⅢ層 出土遺物(8)

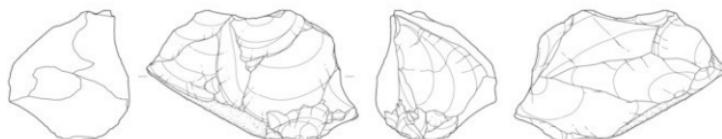
石核c類①



2925  
ホルンフェルス BBIII



2955  
ホルンフェルス BBIII

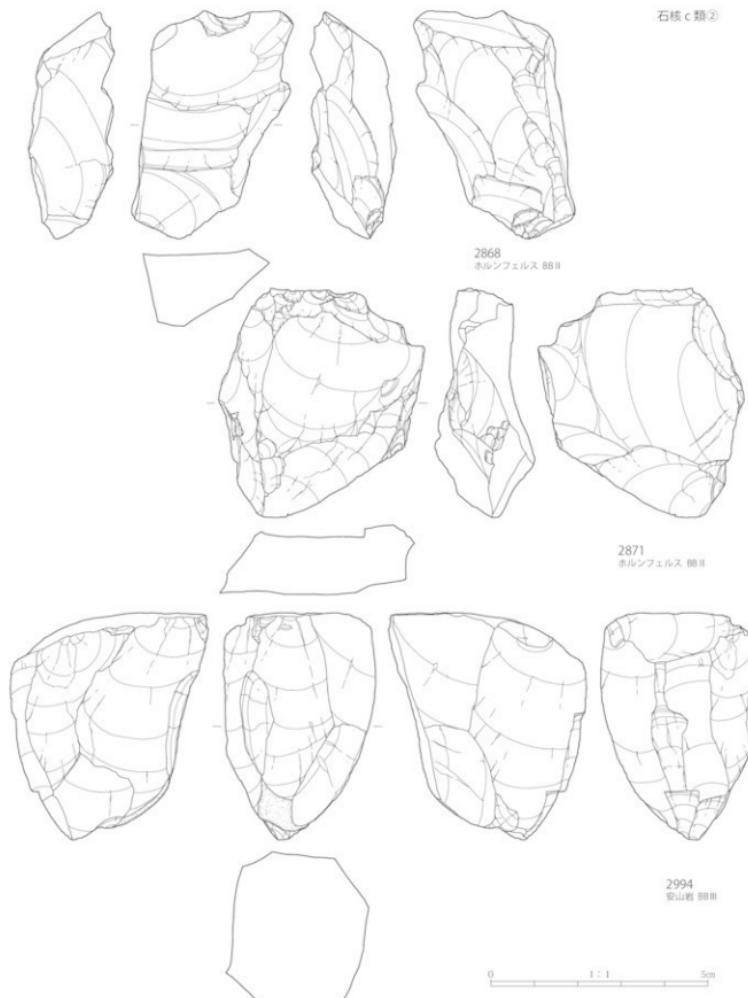


2971  
ホルンフェルス BBIII



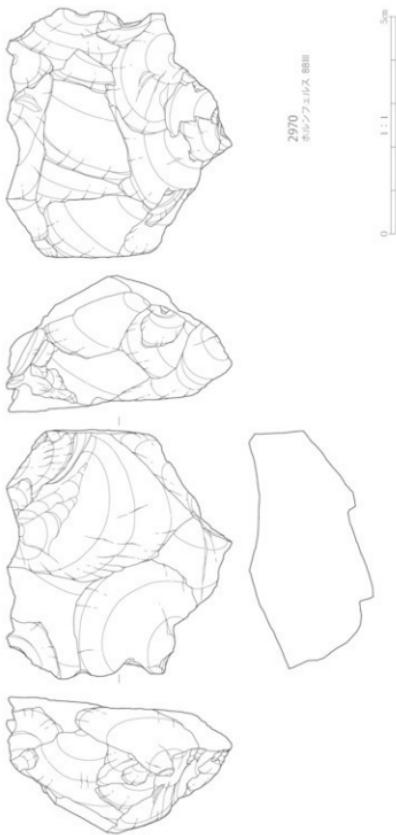
第117図 1-4地点 NL～BBⅢ層 出土遺物 (9)

第5章 1-4地点

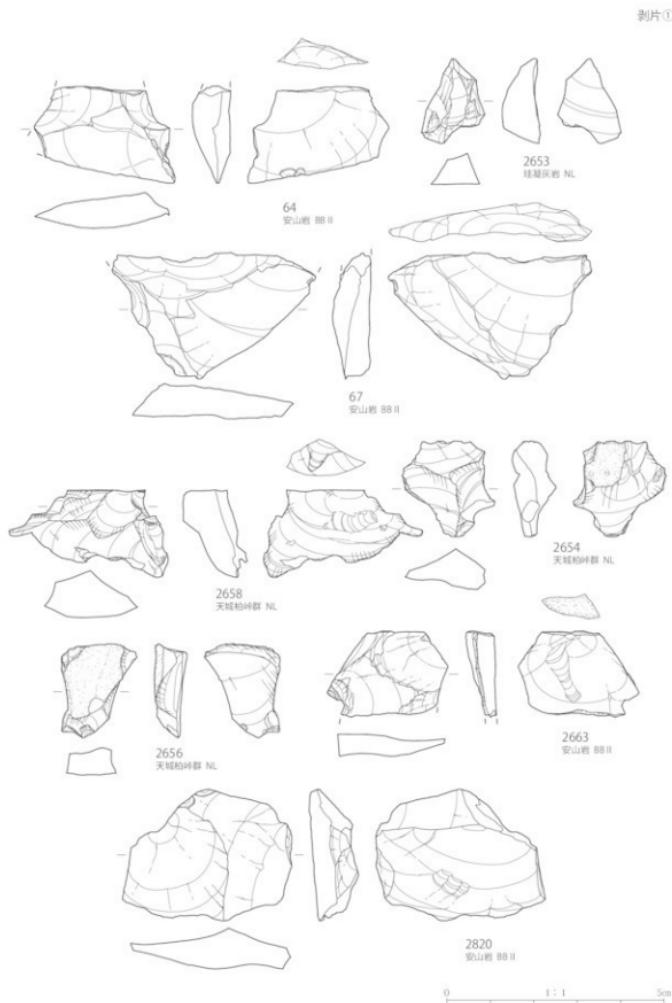


第118図 1-4地点 NL～BBIII層 出土遺物(10)

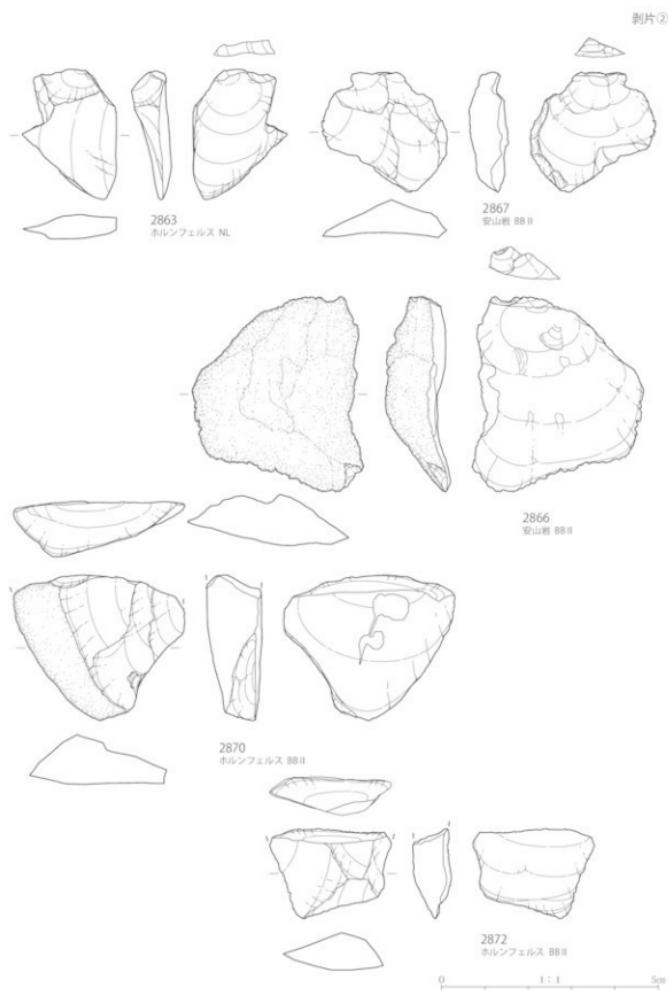
石核c類③



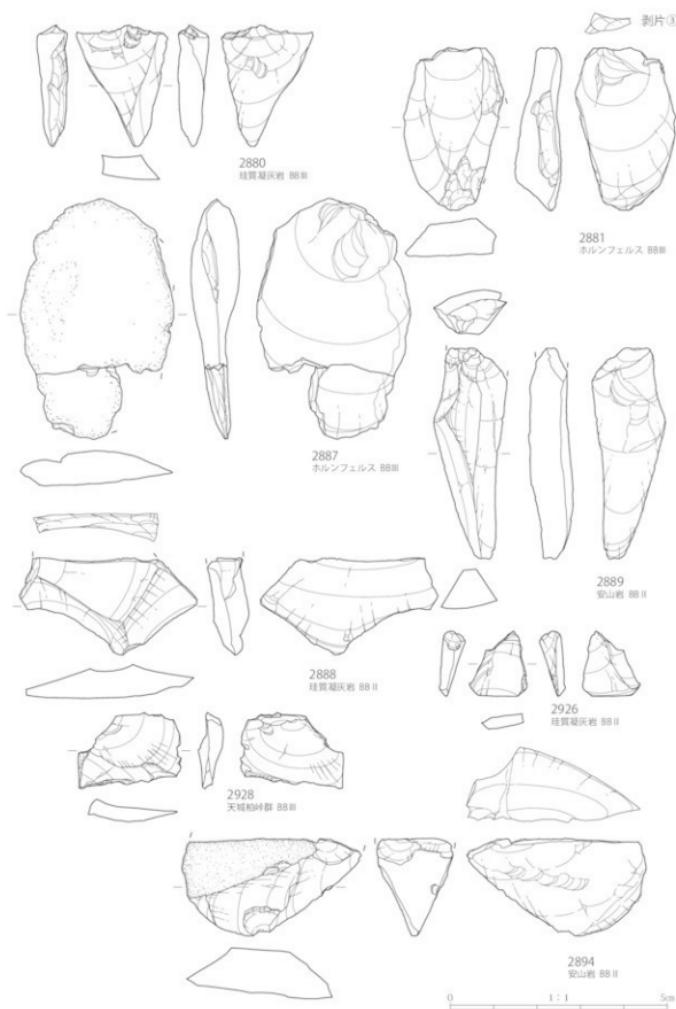
第119圖 1-4地点 NL ~ BBⅢ層 出土遺物 (11)



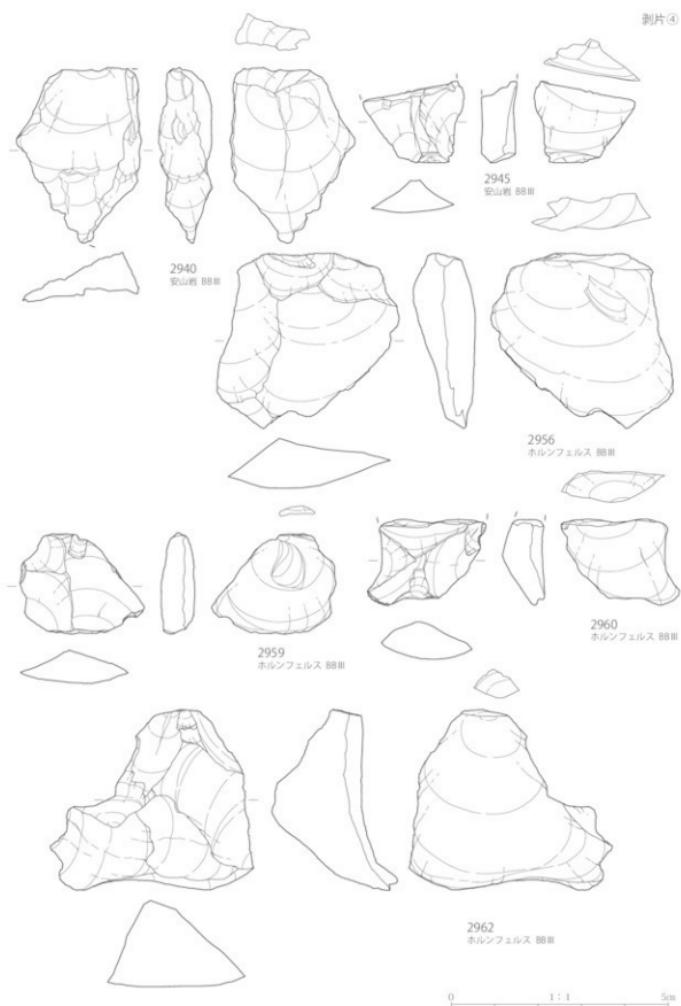
第120图 1-4地点 NL~BB III层 出土遗物(12)



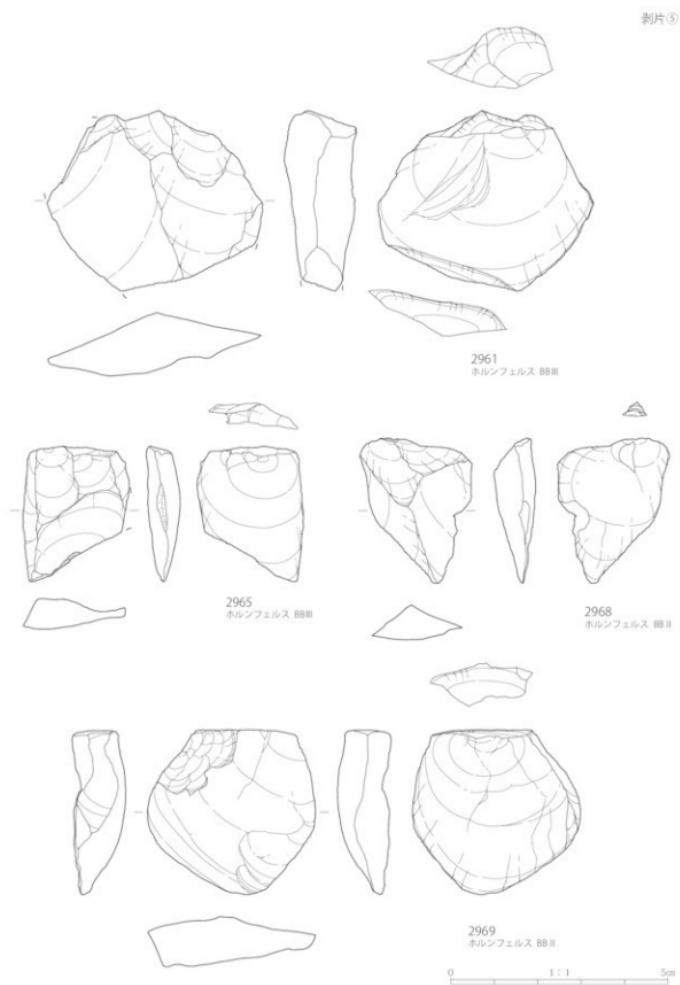
第121図 1-4地点 NL～BBⅢ層 出土遺物 (13)



第122図 1-4地点 NL ~ BBIII層 出土遺物 (14)

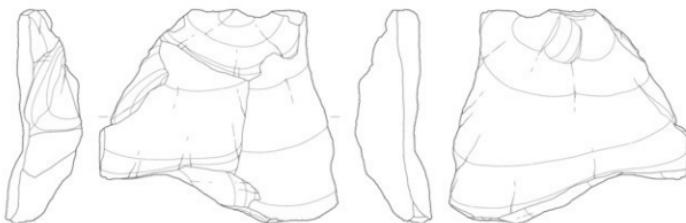


第123図 1-4地点 NL ~ BB III層 出土遺物 (15)

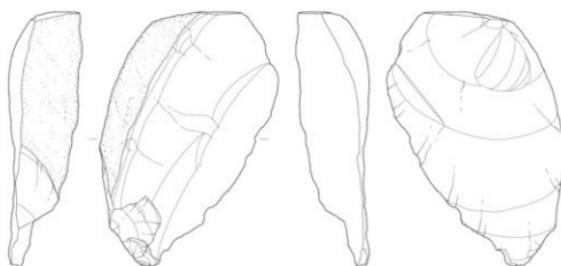


第124図 1-4地点 NL ~ BBIII層 出土遺物 (16)

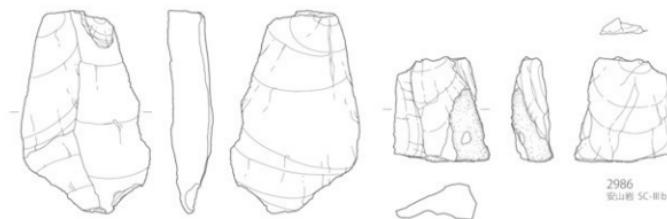
剥片④



2976  
ホルンフェルス BB III



2978  
ホルンフェルス BB III

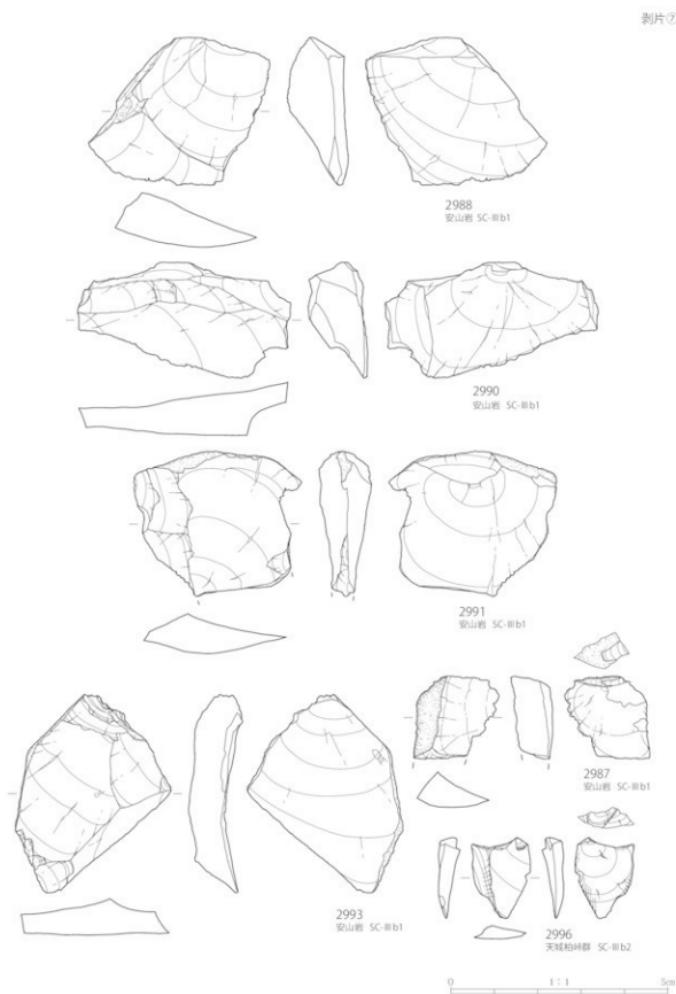


2986  
安山岩 SC-III b1

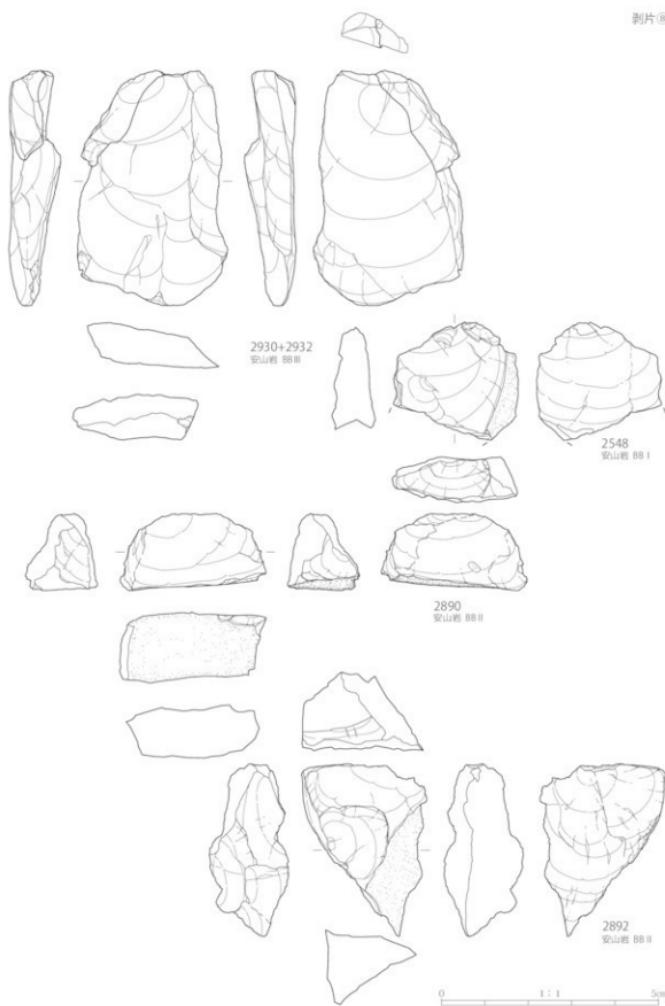


第125図 1-4地点 NL ~ BB III層 出土遺物 (17)

第5章 1-4地点

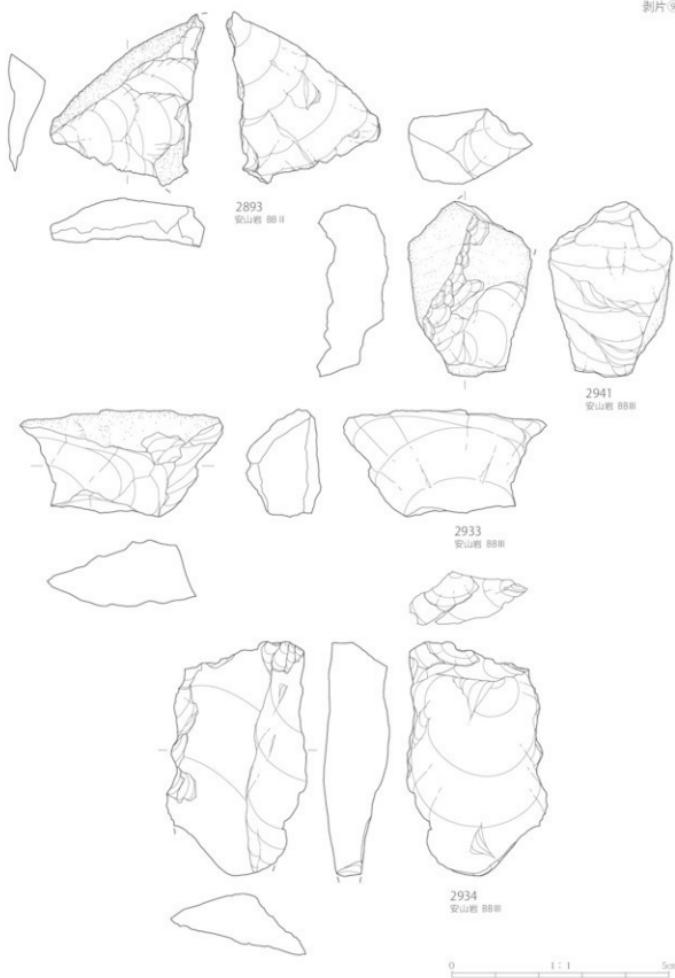


第126图 1-4地点 NL ~ BB III层 出土遗物 (18)

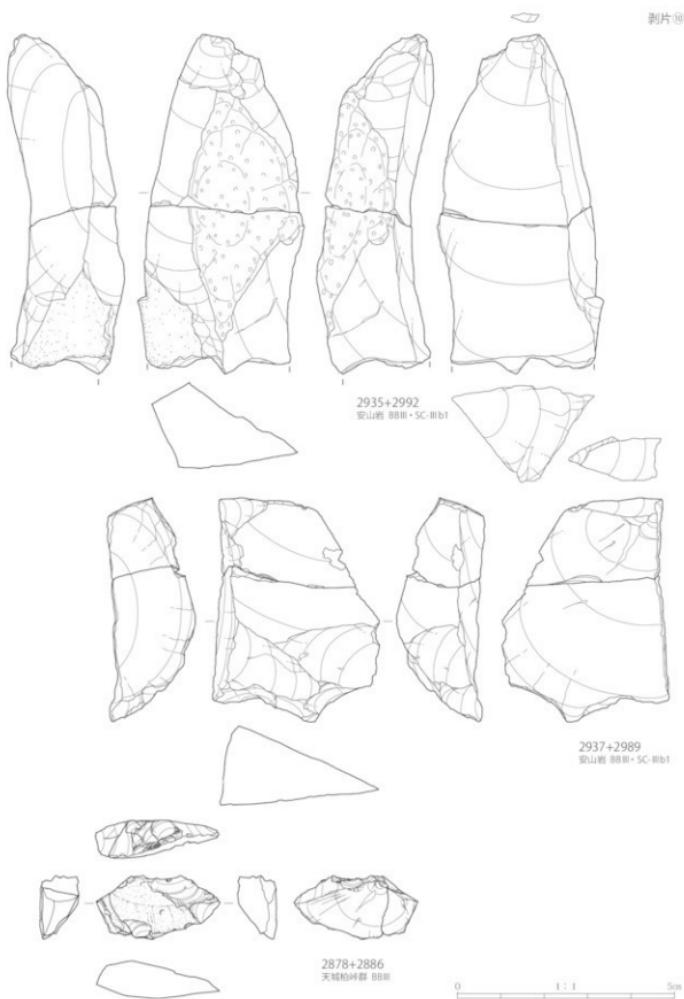


第127圖 1-4地点 NL ~ BB III層 出土遺物 (19)

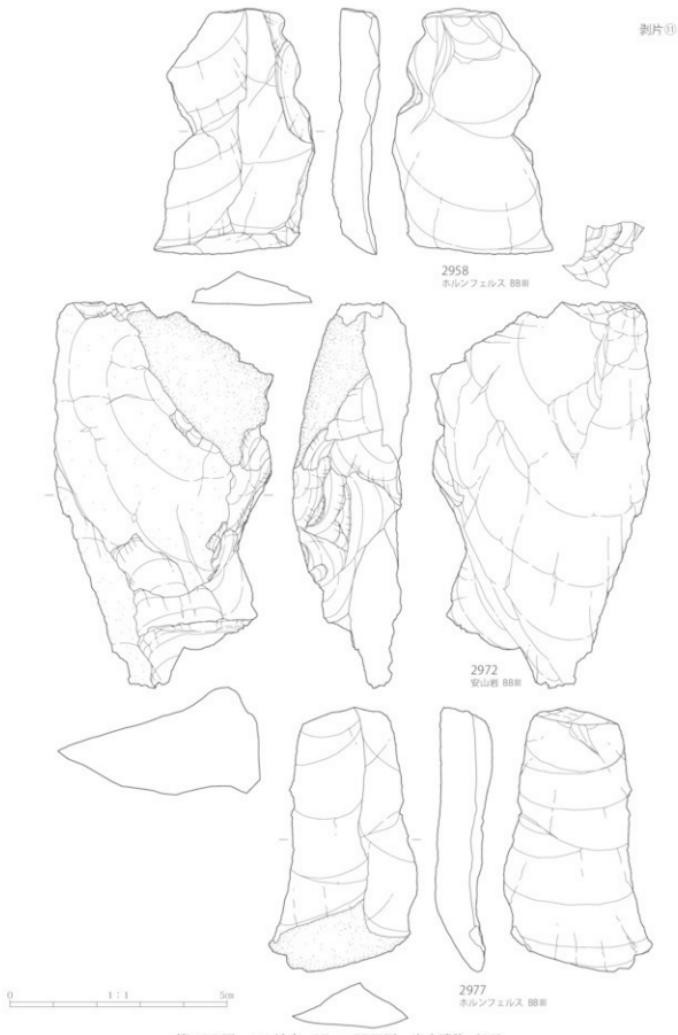
剥片④



第128图 1-4地点 NL ~ BB III层 出土遗物 (20)



第129图 1-4地点 NL ~ BBⅢ层 出土遗物 (21)



第130図 1-4地点 NL ~ BB III層 出土遺物 (22)

(2) 接合資料

本地点のNL層からBBⅢ層にかけて出土した石器のうち、接合関係が認められた接合資料は9個体である。同一ブロック内での接合資料、ブロック外のものとの接合資料であり、ブロック間での接合資料は認められない。以下に詳述する。

接合資料 No.11 (第131図 2970、2660、2882、2885)

第7ブロックより出土した石核と剥片3点の接合資料である。石核の周縁部より求心的に剥片剥離を行う。

接合資料 No.12 (第132図 2930、2932)

第2ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。2932の打点部付近の左側縁部に2930が接合する。剥片剥離時の偶発的な割れによって剥離したものと考えられる。

接合資料 No.13 (第133図 2548、2890、2892、2893、2941、2974)

第6ブロックより出土した石核と剥片5点の接合資料である。亜角礫状の安山岩の自然面を打面とする。夾雜物が多く目的的な剥片剥離が困難な石材であったと考えられる。

接合資料 No.14 (第134図 2934 2972)

第2ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。いずれの剥片も打面に細かい調整が施される。背面構成から90度の打面転移が確認される。

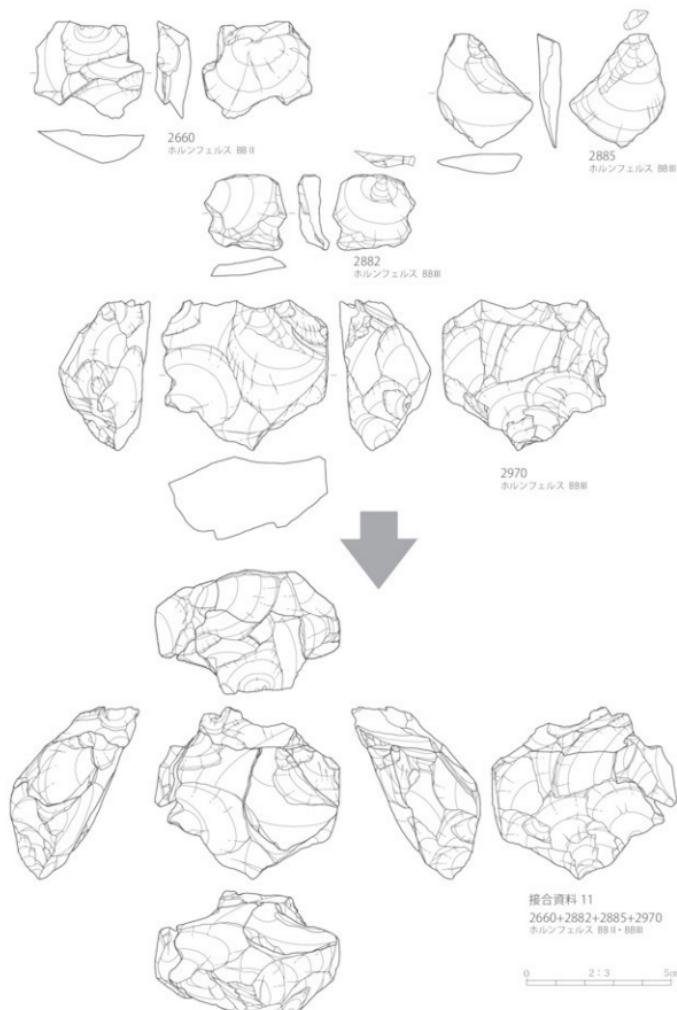
接合資料 No.15 (第135図 2958、2977)

第2ブロックより出土した剥片2点、第3ブロックより出土した二次加工ある剥片と剥片の接合資料である。打面は平坦打面であり、細かい調整は確認されない。背面構成から単設打面の石核より剥離される。2977の背面には一部自然面を有する。

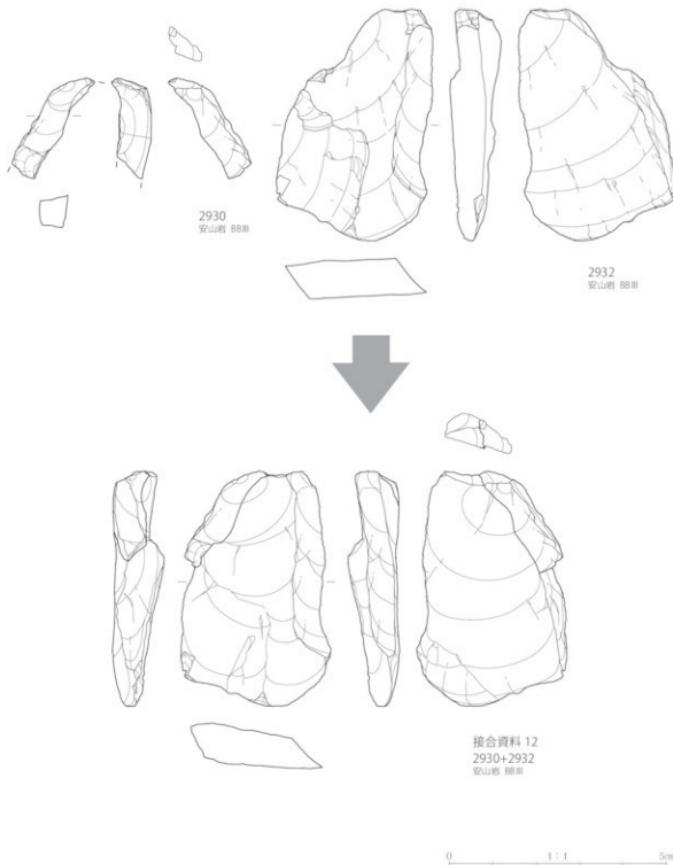
接合資料 No.16 (第136図 2989、2937)

第5ブロックより出土した二次加工ある剥片と剥片の接合資料である。背面構成から複設打面の石核より剥離される。打面は平坦打面であり、打面調整は確認されない。

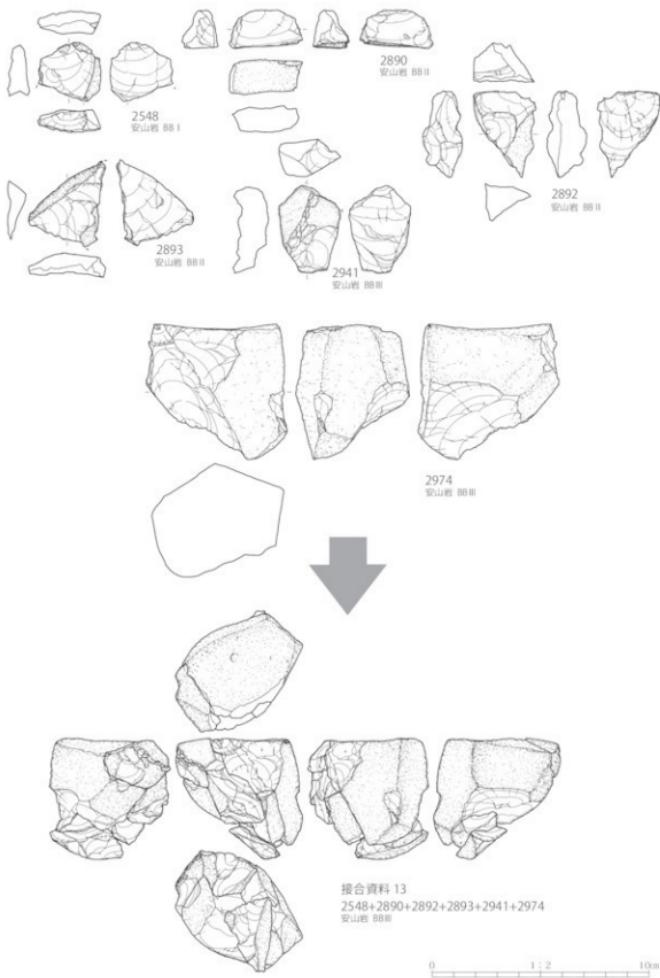
第5章 1-4地点



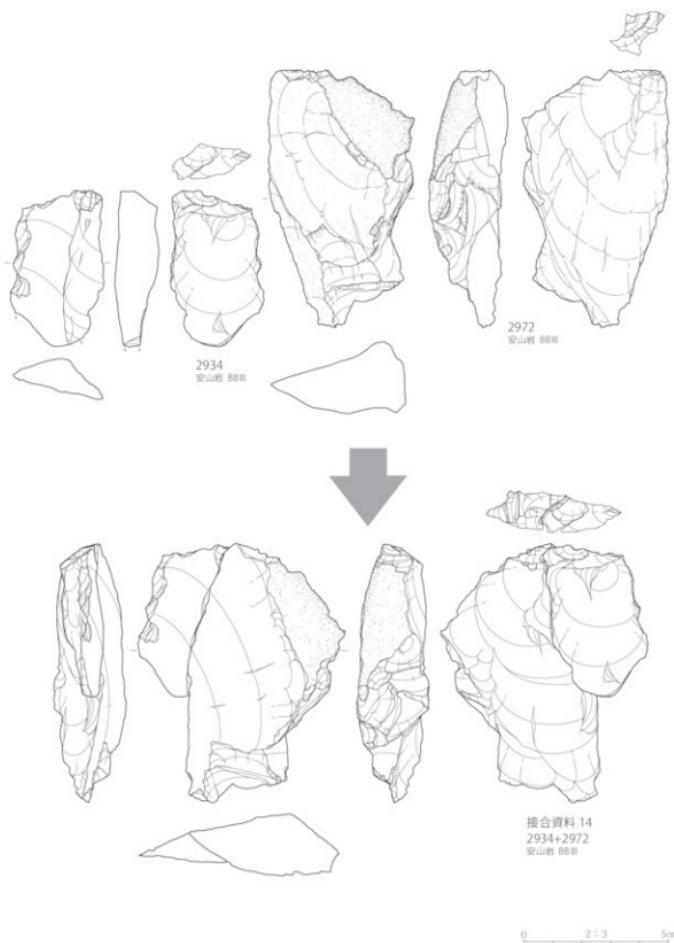
第131図 1-4地点 NL ~ BBIII層 接合資料(1)



第132圖 1-4地点 NL ~ BBⅢ層 接合資料 (2)

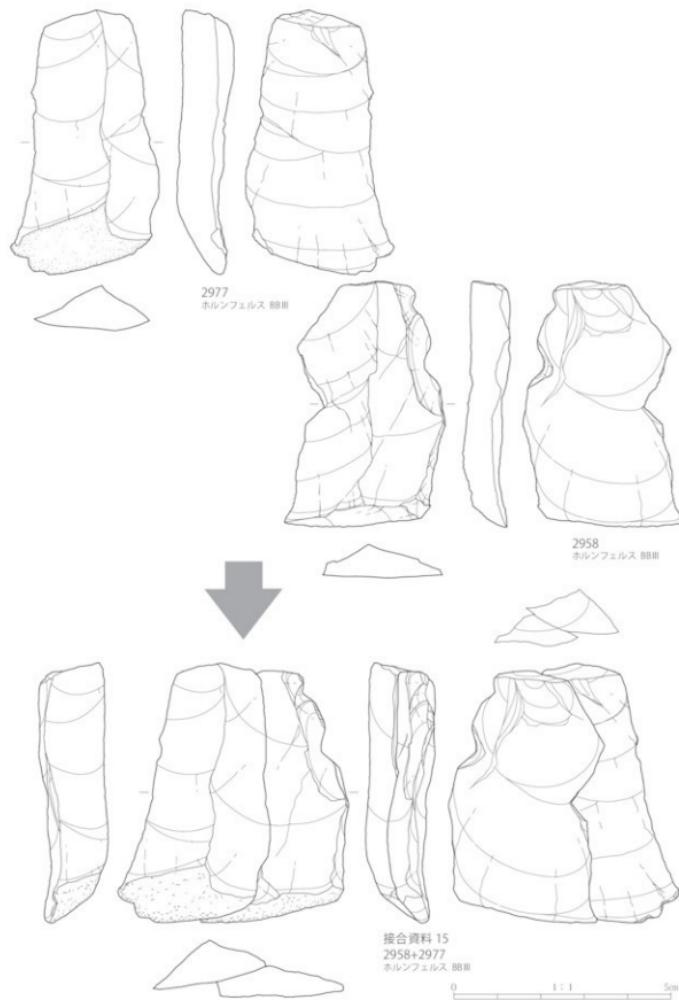


第133図 1-4地点 NL ~ BBⅢ層 接合資料（3）

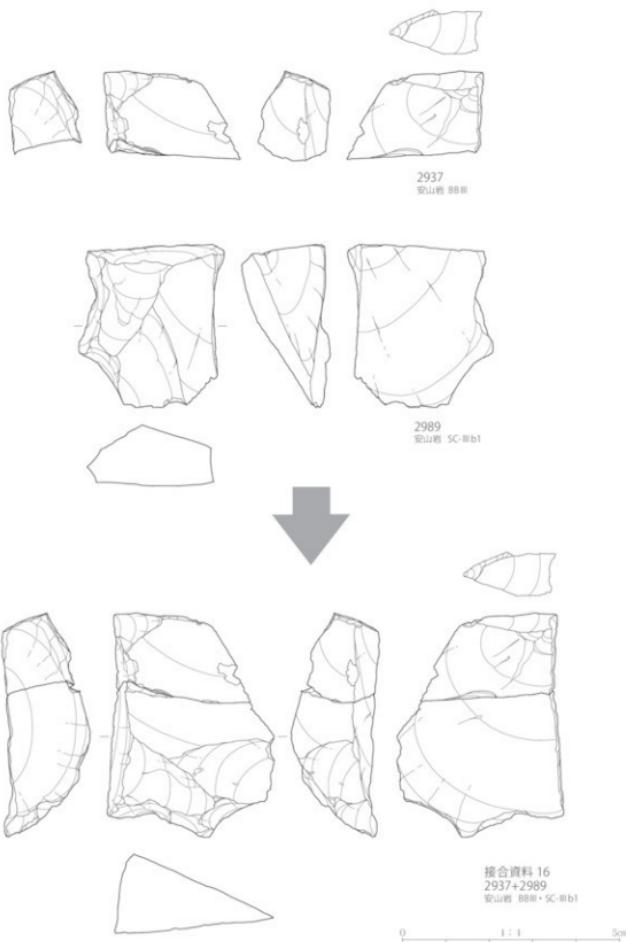


第134圖 1-4 地點 NL ~ BB層 接合資料 (4)

第5章 1-4地点



第135図 1-4地点 NL ~ BBⅢ層 接合資料 (5)



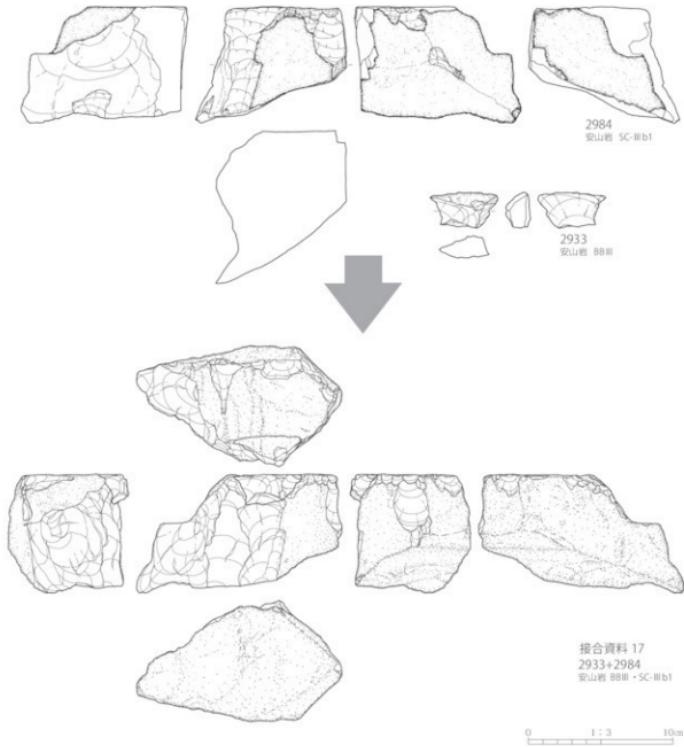
第136圖 1-4 地點 NL ~ BBⅢ層 接合資料 (6)

接合資料 No.17 (第137図 2984、2933)

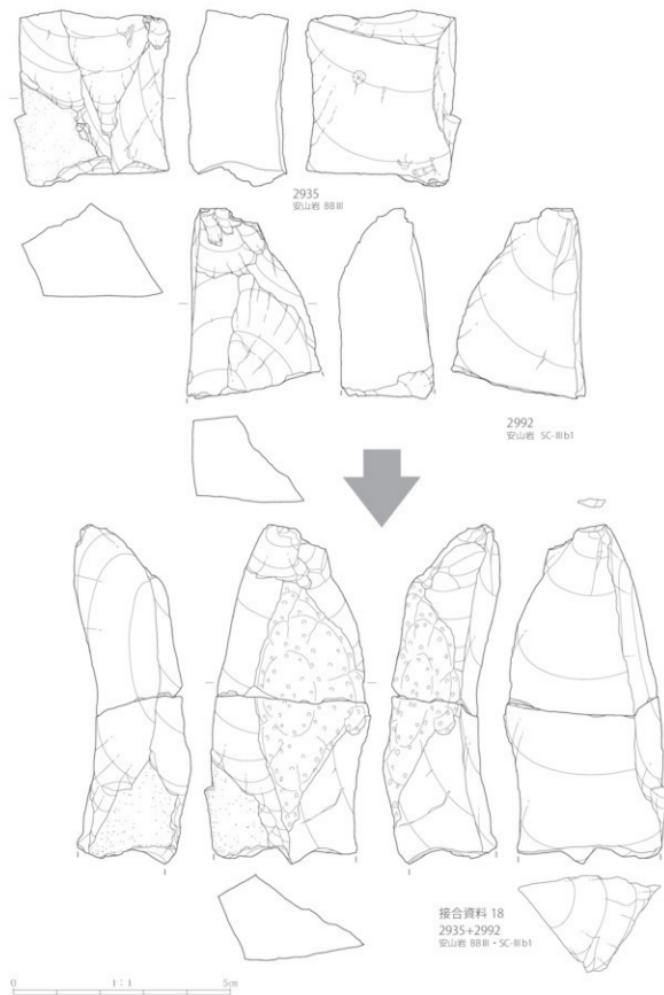
第2ブロックより出土した石核と剥片の接合資料である。亜角礫状の安山岩の自然面を打面とする。夾雜物、不純物が多く、目的的な剥片剥離が困難な石材であったと考えられる。

接合資料 No.18 (第138図 2992、2935)

第5ブロックより出土した剥片とブロック外で出土した剥片の接合資料である。やや大型の剥片であり、打点は平坦打面である。背面構成から複設打面の石核より剥離されている事が確認され、中央部には被熱による火ハネ痕跡が確認される。



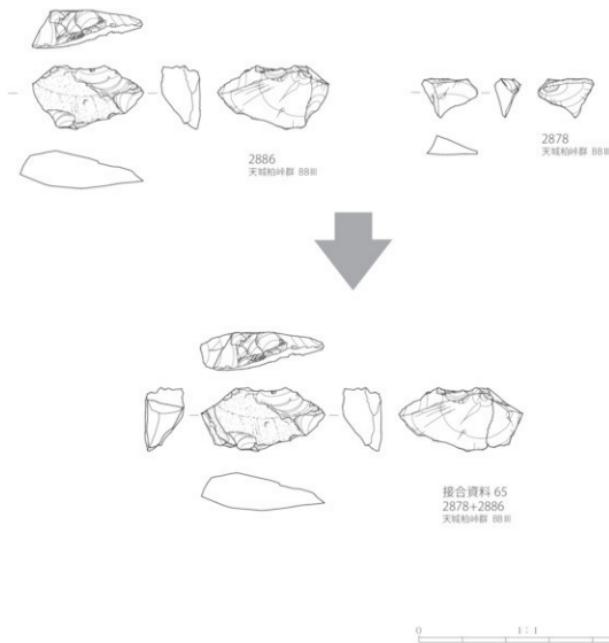
第137図 1-4地点 NL～BBⅢ層 接合資料 (7)



第138圖 1-4 地點 NL ~ BB層 接合資料 (8)

接合資料 No.65 (第139図 2886、2878)

第7ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。剥片剥離時の偶発的な同時割れによって剥離したもののが接合する。背面構成から複数打面の石核より剥離されており、打面には細かな調整が確認される。



第139図 1-4地点 NL～BBⅢ層 接合資料(9)

## 第4節 縄文時代の遺構・遺物

本地点では、表土直下のZN層からYL層にかけて、堅穴住居跡1軒、土坑10基、集石1基が検出された。第1号住居跡と第7・9号土坑を除く他の土坑は調査区中央部に集中しており、堅穴住居跡に向かって半円状に位置する。また、堅穴住居跡の南東に位置する第9号土坑では、3個体の縄文土器と29点の礫が出土しており、堅穴住居跡との関連性が高いものと考えられる。同様に第1号集石では、16点の礫と7点の石器が出土しており、これらの石材は住居内から出土した石鐵と同一母岩と考えられることから、第1号住居跡との関連性が窺われる。半円状に位置する第1～6・8号土坑は、遺物などの確認はないが、堅穴住居跡に関連するものと推察される。縄文時代の遺物は、石器21点、縄文土器30点、礫62点であり、内訳は、堅穴住居跡から石器13点、礫11点、1号集石とその周辺から石器7点、礫16点、縄文土器2点、7号土坑から石器1点、9号土坑から土器3個体、礫29点、その他に単独で土器が4点、礫が6点出土している。以下に詳述する。

### 1. 検出された遺構

#### (1) 住居跡

##### 第1号住居（第141・142図）

調査地点の東端部付近の東側へ緩傾斜するQ-24・25グリッドのYLU層上面で検出した堅穴住居跡である。堅穴住居跡の南側は耕作による攪乱が掘方底面付近まで及んでいる。平面形は概ね梢円形を呈し、規模は東西3.51m、南北3.02m以上、壁高は最も残存の良い北側で0.43mを測る。床面は直床である。柱穴は13基確認された。P1・5・9・11・12が主柱穴になるものと考えられる。か跡は住居中央部のやや南側に配置される。か跡は南北に長い梢円形を呈し、規模は長軸0.51m、短軸0.37m、掘り込みの深さは0.23mを測る。覆土内から板状礫2点、小礫2点が出土しており、石圓か跡であった可能性が高い。また、か跡の北側にはP13が位置し、覆土第2層には炭化物を多量に含む層が確認されており、か跡であった可能性も考えられる。遺物は、軽石製品1点、石鐵2点、楔型石器1点、剝片2点、石皿1点、碎片6点、礫11点が出土している。

#### (2) 土坑

##### 第1号土坑（第143図）

調査区中央部のP-24グリッドで検出した。平面形は円形を呈しており、規模は長軸0.95m、短軸0.74m、深さ0.74mを測る。断面形状は箱形を呈し、底面は平坦である。覆土は3層である。

##### 第2号土坑（第143図）

調査区中央部のP-24グリッドで検出した。平面形は円形を呈しており、規模は長軸0.67m、短軸0.63m、深さ0.30mを測る。断面形状は楕円形を呈し、底面は概ね平坦である。覆土は単層である。

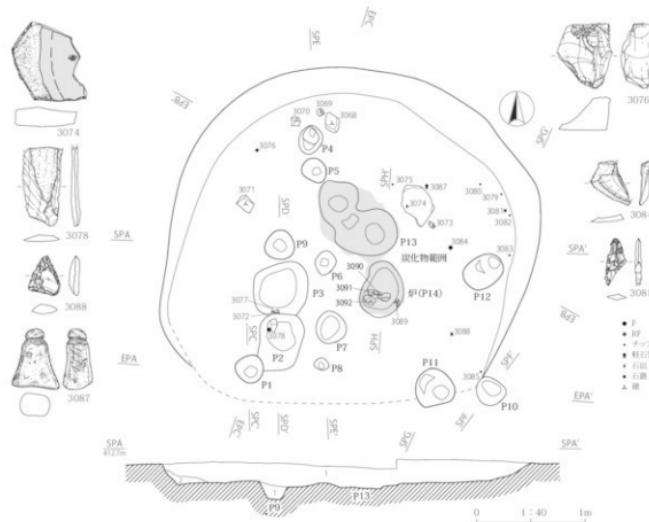
##### 第3号土坑（第143図）

調査区中央部のQ-23グリッドで検出した。平面形は梢円形を呈しており、規模は長軸1.02m、短軸0.93m、深さ0.23mを測る。断面形状は皿形を呈し、底面は概ね平坦である。覆土は単層である。土坑上端の東約0.1mの距離で縄文土器の細片が2点出土している。

第5章 1-4地点

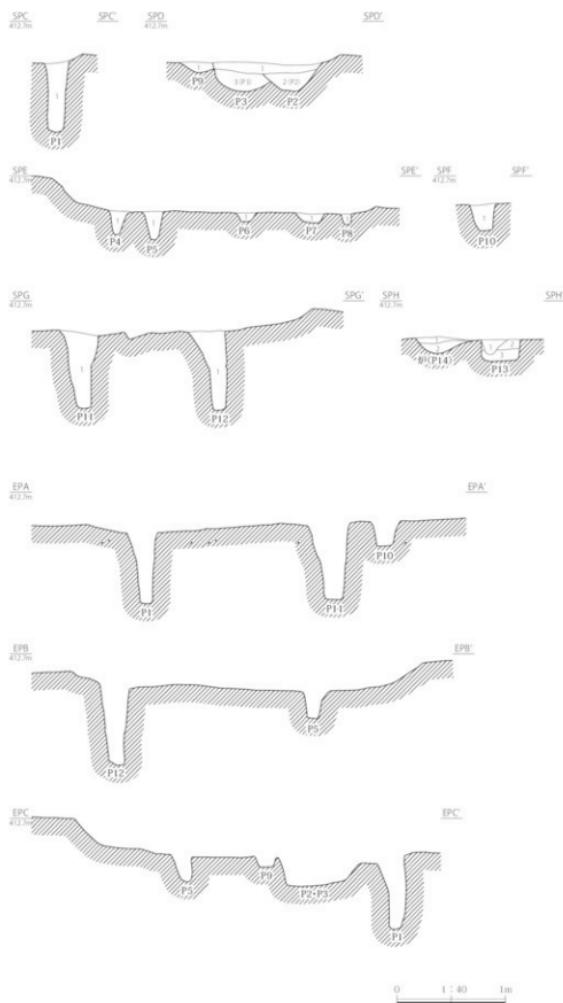


第140図 1-4地点 繩文時代 全体図



第141図 1-4地点 第1号住居跡(1)

第5章 1-4地点



第142圖 1-4 地點 第1號住居跡 (2)

第4号土坑（第143図）

調査区中央部のQ-23 グリッドで検出した。平面形は梢円形を呈しており、規模は長軸0.86m、短軸0.78m、深さ0.42mを測る。断面形状は箱形を呈し、底面は平坦である。覆土は2層である。

第5号土坑（第143図）

調査区中央部のQ-23 グリッドで検出した。平面形は円形を呈しており、規模は長軸0.89m、短軸0.83m、深さ0.75mを測る。断面形状は箱形を呈し、底面は平坦である。覆土は2層である。

第6号土坑（第143図）

調査区中央部のP-23 グリッドで検出した。平面形は概ね円形を呈しており、規模は長軸0.92m、短軸0.83m、深さ0.62mを測る。断面形状は箱形を呈し、底面は平坦である。覆土は3層である。

第7号土坑（第143図）

調査区南西端部のO-22 グリッドで検出した。上面を耕作によって削平されており、底面付近のみを検出した。平面形は概ね不整梢円形を呈しており、規模は長軸0.83m、短軸0.73m、深さ0.08mを測る。断面形状は浅い箱形を呈し、底面は概ね平坦である。覆土は単層である。

第8号土坑（第143図）

調査区中央部のP-23 グリッドで検出した。平面形は隅丸長方形を呈しており、規模は長辺0.89m、短辺0.52m、深さ0.38mを測る。断面形状は箱形を呈し、底面は平坦である。覆土は3層である。

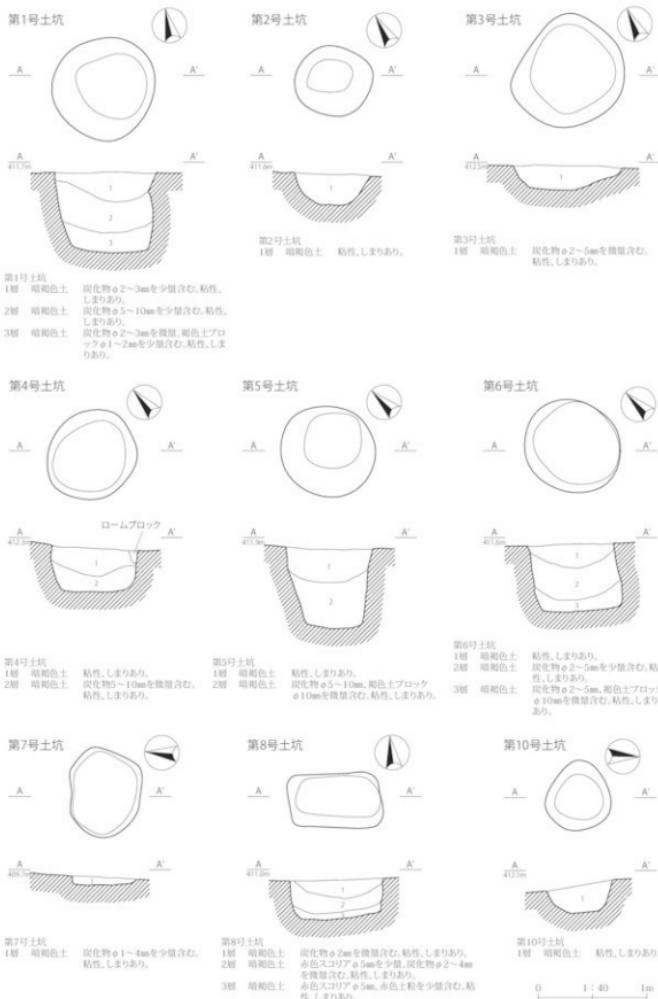
第9号土坑（第144図）

調査区東部のQ-25 グリッドで検出した。平面形は東西方向に長い梢円形を呈しており、規模は長軸2.13m、短軸1.32m、深さ1.47mを測る。断面形状は漏斗状を呈し、底面は概ね平坦である。覆土は12層に細分される。遺物は、縄文深鉢形土器3個体、小甕29点が出土しており、第1号住居跡に関連する土坑と考えられる。また、出土した小甕29点中25点に被熱の痕跡が確認される。

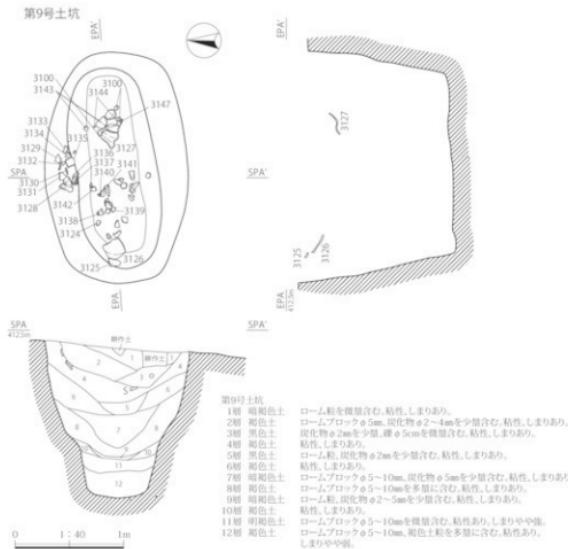
第10号土坑（第143図）

調査区東部のP-25 グリッドで検出した。平面形は円形を呈しており、規模は長軸0.64m、短軸0.61m、深さ0.31mを測る。断面形状は楕円形を呈し、底面は平坦である。覆土は単層である。

## 第5章 1-4地点



第143図 1-4地点 第1~8・10号土坑

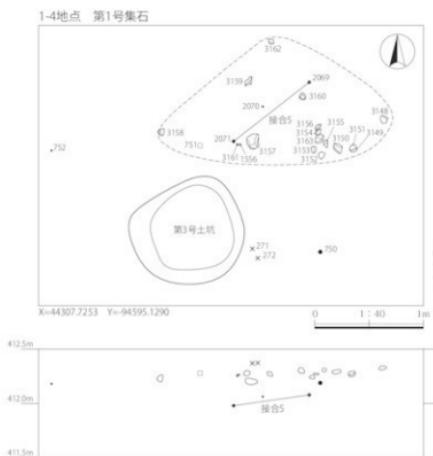


第144図 1-4地点 第9号土坑

## (3) 集石

## 第1号集石 (第145図)

調査区中央部のQ-23・24 グリッドのYLU層からYLL層にかけて検出した。この集石の南西約0.3mには第3号土坑が位置し、約1m南では縄文土器の細片が2点出土している。集石の平面形は東西に長い楕円形を呈しており、長軸2.04m、短軸1.06m、垂直分布は標高411.97～412.37mであり、比高差は0.11mである。構成する標は16点であり、このうち、2点に被熱の痕跡が確認される。また、これらの標とほぼ同位置で7点の石器が出土している。器種は、スクレイバー1点、二次加工ある剥片2点、剥片1点、碎片3点である。石材は全て黒曜石で和田土屋橋西群5点、瀬訪星ヶ台群1点、産地不明1点である。このうちの和田土屋橋西群の黒曜石が、第1号住居跡から出土した石器と同一母岩であり、第1号堅穴住居跡、第1号集石周辺で石器の製作を行ったものと考えられる。



第145図 1-4地点 第1号集石

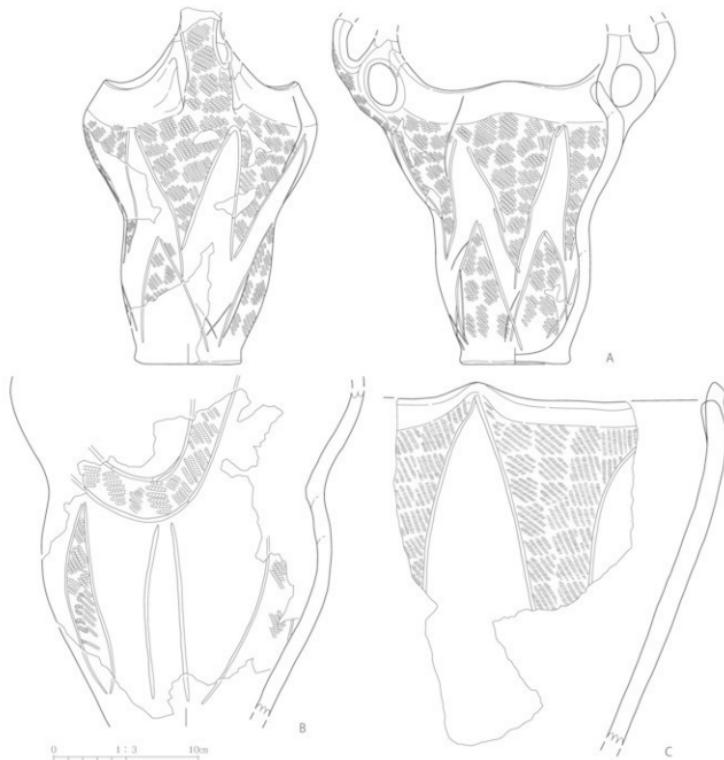
## 2. 出土遺物

縄文時代の遺物のうち、第1号住居跡から出土した石器5点、軽石製品1点、石皿1点、第9号土坑より出土した縄文土器3点を図示した。

## (1) 縄文土器

## 縄文土器 (第146図 A、B、C)

A～Cは第9号土坑から出土した深鉢形土器である。一括廃棄されたものと考えられる。Aは両把手の端部を欠損する。単節縄文LRを縦位に施し、沈線による「W」状の区画を施し、区画内を磨り消す。Bは深鉢形土器の口縁部、底部を欠損する。胴部上位は沈線による「U」ないしは「J」の区画を施し、単節



第146図 1-4地点 第9号土坑出土遺物

縄文RLを施文する。下位は2条の沈線間に单設縄文RLを充填する。Cは深鉢形土器の口縁～胴部である。無節縄文Rを施し、沈線による縦位区画内を丁寧に磨り消す。いずれも縄文時代中期末葉の加曾利EIV式のものと考えられる。

## (2) 石器

### 石鎚（第147図 3081 3088）

3081は、基部右下半を欠損する。調整は押圧剥離による調整が全周にわたって施される。3088は凹基無茎の石鎚であり、剥離面の観察から所謂ボジ・ボジ剥片が素材となっている。調整は押圧剥離による調整が全周にわたって施される。

### 楔形石器（第147図 3076）

3076は、複設打面の石核を転用したものと考えられ、上下端部には衝撃による階段状の剥離痕が確認される。

### 剥片（第147図 3078、3084）

3078は、複設打面を持つ石核より剥離され、打点部を欠損している。3084は右側縁部を同時割れで欠損する。打面は平坦打面であり、背面構成から複設打面を持つ石核より剥離される。

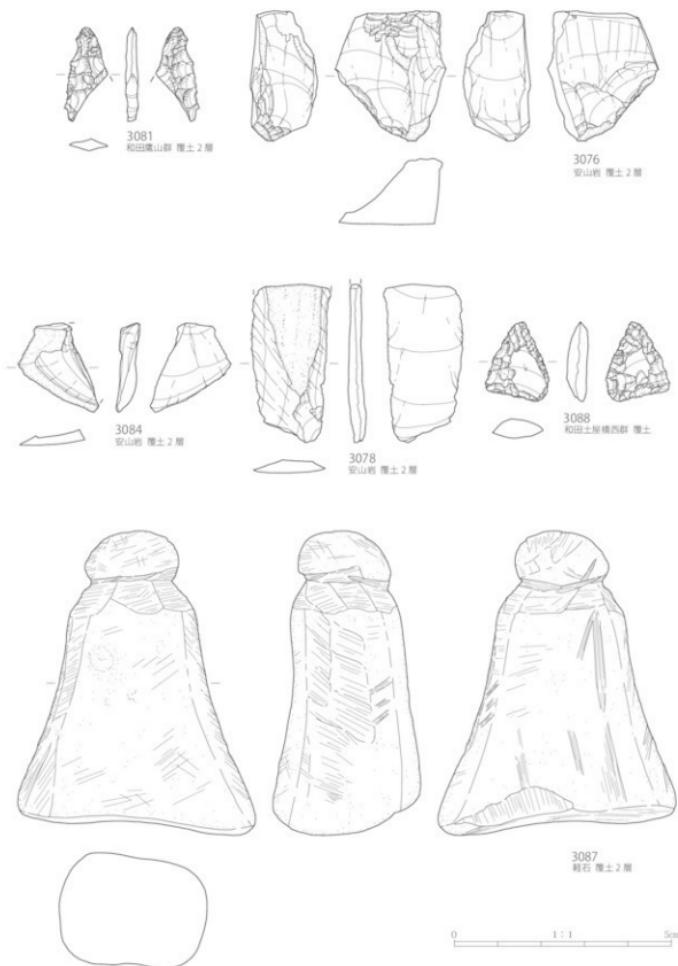
### 軽石製品（第147図 3087）

3087は、第1号住居跡の覆土1層より出土した。軽石を素材とし、釣鐘状の形態を呈している。上部にはつまみ状の突起を作出される。裏面には縦方向の溝状痕が確認され、下面は中央部が窪む様な整形が施される。

### 石皿（第148図 3074）

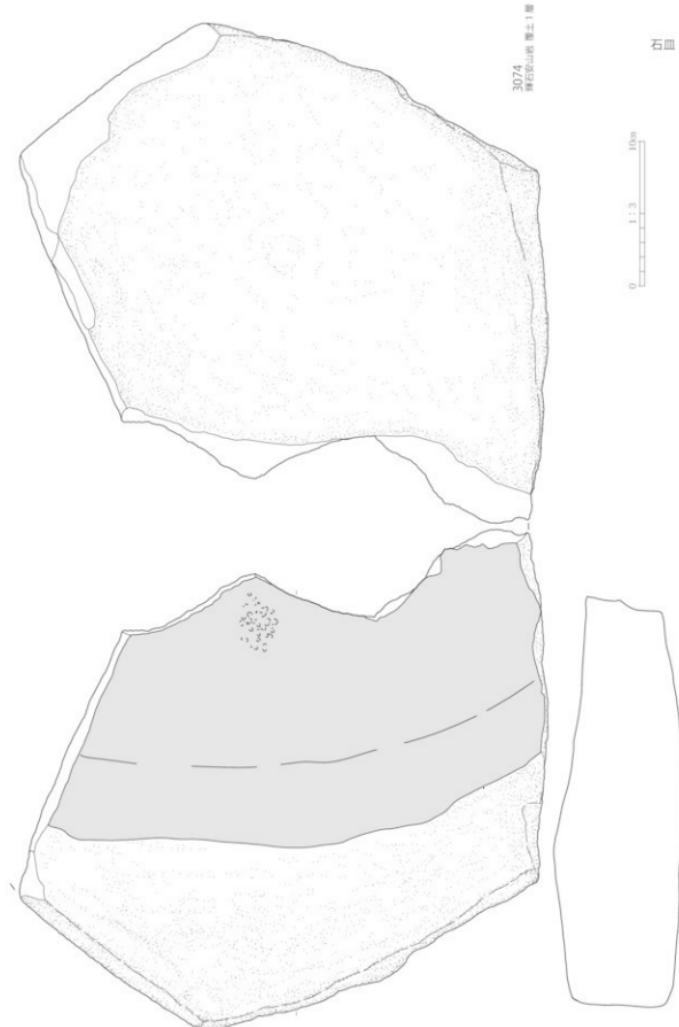
3078は、人為的な破碎が確認され、廃棄されたものと考えられる。上面には著しい磨痕、敲打痕が確認される。

楔形石器·剥片·石鍼·輕石製品



第147圖 1-4地点 第1号住居跡出土遺物(1)

第5章 1-4地点



第148圖 1-4地点 第1号住居跡出土遺物（2）

第6章 1-7地点

本地点は、1-8 地点の農道を挟んだ北東、1-10 地点の西側に位置する。標高は約 397.48~401.67m であり、調査地点は、南、西、東へ傾斜する丘陵の先端部付近である。G-10、H-10 グリッド付近は耕作による削平を受けしており、YLU 層の堆積がほぼ認められない状況であった。YL 層準の遺物は、ZN 層下部から BBO 層最上部までの間で 19 因子所の石器ブロックに分類される 3,418 点の石器と単独の石器 81 点、9 基の礫群に分類される 76 点の礫と単独の礫 9 点が出土した。YL 層準調査後の下層調査では、BBII 層において 1 基の礫群に分類される 39 点の礫と単独 2 点、石核 1 点が出土した。縄文時代では、ZN 層より有舌尖頭器 1 点、石鑼 2 点、石錐 1 点、石匙 1 点、磨製石斧 1 点、剥片 7 点、碎片 6 点が出土した。

## 第1節 YL層準出土の遺構・遺物

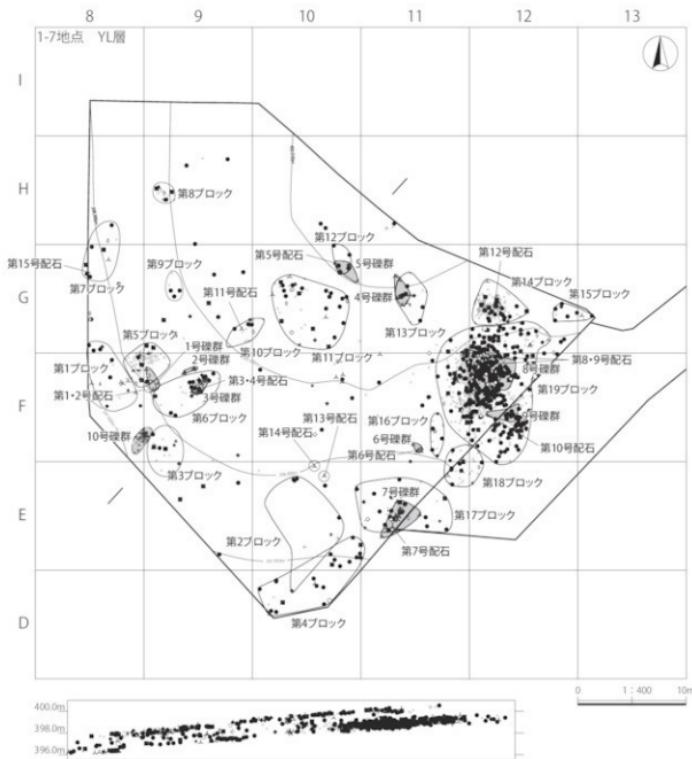
## 1. 検出された遺構

本地点のZN～BBO層からは、前述のように3,499点の石器が出土し、3,418点が19箇所の石器ブロックとして確認された。このうち第18・19ブロック、第9号縞群は1-7地点、1-10地点を跨いで出土しており、これらは本地点において記述する。また、YL層準のブロック、縞群は1-7地点、1-10地点、1-6地点を跨ぐように検出されているため、遺構名は1-7地点、1-10地点、1-6地点で連番としていることを明記しておく。出土した石器は、ZN層下部からYLL層まで複数層に跨ってブロックとして検出され、本来複数の文化層が存在するものと考えられるが、個体別資料分類や接合資料からこれらを分離しようと試みたが不可能であったため、今回はブロックごとに報告させていただく。

### (1) 石器ブロック

上述のように本地点のZN～BBO層からは3,499点の石器が出土し、3,418点が19箇所の石器ブロックとして確認された。これらの石器ブロックは石器ブロック単独で検出されるもの、疊群、配石と重複するものがある。(第149図)

第43表 1-7 地点YL層準 石材器種組成表



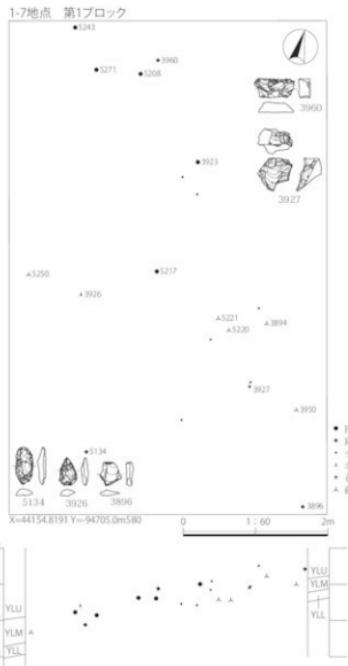
第149図 1-7地点 YL層準 全体図

## 第1ブロック（第150図）

本ブロックは、調査区西端部のF・G-8グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸7.32m、短軸2.67mである。垂直分布は、標高397.34～398.25m、比高差は0.91mである。出土層位はYLU～YLL層であり、YLU～YLM層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、尖頭器1点、石核1点、二次加工ある剥片3点、剥片5点、碎片6点の合計16点である。また、ブロック内から單独縫5点が出土している。出土した黒曜石の中には神津島恩馳島群の個体が含まれており、第2ブロックとの関連が窺われる。接合資料は無い。

第44表 1-7地点第1ブロック 石材器種組成表

	器種	個数	割合	合計
尖頭器	1			1
二次加工ある剝片	2	1		3
石核		1		1
剝片	1		1	3
碎片	5	1		6
合計	9	1	2	16



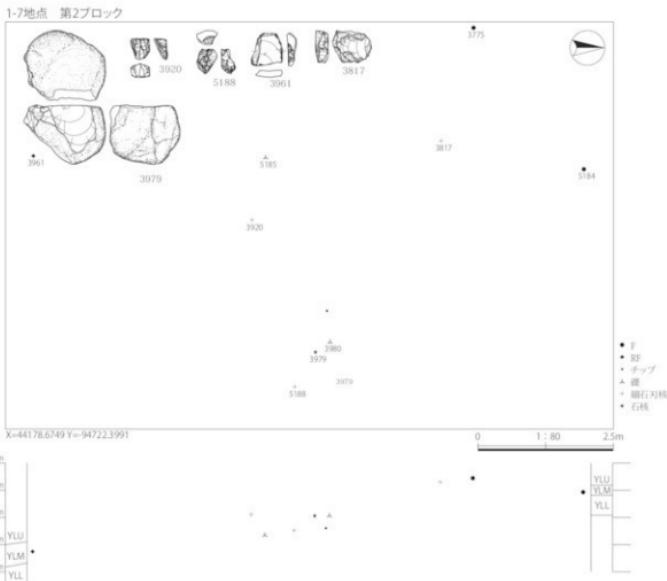
第150図 1-7地点 YL層準 第1ブロック遺物分布図

## 第2ブロック（第151図）

本ブロックは、調査区南部のD・E-10グリッドで確認されている。ブロック南端部が第4ブロックと一部重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 10.15m、短軸 6.51mである。垂直分布は、標高 396.87 ~ 398.22m、比高差は 1.35m である。出土層位は ZN 層下部 ~ YLM 層であり、YLU ~ YLM 層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、細石刃核 3 点、石核 1 点、二次加工ある剥片 1 点、剥片 2 点、碎片 1 点の合計 8 点である。また、ブロック内から単独礫 2 点が出土している。黒曜石には神津島恩馳島群の個体が含まれており、第1ブロックとの関連が窺われる。接合資料は無い。

第45表 1-7地点第2ブロック 石材器種組成表

	基 礫 種 類 別 分 布 圖	基 礫 種 類 別 分 布 圖	基 礫 種 類 別 分 布 圖	合 計
二次加工ある剥片	1			1
石核		1		1
剥片	2			2
碎片	1			1
細石刃核	1	2		3
合計	4	3	1	8



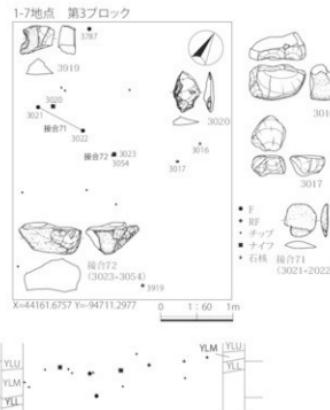
第151図 1-7地点 YL 層準 第2ブロック遺物分布図

## 第3ブロック（第152図）

本ブロックは、調査区南西部のE・F9 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸 3.62m、短軸 2.55m である。垂直分布は、標高 397.52 ~ 398.10m、比高差は 0.57m である。出土層位は YLU ~ YLL 層であり、YLU ~ YLM 層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 1 点、石核 3 点、二次加工ある剥片 1 点、剥片 4 点、碎片 8 点の合計 17 点である。接合資料は、ブロック内で 2 個体確認され、接合資料 71 は剥片 2 点の接合であり、接合資料 72 は石核と剥片が接合する。

第46表 1-7地点第3ブロック 石材器種組成表

	石 核 搬 運 作 用 器	削 片 搬 運 作 用 器	未 定 分 類	集 集 合 用 器	硅 質 石 器	合 計
ナイフ形石器	1					1
二次加工ある剥片				1		1
石核		1	2			3
剥片	1		3			4
碎片	6	1		1		8
合計	8	1	4	3	1	17



第152図 1-7地点 YL 層準 第3ブロック遺物分布図

## 第4ブロック（第153図）

本ブロックは、調査区南部の E-10・11 グリッドで確認されている。第2ブロックと僅かに重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 10.56m、短軸 3.88m である。垂直分布は、標高 396.17 ~ 397.56m、比高差は 1.38m である。出土層位は YLU ~ YLL 層であり、YLM 層に垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 3 点、削器 1 点、剥片 17 点、碎片 5 点の合計 26 点である。また、ブロック内から単独隕 2 点が出土している。接合資料は無い。

第6章 1-7地点



第153図 1-7地点 YL層準 第4ブロック遺物分布図

第47表 1-7 地点第4ブロック 石材器種組成表

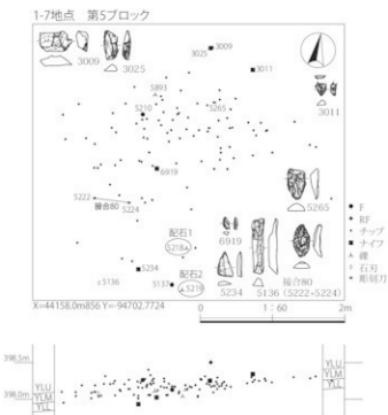
	規格品目	規格品目	規格品目	規格品目	規格品目	チャート	合計
ナイン形石器	1		2				3
刮削	1						1
剥片	6	1		6	3	1	17
碎片	4		1				5
合計	12	1	3	6	3	1	26

第48表 1-7地点第5ブロック 石材器種組成表

	箱根 相模原 御殿	天竜 駿河 御殿	和田山 御殿	黒川 御殿	芦ヶ原 御殿	ホルン フェルス	チャート	合計
尖頭器	1	1						2
ナイフ形石器	3			1				4
二次加工である削片	1							1
石刃							1	1
削片	1	1	1					3
研片	41			2	50	1		94
合計	47	2	1	3	50	1	1	105

## 第5ブロック（第154図）

本ブロックは、調査区西部のF・G・8・9グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第1号砾群、第1・2号配石と重複し、ブロック中心から南に約2mの位置で第1・2号配石が検出される。石器分布範囲の規模は、長軸3.88m、短軸3.52mである。垂直分布は、標高397.88～398.50m、比高差は0.61mである。出土層位はYLU下部～YLL層であり、YLM～YLL層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器4点、尖頭器2点、二次加工ある剥片1点、石刃1点、剥片3点、碎片94点の合計105点である。接合資料は、ブロック内で1個体確認され、接合資料80は尖頭器と剥片が接合する。



第154図 1-7地点 YL層準 第5ブロック遺物分布図

## 第6ブロック（第155図）

本ブロックは、調査区西部のF-9 グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第3号砾群、第3・4号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 5.66m、短軸 2.55m である。垂直分布は、標高 397.92 ~ 398.64m、比高差は 0.72m である。出土層位は YLM ~ YLL 層であり、YLM 層下部 ~ YLL 層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 3 点、二次加工ある剥片 2 点、石刃 2 点、剥片 13 点、碎片 15 点の合計 35 点である。接合資料は、ブロック内で 2 個体確認され、接合資料 30 は二次加工ある剥片と剥片 2 点が接合し、接合資料 58 は剥片 2 点が接合する。

## 第7ブロック（第156図）

本ブロックは、調査区西端部のG・H-8 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸 5.15m、短軸 2.42m である。垂直分布は、標高 397.75 ~ 398.29m、比高差は 0.53m である。出土層位は YLM ~ YLL 層であり、YLM 層に垂直分布が集中する傾向がある。出土石器はナイフ形石器 2 点、二次加工ある剥片 1 点、剥片 4 点、碎片 3 点の合計 10 点である。また、ブロック内から単獨 2 点が出土しており、一部被熱の痕跡が認められる。接合資料は無い。

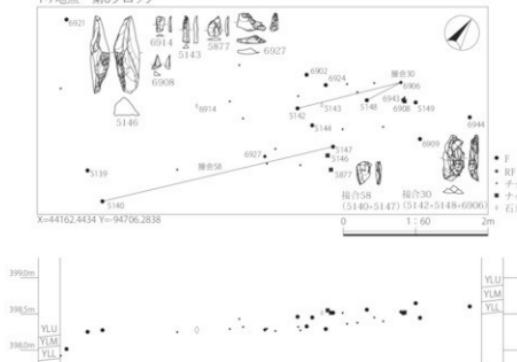
## 第8ブロック（第156図）

本ブロックは、調査区北西部のH-9 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸 1.98m、短軸 1.09m である。垂直分布は、標高 398.69 ~ 399.05m、比高差は 0.36m である。出土層位は YLL 層である。出土石器は、ナイフ形

第49表 1-7地点第6ブロック 石材器種組成表

	天然石材器	加工石器	圓錐形石器	和田玉	黒曜石	褐色	珪藻岩	玉	合計
ナイフ形石器		2		1					3
二次加工ある剥片	1	1							2
石刃		2							2
剥片		1	7	2		1	2	13	
碎片	2		6		7				15
合計	3	3	16	2	7	1	1	2	35

1-7地点 第6ブロック



第155図 1-7地点 YL 層準 第6ブロック遺物分布図

第6章 1-7地点

第50表 1-7地点第7ブロック 石材器種組成表

	要科分類	埋蔵位置(台面)	合計
ナイフ形石器	1	1	2
二次加工ある剝片	1	1	
剝片	4	4	
碎片	3	3	
合計	1	9	10

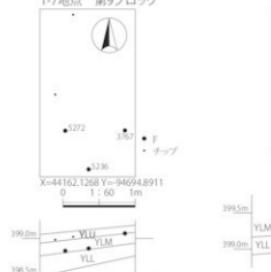
第51表 1-7地点第8ブロック 石材器種組成表

	要科分類	埋蔵位置(台面)	合計
ナイフ形石器		2	2
二次加工ある剝片	1		1
石刀		1	1
剝片		2	2
碎片		3 2 3	8
合計	1	6 4 3	14

1-7地点 第7ブロック



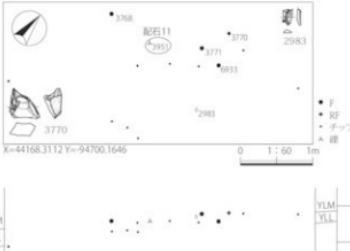
1-7地点 第9ブロック



第52表 1-7地点第9ブロック 石材器種組成表

	埋蔵位置(台面)	手取シヌエルス	集落密着部	孤離部	合計
剝片	1		1	1	3
碎片		1	1		2
合計	1	1	2	1	5

1-7地点 第10ブロック



第156図 1-7地点 YL層準 第7～10ブロック、第11・15号配石遺物分布図

石器2点、二次加工ある剥片1点、石刃1点、剥片2点、碎片8点の合計14点である。また、ブロック内から単独礫1点が出土している。接合資料は無い。

#### 第9ブロック（第156図）

本ブロックは調査区西部のG-9・グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸2.16m、短軸0.82mである。垂直分布は、標高398.83～399.07m、比高差は0.24mである。出土層位はYLU～YLM層であり、YLU層下部～YLM層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、剥片3点、碎片2点の合計5点である。接合資料は無い。

#### 第10ブロック（第156図）

本ブロックは調査区中央部のG-9・10グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸4.00m、短軸1.75mである。垂直分布は、標高398.93～399.40m、比高差は0.47mである。出土層位はYLM～YLL層であり、YLM層下部～YLL層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、二次加工ある剥片1点、石刃1点、剥片3点、碎片10点の合計15点である。また、ブロック内から単独礫1点が出土している。接合資料は無い。

#### 第11ブロック（第157図）

本ブロックは調査区中央部のG-10グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸7.47m、短軸6.23mである。垂直分布は、標高399.34～399.95m、比高差は0.61mである。出土層位はYLM～YLL層であり、YLM層下部～YLL層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器6点、楔形石器1点、使用痕ある剥片2点、石刃2点、石核1点、剥片14点、碎片18点の合計44点である。また、ブロック内から単独礫3点が出土している。接合資料は無い。

第53表 1-7地点第10ブロック 石材器種組成表

	箱根相模原群	和田山群	圓筒葉アーチ群	和田十日町橋西群	和田十日町橋東群	原野跡不明	合計
二次加工ある剝片		1				1	1
石刃	1	1	1				3
剥片	3		1	2	1	3	10
碎片	4	1	3	2	2	3	15

第54表 1-7地点第11ブロック 石材器種組成表

	箱根相模原群	和田山群	圓筒葉アーチ群	和田十日町橋西群	和田十日町橋東群	原野跡不明	ホシツブツエルス	黒色云山岩	桂木屋佐原	合計
ナイフ形石器	3	1	1				1			6
楔形石器					1				1	1
使用痕ある剝片				1	1					2
石刃	1						1			2
石核							1		1	1
剥片	9	1		2	1		1		14	14
碎片	9	4		1	4					18
合計	22	6	1	2	8	1	3	1	44	44

#### 第12ブロック（第158図）

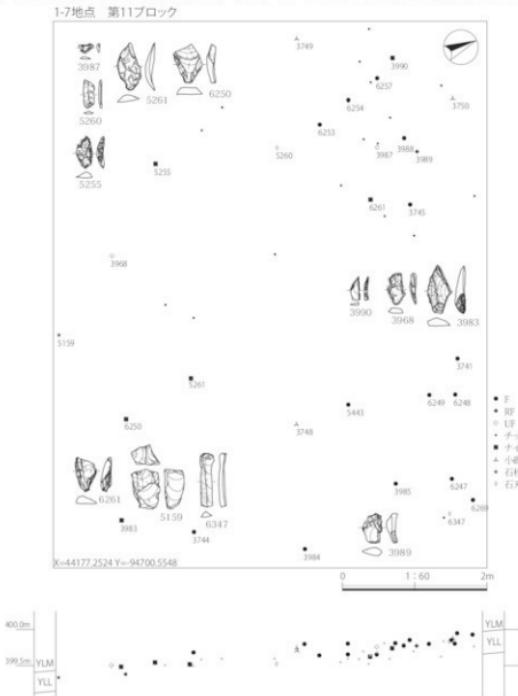
本ブロックは調査区中央部北のG-10グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第5号礫群と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸2.55m、短軸2.08mである。垂直分布は、標高400.07～400.20m、比高差は0.13mである。出土層位はYLM～YLL層であり、YLM層下部～YLL層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器1点、剥片4点、石核1点の合計6点である。接合資料は、ブロック内で1個体確認され、接合資料33は石核と剥片が接合する。

### 第13 ブロック (第158図)

本ブロックは調査区東部のG-11 グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第4号蝶群と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 4.43m、短軸 2.73m である。垂直分布は、標高 399.42 ~ 400.15m、比高差は 0.73m である。出土層位は YLM ~ YLL 層であり、YLM ~ YLL 層上部にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、片面加工の尖頭器未製品 1 点、剥片 6 点、碎片 10 点の合計 17 点である。接合資料は無い。

### 第14 ブロック (第159図)

本ブロックは調査区東部のG-12 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はないが、南側には本地点最大の第19 ブロックが隣接する。石器分布範囲の規模は、長軸 4.82m、短軸 3.91mである。垂直分布は、標高 399.02 ~ 399.60m、比高差は 0.58m である。出土層位は YLU ~ YLL 層であり、YLM ~ YLL 層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 7 点、二次加工ある剥片 2 点、石刃 6 点、剥片 13 点、碎片 222 点の合計 250 点である。また、ブロック内から単独隕 2 点が出土している。接合資本



第157図 1-7地点 YL層準 第11ブロック遺物分布図

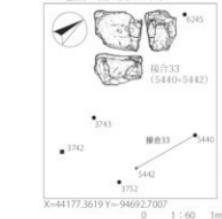
第55表 1-7地点第12ブロック 石材器種組成表

	縫接断面群	神奈川県産石器群	裏浜安山岩群	合計
ナイフ形石器		1	1	
石核		1	1	
剥片	2	1	1	4
合計	2	1	3	6

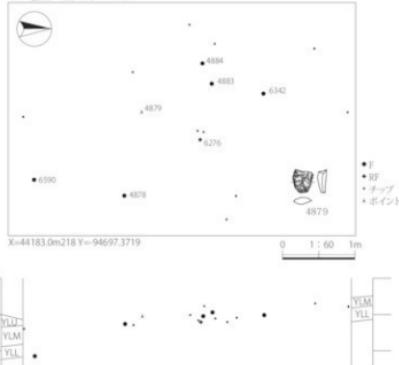
第56表 1-7地点第13ブロック 石材器種組成表

	縫接断面群	豊島冷溶岩群	和田子屋産石器群	神奈川県産石器群	縫接断面不明	裏浜安山岩群	合計
尖頭器		1					1
剝片			1	1		4	6
碎片	1		1		3	2	3
合計	1	1	1	1	4	2	17

1-7地点 第12ブロック



1-7地点 第13ブロック



第158図 1-7地点 YL層準 第12・13ブロック遺物分布図

料は無い。

第15ブロック (第159図)

本ブロックは調査区東端部のG-12・13グリッドで確認されている。他の遺構との重複はないが、南側約2mの位置に本地点最大の第19ブロックが隣接する。石器分布範囲の規模は、長軸3.43m、短軸1.62mである。垂直分布は、標高399.02～399.63m、比高差は0.61mである。出土層位はYLU～YLL層であり、YLU～YLM層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、二次加工ある剥片1点、剥片6点、碎片4点の合計11点である。接合資料は無い。

第16ブロック (第159図)

本ブロックは調査区東部のF-11グリッドで確認されている。他の遺構との重複はないが、東側約1mの位置に本地点最大の第19ブロックが、西側約1mに第6号縫隙群が隣接する。石器分布範囲の規模は、長軸3.81m、短軸0.95mである。垂直分布は、標高398.02～398.66m、比高差は0.64mである。出土層位はZN層下部～YLM層であり、YLU～YLM層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、石核1点、楔形石器1点、二次加工ある剥片1点、剥片3点、碎片5点の合計11点である。接合資料は無い。

第6章 1-7地点

第57表 1-7地点第14ブロック 石材器種組成表

	縦粗面器 横粗面器 不明	裏面 正面	裏 正面	合計
ナイフ形石器	7			7
二次加工ある剝片	2			2
石刃	5	1	6	
剝片	5	8	13	
碎片	102	96	24	222
合計	121	96	33	250

第58表 1-7地点第15ブロック 石材器種組成表

	縦粗面器 横粗面器 不明	裏面 正面	裏面 正面	合計
二次加工ある剝片	1			1
剝片	3	2	1	6
碎片	3		1	4
合計	7	2	1	11

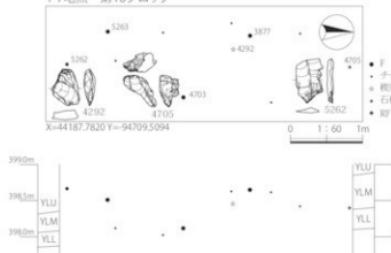
第59表 1-7地点第16ブロック 石材器種組成表

	縦粗面器 横粗面器 不明	裏面 正面	裏面 正面	合計
複形石器	1			1
二次加工ある剝片		1		1
石核	1			1
剝片	3			3
碎片	1	2	2	5
合計	6	1	2	11

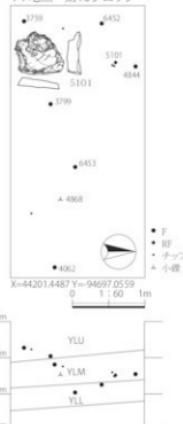
1-7地点 第14ブロック



1-7地点 第16ブロック



1-7地点 第15ブロック



第159図 1-7地点 YL層準 第14～16ブロック遺物分布図

**第17 ブロック（第160図）**

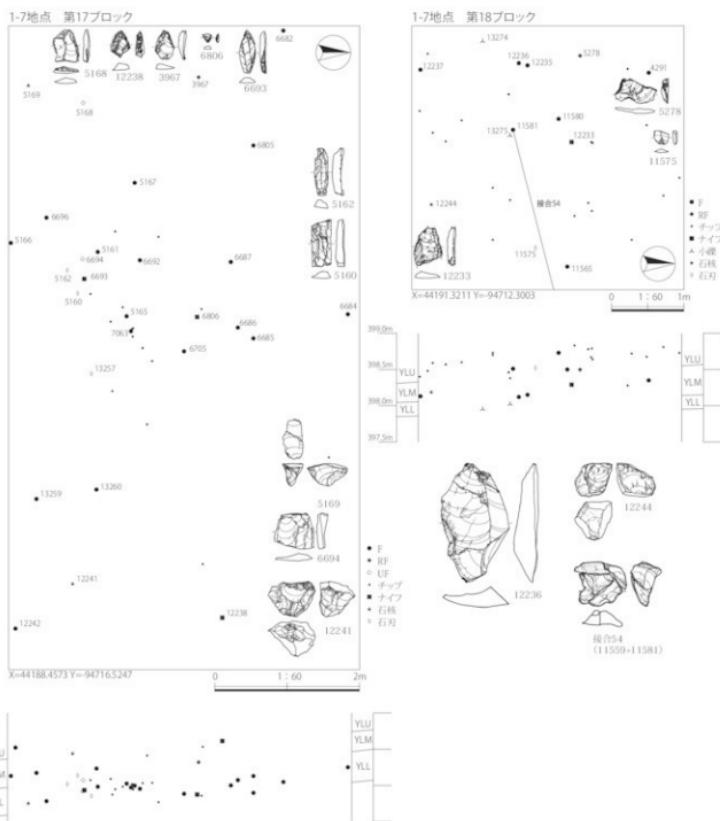
本ブロックは調査区南東端部、1-10 地点南端部の E-10・11 グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第8号礫群、第8・9号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 9.05m、短軸 5.92m である。垂直分布は、標高 397.25 ~ 398.39m、比高差は 1.14m である。出土層位は YLU ~ YLL 層であり、YLM ~ YLL 層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 3点、石核 2点、二次加工ある剥片 1点、使用痕ある剥片 2点、石刃 3点、剥片 17点、碎片 15点の合計 43点である。接合資料は無い。

**第18 ブロック（第160図）**

本ブロックは調査区東端部、1-10 地点南端部の E・F-11・12 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はないが、約 0.6m 北側に第19 ブロックが隣接する。石器分布範囲の規模は、長軸 3.70m、短軸 2.91m である。垂直分布は、標高 397.96 ~ 398.83m、比高差は 0.87m である。出土層位は YLU ~ YLL 層であり、YLU ~ YLM 層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 1点、石核 1点、二次加工ある剥片 1点、石刃 1点、剥片 7点、碎片 19点の合計 30点である。また、ブロック内から単独礫 2点が出土している。接合資料は、ブロック間で 1個体確認され、接合資料 54 は本ブロックの剥片と第19 ブロックの剥片 4点とが接合する。

**第19 ブロック（第161図）**

本ブロックは調査区東端部、1-10 地点中央部の E-12、F・G-11・12 グリッドで確認されている。本地点最大の石器ブロックである。ブロック中央部で第8号礫群、第8・9号配石と重複し、ブロック南部で第9号礫群、第10号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 12.60m、短軸 10.81m である。垂直分布は、標高 398.14 ~ 399.49m、比高差は 1.35m である。出土層位は YLU ~ YLL 層であり、YLM ~ YLL 層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 34点、石核 6点、エンドスクリペー 1点、二次加工ある剥片 12点、使用痕ある剥片 5点、石刃 26点、剥片 312点、敲石 1点、碎片 2,358点の合計 2,755点である。また、ブロック内から単独礫 8点が出土している。接合資料は 10 個体あり、ブロック内での接合が 7 個体、ブロック間接合が 3 個体確認される。接合資料 29 は使用痕ある剥片 1点と剥片 2点が接合する。接合資料 31 は剥片 2点が接合する。接合資料 32 は剥片 2点が接合する。接合資料 43 は本ブロックの石核 1点、剥片 1点が 10 地点の第23・24 ブロックの剥片各 1点と接合する。接合資料 44 は剥片 4点が接合する。接合資料 54 は剥片 4点が第18 ブロックの剥片 1点と接合する。接合資料 68 は剥片 2点が接合する。接合資料 69 は剥片 1点が 10 地点の第22 ブロックの石核と接合する。接合資料 70 は石核 1点と剥片 1点が接合する。接合資料 77 は剥片 1点と碎片 1点が接合する。



第160図 1-7地点 YL層準 第17・18ブロック遺物分布図

第60表 1-7地点第17ブロック 石材器種組成表

	新規層石群	天城始材料群	初田層石群	豊科准石群	御陵層石群	ホルタツカルス	東北安正山岩	桂園層石群	合計
ナイフ形石器	1		1	1					3
二次加工ある剣片					1				1
使用歴ある剣片	2								2
石刀	2	1							3
石核							1	1	2
剣片	6			1	1	4	4	1	17
碎片	7		4		2	1		1	15
合計	18	1	5	1	1	4	5	5	43

第61表 1-7地点第18ブロック 石材器種組成表

	新規層石群	天城始材料群	初田層石群	豊科准石群	御陵層石群	ホルタツカルス	合計
ナイフ形石器	1						1
二次加工ある剣片	1						1
石刀	1						1
石核	1						1
剣片	2	1			4		7
碎片	12		1	4	2		19
合計	18	1	1	4	6		30

第62表 1-7地点第19ブロック 石材器種組成表

	新規層石群	天城始材料群	初田層石群	豊科准石群	御陵層石群	ホルタツカルス	桂園層石群	御正山	チャーチー	桂園層石群	合計
ナイフ形石器	27	1	1	1	1			1	2		34
スクレイパー	1										1
二次加工ある剣片	10									1	12
使用歴ある剣片	3							1		1	5
石核	2	1					1	2			6
石刀	18		1	1	1		2	3			26
剣片	215			1	1	24	2	62	2	1	4 312
碎片	1,225	2	1	6	3	1	2	1,012	1	101	2,258
敲石										1	1
合計	1,501	4	3	8	6	1	1	2	1,038	5	171
										1	5
										3	5
										5	2,755

第6章 1-7地点



## (2) 碓群

本調査地点のYL層準において礫群は9基確認された。検出された礫群の分布状況は、第5・6号礫群を除いた7基の礫群が石器ブロックと重複するように検出されている。また、第1・5号礫群は構成礫数が3点であり、本来の礫群としての分類構成数4点に満たないが、それぞれが配石と重複しており、これらとの関連が窺われることからここでは配石としている。

### 第1号礫群（第162図）

本礫群は、調査区西部のF-9グリッドで確認されている。礫群の北半部が第5ブロックと重複し、中心付近に第1・2号配石が検出される。礫群の規模は、長軸2.00m、短軸0.67m、垂直分布は標高398.11～398.14mであり、比高差は0.03mである。出土層位はYLM層である。構成する礫は3点であり、総重量は598gを測る。このうち2点に被熱の痕跡が認められる。接合資料は無い。

### 第2号礫群（第162図）

本礫群は、調査区西部のF-9グリッドで確認されている。他の遺構との重複関係はない。礫群の規模は、長軸1.12m、短軸0.31m、垂直分布は標高398.46～398.79mであり、比高差は0.33mである。検出層位はYLU～YLM層である。構成する礫は6点であり、総重量は1.888gを測る。全ての礫に被熱の痕跡が認められ、このうちの1点には煤状付着物が確認される。接合資料は無い。

### 第3号礫群（第162図）

本礫群は、調査区西部のF-9グリッドで確認されている。同位置で第6ブロックと重複し、礫群中心部付近に第3・4号配石が検出される。礫群の規模は、長軸1.69m、短軸0.64mである。垂直分布は標高398.41～398.55mであり、比高差は0.14mである。検出層位はYLM～YLL層であり、YLM層に垂直分布が集中する傾向がある。構成する礫は7点であり、総重量は1.861gを測る。5点に被熱の痕跡が認められ、このうちの1点に煤状付着物が確認される。接合資料は無い。

### 第4号礫群（第162図）

本礫群は、調査区東部のG-11グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第13ブロックと重複する。礫群の規模は、長軸2.74m、短軸1.24mである。垂直分布は標高399.97～400.27mであり、比高差は0.29mである。検出層位はYLM層である。構成する礫は11点であり、総重量は1.929gを測る。6点に被熱の痕跡が認められ、このうちの1点には煤状付着物が確認される。接合資料は無い。

### 第5号礫群（第162図）

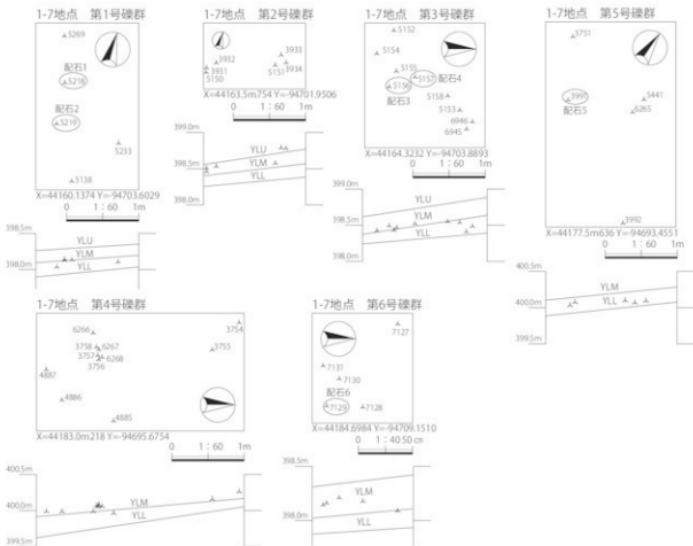
本礫群は、調査区中央部北側のG-10グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第12ブロックと重複し、礫群の中央南側で第5号配石が検出される。礫群の規模は、長軸2.68m、短軸0.73mである。垂直分布は標高400.07～400.10mであり、比高差は0.03mである。検出層位はYLM～YLL層である。構成する礫は4点であり、総重量は1.424gを測る。2点に被熱の痕跡が認められ、このうち1点に煤状付着物が確認される。接合資料は無い。

## 第6号礫群（第162図）

本礫群は、調査区東部のF-11 グリッドで確認されている。礫群南東部で第6号配石が検出されており、約1m東側には第16ブロックが隣接する。礫群の規模は、長軸1.01m、短軸0.53mである。垂直分布は標高398.09～398.21mであり、比高差は0.12mである。検出層位はYLM層である。構成する礫は4点であり、総重量818gを測る。3点に被熱の痕跡が認められ、このうち1点には煤状付着物が確認される。接合資料は無い。

## 第7号礫群（第163図）

本礫群は、調査区南東部、1-10地点南端部に跨るE-11 グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第17ブロックと重複しており、礫群の中心付近で第7号配石が検出される。礫群の規模は、長軸3.61m、短軸2.20mである。垂直分布は標高397.17～397.53mであり、比高差は0.36mである。検出層位はYLM～YLL層である。構成する礫は14点であり、総重量2,471gを測る。8点に被熱の痕跡が認められ、このうちの1点には煤状の付着物が確認される。接合資料は無い。



第162図 1-7地点 YLM層準 第1～6号礫群、第1～6号配石遺物分布図

## 第8号礫群（第163図）

本礫群は、調査区東部F-11・12、G-11 グリッドで確認されている。同位置で第19ブロックと重複する。礫群の規模は、長軸4.78m、短軸1.35mである。垂直分布は標高398.60～399.09mであり、比高差は0.49mである。検出層位はYLU～YLL層である。構成する礫は7点であり、総重量595gを測る。5点に被熱の痕跡が認められ、礫群の範囲内で5点の炭化物が検出された。接合資料は無い。

## 第9号礫群（第163図）

本礫群は、調査区東部、1-10地点の中央部に跨るF-12 グリッドで確認されている。同位置で第19ブロックと重複し、西側約1.7mに第10号配石が検出される。礫群の規模は、長軸1.38m、短軸0.87mである。垂直分布は標高398.54～398.62mであり、比高差は0.08mである。検出層位はYLM層である。構成する礫は9点であり、総重量2,059gを測る。6点に被熱の痕跡が認められ、このうち1点には煤状付着物が確認される。接合資料は無い。

## (3) 配石

配石は10基確認されている。これらは礫群と重複するもの、石器ブロックと礫群両者と重複するものがいる。

## 第1号配石（第162図）

第1号配石は、調査区西部のF-9 グリッドで確認されている。第1号礫群の中心付近に位置し、第2号配石と約0.5m離れた距離で検出された。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高398.13mである。礫は重量3,145gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

## 第2号配石（第162図）

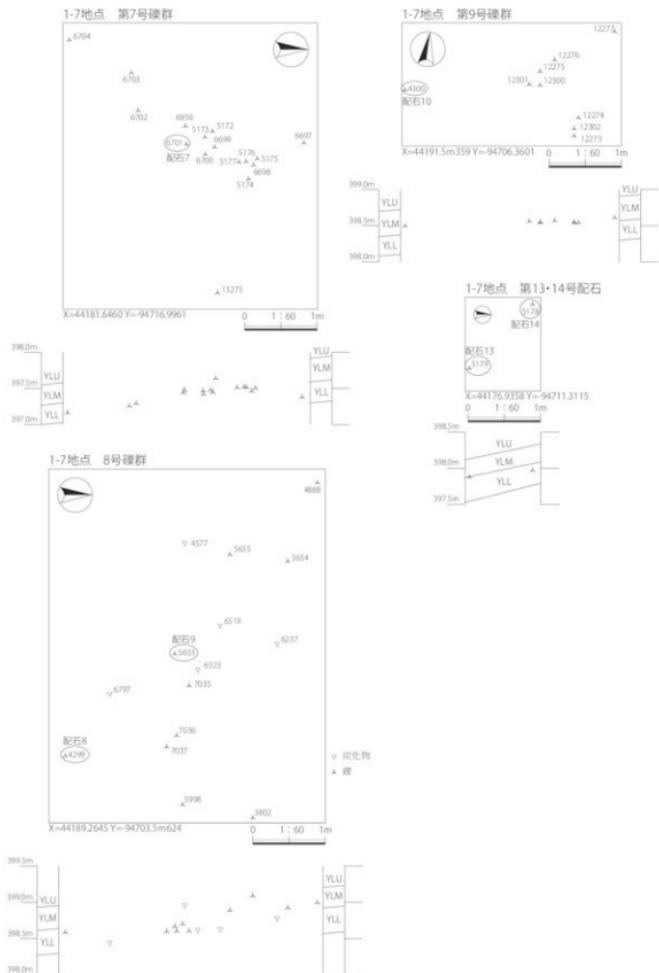
第1号配石は、調査区西部のF-9 グリッドで確認されている。第1号礫群の中心付近に位置し、第1号配石と約0.5m離れた距離で検出された。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高398.04mである。礫は重量1,362gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

## 第3号配石（第162図）

第3号配石は、調査区西部のF-9 グリッドで確認されている。第3号礫群の中心付近に位置し、第4号配石と約0.4m離れた距離で検出された。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高398.50mである。礫は重量1,002gの亜角礫であり、被熱の痕跡が認められる。

第63表 1-7地点礫群・配石組成表

	長軸 m	短軸 m	総 高さ mm	総 重量 g	被 熱 数	注 記
第1号礫群	2.00	0.67	3	598	2	
第2号礫群	1.12	0.31	6	1,888	6	1
第3号礫群	1.69	0.64	7	1,861	5	1
第4号礫群	2.74	1.24	11	1,929	6	1
第5号礫群	2.68	0.73	4	1,424	2	1
第6号礫群	1.01	0.53	4	818	3	1
第7号礫群	3.61	2.20	14	2,471	8	1
第8号礫群	4.78	1.35	7	595	5	
第9号礫群	1.38	0.87	9	2,059	6	1
第1号配石			1	3,145		
第2号配石			1	1,362		
第3号配石			1	1,002	1	
第4号配石			1	5,430		
第5号配石			1	1,570	1	
第6号配石			1	2,055		
第7号配石			1	3,145		
第8号配石			1	1,287		
第9号配石			1	2,497		
第10号配石			3	5,400		
第11号配石			1	1,991		
第12号配石			1	935		
第13号配石			1	1,391		
第14号配石			3	8,300	3	1
第15号配石			1	3,813		



第163图 1-7地点 YL 层准 第7~9号砾群、第13·14号配石遗物分布图

**第4号配石（第162図）**

第4号配石は、調査区西部のF-9 グリッドで確認されている。第3号礫群の中心付近に位置し、第3号配石と約0.4m離れた距離で検出された。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高398.53mである。礫は重量5,430gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

**第5号配石（第162図）**

第5号配石は、調査区中央部北側のG-10 グリッドで確認されている。第5号礫群の南側約0.9mの位置で検出された。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高400.04mである。礫は重量1,570gの亜角礫であり、被熱の痕跡が認められる。

**第6号配石（第162図）**

第6号配石は、調査区東部のF-11 グリッドで確認されている。第6号礫群の東側約0.4mの位置で検出された。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高398.16mである。礫は重量2,055gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

**第7号配石（第163図）**

第7号配石は、調査区南東部のE-11 グリッドで確認されている。第7号礫群の中心付近で検出された。出土層位はYLL層であり、出土レベルは標高397.48mである。礫は重量3,145gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

**第8号配石（第163図）**

第8号配石は、調査区東部のF-12 グリッドで確認されている。第8号礫群の南東付近に位置し、第9号配石と約2.1m離れた距離で検出された。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高398.59mである。礫は重量1,287gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

**第9号配石（第163図）**

第9号配石は、調査区東部のF-12 グリッドで確認されている。第8号礫群の中心付近に位置し、第8号配石と約2.1m離れた距離で検出された。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高398.67mである。礫は重量2,497gの亜円礫であり、被熱の痕跡は認められない。

**第10号配石（第163図）**

第10号配石は、調査区東端のF-12 グリッドで確認されている。第9号礫群と約1.7m離れた距離で検出された。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高398.50mである。礫は重量5,400gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

**第11号配石（第156図）**

第11号配石は、調査区中央部のG-9 グリッドで確認されている。第10ブロックのほぼ中央部で検出された。出土層位はYLL層であり、出土レベルは標高399.29mである。礫は重量1,991gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

**第12号配石（第159図）**

第12号配石は、調査区東端部のG-12 グリッドで確認されている。第14ブロックのはぼ中央部で検出された。出土層位はYLL層であり、出土レベルは標高399.13mである。礫は重量935gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

**第13号配石（第163図）**

第13号配石は、調査区南部のE-10 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はないが、北西約1.2mの距離で第14号配石が検出されている。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高397.97mである。礫は重量1.391gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

**第14号配石（第163図）**

第14号配石は、調査区南部のE-10 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はないが、南東約1.2mの距離で第13号配石が検出されている。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高397.97mである。礫は重量8.300gの角礫であり、被熱の痕跡が認められ、側面には煤状の付着物が確認される。

**第15号配石（第156図）**

第15号配石は、調査区西端部のG-8 グリッドで確認されている。第7ブロックと重複する。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高397.78mである。礫は重量1.813gの亜角礫であり、被熱の痕跡は認められない。

## 2. 出土遺物

本調査地点で確認された石器は、第1ブロックから第19ブロックで出土した3,418点と散在的に確認された81点の計3,499点で構成される。これらの石器には複数の文化層が存在するものと考えられるが、個体別資料分類や接合資料からこれらを分離しようとしたが不可能であったため、ここでは出土した石器の器種毎の特徴を把握しながら石器群を見ていきたい。

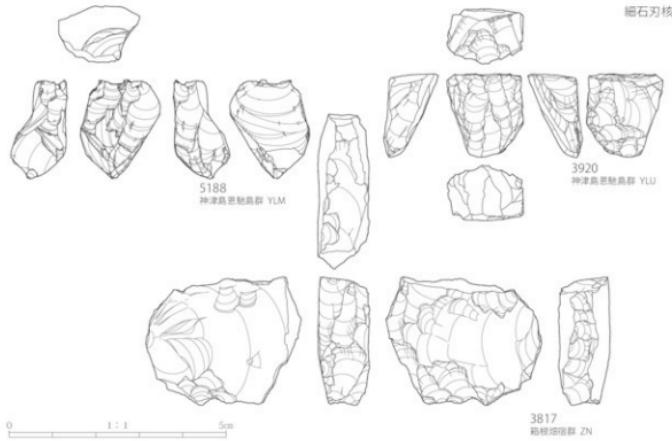
### (1) 石器

本調査区で確認された石器は、上述したように第1ブロック～第19ブロックで出土した3,418点、散在的に出土した80点の計3,499点で構成されている。これら石器類の器種の内訳は、細石刃核3点、ナイフ形石器72点、尖頭器4点、エンドスクレイパー1点、削器1点、楔形石器2点、敲石1点、二次加工ある剥片35点、使用痕ある剥片12点、石刃44点、石核19点、剥片468点、碎片2,837点である。これらの器種組成から見ると、他地点と同様に石器群の主体を占める器種がナイフ形石器である事に間違いはない。以下では、各器種の特徴を把握しながら、石器群の様相を捉えていきたい。

#### 細石刃核（第164図 3817～5188）

1-7地点からは3点の細石刃核が出土している。台崎A遺跡全体で出土した細石刃核の全てが本地点の第2ブロックより出土している。ここでは個別に詳述していく。

3817は第2ブロックのZN層から出土した細石刃核である。縱長剥片を素材とし、打面は主要剥離面方向より側方から調整され、小口面を作業面としている。3920はYL層より出土した細石刃核である。打面は平坦打面であり、作業面方向から一部調整が施される。所謂「野岳・休場型」の範疇に含まれるものと考えられる。5188は作業面再生の際に偶発的な割れが発生したものと考えられる。



第164図 1-7地点 YL層準 出土遺物(1)

### ナイフ形石器（第165～210図）

本地点からは72点のナイフ形石器が出土している。台崎A遺跡全体で出土したナイフ形石器をみると、複数の形態が確認されている。ここでは第I群：二側縁加工のもの、第II群：一侧縁加工のもの、第III群：欠損の形態不明のものの3群に分類し、それぞれの群の中で更に細別し、詳述していく。

#### 第I群b類（第165・166図 3020～12804）

二側縁加工のナイフ形石器で大きさが3cm以上5cm以下の中型のものを本類とした。13点確認される。このうち6826、12804は刃部先端の一部を欠損しており、復元値での分類となる事をはじめにお断りしておきたい。石刃素材のもの（3042、4102、5170、6348、6693、12804）、他は剥片を素材とする。石刃素材のものは、打点部を刃部方向へ用いるもの（3042、4102、5170）、基部方向へ用いるもの（6348、6693、12804）がある。剥片素材は、背面構成から單設打面の石核より剥離された剥片（3020、3798）、複設打面の石核より剥離された剥片（3983、4101、4864、5190、6826）があり、素材を獲得する際の多様性が窺われる。また、素材の方向は打点部を刃部方向へ用いるもの（3020、4101、6826）、基部方向へ用いるもの（3983、5190）、剥片を横方向へ用いるもの（3798、4864）がある。こういった事から見ると本群のナイフ形石器は、素材獲得において多様な剥離技法を用いており、また、その素材はその後の二次加工においても多様性が認められ、様々な形のナイフ形石器が製作されていることが理解される。

#### 第I群c類（第167図 3012～12238）

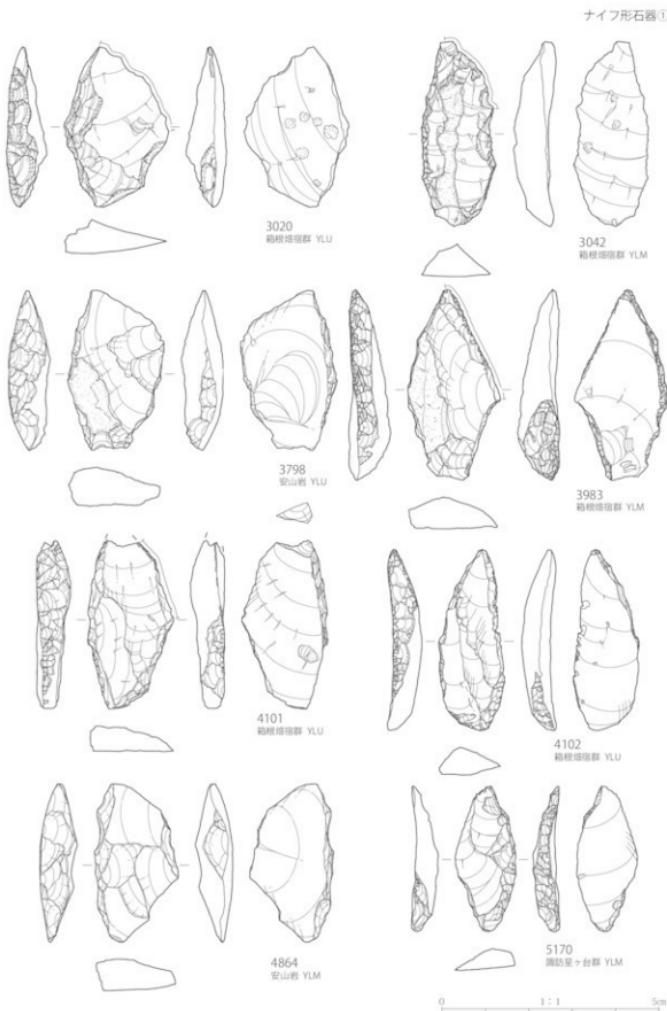
二側縁加工のナイフの中で最大長が3cm以下の小型のものを本類とした。12点確認される。3012、3736、5275は刃部の一部を欠損しており、復元値での分類となる事をはじめにお断りしておきたい。このうち、素材剥片が小型の石刃のもの（3761、3900、5200）、他は全て剥片を素材とするものである。石刃素材のものはいずれも單設打面の石核より剥離されており、石刃同様に石核も小型のものと推定される。剥片素材のものでは單設打面の石核より剥離された剥片を素材とするもの（3012、3761、4108、12238）、複設打面の石核より剥離された剥片を素材とするもの（3025、3736、4412、5075、5255、5275）があり、素材獲得にも複数の技術を選択していることが分かる。また、2cm前後のごく小型のナイフ形石器（3012、3736、4108、5075、5275）が本地点においても認められる。

#### 第II群a類（第168図 5146）

一侧縁加工のナイフの中で最大長が5cm以上の大型のものを本類とした。1点確認される。5146は複設打面を持つ石核より剥離された横長剥片を素材とし、左側縁部にプランティングを施す。プランティングは背面側から施され、急角度を呈する。

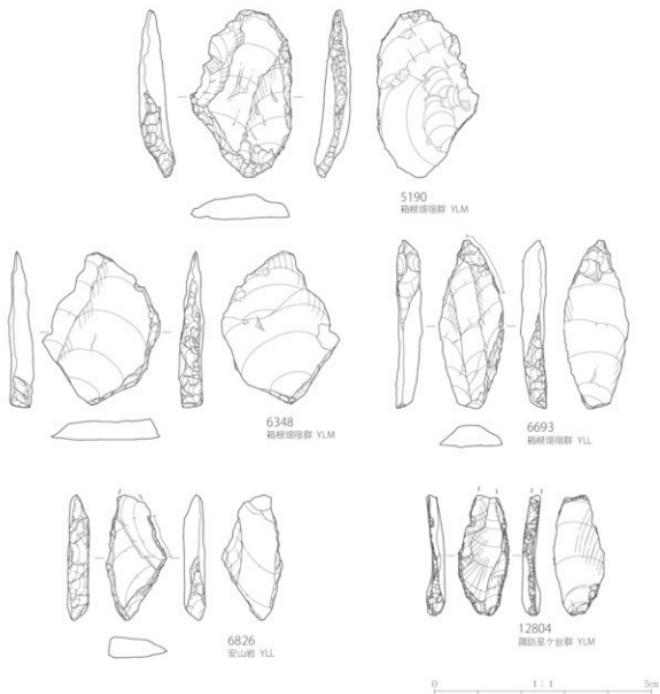
#### 第II群b類（第168図 5261）

一侧縁加工のナイフの中で最大長が5cm以下の中型のものを本類とした。1点確認される。5261は縱長剥片を素材とし、背面側には自然面が残る。右側縁部に認められるファシット状にみえる剥離は素材剥片を剥離した際に生じた同時剝れと考えられる。打部は主要剥離面側からのプランティングによって大きく整形される。一侧縁加工ナイフと分類しているが、二側縁加工のナイフ形石器の未製品の可能性も考えられる。



第165図 1-7地点 YL層準 出土遺物(2)

ナイフ形石器②

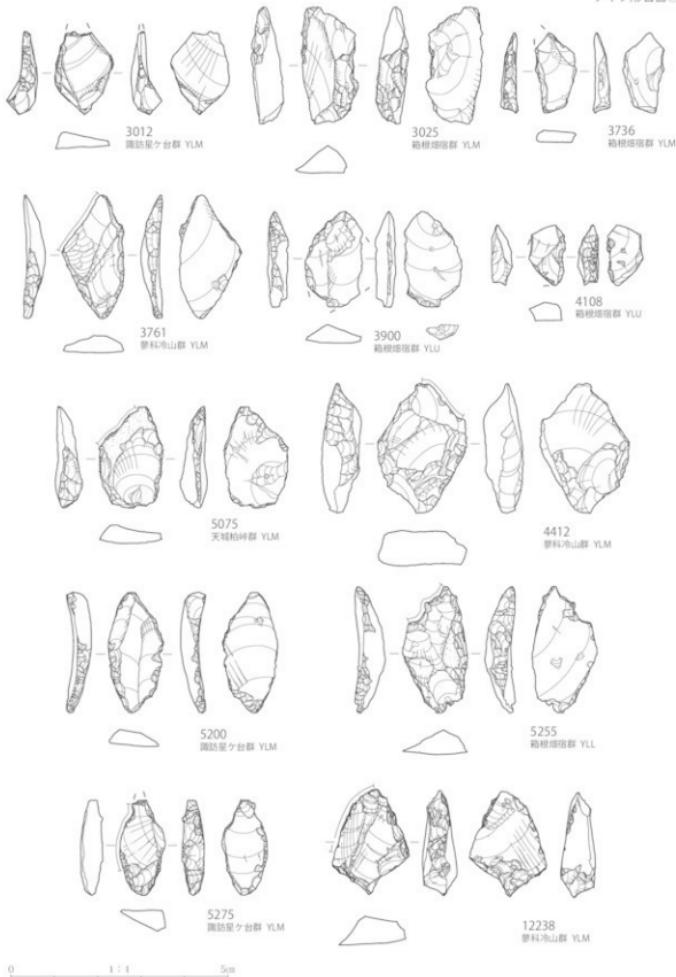


第166図 1-7地点 YL層準 出土遺物(3)

## 第三群 (第169～171図 3011～12233)

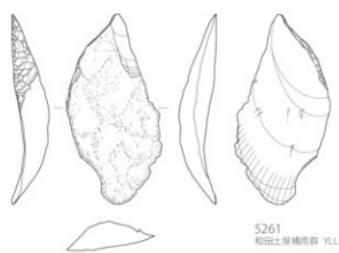
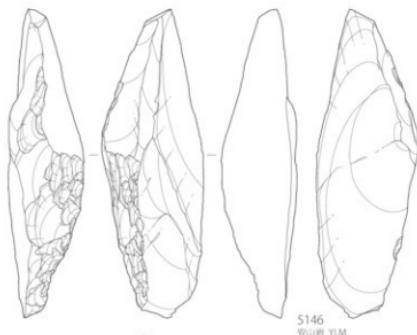
ナイフ形石器の欠損品を一括した。4930～5097はナイフ形石器の刃部先端である。3899～6808は刃部～中央部である。5237～12233は刃部、基部を欠損した中央部である。4256～6250は中央部～基部である。3937～7111は基部である。全体を窺い知る資料は少ないが、小型のナイフ形石器が主体を占めているものと推測される。ただし、5258、6403、6808、3038、3742、12233、6261、6250のように復元長が5cm以上になると推定されるものも一定量存在する。これらの中には素材として石刃を用いるもの(5258、6403、6808、12233、6251)、剥片を素材とするもの(3742、3038、6250)があり、これらの欠損品からも素材獲得のあり方に多様性があった事が窺える。

ナイフ形石器③



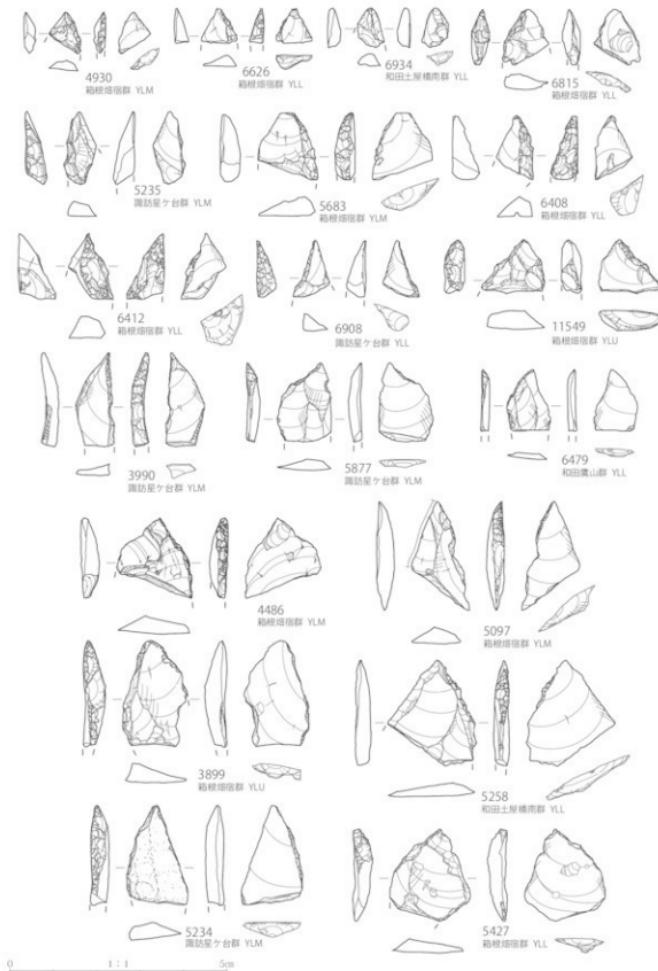
第167図 1-7地点 YL層準 出土遺物(4)

ナイフ形石器④



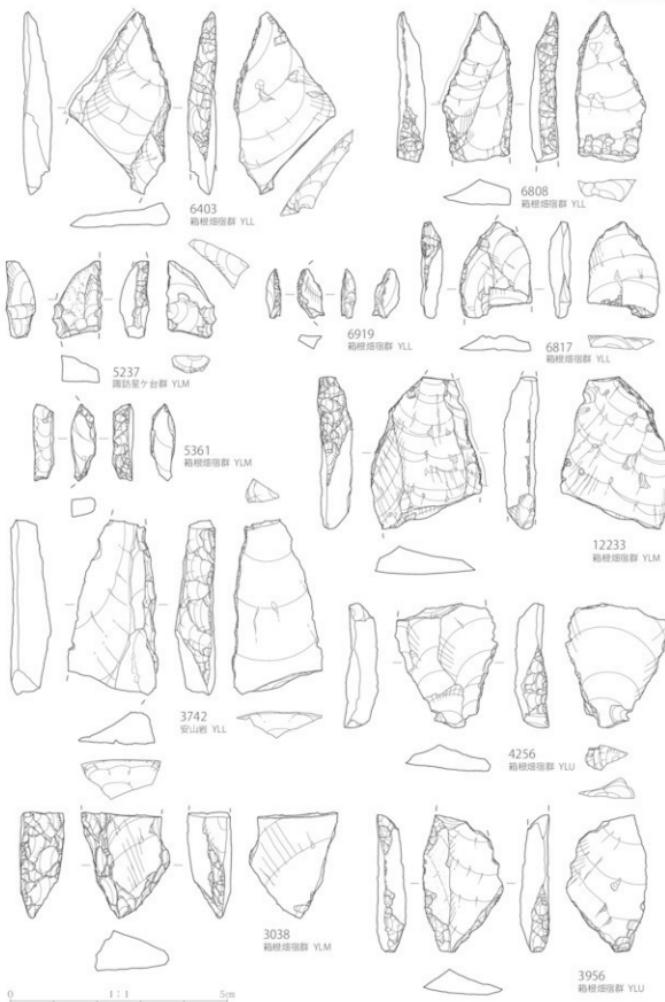
第168図 1-7地点 YL層準 出土遺物(5)

## ナイフ形石器⑤

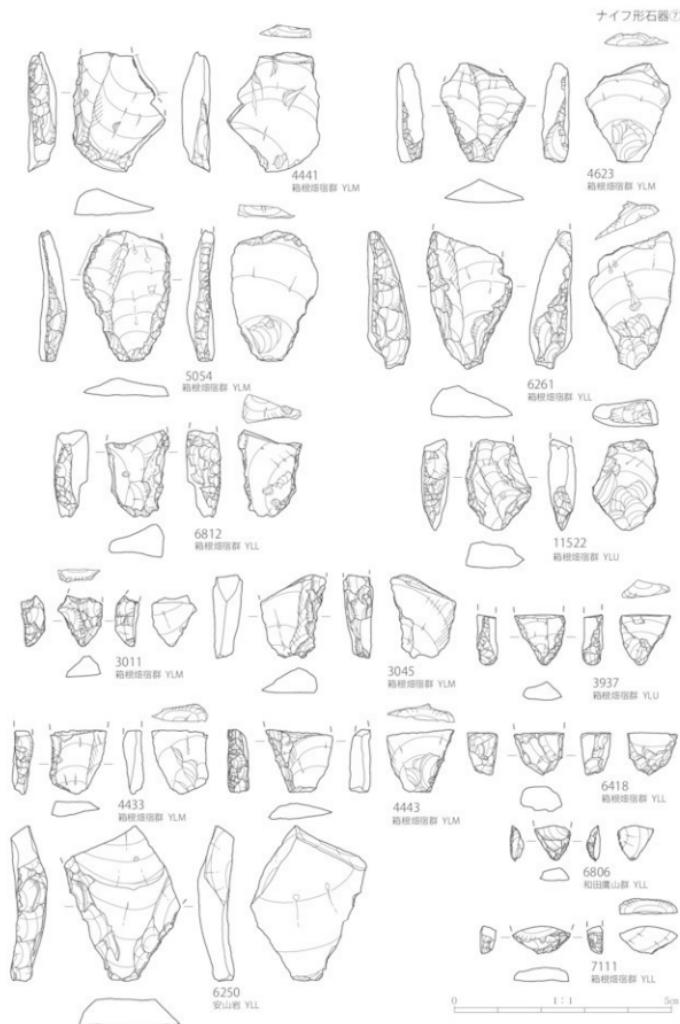


第169図 1-7地点 YL層準 出土遺物 (6)

ナイフ形石器⑥



第170図 1-7地点 YL層準 出土遺物(7)



第171図 1-7地点 YL層準 出土遺物 (8)

#### 尖頭器（第172図）

本地点からは、4点の尖頭器が出土している。ここでは、a類：両面加工のもの、b類：片面加工のもの、c類：周縁加工のもの、d類：半両面加工のものの4類に分類し、詳述していく。ただし、分類したものの中には欠損したものが含まれており、全様を窺い知る資料ではなく不完全な分類である事をお断りしておきたい。

##### b類：（第172図 3926、4879、5222+5224）

3926は、小型の尖頭器未製品である。背面と主要剥離面の一部に二次加工が施される。二次加工は直接打撃による整形であり、押圧剥離は確認されない。4879は、尖頭器の基部付近である。背面側に二次加工が施される。二次加工は直接打撃によるものと考えられ、押圧剥離は確認されない。製作途中で折損したため廃棄されたものと考えられる。5222は、衝撃によって剥離した5224が接合する。背面全体に二次加工が施される。接合図は、第210図接合資料80を参照していただきたい。

##### d類：（第172図 5265）

5265は、背面と主要剥離面の基部付近に二次加工が施される。左側縁部には衝撃による極状剥離が確認される。使用による折損後、廃棄されたものと考えられる。

#### エンドスクレイパー（第172図 3037）

基部付近を折損したエンドスクレイパーである。複設の打面を持つ石核より剥離された縦長剥片を素材とする。剥片の末端部に連続した二次加工が施され、スクレイパーエッジを作出している。両側縁部には細かな二次加工が施される。スクレイパーエッジは急角度の調整である。

#### 削器（第172図 3957）

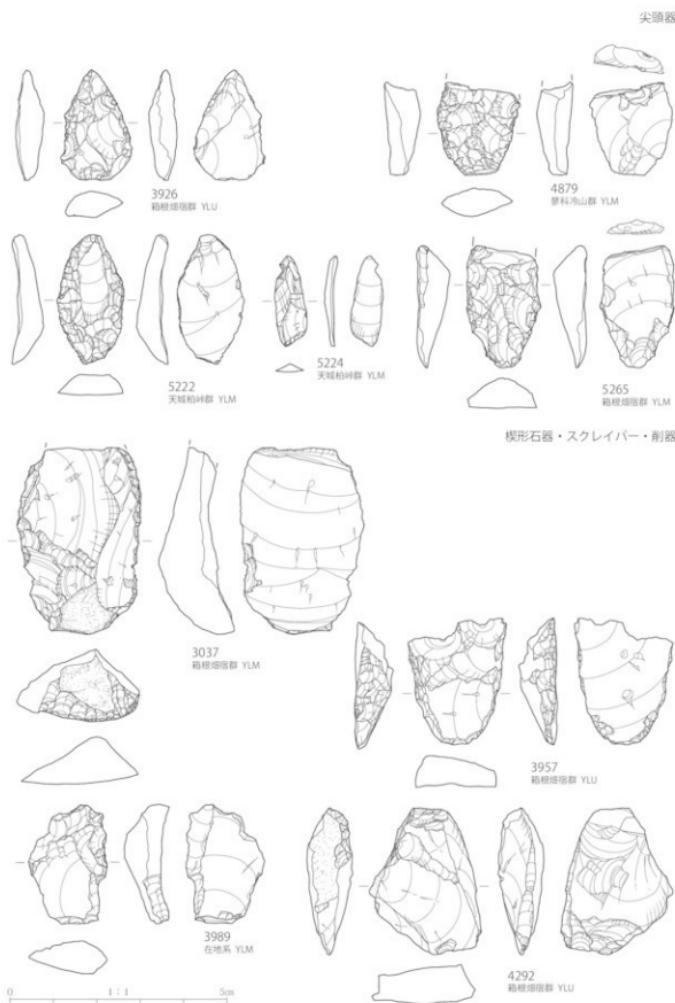
鋸歯状の刃部を持つ削器である。複設打面を持つ石核から剥離された剥片を素材とし、両側縁部、基部に細かな二次加工が施される。

#### 楔形石器（第172図 3989、4292）

3898は、複設打面を持つ石核から剥離された剥片を素材とし、上下端部に細かな階段状の剥離が観察され、側面には衝撃による極状剥離が確認される。4292は、複設打面を持つ石核から剥離された剥片を素材とし、上下端部に衝撃による細かな剥離が観察される。右側縁部には衝撃による極状剥離が確認される。

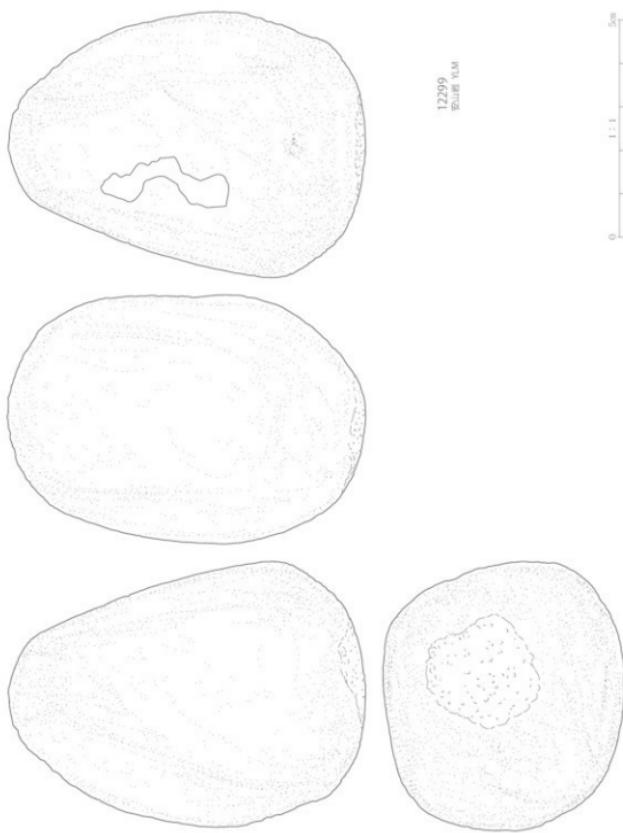
#### 敲石（第173図 12299）

拳大の円錐の端部に敲打痕が観察される。敲打痕は、下端部の中央部付近に弱い敲打痕として確認され、継続した使用ではなく、一時的な使用であったものと推察される。



第172図 1-7地点 YL層準 出土遺物(9)

敲石



第173图 1-7地点 YL层 残石 (10)

**二次加工ある剥片（第 174～178 図 2980～12810）**

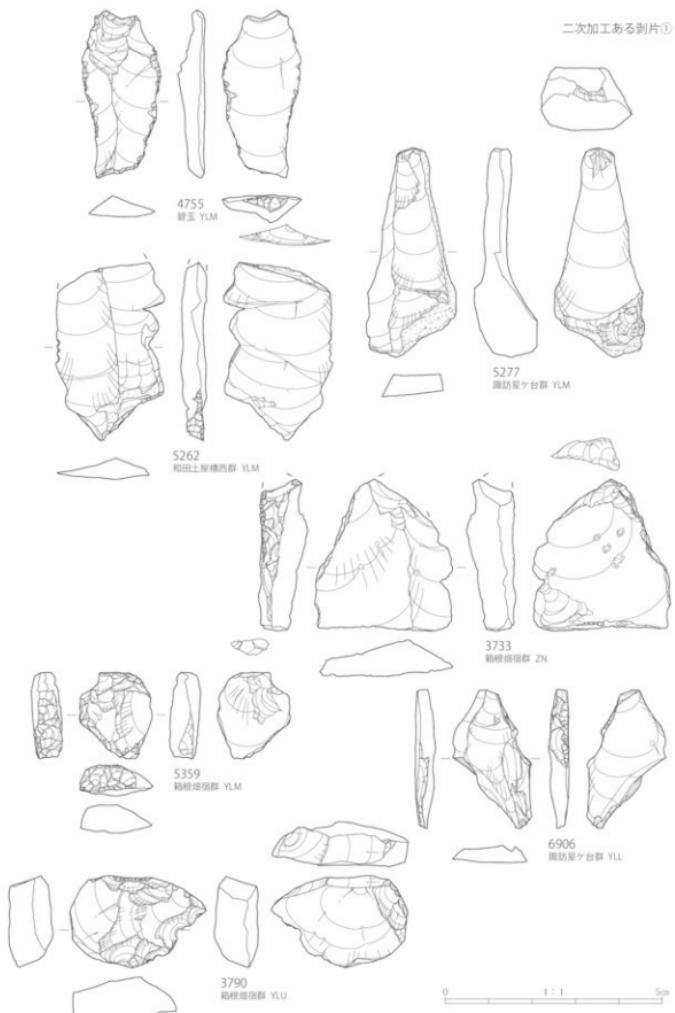
二次加工ある剥片は、35 点確認されている。石刃の側縁部や端部に二次加工を施すもの（4755、5262、5277）が 2 点あり、他は剥片の周縁や一部に二次加工を施すものである。これらは、当該期のいずれかの器種を製作するために二次加工が施されたものであるが、調整が明確ではないことから二次加工ある剥片として一括した。石刃素材のものうち 4755 は、單設打面の石核より剥離された石刃の末端部、両側縁部に細かな二次加工が施される。5262、5277 は、單設打面の石核より剥離された石刃の主要剥離面の末端部付近に一部二次加工が施される。剥片の周縁、端部に二次加工を施すものの中には、ナイフ形石器のプランディング状の二次加工を施すもの（3733、5359、6906）や削器状の二次加工を施すもの（3790、3809、3994、5038、5101）がある。

**使用痕ある剥片（第 179～180 図 3902～6694）**

12 点確認された。石刃の側縁部に微細な剥離痕が認められるもの（4022、5025、5168、5500、6694）、剥片の側縁部や端部に微細な剥離痕が認められるもの（3902、3968、3987、4796、5340、6100）がある。石刃のうち打点部の残存するもの（5168、5500、6694）では、打面は細かな調整が施される。剥片素材のものでは、單設打面の石核より剥離された剥片（6100）、複設打面の石核より剥離された剥片（3902、3987、4796、5340）がある。

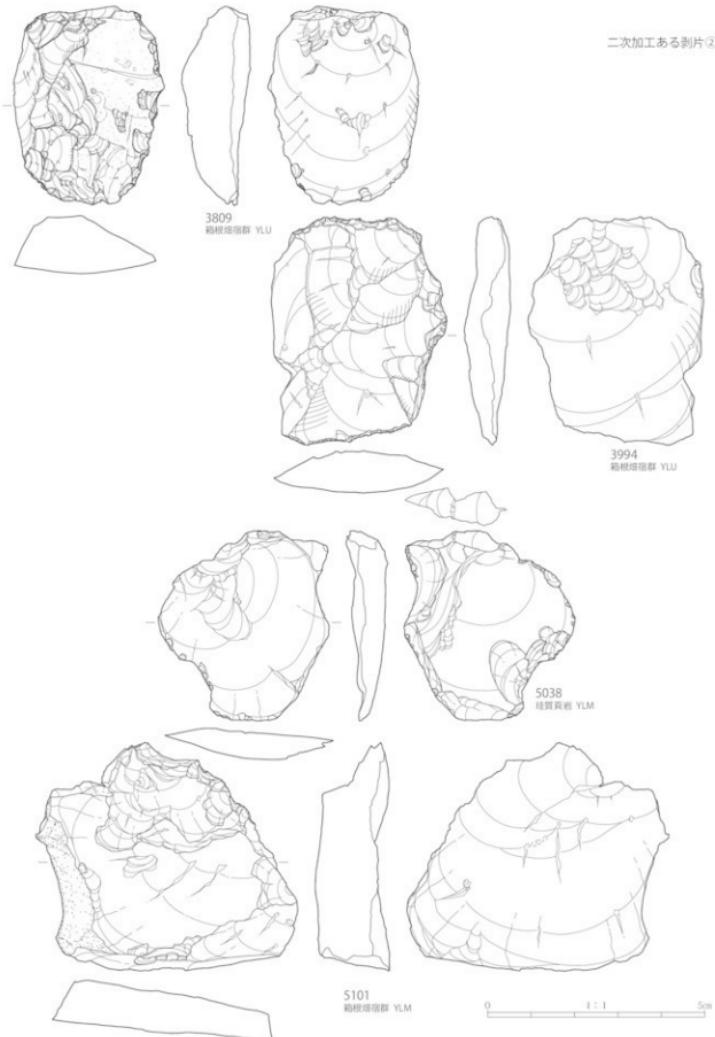
**石刃・折石刃（第 181～184 図 2983～13257）**

44 点確認されているが、使用痕ある剥片や二次加工ある剥片の中に石刃を素材としたものが含まれており、これらを含めれば 52 点の石刃が存在する。完形かほぼ完形のもの（4840、5110、5380、5742、5136、5162、3924）は 7 点確認されるだけであり、他は打面部から中央部のもの（4006～13257）、中央部だけのもの（3880～6970）、中央部から末端部のもの（2983～11575）である。これらの石刃の多くは一定した剥片剥離方向を持つ石核から剥離されたもの（5380、5742、5162、3924、4289、4628、4282、4717、4861、5517、5650、5991、6446、63476492、6783、3880、4001、4165、52606386、6410、6782、6970.5100、6937、7075.11575）が大部分を占めており、両設打面の石核より剥離され、180 度剥離方向の違う剥離痕が認められるもの（5110、5143、5486、6914、4446、5680、5875、2983、5341）、90 度剥離方向の違うもの（4840、5136、4006、4783、13257、4651）がある。このことから、本地点の石刃剥離技術には 3 種類の工程が確認され、單設打面を持つ石核から石刃を剥離するものが一般的であったと考えられる。また、石刃に残された打面を観察すると、平坦打面のもの 10 点（5110、5380、5136、5162、3924、4006、4628、4717、6347、6914）、調整打面のもの 13 点（4840、5742、4289、4783、4861、5486、5517、5650、5991、6446、6492、6783、13257）がある。

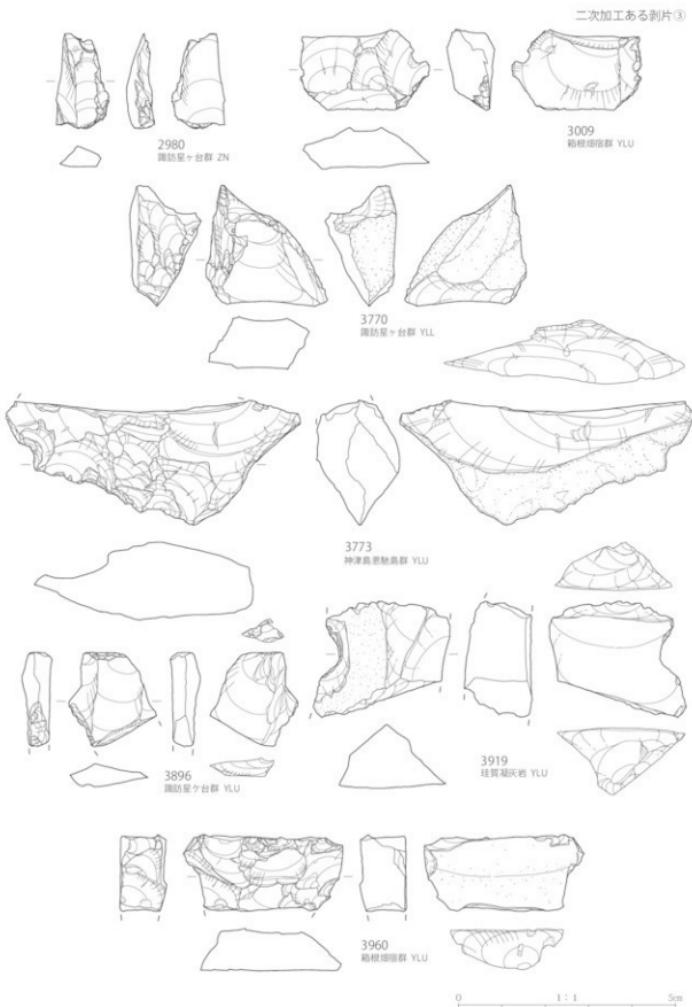


第174図 1-7地点 YL層準 出土遺物(11)

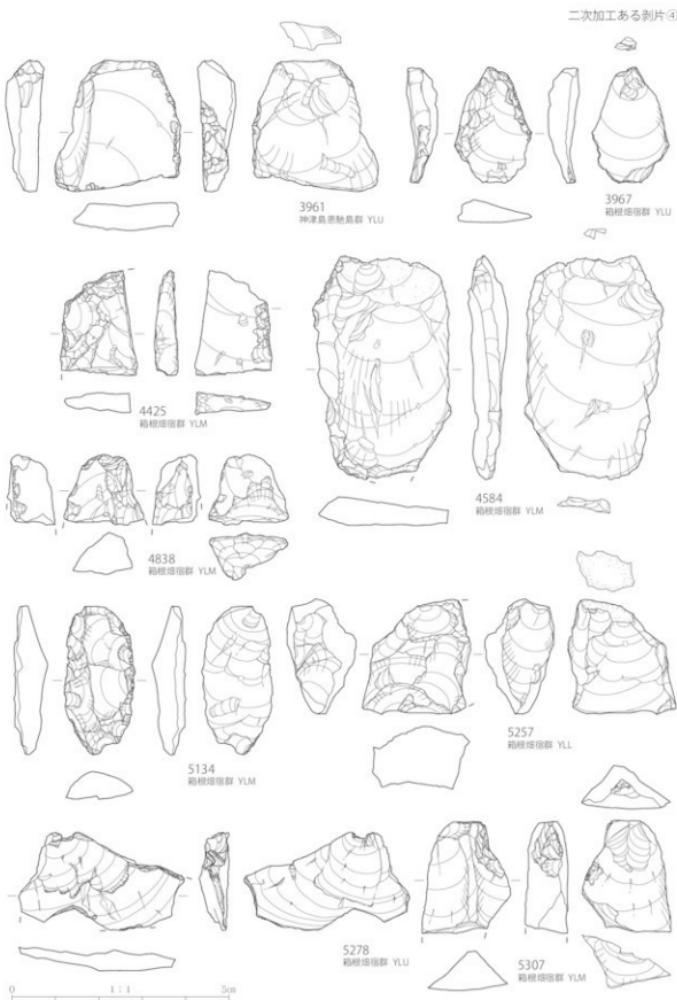
第6章 1-7地点



第175図 1-7地点 YL層準 出土遺物 (12)

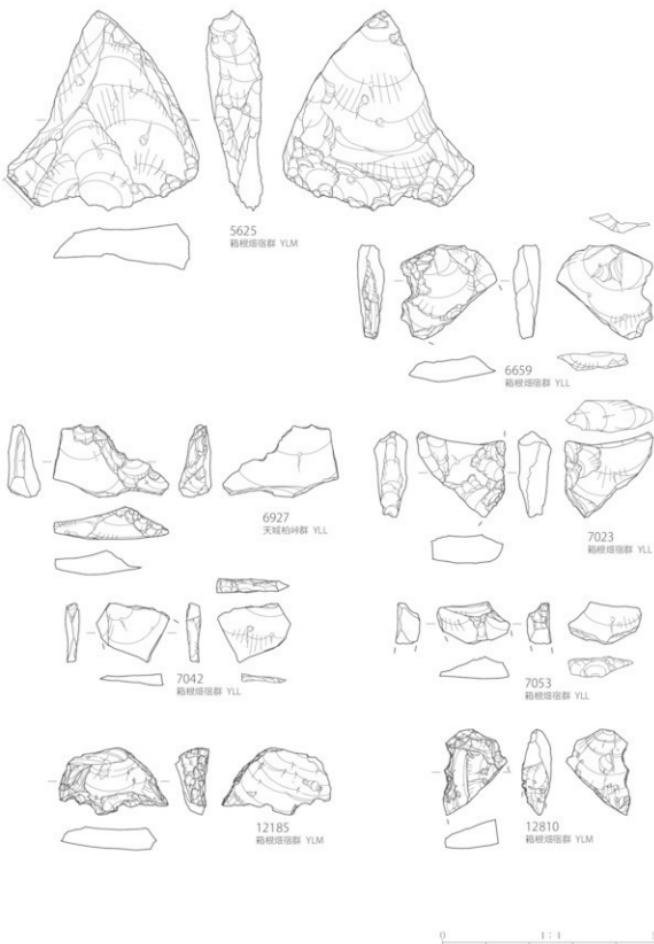


第176図 1-7地点 YL層準 出土遺物(13)



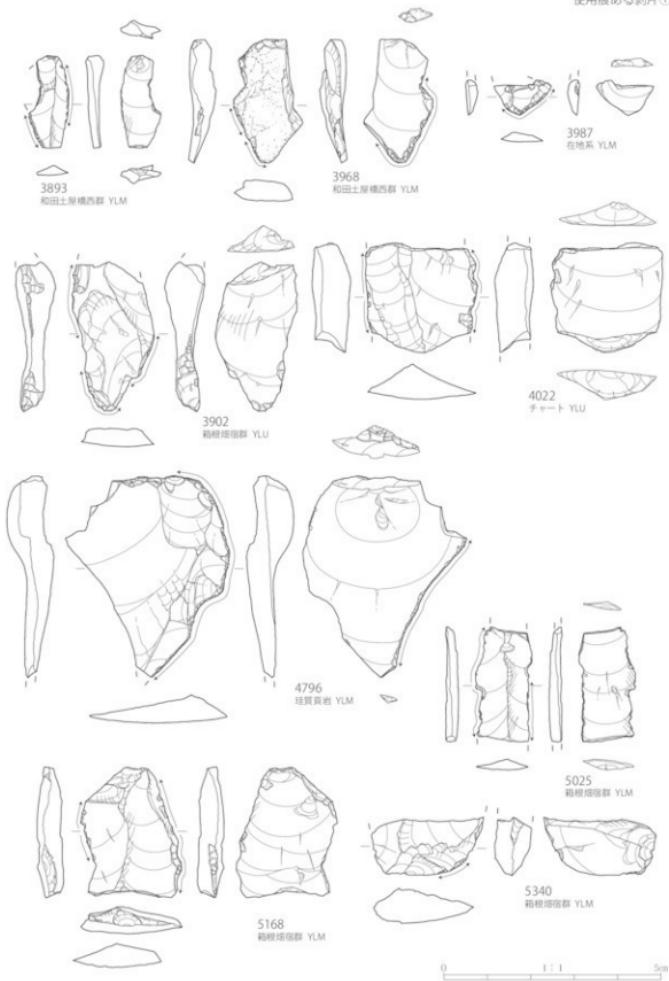
第177図 1-7地点 YL層準 出土遺物(14)

二次加工ある剥片⑤



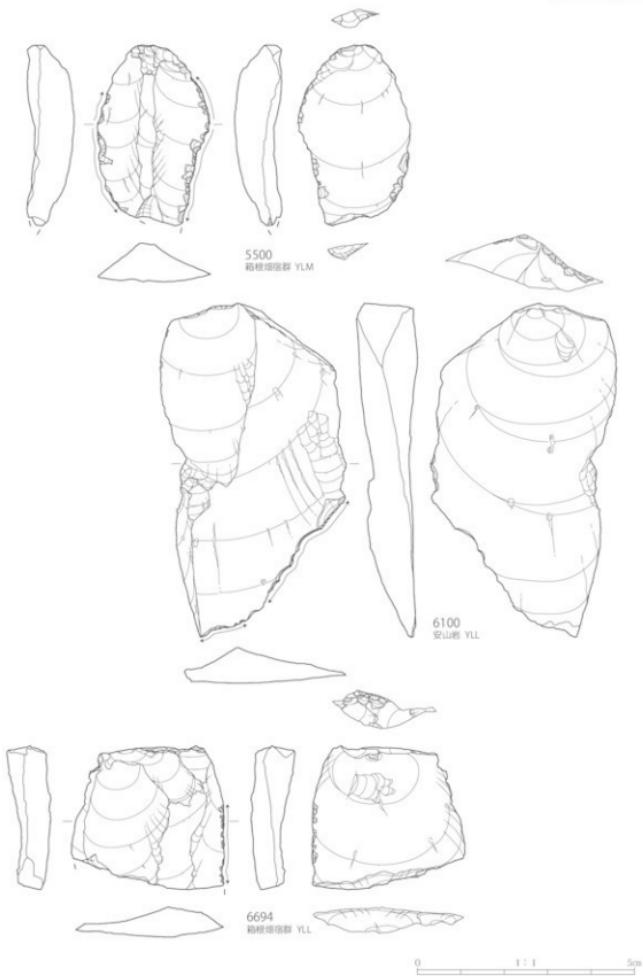
第178図 1-7地点 YL層準 出土遺物(15)

使用痕ある剥片①



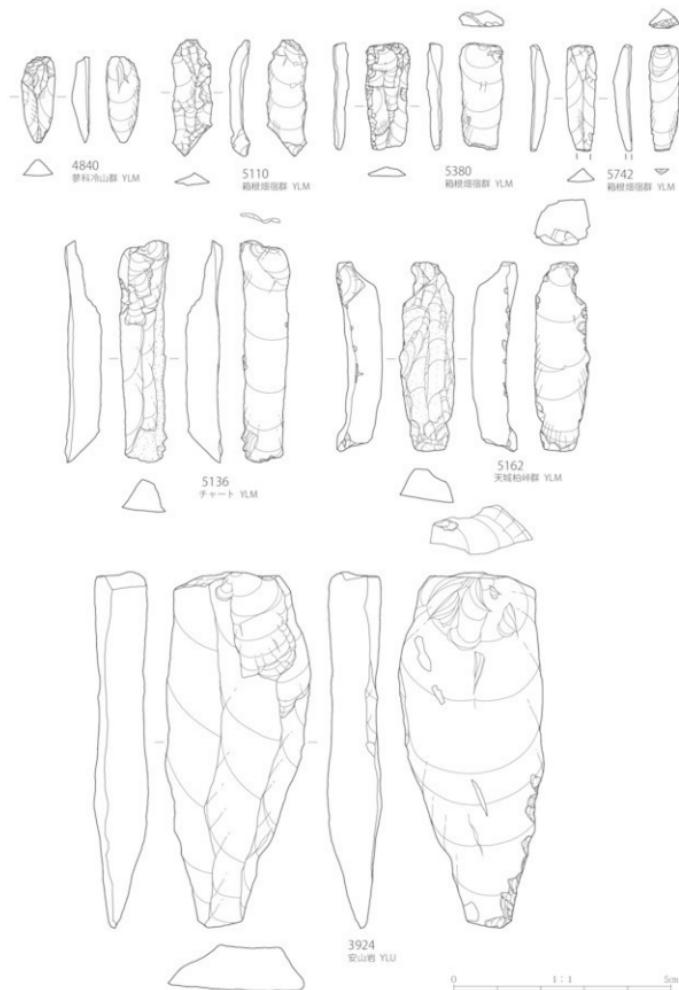
第179図 1-7地点 YL層準 出土遺物(16)

使用痕ある剥片③

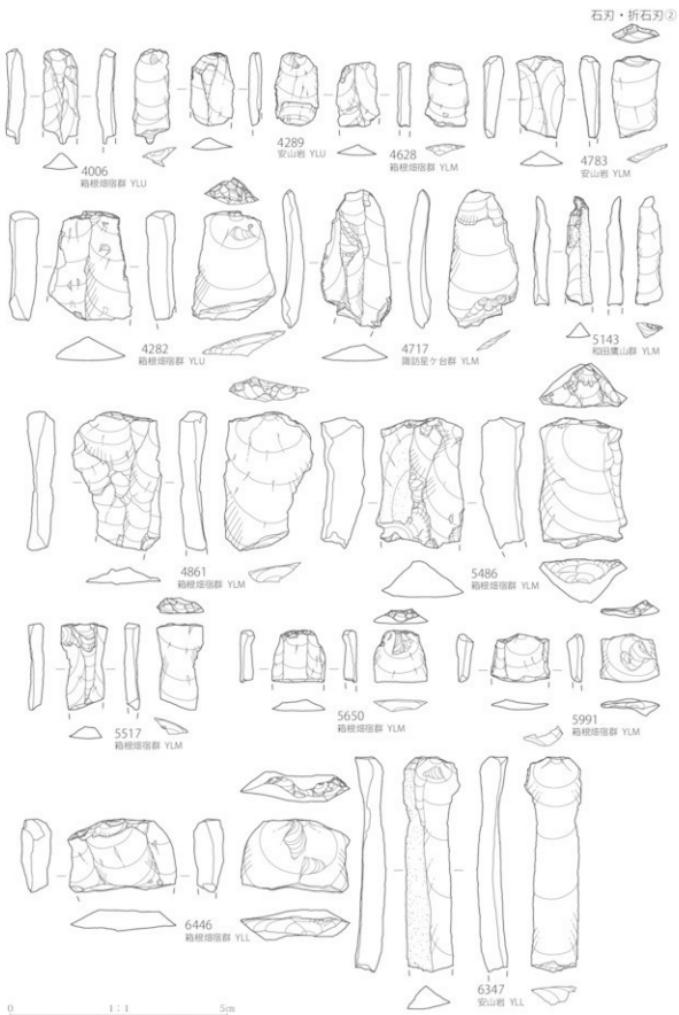


第180図 1-7地点 YL層準 出土遺物(17)

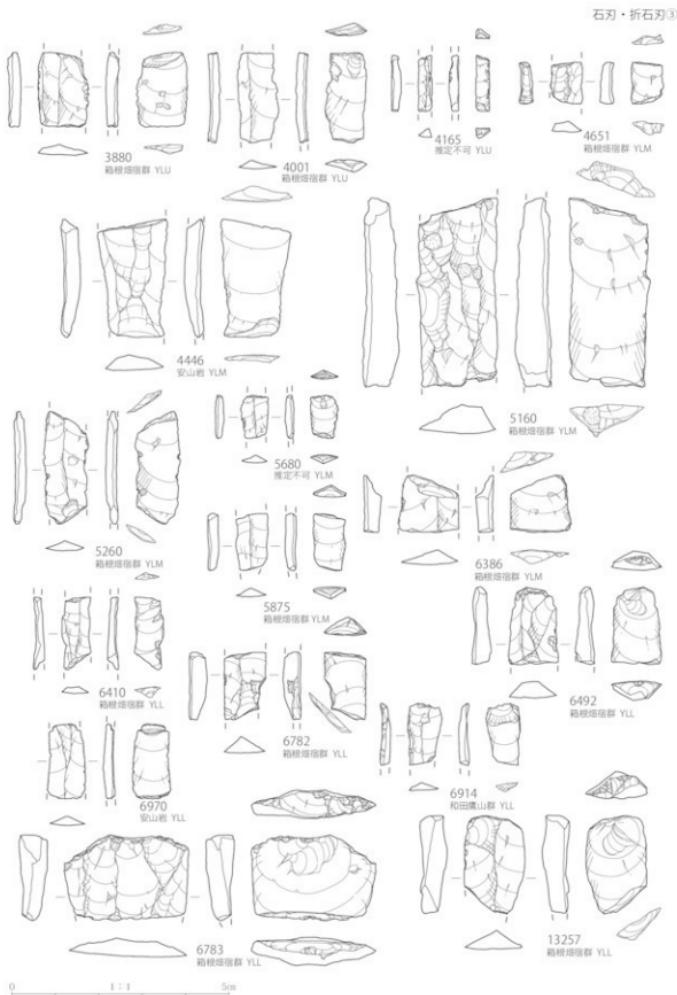
石刃・折石刃①



第181図 1-7地点 YL層準 出土遺物(18)

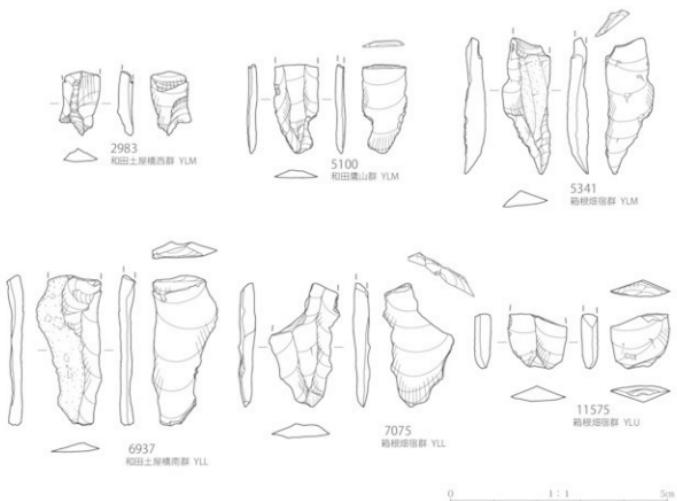


第182图 1-7地点 YL层 残石器 (19)



第183図 1-7地点 YL層準 出土遺物 (20)

石刃・折石刃④



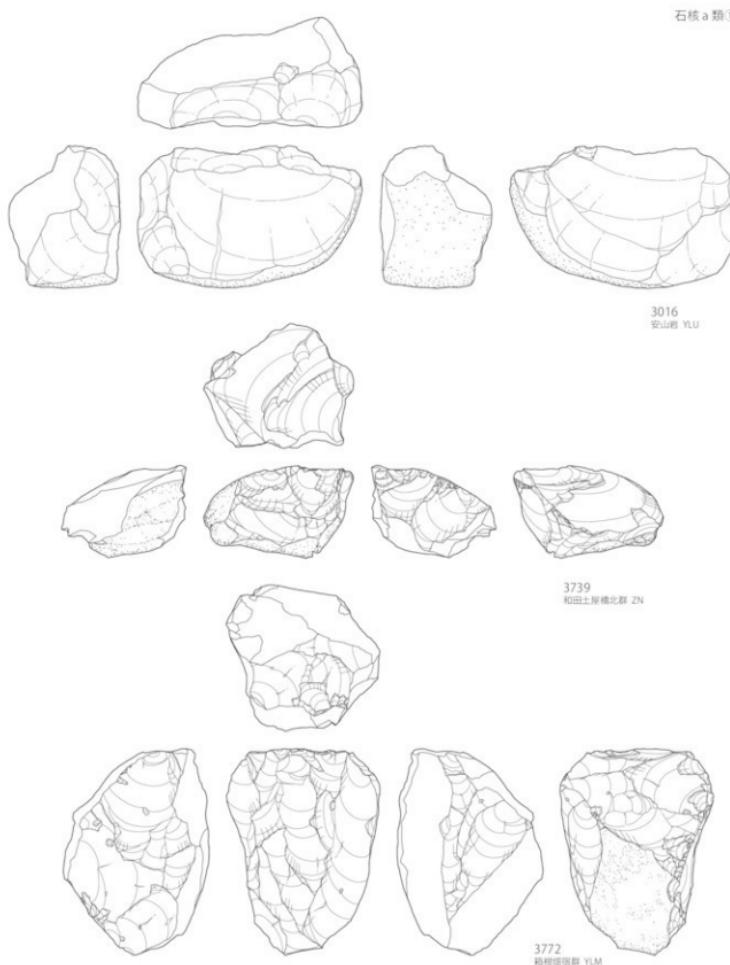
第184図 1-7地点 YL層準 出土遺物 (21)

## 石核 (第185～194図 3016～13029)

本地点では石核が19点出土している。石核はa類: 単設打面で剥片剥離方向が一方向に限定されるもの、b類: 両設の打面を持つもので、180度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が180度異なるもの、c類: 複設打面を持つもので90度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が90度異なるもの、d類: 求心的な剥片剥離が行われているものの4類に大別される。本調査地点ではa類が5点、b類が4点、c類が10点出土している。以下に詳述していく。

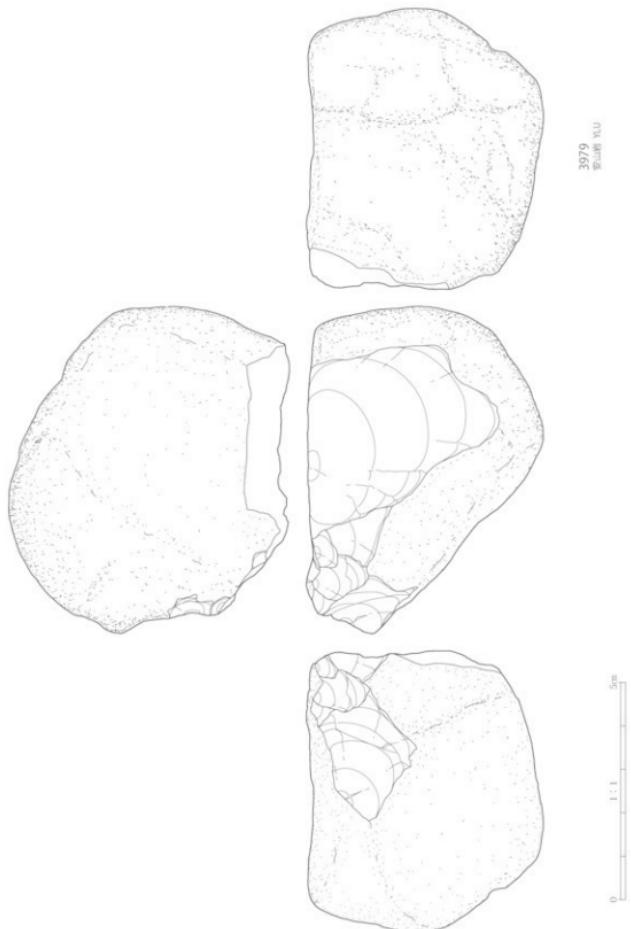
## a類: (第185～187図 3016、3739、3772、3979、13029)

単設の打面を持つ石核である。5点確認された。粗い打面調整のもの(3016、3739、13029)、細かな打面調整を施すもの(3772)、自然面を打面とするもの(3979)がある。3772は所謂石刃核である。剥離作業面は正面のみで行う。全て最大長が5cm前後の小型の石核であり、小型の剥片を目的的に剥離したものと考えられる。

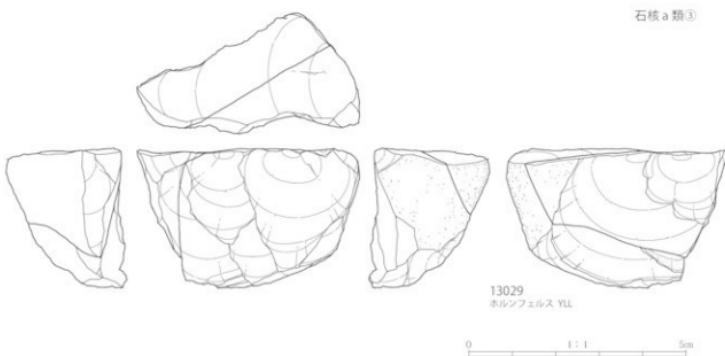


第185圖 1-7 地點 YL 層準 出土遺物 (22)

石核a類②



第186圖 1-7地点 YL層準 出土遺物 (23)



第187図 1-7地点 YL層準 出土遺物(24)

**b類:**(第188図 4705, 5159, 5693, 5169)

両設の打面を持つ石核であるが、緻密な180度の打面転移ではない事をはじめにお断りしておきたい。4点確認された。4705は、正面、右面の二面に作業面が確認される。裏、左面は節理による同時割れである。5159は、左、正、右、裏面の4面に作業面が確認される。5693は、正、右、裏面に作業面が確認される。5169は、左、正、右面に作業面が確認される。打面は細かな調整が施されるもの(4705)、平坦打面のもの(5159, 5169)、自然面の平坦面を打面とするもの(5693)がある。5693は、自然面のあり方から小型の亜角礫状の原石を用いている事が理解されよう。いずれの石核も全てが最大長5cm前後の小型の石核であり、小型の剥片を目的的に剥離したものと考えられる。

**c類:**(第189～194図 3017～12278)

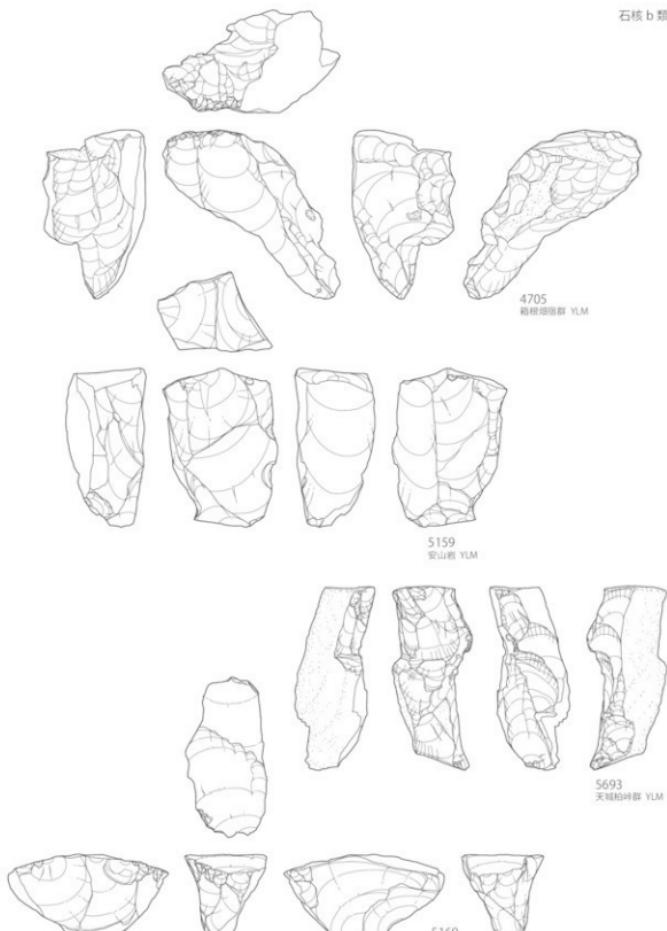
複設の打面を持つもので90度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が90度異なるものの中、全長が5cm以下のものをc-1類として、5cmを超えるものをc-2類として分類した。

**c-1類:**(第189～191図 3017, 3023, 3927, 4109, 5681, 12244)

打面を調整する事なく、打面を転移する事で剥片剥離を行うもの(3017, 4109, 5681, 12244)、打面調整が確認されるもの(3927)がある。打面を転移しながら剥片剥離を行うものの中には、サイコロ形状を呈するもの(3017, 4109, 5681)があり、剥片剥離がこれ以上行われない残核と考えられる。

**c-2類:**(第191～194図 4301, 5442, 12241, 12278)

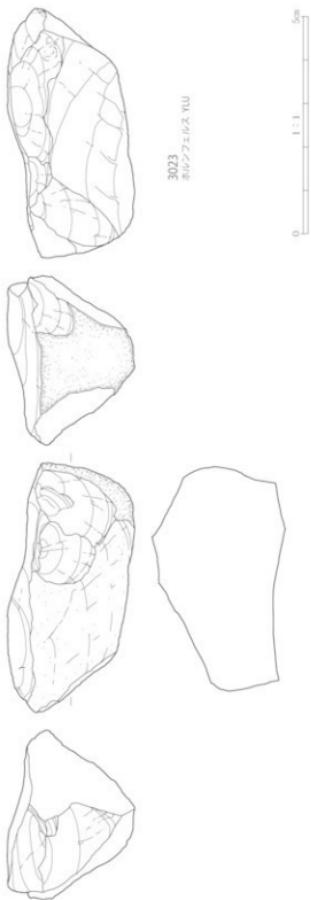
すべて礫素材のものである。平坦な自然面を打面とするもの(12278)、平坦な剥離面を打面として転移を繰り返すもの(4301, 5442, 12241)がある。自然面を有する安山岩の石核は亜円礫、亜角礫の原石を素材としている。



第188圖 1-7 地點 YL層準 出土遺物 (25)

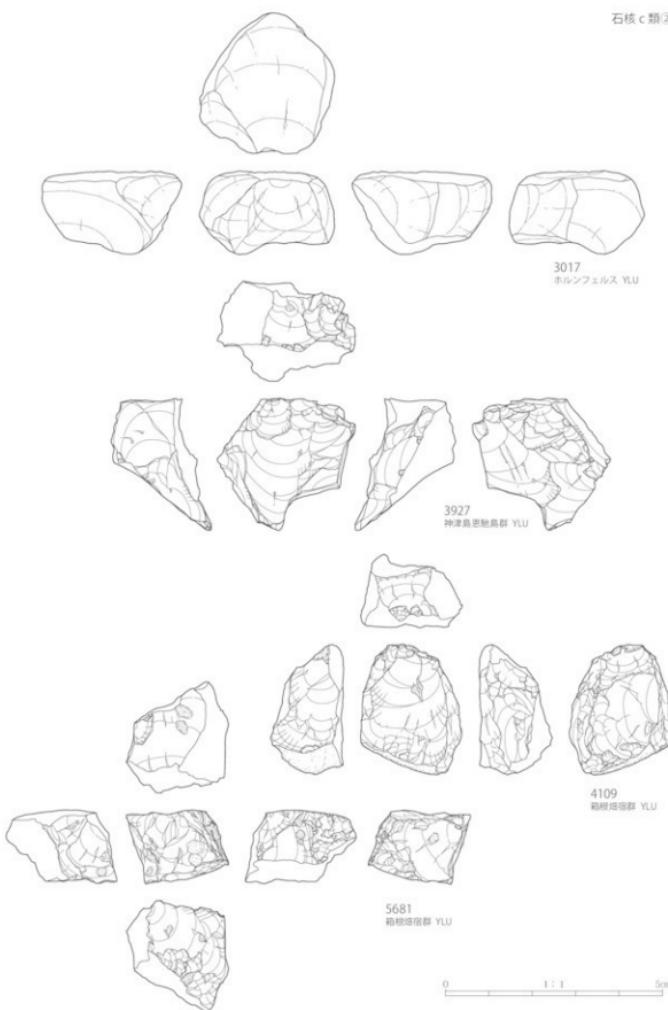
0 1 1 5cm

石核C類①



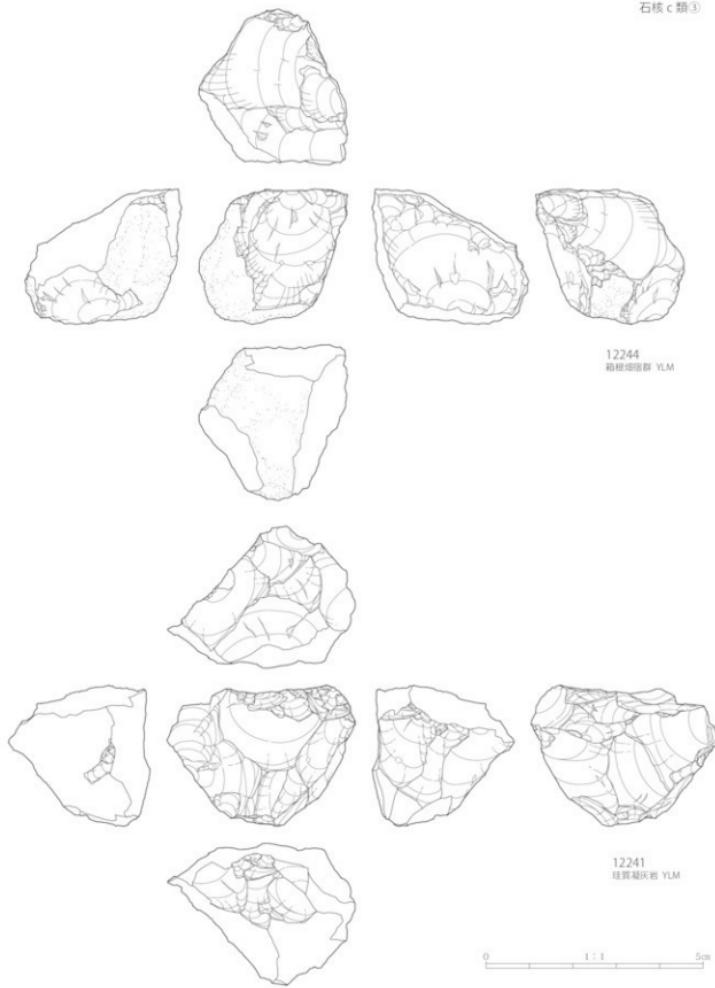
第189図 1-7地点 YL層準 出土遺物(26)

石核c類③



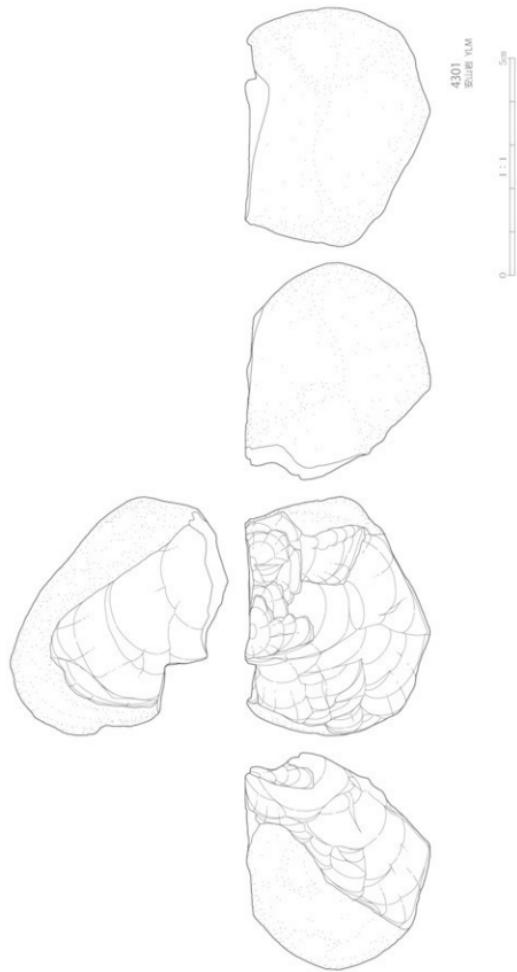
第190図 1-7地点 YL層準 出土遺物 (27)

石核C類③



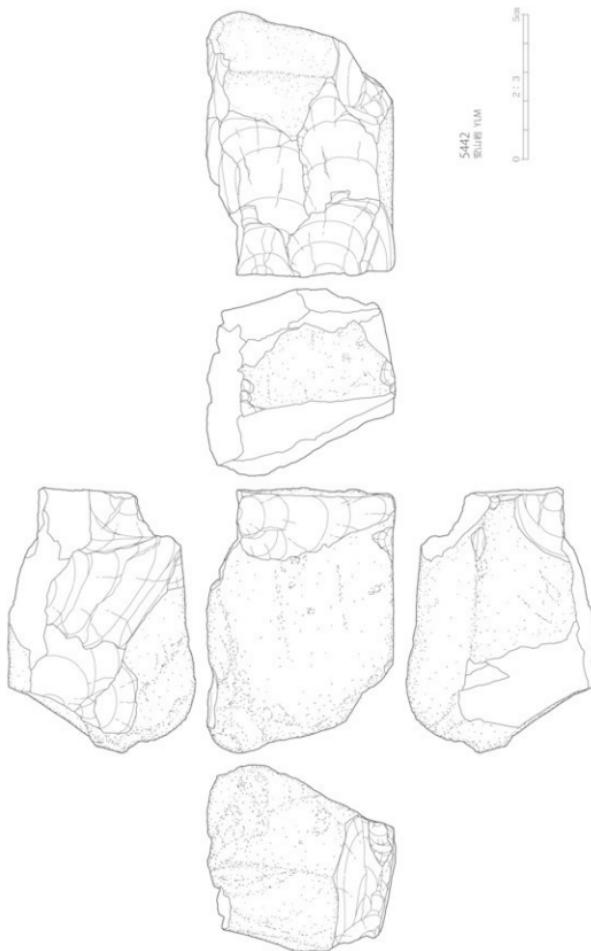
第191圖 1-7地點 YL層準 出土遺物(28)

石核c類③



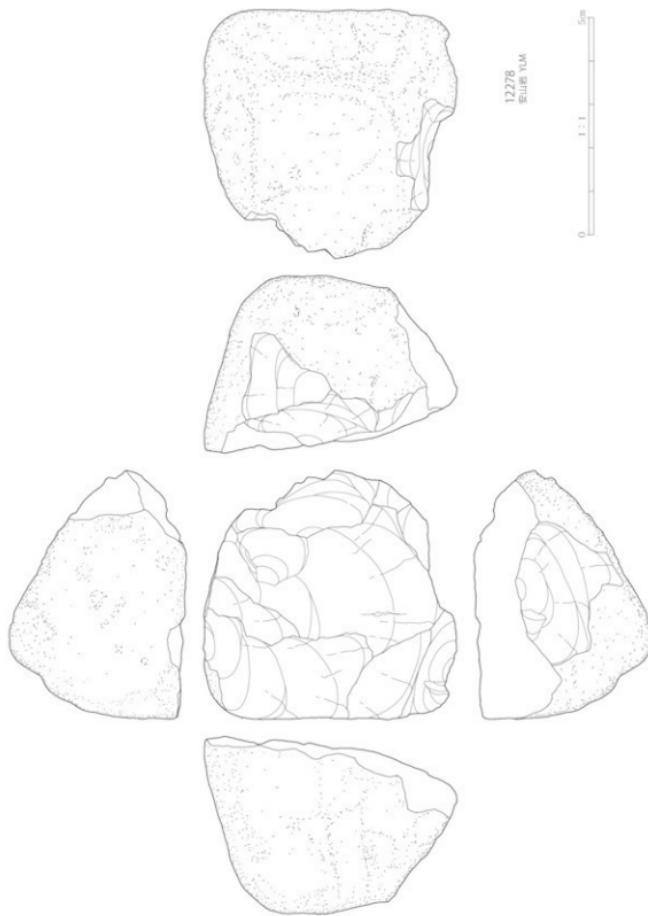
第192圖 1-7 地點 YL層準 出土遺物 (29)

石核C類⑤



第193圖 1-7 地點 YL層準 出土遺物 (30)

石核C類⑥



第194圖 1-7地点 YL層準 出土遺物 (31)

(2) 接合資料

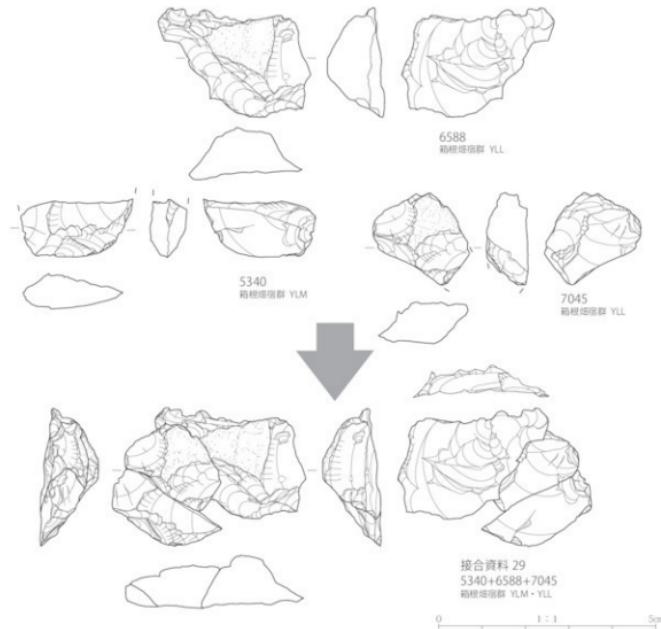
本調査地点のYL層準で確認された接合資料は、16個体である。以下に詳述する。

接合資料 No.29 (第195図 5340、6588、7045)

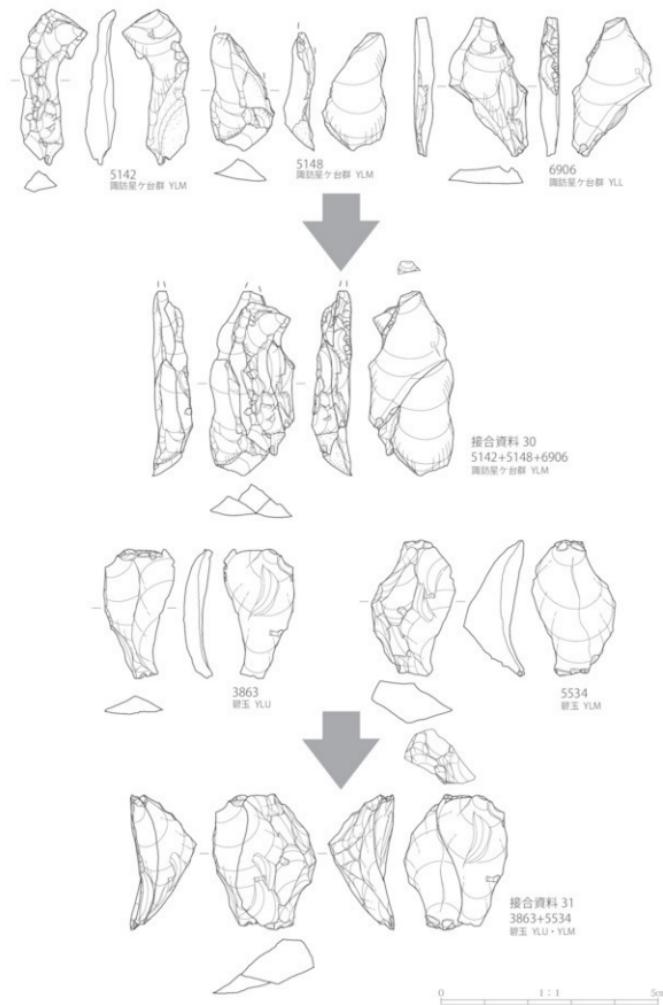
第19ブロックより出土した使用痕ある剥片と剥片2点の接合資料である。背面構成から複設打面を持つ石核から剥離されており、これらの3点は同一の剥離時に同時に割れを起こしたものである。打面には細かな調整が施される。

接合資料 No.30 (第196図 5142、5148、6906)

第6ブロックより出土した二次加工ある剥片と剥片2点の接合資料である。背面構成から複設打面を持つ石核から剥離される。6906と5148の接合状況から、プランティング状の二次加工を施す際に折損したため廃棄されたものと考えられる。



第195図 1-7地点 YL層準 接合資料(1)



第196図 1-7地点 YL 尺準 接合資料(2)

## 接合資料 No.31 (第196図 3863、5534)

第19ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。背面構成から複数打面を持つ石核から剥離される。5534の剥離前に上段打面より剥片を剥離し、打面を180度転移して5334が剥離される。5334を剥離後、180度打面を転移して3863を剥離する。

## 接合資料 No.32 (第197図 3827、3962)

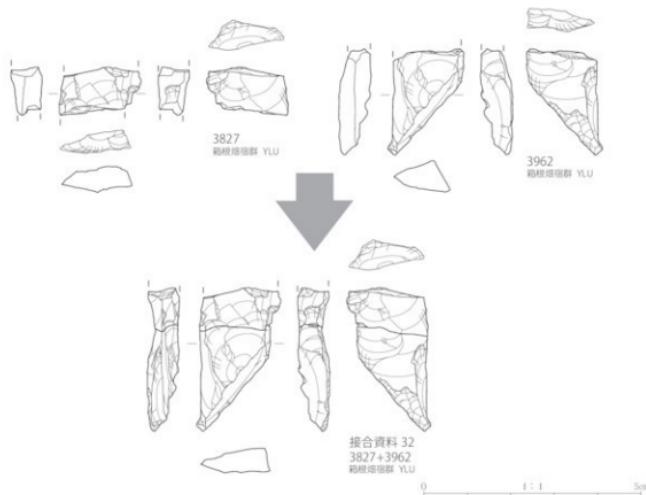
第19ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。背面は、自然面もしくは節理面に近い部位であり、石核より剥離された段階で同時割れを起こしたものと考えられる。

## 接合資料 No.33 (第198・199図 5440、5442)

第12ブロックより出土した剥片と石核の接合資料である。石核は、亜角礫状の原石を用い、自然面の平坦面、平坦な剥離面から剥片剥離を行っており、5442は平坦な剥離面を打面として剥片剥離される。石材が脈状に層をなす安山岩であり、5442はこの層理によって、先端部、打点部を欠損している。前述したように、目的的な剥片剥離を行うには不向きな石材であり、これ以上の剥離は行われず廃棄されたものと考えられる。

## 接合資料 No.43 (第200・201図 11572、11979、12216、12278)

本地点の第19ブロック、1-10地点の第23・24ブロックより出土した剥片3点と石核のブロック間接



第197図 1-7地点 YL層準 接合資料 (3)

合資料である。接合資料 54 と同一母岩と考えられる。石核は亜角礫状の原石の自然面の平坦面から剥片剥離を行う。11979、12216、11572 の順に同一打面から剥片剥離を行う。

**接合資料 No.44** (第 202・203 図 12221, 12317, 12318, 12808)

第 19 ブロックより出土した剥片 4 点の接合資料である。表面は著しく風化、摩耗する。接合状況から 12317、12808 を剥離したのち、打面を 90 度転移させ 12318、12221 を剥離する。いずれの打面も平坦打面であり、打面調整は認められない。

**接合資料 No.54** (第 204 図 11559, 11581, 12199, 12320, 12321)

第 18、19 ブロックより出土した剥片 5 点のブロック間接合資料である。接合資料 43 と同一母岩と考えられる。11559、11581 は剥片剥離の際に同時に割れを起こしたものと考えられる。これらを剥離したのち、打面を 90 度転移させ、12199、12320、12321 を剥離する。12320、12321 も同一の剥離であり、同時に割れを起こしたものと考えられる。いずれの打面も平坦打面であり、打面調整は認められない。

**接合資料 No.58** (第 204 図 5140, 5147)

第 6 ブロックより出土した剥片 2 点の接合資料である。背面構成から単設打面の石核より剥離される。打面には細かな調整が施される。

**接合資料 No.68** (第 205 図 11530, 12805)

第 19 ブロックより出土した剥片と石核の接合資料である。自然面を有しており、原石は小形の円礫であることがわかる。古い剥離面の平坦面を打面とした単設打面の石核より剥離される。この石核より剥離された剥片は大きくても 4cm 程度と考えられる。

**接合資料 No.69** (第 206 図 11553, 12202)

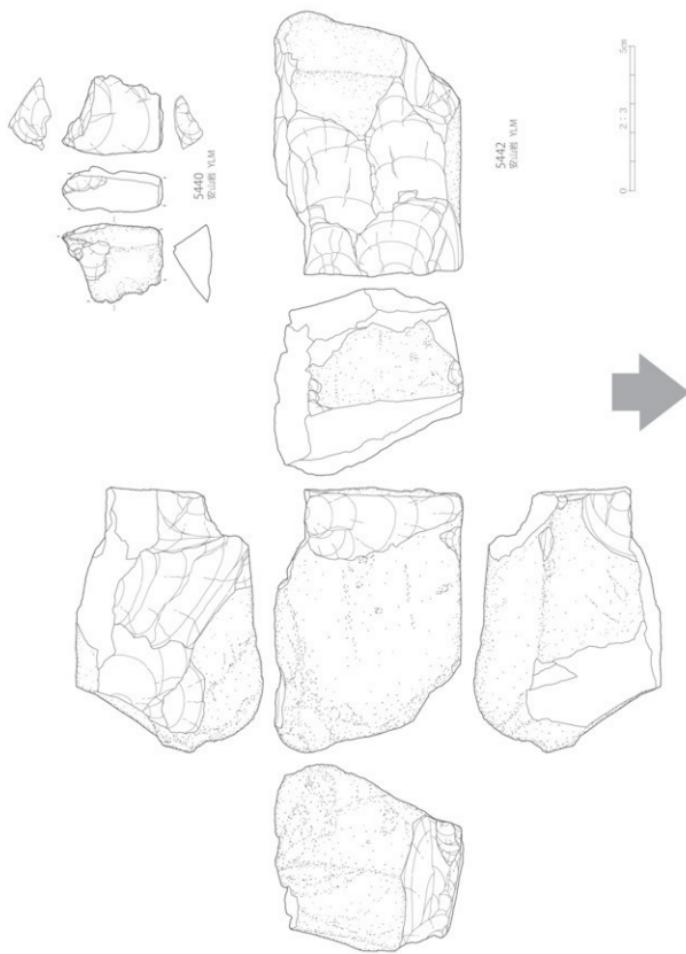
第 19 ブロックより出土した剥片と 1-10 地点の第 22 ブロックから出土した石核のブロック間接合資料である。いずれも自然面を有しており、原石は小形の円礫である。石核は 90 度の打面の転移を繰り返す複設打面の石核である。この石核より剥離された剥片は大きくても 4cm 程度と考えられ、本地点における石器群の小型化が窺われる。

**接合資料 No.70** (第 207 図 4194, 4301)

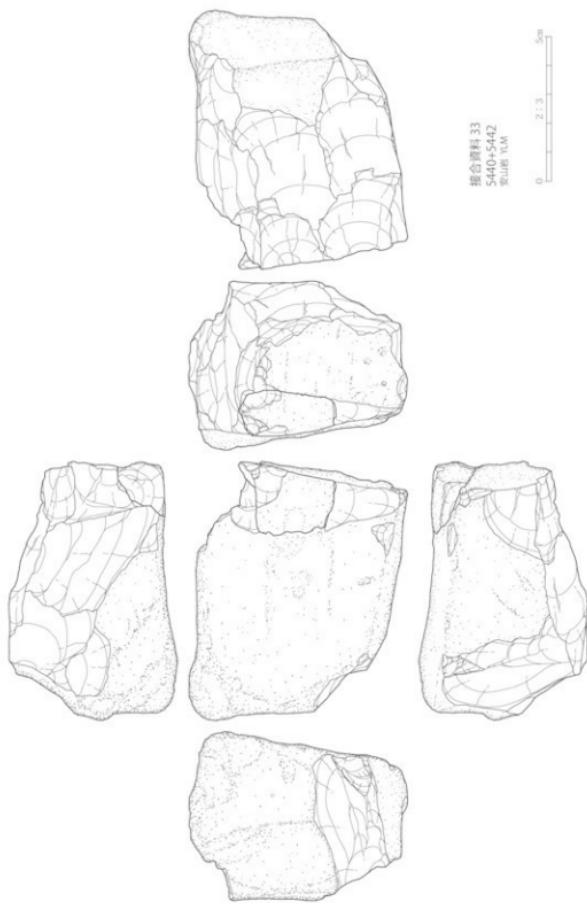
第 19 ブロックより出土した剥片と石核の接合資料である。自然面を有しており、原石は小形の円礫であることがわかる。石核は 90 度の打面の転移を繰り返す複設打面の石核である。接合資料 68、69 と同様、目的的な剥片は 4 ~ 5cm 前後であり、本地点での石器群の小型化の傾向が顕著に窺われる資料である。

**接合資料 No.71** (第 208 図 3021, 3022)

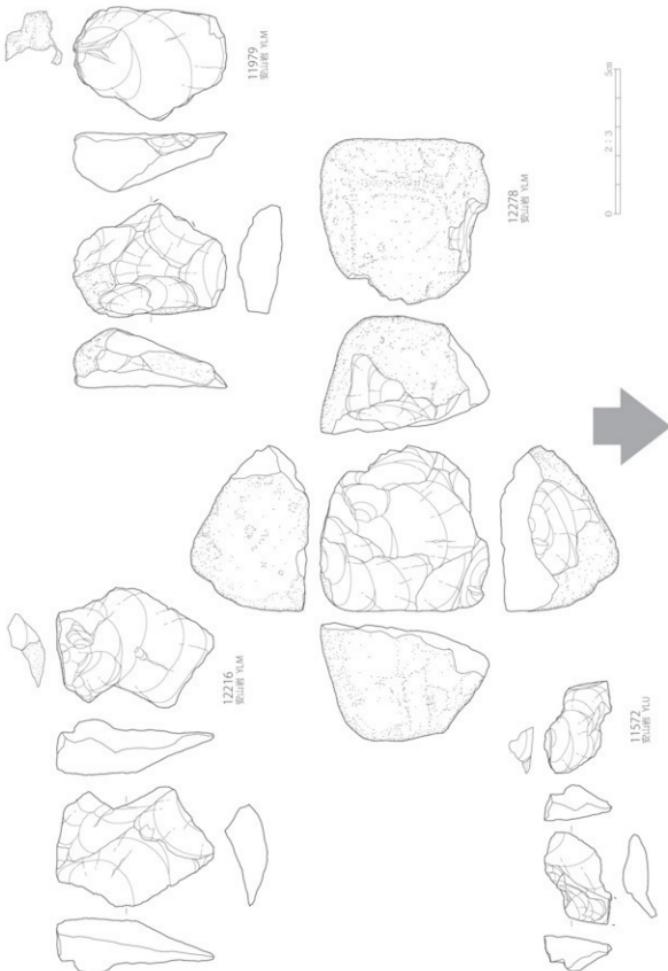
第 3 ブロックより出土した剥片の接合資料である。自然面を有しており、原石は小形の円礫と推測される。剥片剥離の際に衝撃によって同時に割れを起こしたものと推察される。



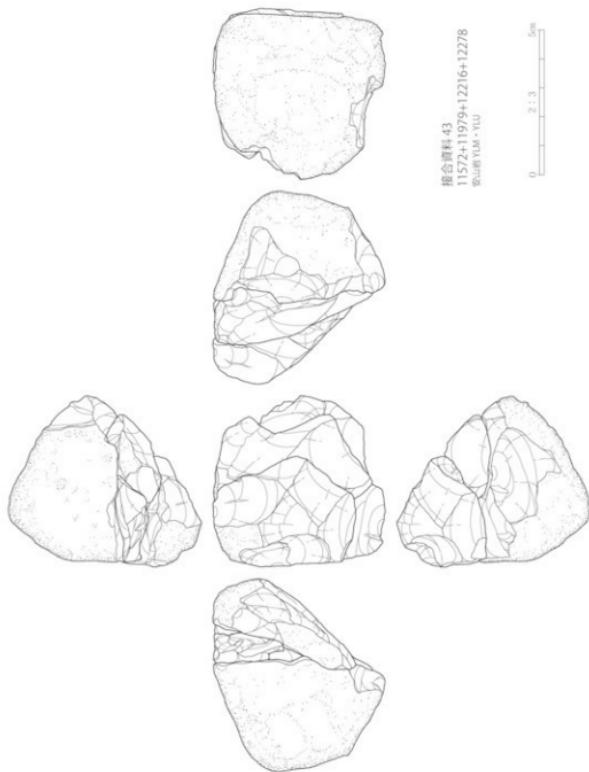
第198图 1-7地点 YL层准 接合资料(4)



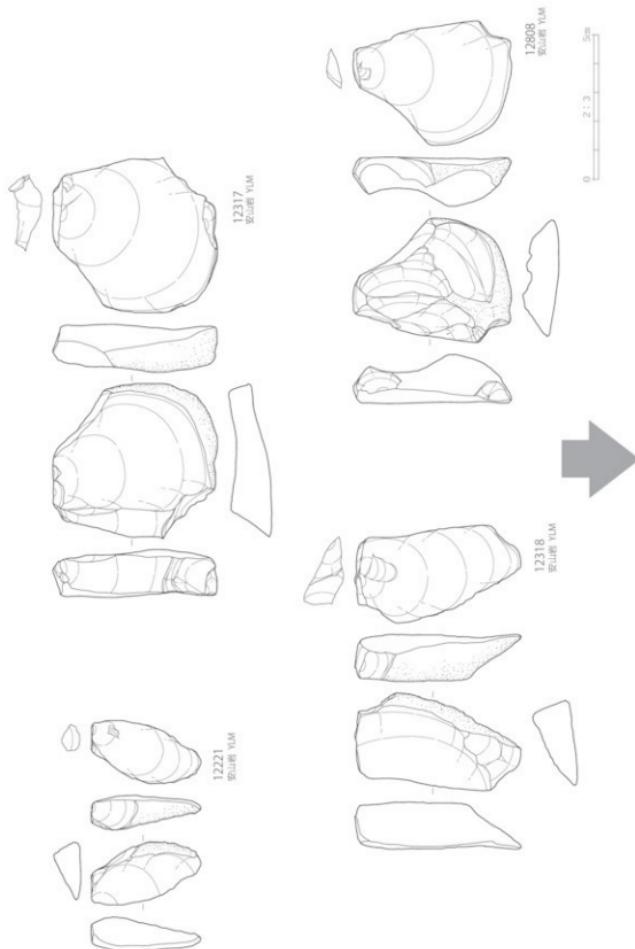
第199圖 1-7 地點 YL 層準 接合資料 (5)



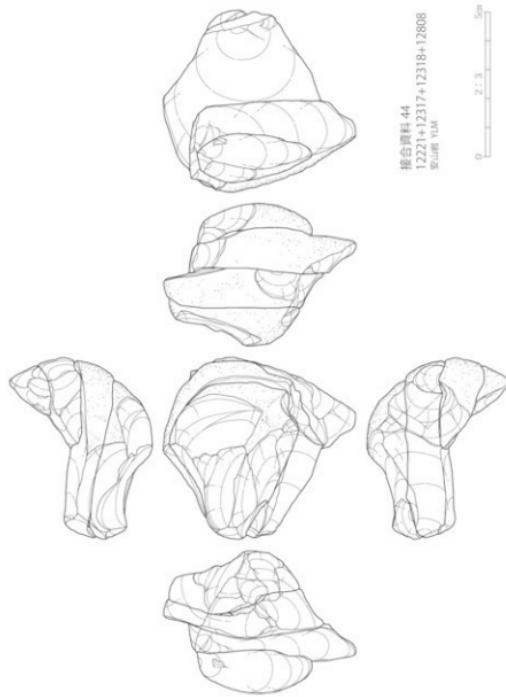
第200圖 1-7地点 YL層準 接合資料 (6)



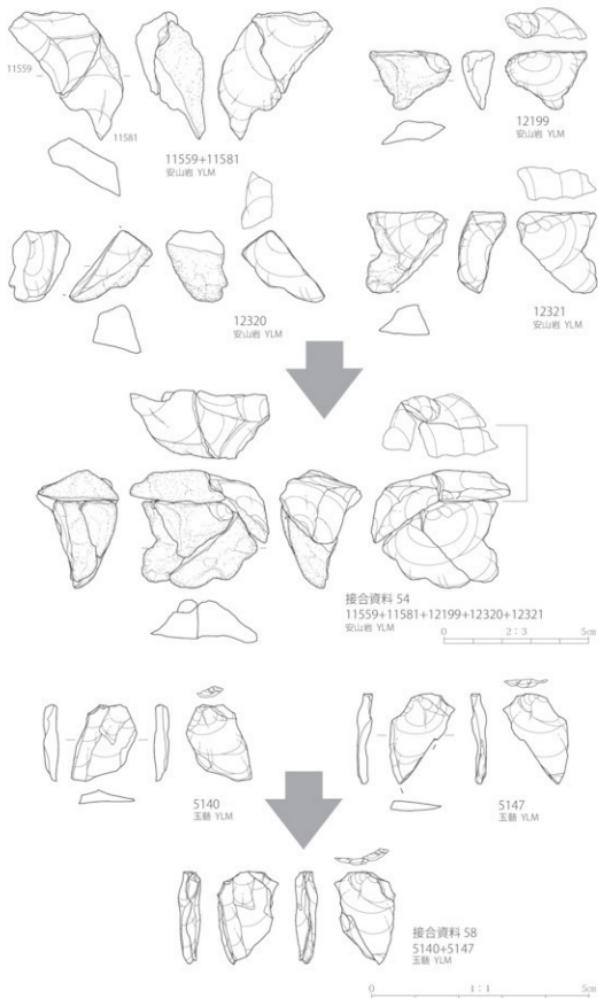
第201圖 1-7 地點 YL 層準 接合資料 (7)



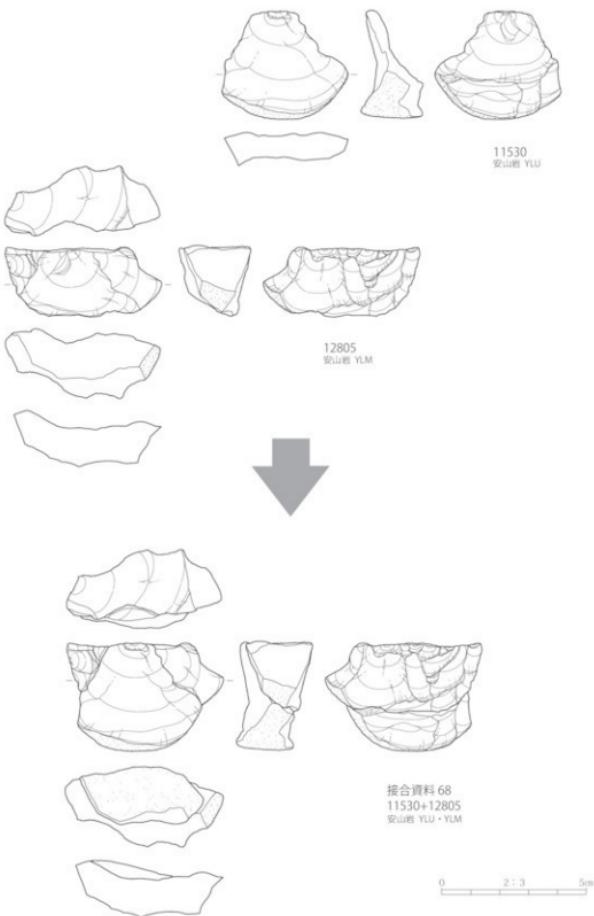
第202圖 1-7地點 YL層準 接合資料 (8)



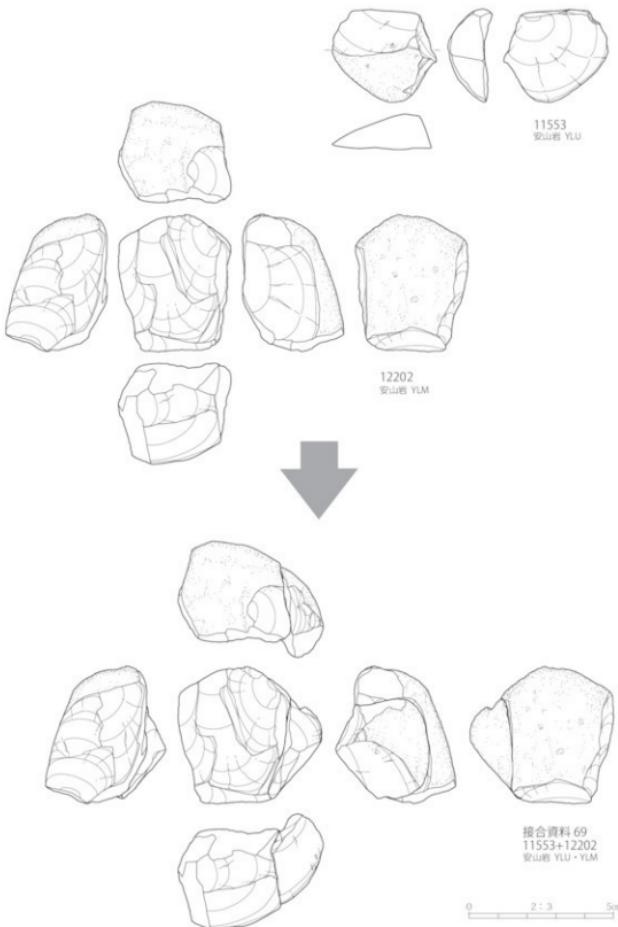
第203圖 1-7地点 YL層準 接合資料 (9)



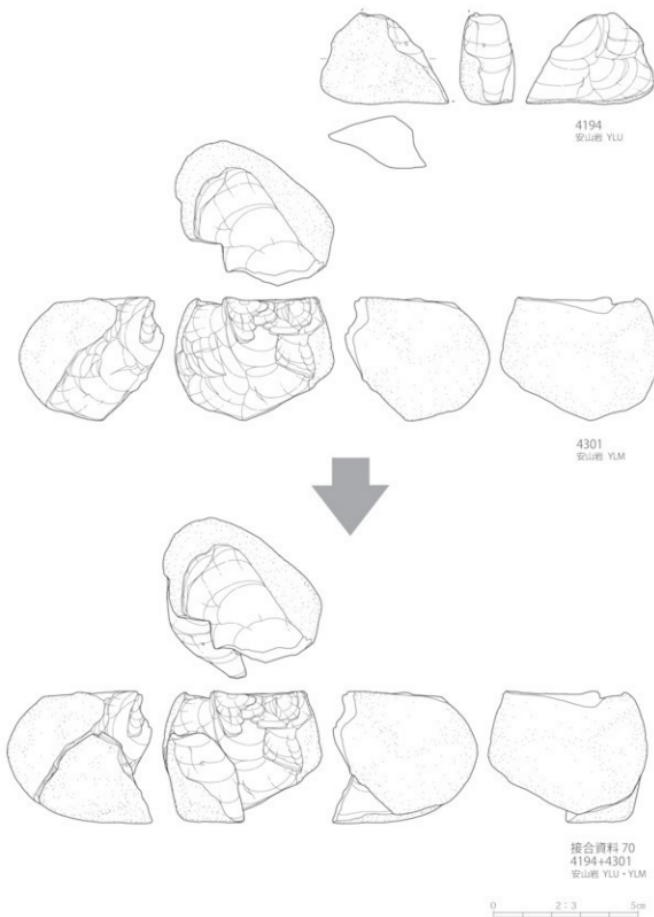
第204圖 1-7 地點 YL 層準 接合資料 (10)



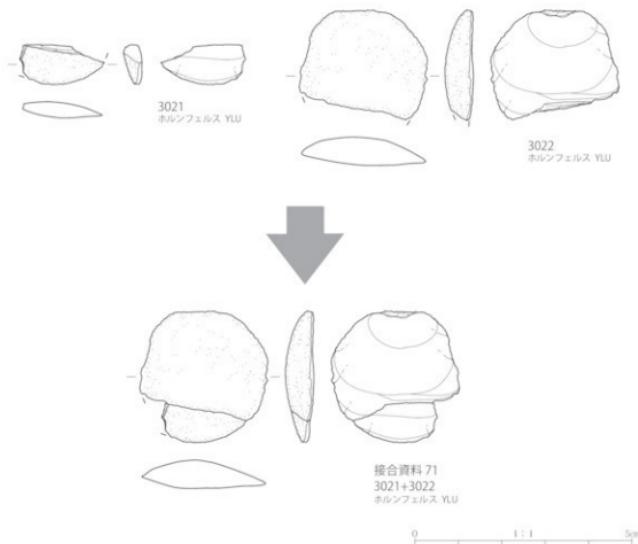
第205圖 1-7 地點 YL 層準 接合資料 (11)



第206図 1-7地点 YL層準 接合資料 (12)



第207圖 1-7 地點 YL 層準 接合資料 (13)



第208図 1-7地点 YL層準 接合資料 (14)

## 接合資料 No.72 (第209図 3023、3054)

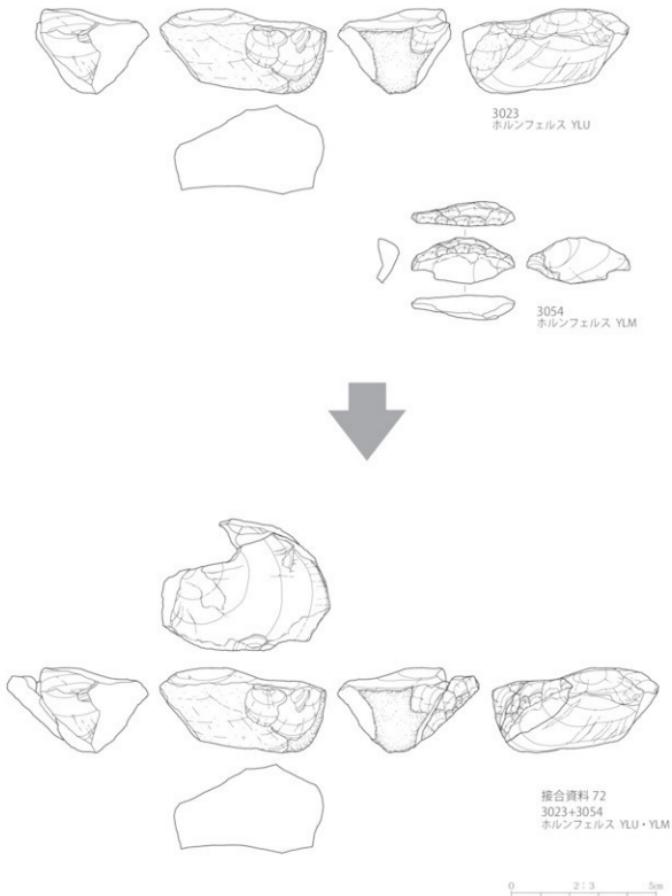
第3ブロックより出土した石核と剥片の接合資料である。自然面を有しており、原石は小形の円錐であることがわかる。石核は厚手の剥片を素材とした單設打面の石核である。剥片は節理面に沿って偶発的に剥離したものと考えられ、剥片の背面に認められる調整は、石核の素材として剥離される以前の石核調整の痕跡と考えられる。

## 接合資料 No.77 (第210図 4590、6657)

第19ブロックより出土した剥片と碎片の接合資料である。背面構成から、180度打面を転移する両設打面を持つ石核より剥離される。上設の打面は欠損しているため不明であるが、下設打面は平坦打面であり、調整は施されない。接合関係からみれば剥片を剥離した後、碎片が剥離される事となるが、これは碎片に潜在的な割れが生じていたものが、剥片の剥離の際に同時に割れたものと推察される。

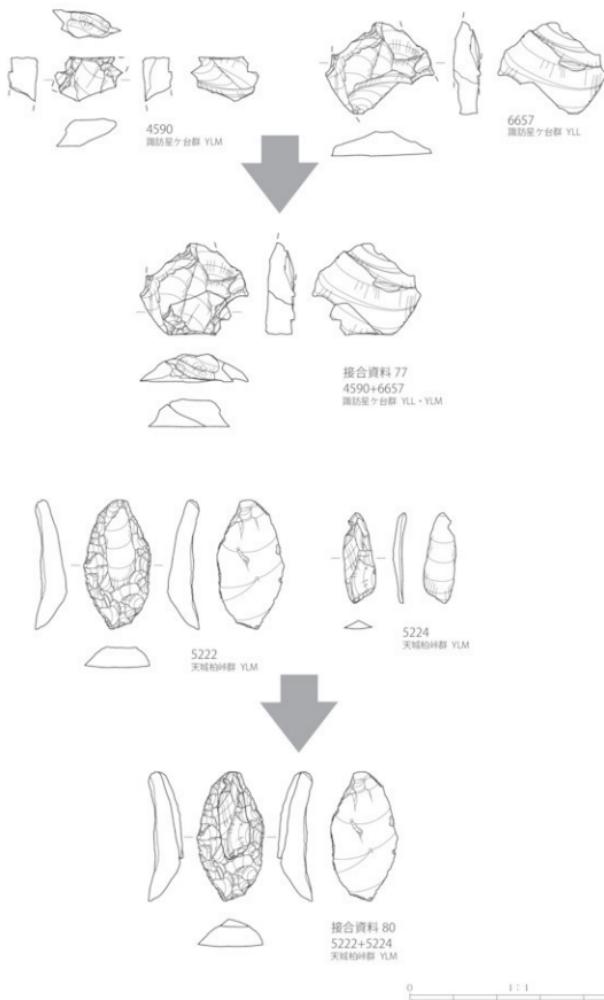
## 接合資料 No.80 (第210図 5222、5224)

第5ブロックより出土した片面加工の尖頭器と衝撃によって剥離した碎片の接合資料である。尖頭器の表面に細かな二次加工が施されており、衝撃剥離痕は先端部から基部方向へほぼ垂直に確認される。



第209図 1-7地点 YL層準 接合資料(15)

第6章 1-7地点



第210図 1-7地点 YL層準 接合資料(16)

## 第2節 BB II層の遺構・遺物

1-7地点ではYLL層までの掘削が完了した後、調査区内に $3 \times 3\text{m}$ の下層遺物の有無を確認するためのグリッドを13箇所設定し、一次調査を行った。この結果、F-8・9グリッドのBB II層にて39点の礫で構成される第1号礫群が検出され、G-12グリッドのBB II層にて石核1点、単独礫2点が出土した。以下に遺構、遺物を記載する。

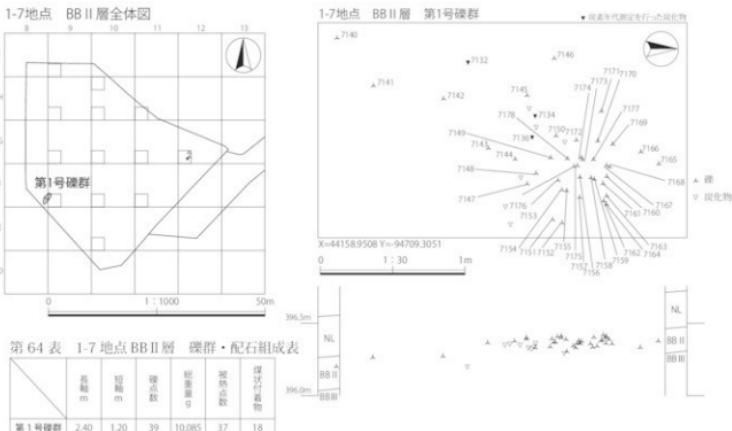
### 1. 検出された遺構

上述したように本地点の中央南側のF-8・9グリッドBB II層において、礫群1基を検出した。以下に詳述する。

#### (1) 矿群

##### 第1号礫群(第211図)

本礫群は、調査区南西部F-8・9グリッドで確認されている。礫の分布範囲の規模は、長軸2.40m、短軸1.20mである。垂直分布は標高396.20～396.42mであり、比高差は0.21mである。検出層位はBB II層である。構成する礫は39点であり、総重量10.085gを測る。37点に被熱の痕跡が認められ、このうちの18点に煤状付着物が確認された。礫群内での接合関係は認められない。また、礫群内やその周辺で9点の炭化物が検出されており、このうち、炭化物No.7132、7134、7136の放射性炭素年代測定を行ったところ、それぞれ $26,950 \pm 100\text{BP}$ 、 $27,440 \pm 110\text{BP}$ 、 $27,540 \pm 100\text{BP}$ であった。詳細は第11章の自然科学分析を参照していただきたい。



第211図 1-7地点 BB II層 全体図・第1号礫群遺物分布図

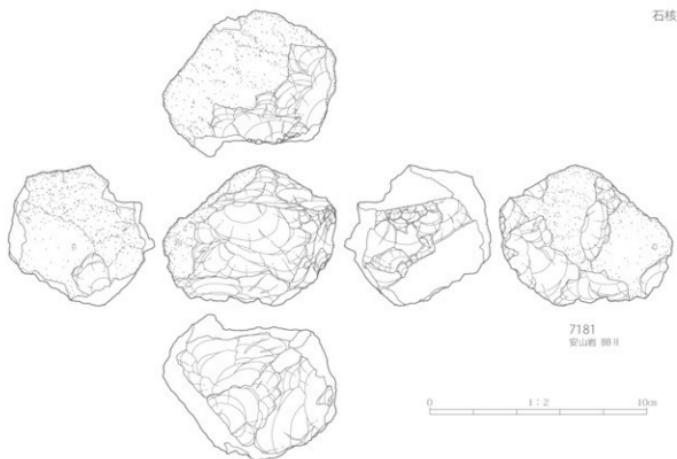
## 2. 出土遺物

本調査地点のBBII層で確認された石器は、G-12 グリッドで出土した石核1点である。以下に詳述する。

### (1) 石器

石核（第212図 7181）

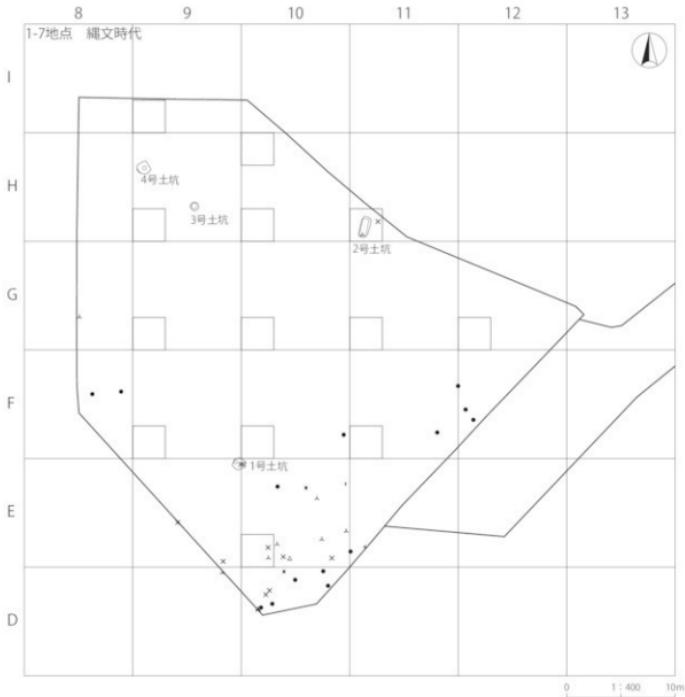
自然面を有しており、原石は拳大の亜角礫である。90度の打面転移を行いながら剥片剥離を行っており、打面調整は認められない。白色～灰白色の夾雜物が多く目的的な剥片剥離には向きな石材であり、剥片剥離があまり進まない段階で廃棄されたものと推察される。



第212図 1-7地点 BB II層 出土遺物

## 第3節 縄文時代の遺構・遺物

本地点のZN層から縄文土器片8点、ZN～YLU層上部にかけて18点の石器が出土した。縄文土器はいずれも細片であり、1点は縄文時代中期初頭の五領ヶ台式であり、他は中期以降と推定される。また、土坑4基を検出しており、このうち第1号土坑より縄文土器の細片が2点出土している。このうち1点は中期初頭の五領ヶ台式であり、他は表面が剥落しており時期は不明である。他の土坑では遺物の出土はみられないが、第1号土坑と覆土が類似していることから縄文時代に帰属する可能性が高いものと考えられる。これらの土坑は集中することなく散在的に検出されている。以下に遺構、遺物を詳述する。



第213図 1-7地点 縄文時代 全体図

## 1. 検出された遺構

## 第1号土坑（第214図）

E・F-9・10 グリッドのYLU層上面で検出した土坑である。平面形はやや東西に長い不整な梢円形を呈しており、規模は長軸1.28m、短軸1.04m、深さは1.08mを測る。覆土は6層に細分される。縄文土器の細片が2点出土した。1点は五頭ヶ台式の口縁直下の破片であり、他の1点は表面が剥落しており時期は不明である。

## 第2号土坑（第214図）

H-11 グリッドのYLU層上面で検出した土坑である。平面形は南北に長い隅丸長方形を呈しており、規模は長軸1.93m、短軸0.90m、深さは0.66mを測る。覆土は2層に細分される。黒曜石の碎片、小礫が出土しているが、図示はしていない。

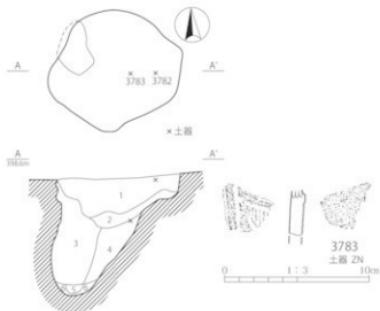
## 第3号土坑（第215図）

H-9 グリッドのYLU層上面で検出した土坑である。平面形はおおよそ円形を呈しており、規模は長軸0.75m、短軸0.74m、深さは0.95mを測る。覆土は3層に細分される。遺物は出土していない。

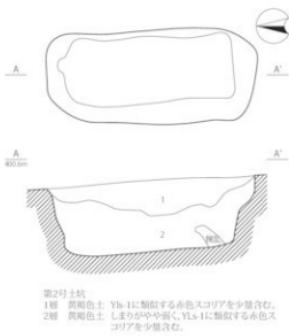
## 第4号土坑（第215図）

H-9 グリッドのYLU層上面で検出した土坑である。平面形は東西にやや長い不整な梢円形を呈しており、規模は長軸1.13m、短軸1.10m、深さは0.90mを測る。覆土は3層に細分される。遺物は出土していない。

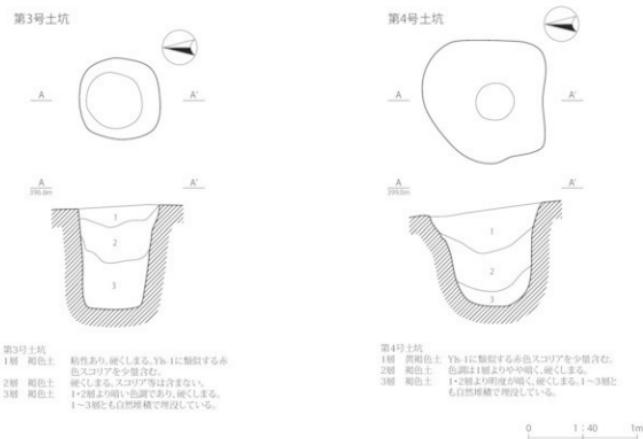
第1号土坑



第2号土坑



第214図 1-7地点 縄文時代 第1・2号土坑



第215図 1-7地点 繩文時代 第3・4号土坑

## 2. 出土遺物

縄文時代の遺物のうち、第1号土坑から出土した縄文土器1点、ZN～YLU層上部にかけて出土した石器6点を図示した。以下に詳述する。

### (1) 土器 (第214図 3783)

第1号土坑の2層より出土した深鉢形土器の口縁直下の破片である。半裁竹管状工具の腹面による縦位の隆帯と区画帶内に集合沈線が施される。縄文時時代中期初頭の五領ヶ台式と考えられる。

### (2) 石器

#### 有舌尖頭器 (第216図 3816)

基部の末端に欠損が確認される。押圧剥離による丁寧な二次加工が施される。表面とともに器面中央を越える押圧剥離が先端方向(右上)から基部方向(左下)へ斜位に施され、周縁部は鋸歯状に整形される。

#### 石鏃 (第216図 3781, 3909)

3781は、円基無茎の石鏃である。押圧剥離による細かな二次加工が施される。基部は浅く窪む。3909は、両基部を欠損する。押圧剥離による細かな二次加工が施され、周縁部は鋸歯状に整形される。

#### 石錐 (第216図 3907)

チャートの剥片を素材とし、周縁部に二次加工が施される。先端部には使用による微細な剥離痕が確認される。

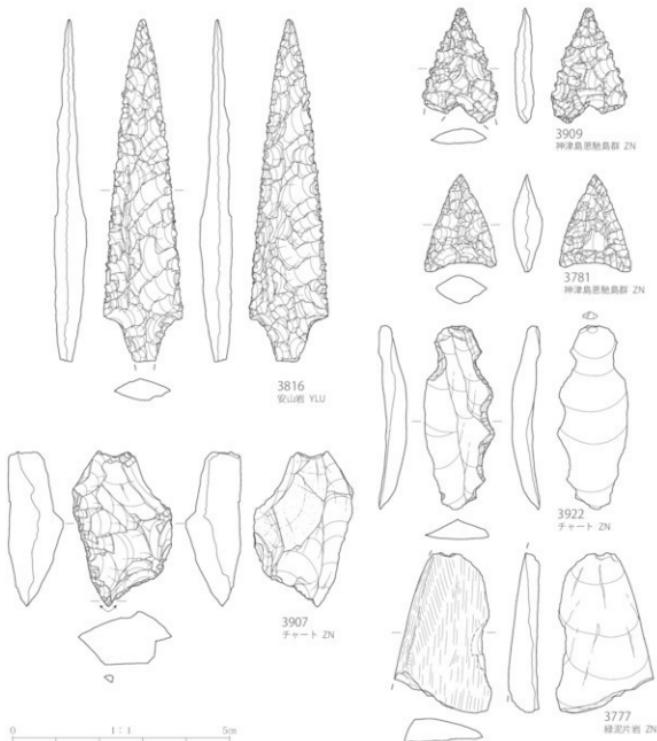
## 石匙（第216図 3922）

縦長刺片を素材とし、打点部方向に基部を設け、両側縁部に抉り状の二次加工が入る。右側縁部にはノック状の抉りが二か所施される。石匙+ノッチ状石器とも解釈されるが、他の調整が不十分であり、製作途中で廃棄されたものと推察される。

## 磨製石斧（第216図 3777）

磨製石斧の基部付近の破片である。全体に磨痕が観察され、右側縁部に古い整形段階の剥離痕が確認される。

有舌尖頭器・石鏃・石錐・石匙・磨製石斧



第216図 1-7地点 繩文時代 出土遺物

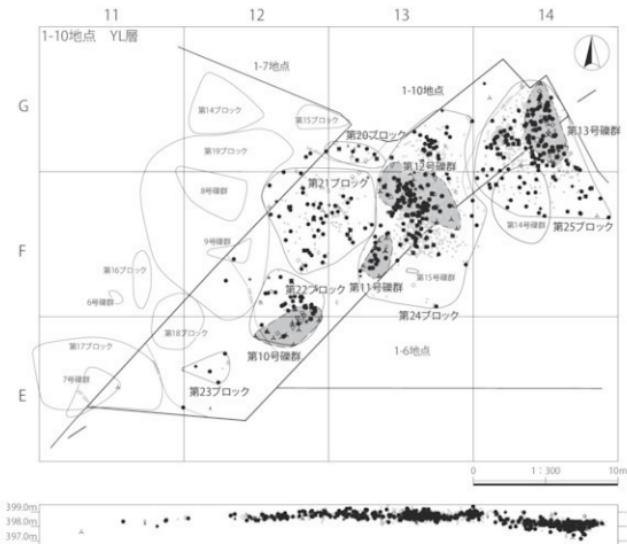
## 第7章 1-10地点

本地点は、1-6・7地点の間に位置する。平成20・21年度に調査を実施した1-6・7地点の遺物の出土状況から本地点においてもYL層準より石器ブロックが検出されるものと予見された。標高は約398.17～400.02mであり、調査地点は南、西、東へ傾斜する馬蹄状の丘陵の先端部付近である。YL層準の遺物は、YLU～YLL層までの間で、6箇所の石器ブロックに分類される2,655点の石器と単独の石器4点、4箇所の縄群に分類される48点の縄と配石7基、単独の縄9点が出土した。YL層準調査後の下層調査ではNL～BBII層において4箇所の石器ブロックに分類される287点の石器と単独の石器3点、1基の縄群に分類される6点の縄と配石4基、単独縄3点が出土した。縄文時代の遺物としては、ZN層より楔形石器1点、剥片6点、碎片3点が出土した。

### 第1節 YL層準出土の遺構・遺物

#### 1. 検出された遺構

本地点のYLU～YLL層からは、前述のように2,659点の石器が出土し、このうち2,655点が6箇所の石器ブロックとして確認された。検出された遺構、遺物は1-7地点、1-6地点を跨いで出土しており、本



第217図 1-10地点 YL層準 全体図

第65表 1-10地点YL層準 石材器種組成表

節では第20～25ブロック、第10～13号碑群、第16～22号配石について記述する。出土した遺物は、YLU層からYLL層まで複数層に跨ってブロックとして検出され、これらの石器には本来複数の文化層が存在するものと考えられるが、個体別資料分類や接合資料からこれらを分離しようと試みたが不可能であったため、今回はブロックごとに報告させていただく。

### (1) 石器ブロック

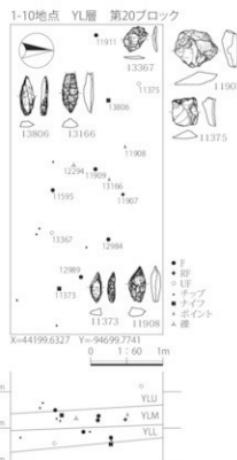
上述のように本地点の YLU ~ YLL 層からは、2,659 点の石器が出土し、2,655 点が 6 箇所の石器ブロックとして確認された。これらの石器ブロックは石器ブロック單独で検出されるもの、複数・配石と重複するものがある。

## 第20 ブロック (第218図)

本ブロックは、調査区の中央部から1・7地点の北東端部に跨るG-12・13グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸3.84m、短軸0.43mである。垂直分布は、標高398.78～399.58m、比高差は0.8mである。出土層位はYLU～YLL層であり、YLU層下部～

第66表 1-10地点第20ブロック 石材器種組成表

	新規発見 既知復元	複数個 複数個	和田土 和田地	複数個 不明	既知復元	合計
尖頭器	2					2
ナイフ形石器	1				1	2
二次加工ある鉄片	1					1
使用痕ある鉄片		2				2
鉄片	4	1				5
碎片	2			4		6
合計	10	2	1	4	1	18



第218図 1-10地点 YL層準 第20ブロック遺物分布図

YLL 層にかけて散在的に垂直分布する。出土石器は、ナイフ形石器 2 点、尖頭器 2 点、二次加工ある剝片 1 点、使用痕ある剝片 2 点、剝片 5 点、碎片 6 点の合計 18 点である。接合資料は無い。また、ブロック内で小礫が 1 点出土している。小礫には被熱の痕跡が認められるが、煤状付着物は認められない。

#### 第 21 ブロック（第 219 図）

本ブロックは、調査区中央部から 1-7 地点の東端部付近の G-12、F-12・13 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はないが、第 19・20・22・24 ブロックに隣接する。石器分布範囲の規模は、長軸 7.13m、短軸 6.70m である。垂直分布は、標高 398.26 ~ 399.42m、比高差は 1.16m である。出土層位は YLU ~ YLL 層であり、YLU ~ YLM 層に垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 5 点、楔形石器 1 点、二次加工ある剝片 1 点、使用痕ある剝片 3 点、石刃 4 点、石核 2 点、剝片 41 点、碎片 91 点の合計 148 点である。接合資料は無い。また、ブロック内から散在するように単独礫 5 点、炭化物 1 点が出土している。単独礫のうち 1 点に被熱の痕跡が確認される。

#### 第 22 ブロック（第 220 図）

本ブロックは、調査区南部の E・F-12 グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第 10 号礫群、第 16・17 号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 4.48m、短軸 4.38m である。垂直分布は、標高 398.42 ~ 398.92m、比高差は 0.5m である。出土層位は YLU ~ YLL 層であり、YLU 層下部～YLM 層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 1 点、楔形石器 2 点、使用痕ある剝片 2 点、石刃 1 点、石核 3 点、剝片 34 点、碎片 40 点の合計 83 点である。接合資料は、ブロック内で 1 個体、ブロック間で 1 個体確認され、接合資料 52 はブロック内で剝片 2 点が接合し、接合資料 69 は第 19 ブロックの剝片が本ブロックの石核と接合する。

#### 第 23 ブロック（第 221 図）

本ブロックは、調査区南部の E-11・12 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸 3.13m、短軸 1.85m である。垂直分布は、標高 398.01 ~ 398.60m、比高差は 0.59m である。出土層位は YLU、YLL 層であり、本来最も出土量の多い YLM 層からの出土はない。出土石器は、二次加工ある剝片 1 点、石刃 2 点、剝片 3 点、碎片 1 点の合計 7 点である。接合資料は、ブロック間で 1 個体確認され、接合資料 43 は本ブロックの剝片が第 19 ブロックの石核、剝片と第 24 ブロックの剝片と接合する。

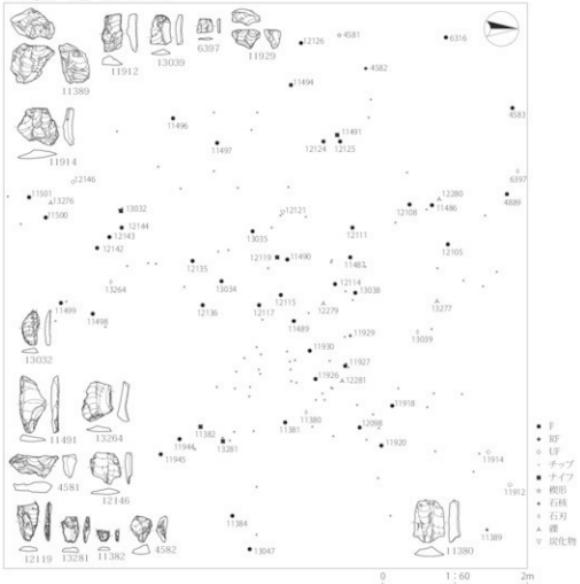
#### 第 24 ブロック（第 222 図）

本ブロックは、調査区中央部、1-6 地点の西端部に跨る F-13・14、G-13 グリッドで確認されている。ほぼ同位置で第 11・12・15 号礫群、第 18 ~ 22 号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 13.62m、短軸 7.86m である。垂直分布は、標高 398.12 ~ 399.37m、比高差は 1.25m である。出土層位は YLU ~ YLL 層であり、YLU 層下部～YLL 層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 21 点、楔形石器 1 点、二次加工ある剝片 3 点、使用痕ある剝片 5 点、石刃 11 点、石錐 1 点、石核 14 点、剝片 133 点、碎片 1,064 点の合計 1,253 点である。接合資料はブロック内で 8 個体、ブロック間で 1 個体確認されており、ブロック内の接合資料では、接合資料 35 は石核 2 点が接合する。接合資料 36 は石核と剝片 2 点が接合する。接合資料 37 は剝片 2 点が接合する。接合資料 38 は石核と剝片が接合する。接合資料

第67表 1-10地点第21ブロック 石材器種組成表

	圓錐形石器	天竜柏木質	和田木質	圓錐形木質	和田木質	原木木質	裏面加工	合計
ナイフ形石器	3	1					1	5
柳形石器	1							1
二次加工ある剣片		1						1
使用痕ある剣片	2		1					3
石刃	2		1	1				4
石核	1	1						2
剣片	26		3	3	3	6	41	
碎片	47	4			38	2	91	
合計	82	6	1	5	1	41	3	148

1-10地点 YL層 第21ブロック



第219図 1-10地点 YL層準 第21ブロック遺物分布図

第68表 1-10地点第22ブロック 石材器種組成表

	縫合 接着 接着 接着	圓筒形 圓筒形 圓筒形 圓筒形	神社 神社 神社 神社	圓筒形 圓筒形 圓筒形 圓筒形	ホルツ ホルツ ホルツ ホルツ	黑色 黑色 黑色 黑色	特殊 特殊 特殊 特殊	合計
ナイフ形石器	1							1
橢形石器	1	1						2
使用痕ある剝片	1	1						2
石刀	1							1
石核					1	2		3
剝片	6	1			9	15	3	34
碎片	8			14	5	13		40
合計	18	2	1	14	15	30	3	83

1-10地点 YL層 第22ブロック

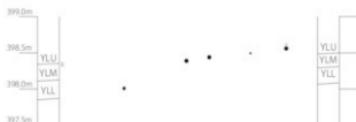
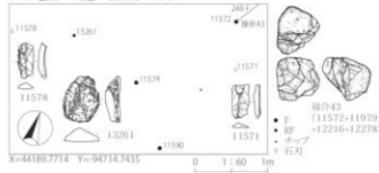


第220図 1-10地点 YL層準 第22ブロック遺物分布図

第69表 1-10地点第23ブロック 石材器種組成表

	縦溝垂直面 鋸痕有無	横溝地 明	ホルンブ ルス	裏側安 定性	合計
二次加工ある剝片	1				1
石刃	1	1			2
剝片	1			2	3
碎片	1				1
合計	4	1	0	2	7

1-10地点 YL層 第23ブロック



第221図 1-10地点 YL層準 第23ブロック遺物分布図

第70表 1-10地点第24ブロック 石材器種組成表

	縦溝垂直面 鋸痕有無	縦溝水平面 鋸痕有無	斜溝水平面 鋸痕有無	縦溝垂直面 鋸痕有無	和田山層準 鋸痕有無	和田山層準 鋸痕有無	和田山層準 鋸痕有無	裏側安 定性	ホルンブ ルス	横溝地 明	チャート	珪質砂岩	珪質砂岩	玉髓	合計
ナイフ形石器	12														21
楔形石器	1														1
石錐		1													1
二次加工ある剝片	2														3
使用痕ある剝片	1		4												5
石刃	5		3	1					1	1					11
石核	12				1										14
剝片	91	1	8	1	3	1			12	2	10	1	2	1	133
碎片	339				29	4	3	2	1	639	35	1	11		1,064
合計	463	1	1	45	6	7	3	1	659	3	47	2	1	13	1,253

第7章 1-10地点



第222図 1-10地点 YL層準 第24ブロック遺物分布図

料39は剥片2点が接合する。接合資料41は石核と剥片3点が接合する。接合資料42は剥片2点が接合する。接合資料81は剥片2点が接合する。ブロック間の接合資料では、接合資料43は本ブロックの剥片が第19ブロックの石核、剥片と第24ブロックの剥片と接合する。また、ブロック内から単独礫1点が出土している。

#### 第25ブロック（第223図）

本ブロックは、調査区北東端部、1-6地点の西端部に跨るF・G-14グリッドで確認されている。第13号縦群、1-6地点の14号縦群と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸11.08m、短軸7.51mである。垂直分布は、標高396.78～398.72m、比高差は1.94mである。出土層位はYLU～YLL層であり、YLM～YLL層にかけて垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器24点、彫刻刀形石器3点、彫刀面再生削片1点、楔形石器2点、スクレイバー2点、石核3点、二次加工ある剥片8点、使用痕ある剥片4点、石刃14点、剥片116点、碎片969点の合計1,146点である。また、ブロック内から単独礫2点、炭化物1点が出土しており、2点の礫には被熱の痕跡は認められない。接合資料は5個体確認され、ブロック内での接合が4個体、ブロック外との接合が1個体確認される。ブロック内では、接合資料40は石核と剥片が接合する。接合資料67は中間部で折損した石刃が接合する。接合資料73は中間部で折損した彫刻刀形石器が接合する。接合資料82は彫刻刀形石器と彫刀面再生削片が接合する。接合資料19は末端部で折損した石刃が6地点単独出土のものと接合する。

第71表 1-10地点第25ブロック 石材器種組成表

	葛根 根道 群 和田 山 群	豊 岡 山 群	圓 筒 型 ア ル バ ー	和 田 土 器 集 團	和 田 土 器 集 團 西 側	和 田 土 器 集 團 北 側	和 田 土 器 集 團 東 側	圓 筒 型 ア ル バ ー	圓 筒 型 ア ル バ ー	ホ ル ン シ ュ ル ス	黒 色 石 器	桂 賀 遺 跡	桂 賀 遺 跡	チ ヤ ー ト	合 計	
ナイフ形石器	6	1	1	4				4	1	2	3	1				24
彫器・彫器剥片	2														2	4
楔形石器	2															2
スクレイバー	1													1		2
二次加工ある剥片	4	1									1					8
使用痕ある剥片	2										1					4
石刃	7					1	1				1	3	1	14		
石核	1	1		1												3
剥片	69		6		1	6		1	15	2	13	2	1	116		
碎片	255	3	2	1	6	5	3		664	2	18	4	2	4	969	
合計	349	6	1	13	1	13	13	5	1	685	4	35	6	2	9	1,146

第7章 1-10地点



第223図 1-10地点 YL層準 第25ブロック遺物分布図

## (2) 碓群

本調査地点のYL層において礫群は4基確認された。検出された礫群の分布状況は、単独で分布する礫群ではなく、全て石器ブロックと同位置で重複して検出された。以下に詳述する。

## 第10号礫群（第224図）

本礫群は、調査区南部E・F-12 グリッドで確認されている。第22ブロック、第16・17号配石とほぼ同位置で重複する。礫の分布範囲の規模は、長軸4.65m、短軸2.27mである。垂直分布は標高398.57～398.72mであり、比高差は0.15mである。検出層位はYLM層である。構成する礫は12点であり、総重量2,257gを測る。また、礫群内で3個体7点の接合が認められる。

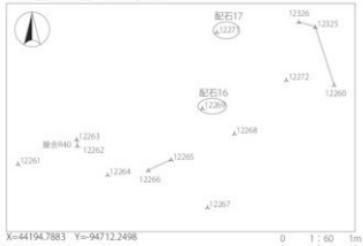
## 第11号礫群（第224図）

本礫群は、調査区中央部F-13 グリッドで確認されている。第24ブロック、第18～22号配石とほぼ同位置で重複する。礫の分布範囲の規模は、長軸1.64m、短軸0.77mである。垂直分布は標高398.62～398.72mであり、比高差は0.1mである。検出層位はYLM層である。構成する礫は5点であり、総重量1,946gを測る。このうち2点に被熱の痕跡が認められる。

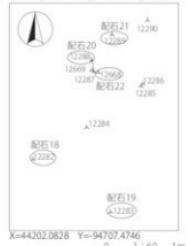
第72表 1-10地点礫群・配石組成表

	長軸 m	短軸 m	礫点数	総重量 g	複合点数	複合付着物
第10号礫群	4.65	2.27	12	2,257		
第11号礫群	1.64	0.77	5	1,946	2	
第12号礫群	5.85	2.51	12	2,060	4	
第13号礫群	5.52	2.42	11	3,542	2	
第16号配石			1	1,654	1	
第17号配石			1	1,060		
第18号配石			1	5,300		
第19号配石			1	1,995		
第20号配石			1	2,093		
第21号配石			1	4,000		
第22号配石			1	10,100		

1-10地点 YL層 第10号礫群



1-10地点 YL層 第11号礫群



第224図 1-10地点 YL層 第10・11号礫群、第16～22号配石遺物分布図

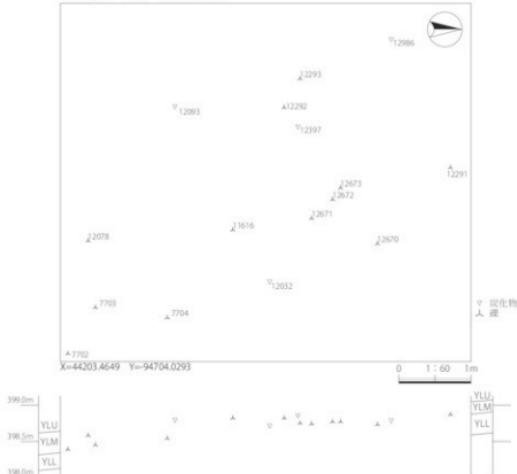
## 第12号砾群（第225図）

本砾群は、調査区中央部F・G-13 グリッドで確認されている。同位置で第24 ブロックと重複する。砾の分布範囲の規模は、長軸 5.85m、短軸 2.51m である。垂直分布は標高 398.39 ~ 398.88m であり、比高差は 0.49m である。検出層位は YLU ~ YLM 層であり、YLM 層に垂直分布が集中する傾向がある。構成する砾は 12 点あり、総重量 2.060g を測る。このうちの 4 点に被熱の痕跡が認められ、砾群内や周辺で 4 点の炭化物が検出されている。

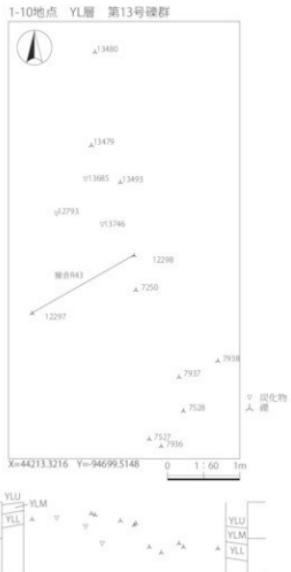
## 第13号砾群（第226図）

本砾群は、調査区北東端部、1-6 地点西端部に跨る G-14 グリッドで確認されている。第25 ブロックとほぼ同位置で重複する。砾の分布範囲の規模は、長軸 5.52m、短軸 2.42m である。垂直分布は標高 397.82 ~ 398.36m であり、比高差は 0.54m である。検出層位は YLU ~ YLM 層であり、YLM 層に砾の垂直分布が集中する。構成する砾は 11 点あり、総重量 3.542g を測る。このうちの 2 点に被熱の痕跡が認められ、砾群内や周辺に炭化物 3 点が検出されている。また、砾群内で 1 個体 2 点の接合が認められる。

1-10地点 YL層 第12号砾群



第225図 1-10 地点 YL 層準 第12号砾群遺物分布図



第226図 1-10地点 YL基準 第13号碟群遺物分布図

### (3) 配石

配石は7基確認されている。これらはすべて石器ブロック、砾群の両者と重複して検出されている。以下に詳述する。

### 第16号配石（第224図）

第16号配石は、調査区南部のE-12 グリッドで確認されている。第22ブロックと重複し、第10号櫛群の中心付近に位置する。第17号配石と約1.1m離れた距離で検出された。出土層位はYLM層であり、出土レベルは標高398.62mである。櫛は重量1.654gの単角櫛であり、被熱の痕跡が認められる。

**第 17 号配石（第 224 図）**

第 17 号配石は、調査区南部の F-12 グリッドで確認されている。第 22 ブロックと重複し、第 10 号礫群の中心付近に位置する。第 16 号配石と約 1.1m 離れた距離で検出された。出土層位は YLM 層であり、出土レベルは標高 398.63m である。礫は重量 1,060g の亜円礫である。

**第 18 号配石（第 224 図）**

第 18 号配石は、調査区中央部の F-13 グリッドで確認されている。第 24 ブロックと重複し、第 11 号礫群の中心から約 1.8m 離れた距離で検出された。出土層位は YLM 層であり、出土レベルは標高 398.56m である。礫は重量 5,300g の亜角礫である。

**第 19 号配石（第 224 図）**

第 19 号配石は、調査区中央部の F-13 グリッドで確認されている。第 24 ブロックと重複し、第 11 号礫群の中心から約 2m 離れた距離で検出された。出土層位は YLM 層であり、出土レベルは標高 398.53m である。礫は重量 1,995g の亜角礫である。

**第 20 号配石（第 224 図）**

第 20 号配石は、調査区中央部の F-13 グリッドで確認されている。第 24 ブロックと重複し、第 11 号礫群の中心付近で検出された。出土層位は YLM 層であり、出土レベルは標高 398.64m である。礫は重量 2,093g の亜円礫である。被熱の痕跡は認められないが、端部には割れが確認され、約 0.2m 離れた位置より出土した礫片と接合する。

**第 21 号配石（第 224 図）**

第 21 号配石は、調査区中央部の F-13 グリッドで確認されている。第 24 ブロックと重複し、第 11 号礫群の中心付近で検出された。出土層位は YLM 層であり、出土レベルは標高 398.70m である。礫は重量 4,000g の亜角礫である。

**第 22 号配石（第 224 図）**

第 22 号配石は、調査区中央部の F-13 グリッドで確認されている。第 24 ブロックと重複し、第 11 号礫群の中心付近で検出された。出土層位は YLM 層であり、出土レベルは標高 398.44m である。礫は重量 10,100g の角礫である。

## 2. 出土遺物

本調査地点で確認された石器は、第20ブロックから第25ブロックで出土した2,655点と散在的に確認された4点の計2,659点で構成される。これらの石器には複数の文化層が存在するものと考えられるが、個別資料分類や接合資料からこれらを分離しようと試みたが不可能であったため、ここでは出土した石器の器種毎の特徴を把握しながら石器群を見ていきたい。

### (1) 石器

本調査区で確認された石器は、上述したように第20ブロック～第25ブロックで出土した2,656点、散在的に出土した4点の計2,660点である。これら石器類の器種の内訳は、尖頭器3点、ナイフ形石器53点、石核22点、彫刻刀形石器3点、彫刀面削片1点、エンドスクリイバー2点、楔形石器6点、石錐1点、二次加工ある剥片15点、使用痕ある剥片16点、剥片333点、石刃33点、碎片2,171点である。これらの器種組成から見ると、石器群の主体を占める器種がナイフ形石器である事に間違いはなく、出土層位がYL層準内であり、多様な形態のナイフ形石器で構成されている事からみても、本地点で検出された石器群が所謂ナイフ形石器石器群が主体をなすものと考えられる。以下では、各器種の特徴を把握しながら、石器群の様相を捉えていきたい。

#### ナイフ形石器（第227～230図）

1-10地点からは53点のナイフ形石器が出土している。ここでは第I群：二側縁加工のもの、第II群：一侧縁加工のもの、第III群：欠損の形態不明のものの3群に分類し、それぞれの群の中で更に細別し、詳述していく。

#### 第I群a類（第227図 11491）

二側縁加工のナイフ形石器で大きさが5cm以上の大型のものを本類とした。1点確認される。単設打面の石核より剥離された綾長剥片を素材とし、打点部を基部方向へ用いる。基部には一部自然面が確認され、プランティング加工は主要剥離面からの一方向より行われる。刃部には使用の際に生じた微細剥離痕が観察される。

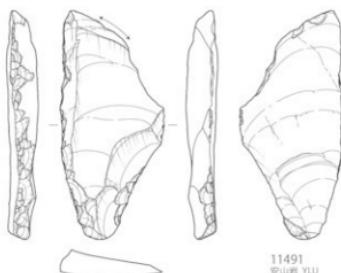
#### 第I群b類（第227図 7271～13806）

二側縁加工のナイフ形石器で大きさが3cm以上5cm以下の中型のものを本類とした。5点確認される。このうち、石刃素材のもの（7417, 13806）、剥片素材のもの（7271, 11633, 13546）がある。石刃素材のものは、単設打面の石核より剥離された石刃を素材とするもの（7417）、両設打面の石核より剥離された石刃を素材とするもの（13806）があり、打点部を刃部方向へ用いるもの（7417）、基部方向へ用いるもの（13806）がある。剥片素材のものは、背面構成から、単設打面の石核より剥離された剥片（7271, 11633, 13546）が全てである。また、素材の方向は打点部を刃部方向へ用いるもの（7271）、基部方向へ用いるもの（11633, 13546）がある。

#### 第I群c類（第228図 7512～13430）

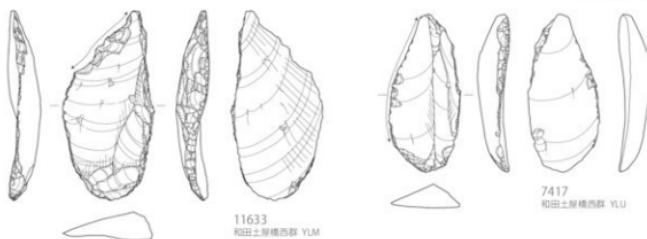
二側縁加工のナイフの中で最大長が3cm以下の小型のものを本類とした。9点確認される。12536は基部の末端を一部欠損しているため、復元値での分類となる事をはじめにお断りしておきたい。素材は、全

ナイフ形石器①



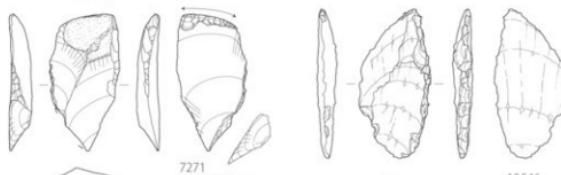
11491  
安山岩 YLU

ナイフ形石器②



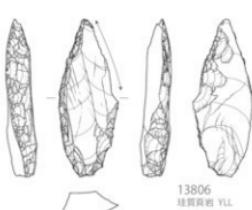
11633  
和田土屋橋西群 YLU

7417  
和田土屋橋西群 YLU



7271  
和田小深沢群 YLU

13546  
安山岩 YLU



13806  
珪質黃岩 YLU

0 1:1 5mm

第227図 1-10地点 YL 標準 出上遺物 (1)

で小型の剥片を素材とするものである。単設打面の石核より剥離された剥片を素材とするもの（13430、11406、7512、7941）、複設打面の石核より剥離された剥片を素材とするもの（12436、11402、11405、11373、12536）があり、素材獲得に複数の方法を選択している。また、本地点においても12436～11402のように2cm以下の極めて小型のナイフ形石器が認められる。

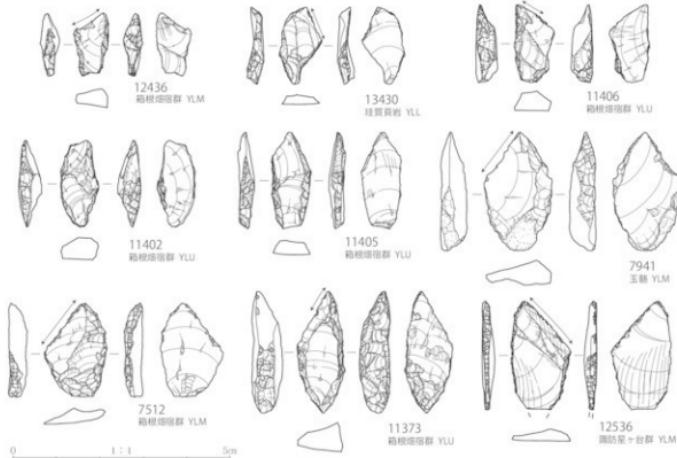
#### 第II群b類（第229図 12796、13032）

一側縁加工のナイフの中で最大長が3cm以上5cm以下の中型のものを本類とした。2点確認される。12796は、両設打面の石核より剥離された剥片を素材とし、左側縁部にプランティング加工が施される。プランティングは主要剥離面の一方向から施される。13032は、単設打面の石核より剥離された縱長剥片を素材とし、左側縁部にプランティング加工が施される。刃部先端のごく一部を欠損する。プランティング加工は主要剥離面からの一方向から施されている。II群b類と分類しているが、未製品の可能性も考えられる。

#### 第III群（第229・230図 7215～13545）

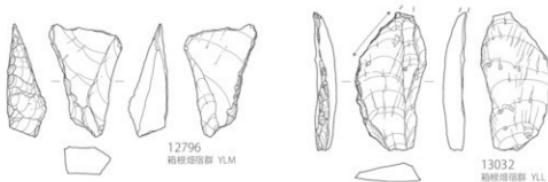
本群はナイフ形石器の欠損品を一括した。7445～12147は、ナイフ形石器の刃部先端である。7571～13545は刃部～中央部である。7501、12987は刃部、基部を欠損した中央部である。7451～8053は、中央部～基部である。7499～13291は基部である。全体を窺い知る資料は少ないが、第I群b・c類が主体を占めているものと推測される。ただし、12529、11687、12119のように復元長が5cm以上になると推定されるものも存在する。

ナイフ形石器③

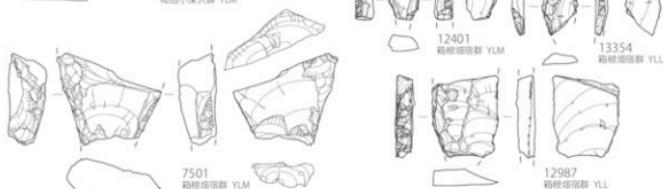
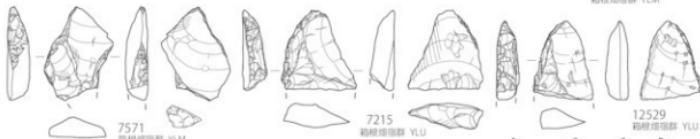


第228図 1-10地点 YL層準 出土遺物 (2)

ナイフ形石器④

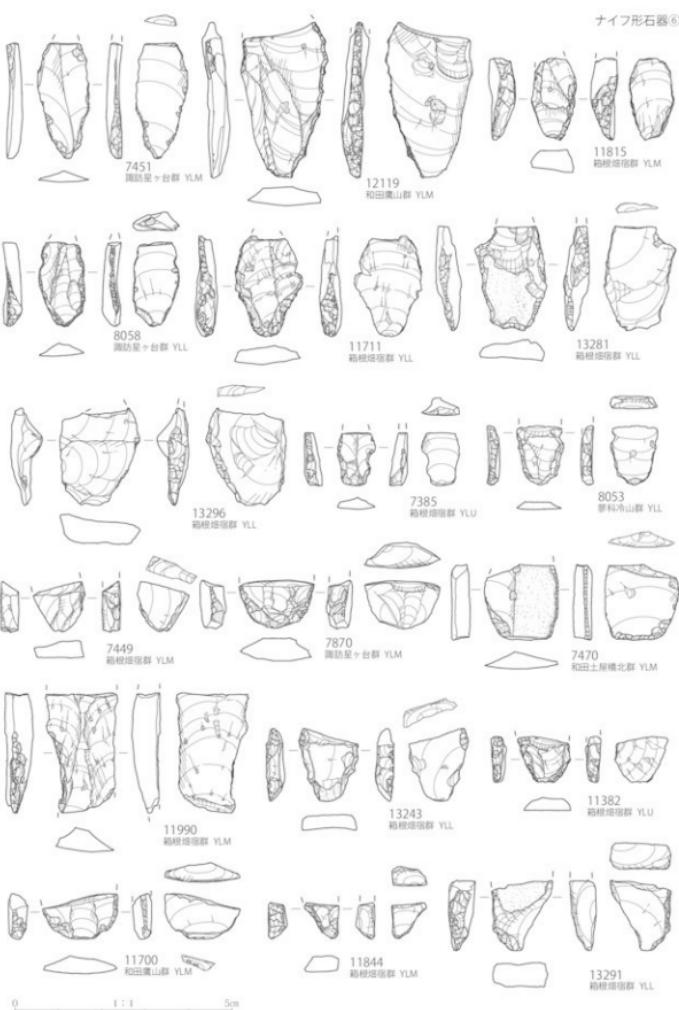


ナイフ形石器⑤



0 1:1 5cm

第229図 1-10地点 YL層準 出土遺物(3)



第230図 1-10地点 YL層準 出土遺物 (4)

**尖頭器** (第231図 11908、12243、13166)

ここでは、a類:両面加工のものが3点出土している。11908は、小型の尖頭器である。製作段階で中間部付近が折損しており、折れ面から二次加工が施され、尖頭部が作出される。12243は、尖頭器の中間部～基部である。両面に細かな二次加工が施される。13166は、先端部を欠損する。縦長剥片を素材としており、打点部を尖頭部方向へ用いる。主要剥離面側は一方から二次加工が観察され、製作段階での欠損、廃棄に至ったものと推察される。

**エンドスクレイパー** (第231図 7235、7456)

7235は、主要剥離面の打瘤部の膨らみに二次加工を施し、平坦に整形し、打点部付近に連続した二次加工を施して急角度のスクレイパーエッジを作出する。7456は、両設打面の石核より剥離された石刃を素材とし、末端部に二次加工を施して急角度のスクレイパーエッジを作出される。

**石錐** (第231図 13278)

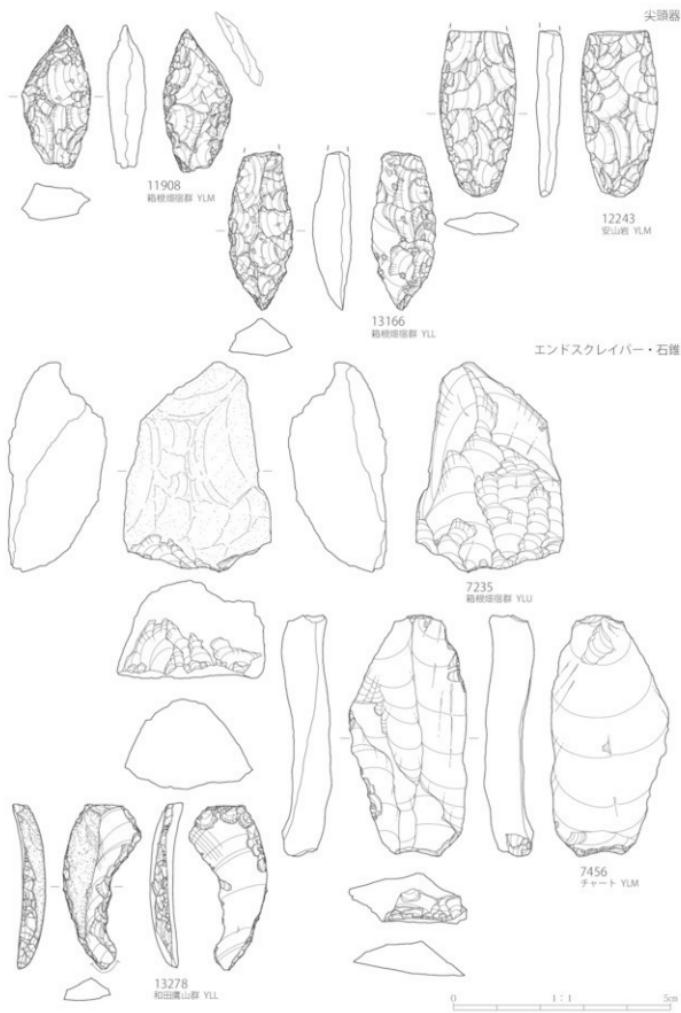
石錐+ノッチとも解釈されるが、挟り部の調整が浅いことから、ここでは石錐としている。単設打面を持つ石核から剥離された歪みのある剥片を素材とし、側縁部、主要剥離面の基部に細かな二次加工が施される。先端部には使用に伴う微細剥離痕が観察される。

**彫刻刀形石器** (第232図 接合資料73 7245+7399、接合資料82 8045+12570)

7245+7399は、単設打面の石核より剥離された小型の石刃を素材とし、左側縁部に彫刀面が作出される。左側縁部の基部付近と右側縁部に細かな二次加工が施される。折れ面の観察から、彫刀面作出の際に折損したものと考えられる。8045は、彫刀面再生削片であり、12570と接合する。接合図は接合資料第272図を参照していただきたい。単設打面の石核より剥離された縦長剥片を素材とする。右側縁部には細かな二次加工が施されており、彫刀面は左側縁部に作出される。彫刀面再生削片は、古い平坦な剥離面を利用して剥離される。

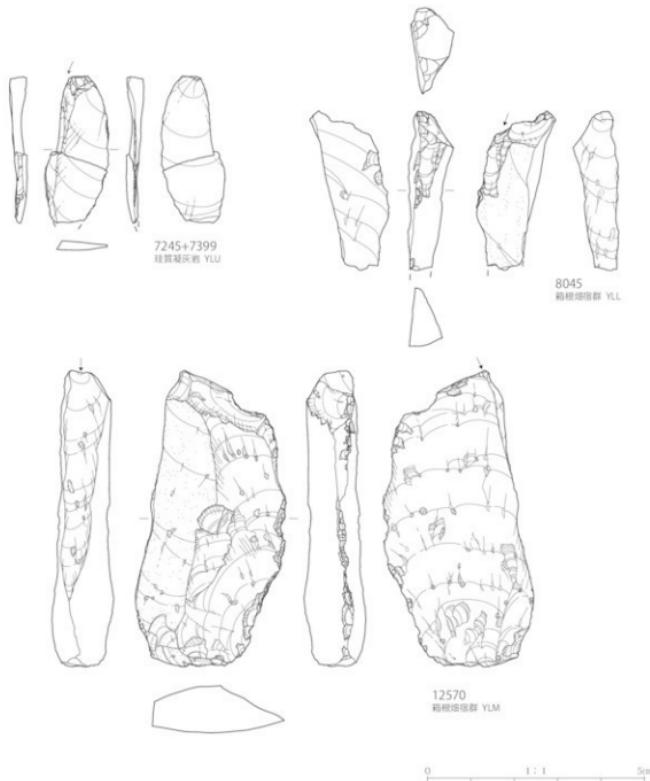
**模形石器** (第233図 4581～12641)

4581は残核を再利用した模形石器である。船底状を呈する複設打面の石核の上下端部に衝撃による細かな剥離が観察される。7505～12641は、いずれも複設打面を持つ石核より剥離された剥片を素材とし、上下端部に衝撃による細かな剥離が観察される。12641は衝撃により下端を欠損したものを推察される。

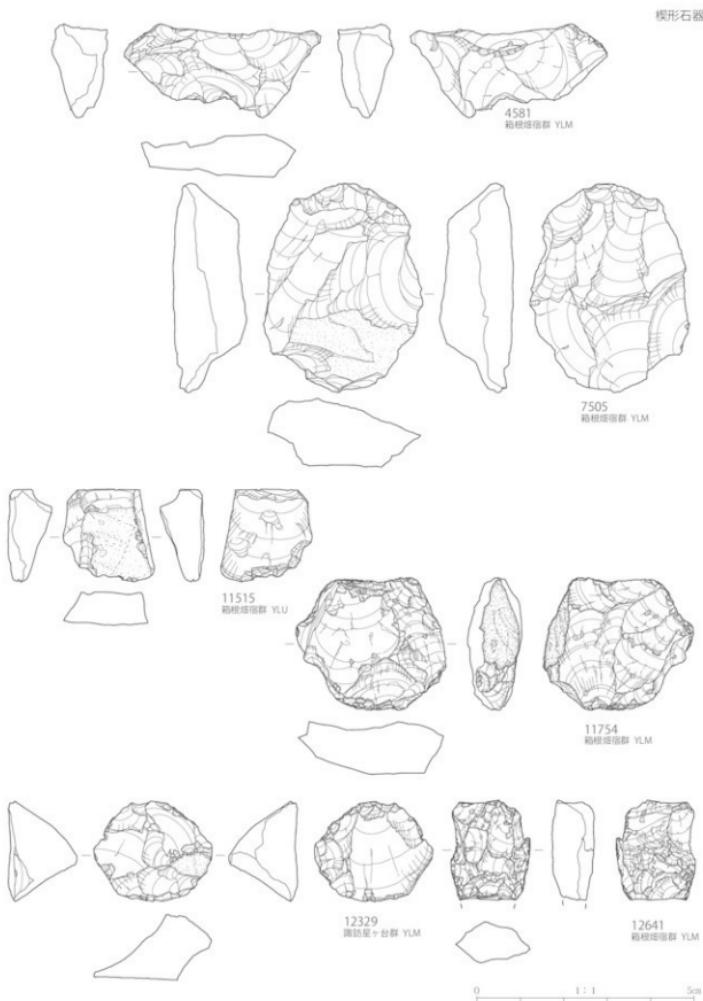


第231図 1-10地点 YL層準 出土遺物 (5)

影刻刀形石器



第232圖 1-10地点 YL層準 出土遺物（6）



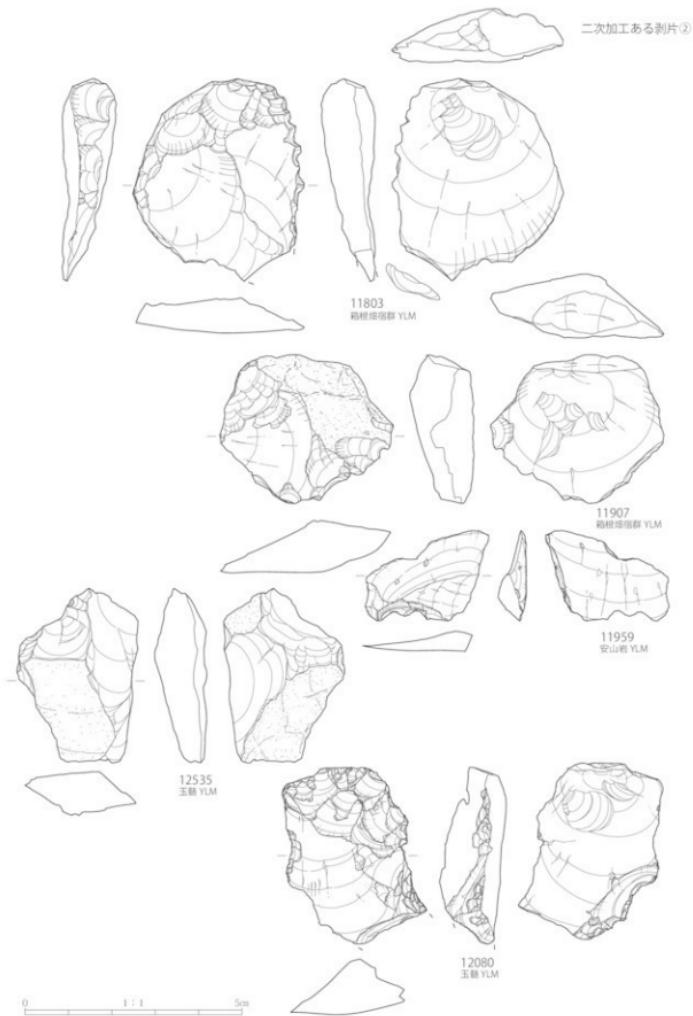
第233圖 1-10地点 YL層準 出土遺物 (7)

## 二次加工ある剥片（第234～236図 4582～13492）

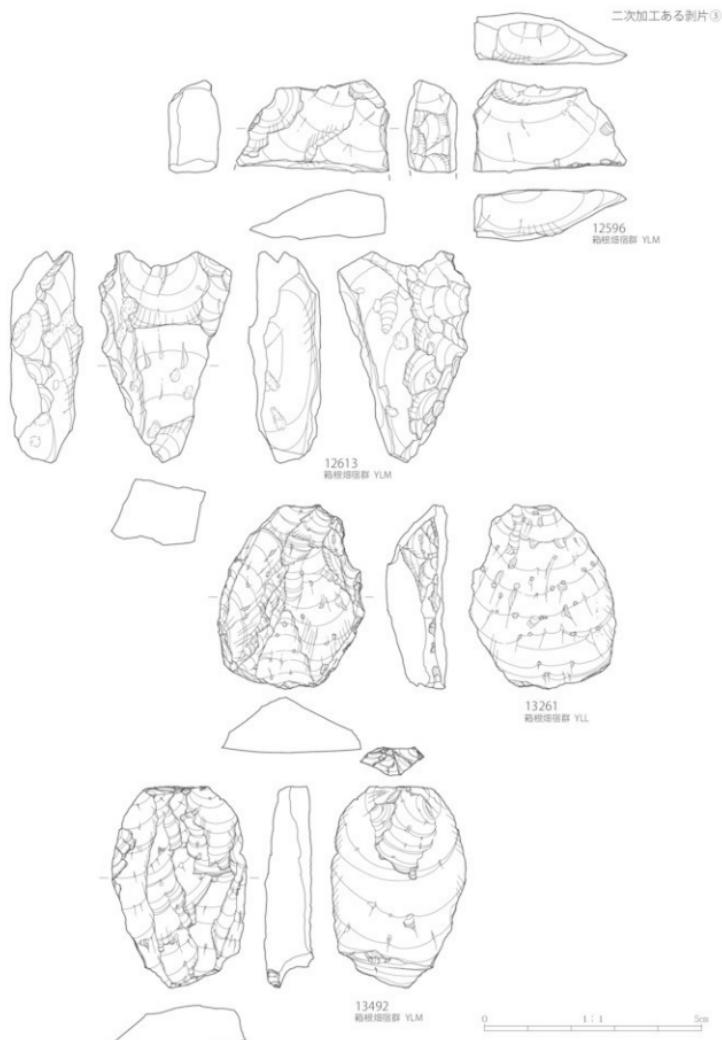
二次加工ある剥片は、15点確認されている。石刃の側縁部や端部に二次加工を施すもの（7276、7586、13492）、他は剥片の周縁や一部に二次加工を施すものである。これらは、当該期のいずれかの器種を製作するために二次加工が施されたものであるが、調整が明確ではないことから二次加工ある剥片として一括した。石刃素材のものは、全て單設打面の石核より剥離された石刃である。剥片素材のものでは單設の石核より剥離されたもの（11756、12596）であり、他はすべて複設打面の石核より剥離されたものである。また、これらの二次加工ある剥片の中には、ナイフ形石器のプランティング状の二次加工を施すもの（11757）や鋸歯状の二次加工を施すもの（11756、11803、11907、11959）がある。



第234図 1-10地点 YL層準 出上遺物(8)



第235図 1-10地点 YL層準 出土遺物(9)

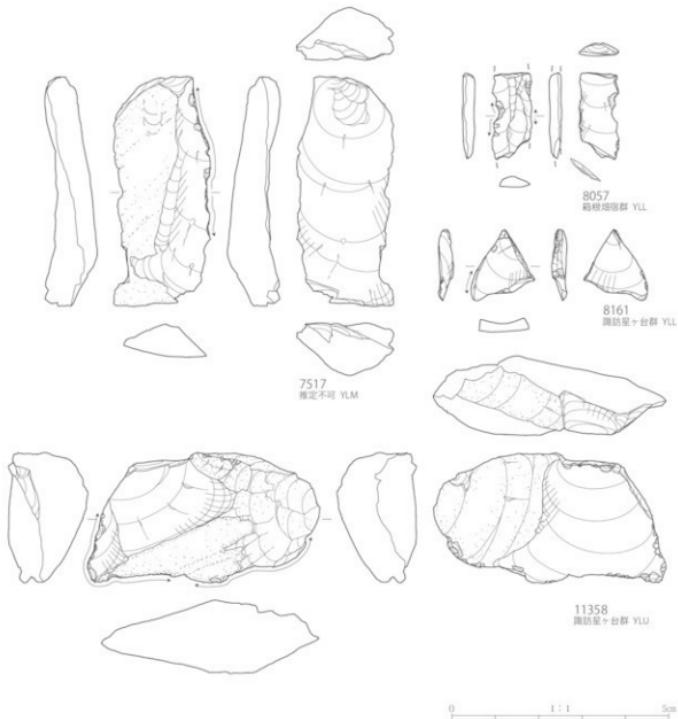


第236図 1-10地点 YL層準 出土遺物(10)

## 使用痕ある剥片（第237～239図 7517～13446）

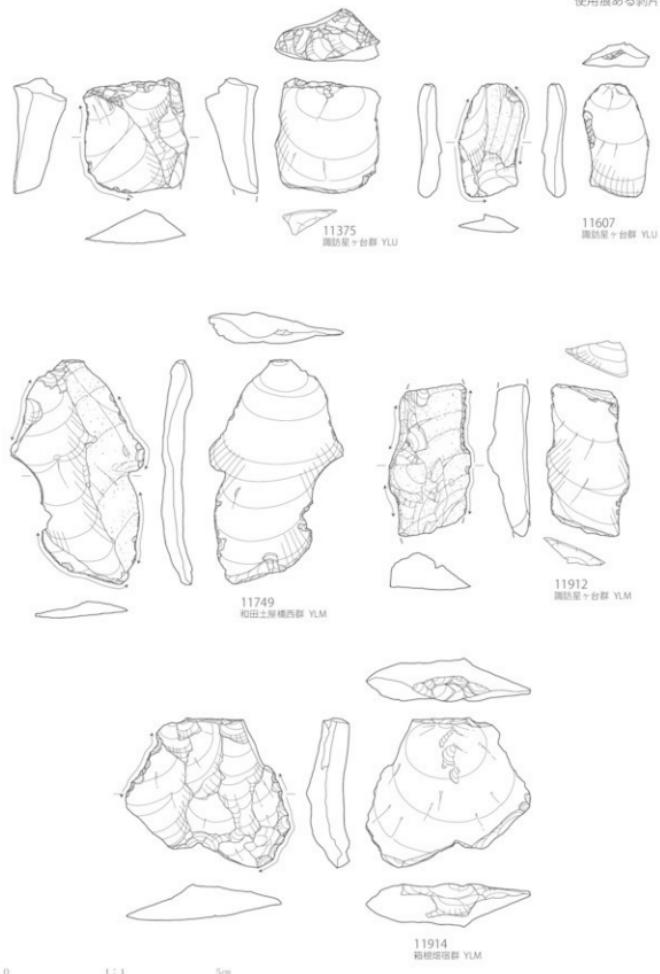
使用痕ある剥片は、16点確認された。石刃の側縁部に微細な剥離痕が認められるもの（7517、8057、11749、11912）、剥片の側縁部や端部に微細な剥離痕が認められるもの（8161、11358、11375、11607、11914、12063、12146、12164、12246、12615、13367、13446）がある。石刃のうち打点部が残存するもの（7517、11749）は、打面はすべて平坦打面である。剥片素材のものでは、單設打面の石核より剥離された剥片（8161、11375、11914、12146、12246、12615、13367、13446）、両設打面の石核より剥離された剥片（11607）複設打面の石核より剥離された剥片（12063、12164）がある。

使用痕ある剥片①

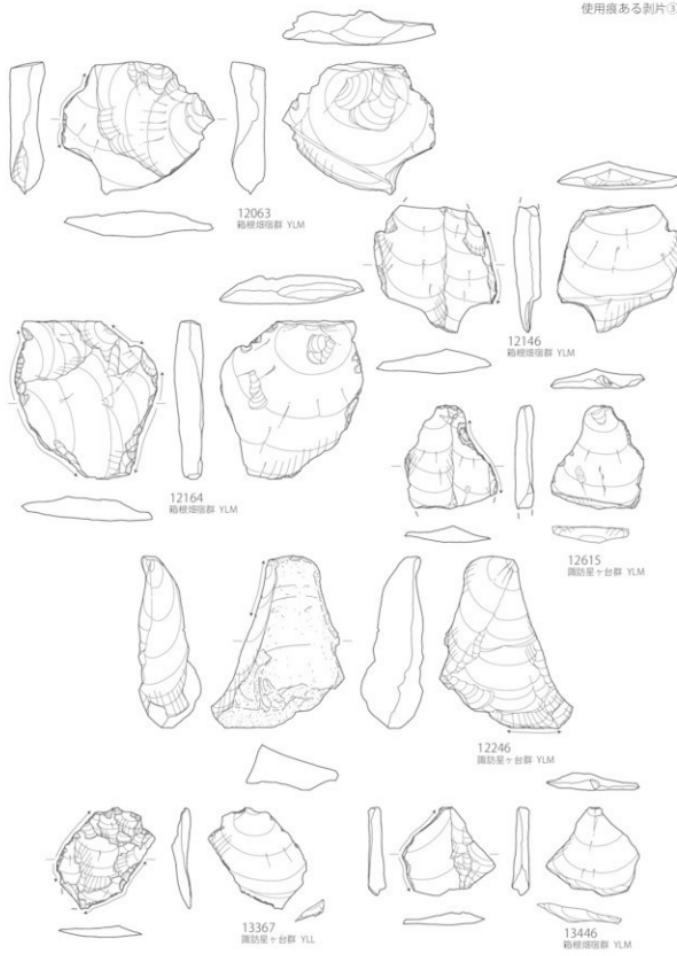


第237図 1-10地点 YL層準 出土遺物 (11)

使用痕ある剥片③



使用痕ある剥片③

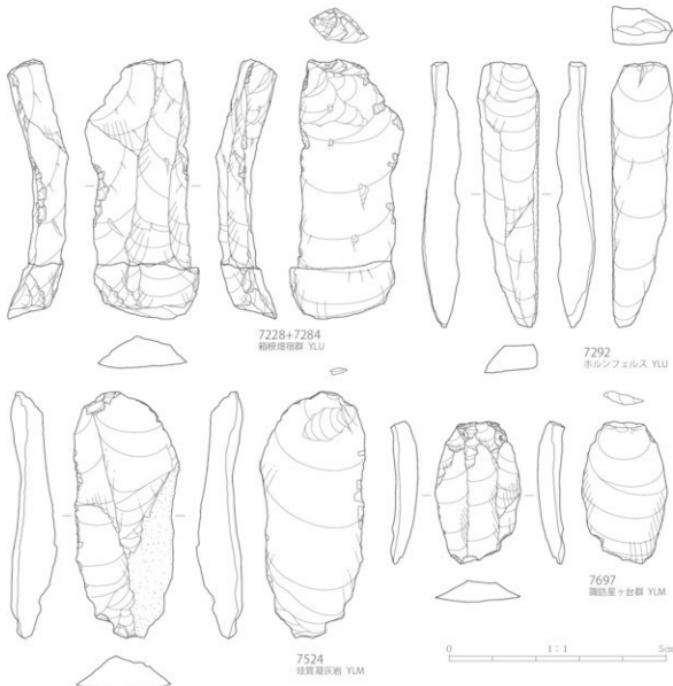


第239図 1-10地点 YL層準 出土遺物 (13)

## 石刃・小石刃（第240～243図 6397～13713）

32点確認されているが、使用痕ある剥片や二次加工ある剥片の中に石刃を素材としたものが含まれており、これらを含めれば40点の石刃が存在する。また、欠損しているため全容は不明であるが、幅が1cm程度の所謂小石刃（8059、8096、11795、12800、13544）も存在する。石刃・小石刃のうち、完形かほぼ完形のもの（第240図7228～第241図13713）は8点確認されるだけであり、他は打点部から中央部のもの（第241図7709～第242図13247）、中央部だけのもの（第242図6397～13592）、中央部から末端部のもの（第243図11571～13264）に分類される。また、石刃に残された打面を観察すると、平坦打面のもの8点（7292、7524、7697、7709、8059、11795、12924、13039）、調整打面のもの9点（7228+7284、7993、11770、12026、12492+13713、8096、11778、13231、13247）がある。これらの石刃の多くは一定した剥片剥離方向を持つ單設打面の石核から剥離されたものが大部分を占めており、

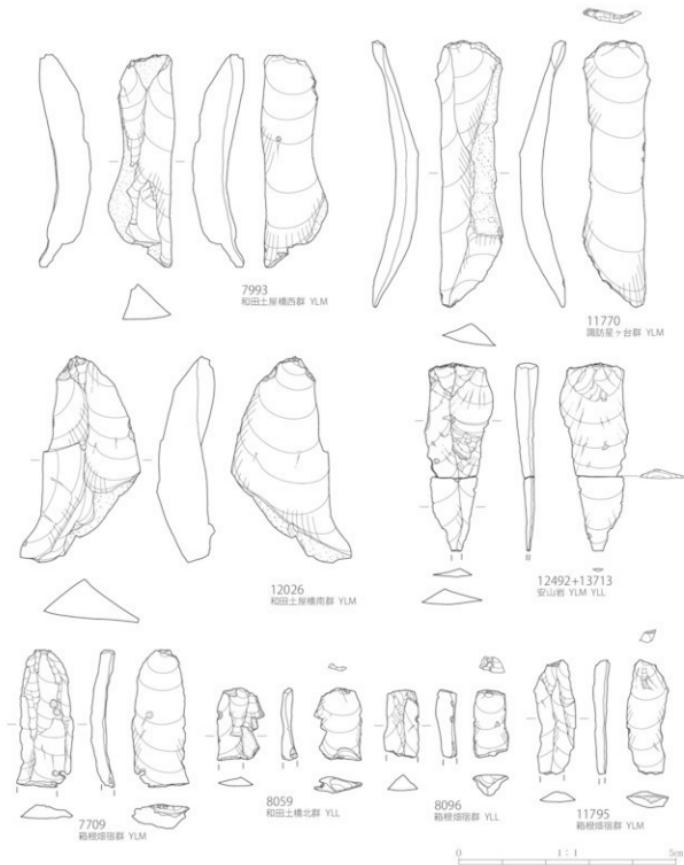
石刃・小石刃①



第240図 1-10地点 YL層準 出土遺物(14)

この他に 180 度剥離方向の違う剥離痕が認められるもの (11578, 11748, 13264)、90 度剥離方向の違うもの (12026, 13045) が少量認められる。このことから、本地点の石刃剥離技術には 3 種類の工程が確認され、単設打面を持つ石核から石刃を剥離するものが普遍的であったと考えられる。

石刃・折石刃②

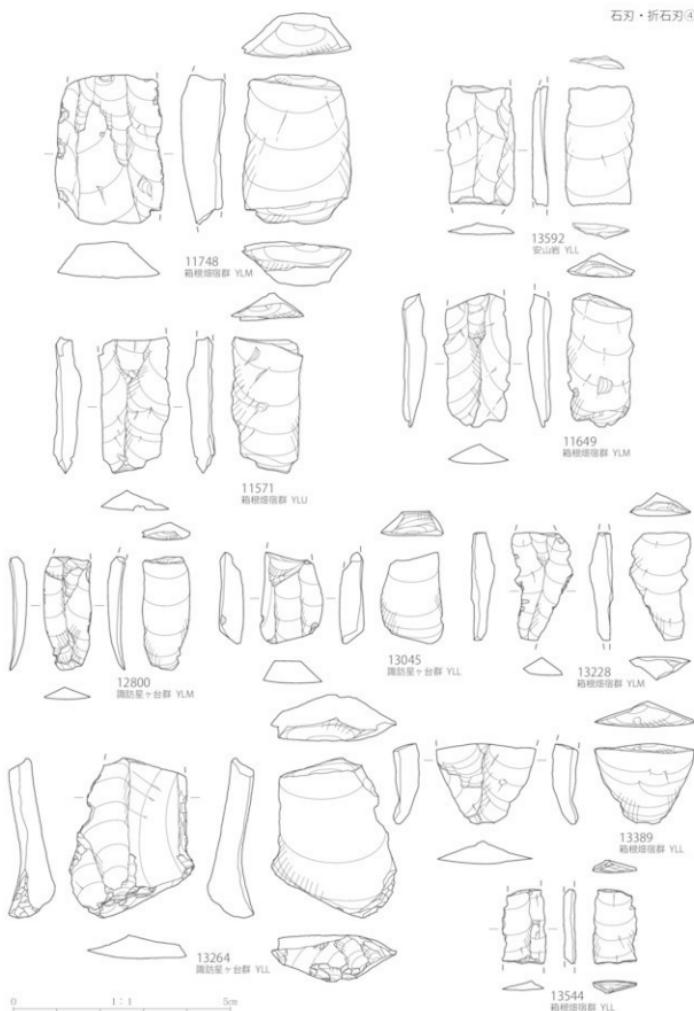


第241図 1-10地点 YL層準 出土遺物 (15)



第242圖 1-10地点 YL層準 出土遺物 (16)

石刃・折石刃④



第243圖 1-10地点 YL層準 出土遺物 (17)

石核（第244～254図 11409～13207）

本地点では石核が22点出土している。石核はa類：単設打面で剥片剥離方向が一方向に限定されるもの、b類：両設の打面を持つもので、180度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が180度異なるもの、c類：複設の打面を持つもので90度の打面転移が行われ、剥片剥離方向が90度異なるもの、d類：求心的な剥片剥離が行われているものの4類に大別される。本調査地点ではa類が3点、c類が19点出土している。以下に詳述していく。

a類：（第244図 11409、11881、12451）

単設の打面を持つ石核である。3点確認された。11409は亜角礫状の原石を用いており、打面と正面、左右の3面以外は節理状の自然面である。球果流紋岩を多量に含有しており、目的的な剥片剥離には適さない石材であり、作業面に残る剥片剥離を行った後は廃棄されたものと推察される。11881は、亜角礫状の原石を半割したものであり、剥離作業は行われてはいない。半割の際は、自然面の平坦面を打面として半割しており、両極剥離痕は確認されない。12451は接合資料で後述するが、剥片3点と接合する。自然面の形状から亜角礫の原石を素材とする。打面は平坦打面であり、4cm程度の目的的な剥片を剥離する。

c類：（第245～254図 7867、13207）

複設の打面を持つものの中で、全長が5cm以下のものをc-1類として、5cmを超えるものをc-2類として分類した。

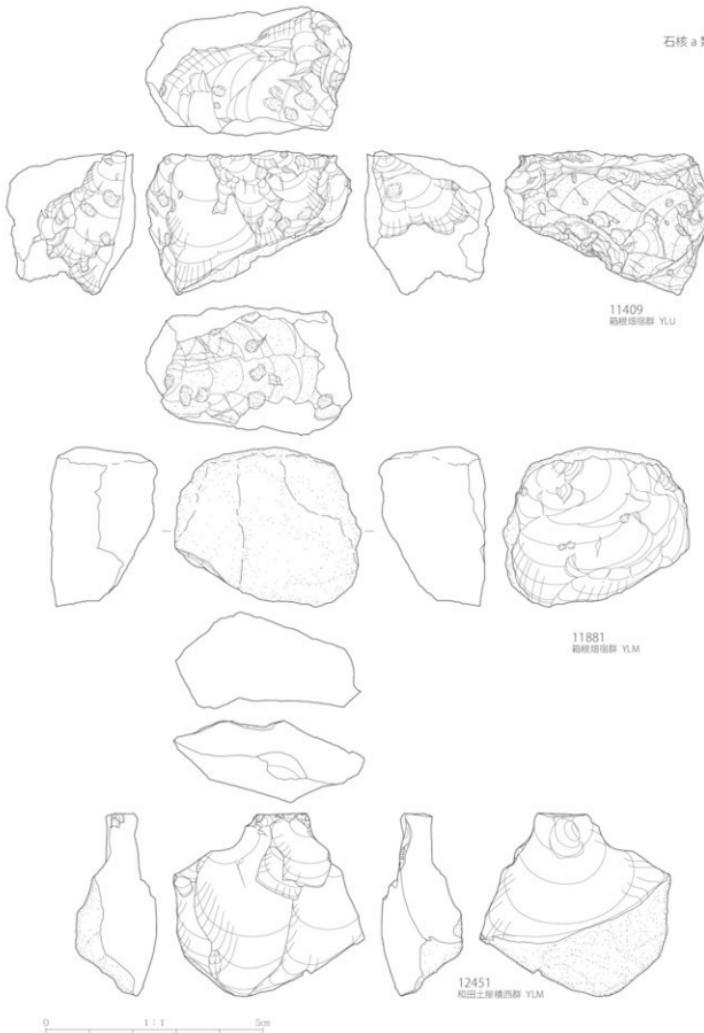
c-1類：（第245～250図 7867～13353）

打面を調整する事なく、打面を転移する事で剥片剥離を行うもの（7867、8146、11663、11929、11952、12202、12270、13139、13199、13353）、打面調整が確認されるもの（11389、11679、12481）がある。打面を転移しながら剥片剥離を行うものの中には、3cm以下のもの（7867、8146、11929、12376）があり、目的的な剥片がいかに小型化しているかが良くわかる資料である。また、13353はサイコロ形状を呈しており、剥離がこれ以上行われない残核と捉えられる。

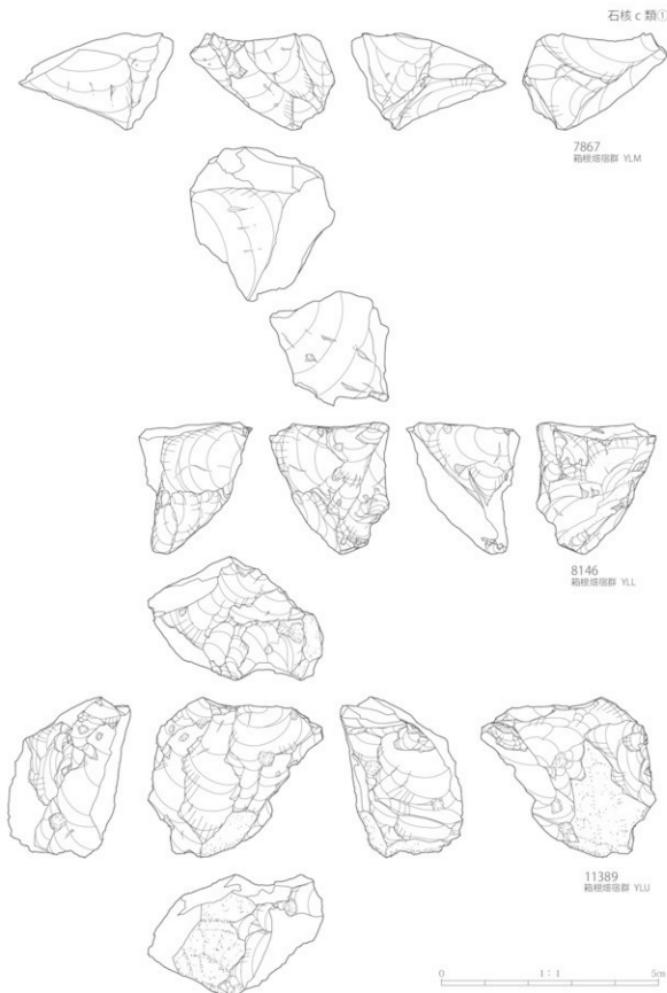
c-2類：（第251～254図 11695～13207）

平坦な剥離面や平坦な自然面を打面として転移を繰り返すもの（11695、12016、13207、12332）、打面調整を施しながら打面転移を繰り返すもの（13040）がある。13040は、船底形を呈する。剥片剥離は甲板面を打面としているものもあるが、それ以外の方向からのものが大部分を占める。

第7章 1-10地点

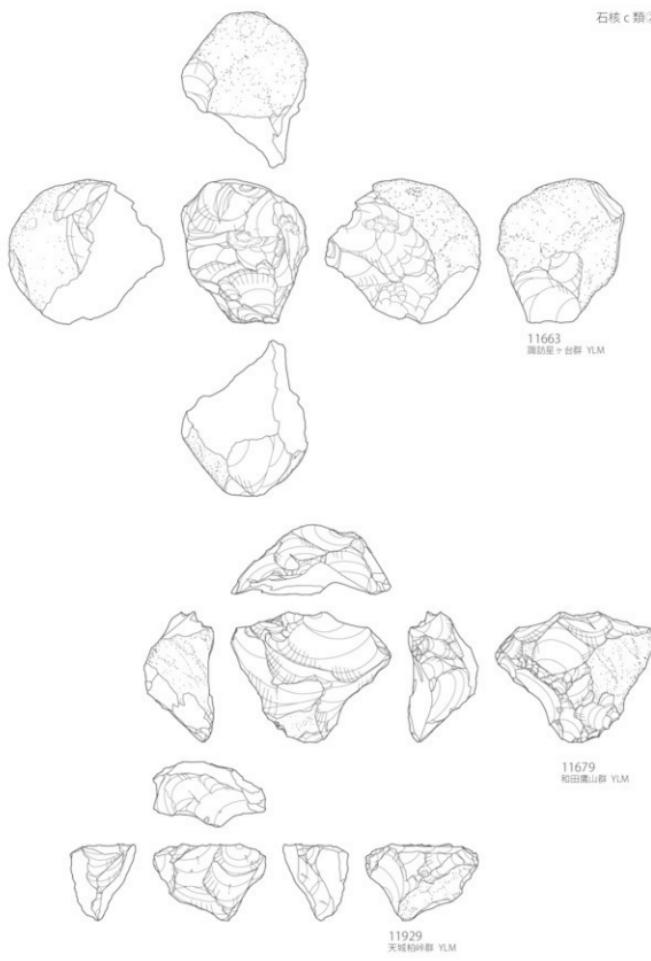


第244圖 1-10 地點 YL層準 出土遺物 (18)



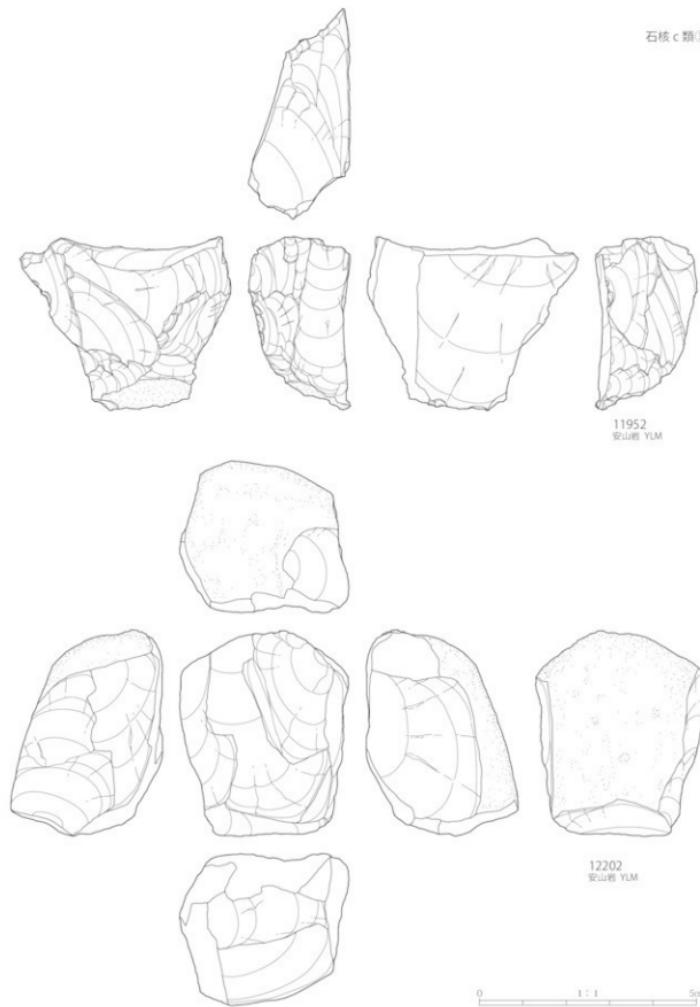
第245圖 1-10 地點 YL 層準 出土遺物 (19)

石核C類②



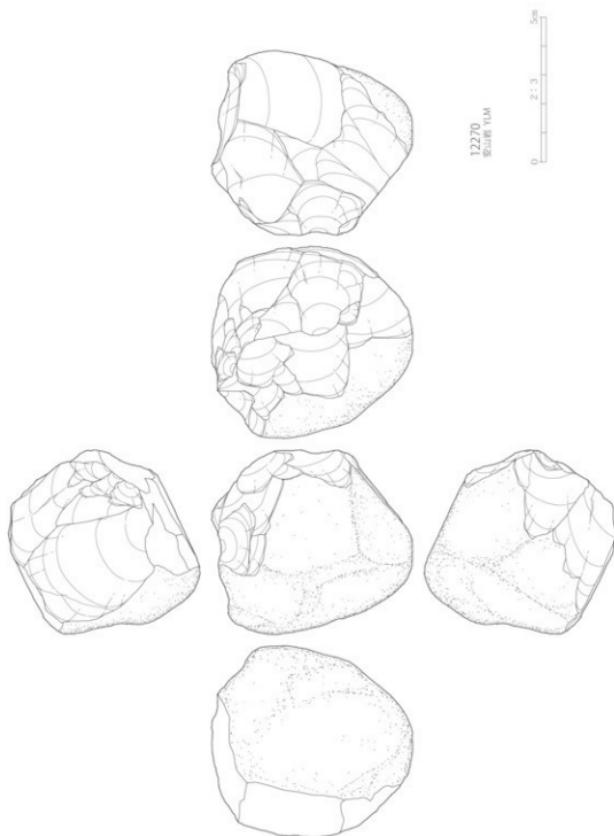
第246圖 1-10 地點 YL層準 出土遺物 (20)

第7章 1-10地点

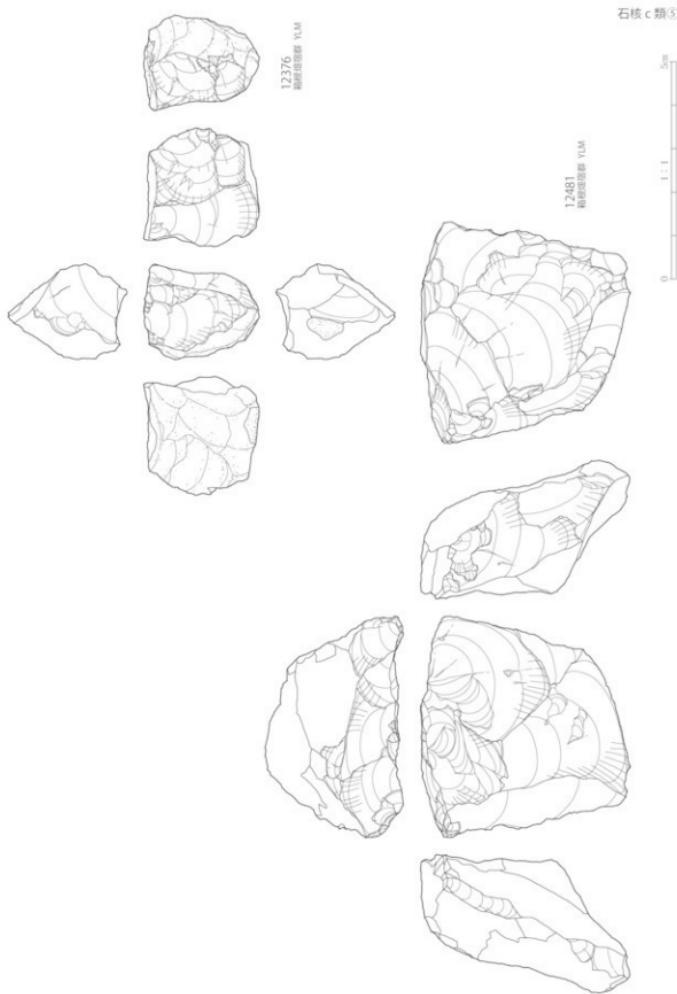


第247圖 1-10地點 YL層準 出土遺物 (21)

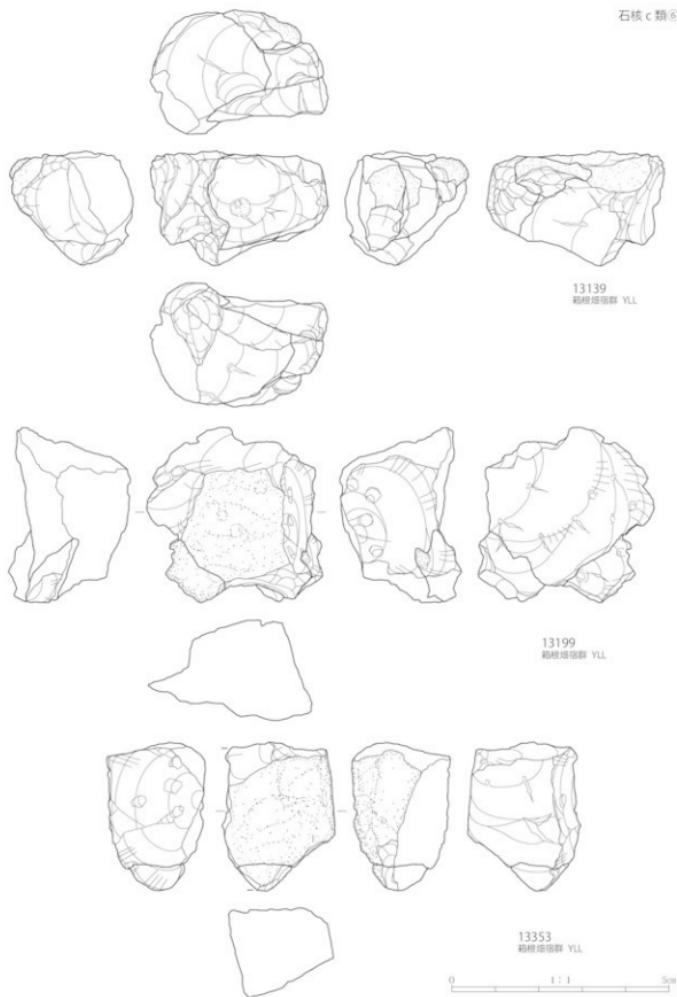
石核C類④



第248圖 1-10 地點 YL層準 出土遺物 (22)

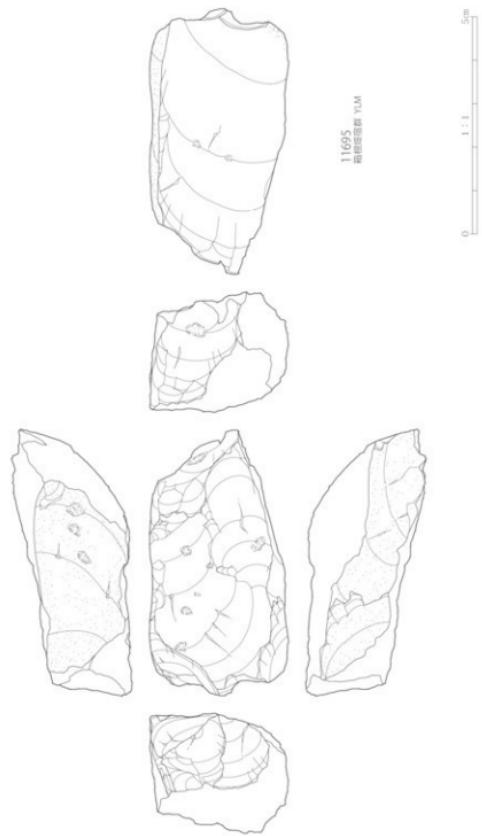


第249圖 1-10地点 YL層準 出土遺物 (23)



第250圖 1-10 地點 YL層準 出土遺物 (24)

石核c類②



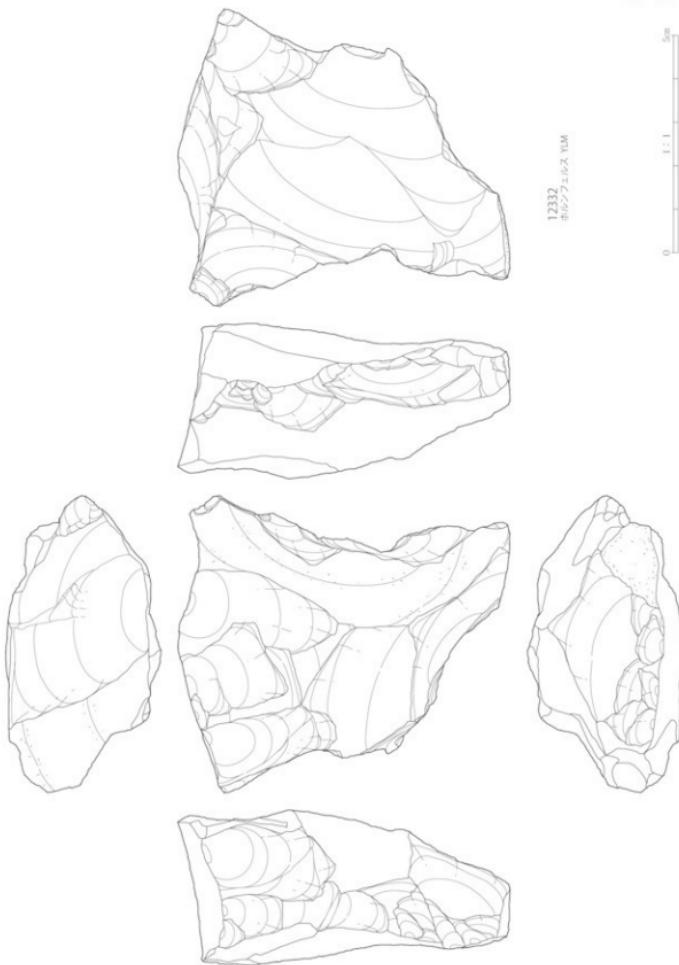
第251圖 1-10地点 YL層準 出土遺物 (25)

第7章 1-10地点



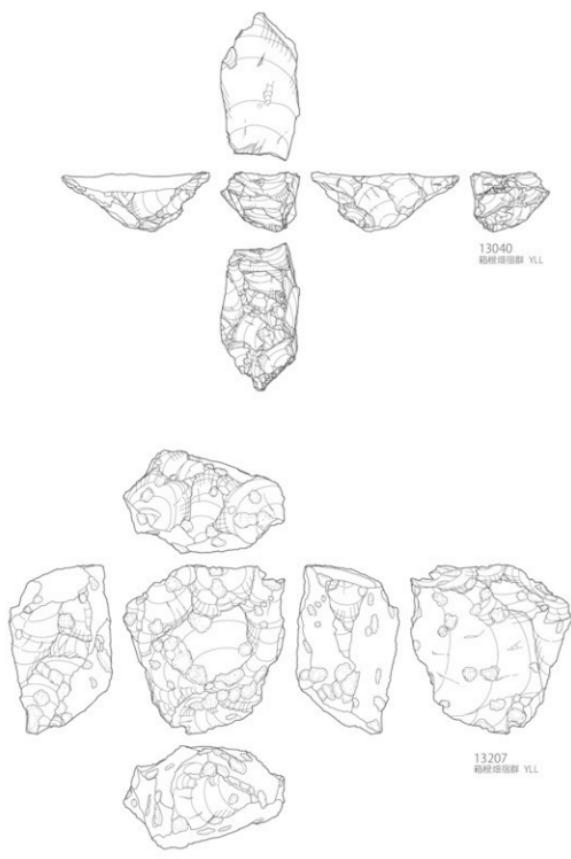
第252圖 1-10 地點 YL層準 出土遺物 (26)

石核c類②



第253圖 1-10地点 YL層準 出土遺物 (27)

石核C類◎



0 2:3 5cm

第254圖 1-10地点 YL層準 出土遺物 (28)

(2) 接合資料

本調査地点で確認された接合資料は、14個体である。以下に詳述する。

接合資料 No.19 (第255図 7228、7284)

第25ブロックより出土した石刃と6地点単独で出土した石刃の接合資料である。背面構成から單設打面を持つ石核から剥離される。意図した折断ではなく、右側縁部の観察から石刃を剥離する際に同時割れを起こしたものと推察される。打面には細かな調整が施される。

接合資料 No.35 (第256図 13199、13353)

第24ブロックより出土した石核2点の接合資料である。石核の項で前述したように、c-1類に分類される5cm以下の複設の打面を持つ石核である。接合状況から、剥片剥離の際に、接合面に観察される球果流紋岩によって碎けるように折損したものと考えられる。

接合資料 No.36 (第257・258図 12365、12028、12016)

第24ブロックより出土した石核と剥片2点の接合資料である。石核で前述したように、c-2類に分類される5cm以上の複設の打面を持つ石核である。12365、12028ともに同一打面から剥離される。

接合資料 No.37 (第259図 12019、12352)

第24ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。背面には自然面が確認され、單設打面の石核より剥離された剥片であり、打点部には細かな調整が施される。背面の観察から縦長剥片を目的として剥離されていることがわかる。剥片端部に認められる折れ面は球果によって偶発的に折れたものである。

接合資料 No.38 (第260図 13139、13219)

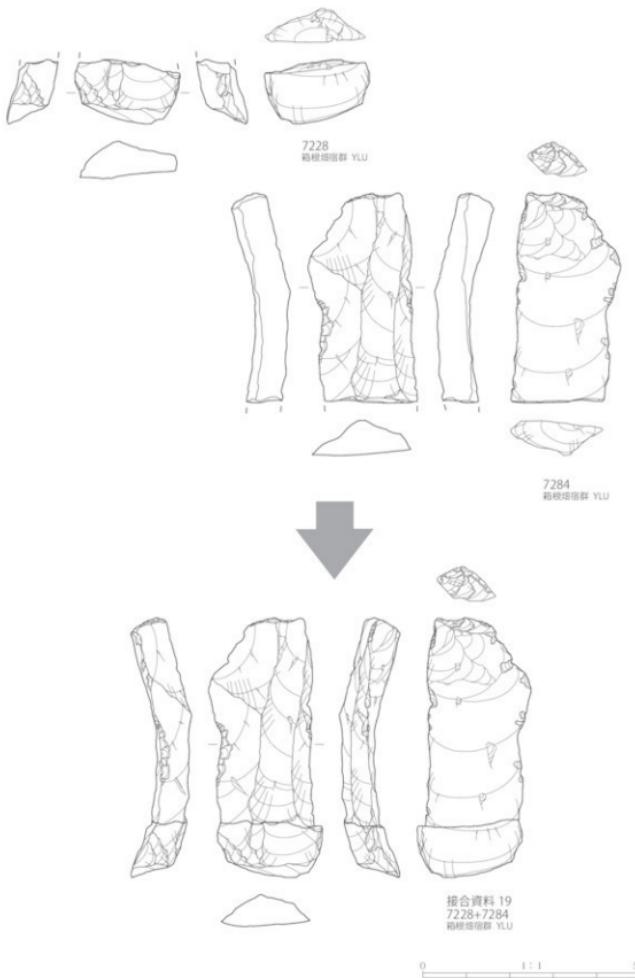
第24ブロックより出土した石核と剥片の接合資料である。13139は、前述したように、c-1類に分類される5cm以下の複設の打面を持つ石核である。亜角礫状の原石を用い、自然面の平坦面、平坦な剥離面から打面転移を繰り返して剥片剥離を行う。石材が脈状に割れる弱開性の強い黒曜石であり、13219は剥片剥離が行われた際、偶発的に碎けたものと考えられる。前述のように弱開性の高い石材であるため、これ以上の剥離は行われず廃棄されたものと推察される。

接合資料 No.39 (第261図 11987、13414)

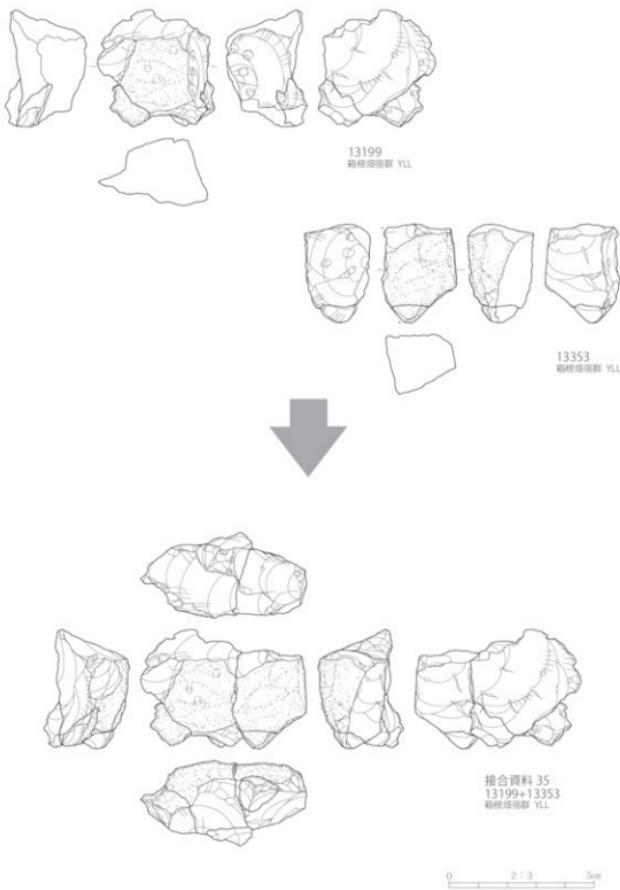
第24ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。石材が脈状に割れる弱開性の強い黒曜石であり、接合面付近には節理面が観察されることから、剥片剥離の際に偶発的な同時割れを起こしたものと推察される。

接合資料 No.40 (第262図 12725、11663)

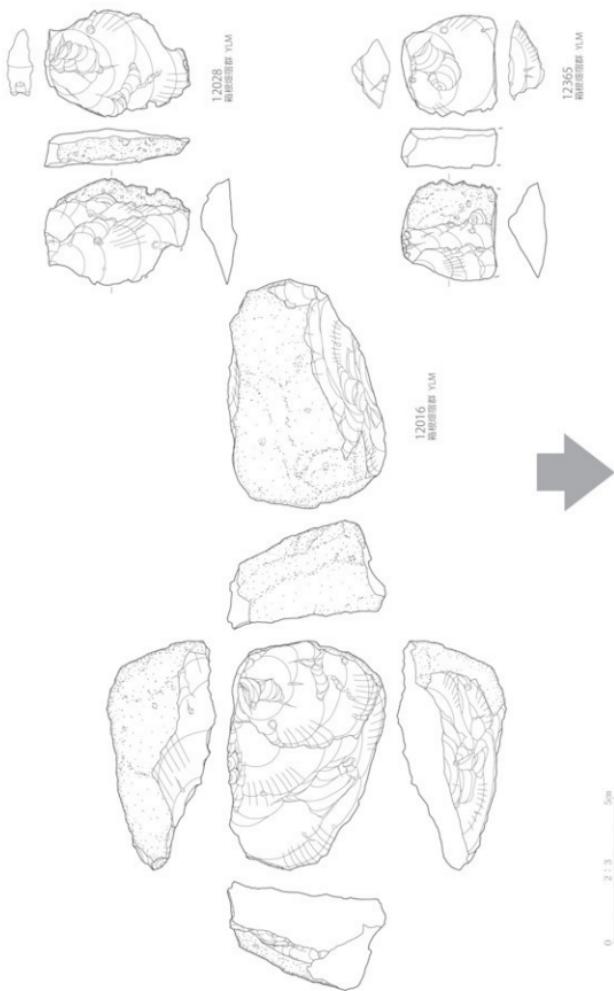
第25ブロックより出土した石核と剥片の接合資料である。石核は前述したように、c-1類に分類される5cm以下の複設の打面を持つ石核である。亜角礫状の原石を用い、自然面の平坦面、平坦な剥離面から打面転移を繰り返して剥片剥離を行う。



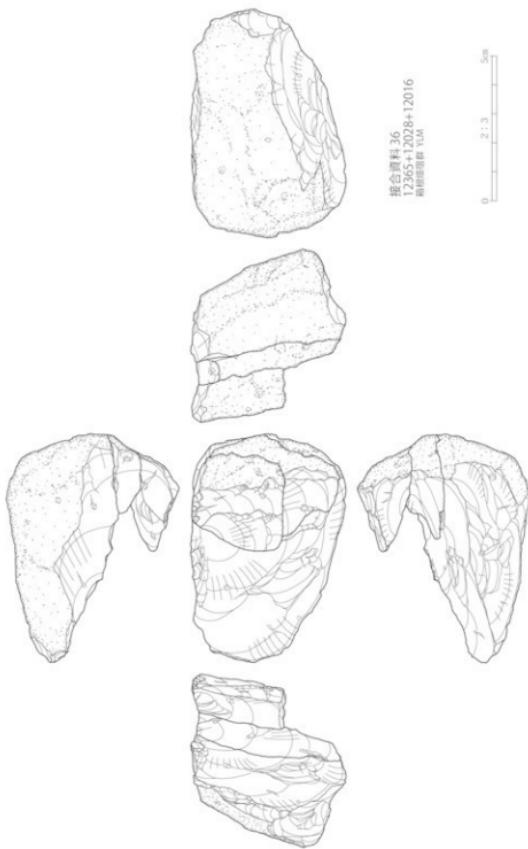
第255圖 1-10 地點 YL層準 接合資料 (1)



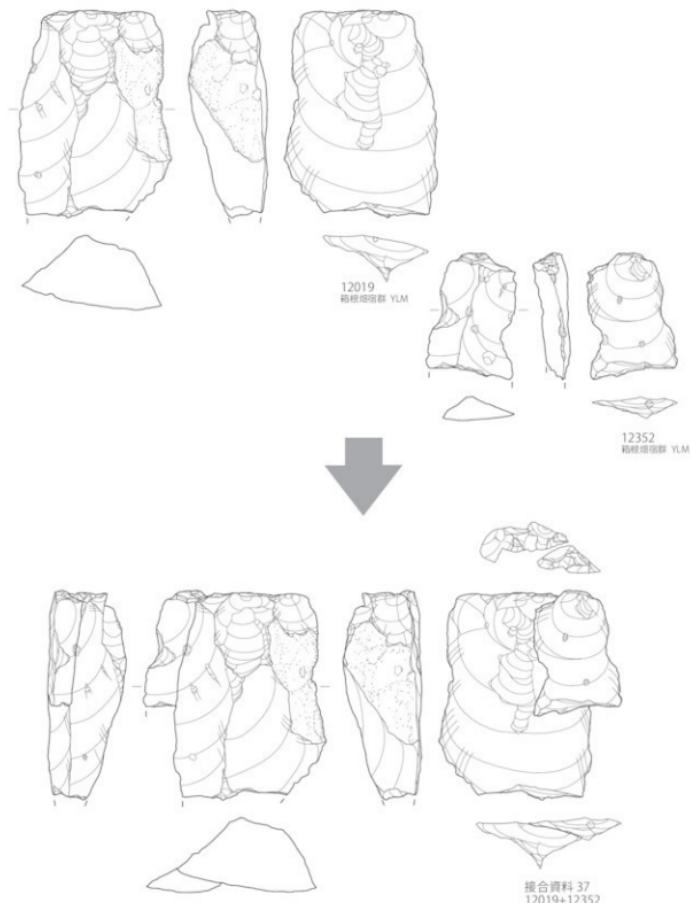
第256圖 1-10 地點 YL 層準 接合資料 (2)



第257圖 1-10地点 YL層準 接合資料(3)

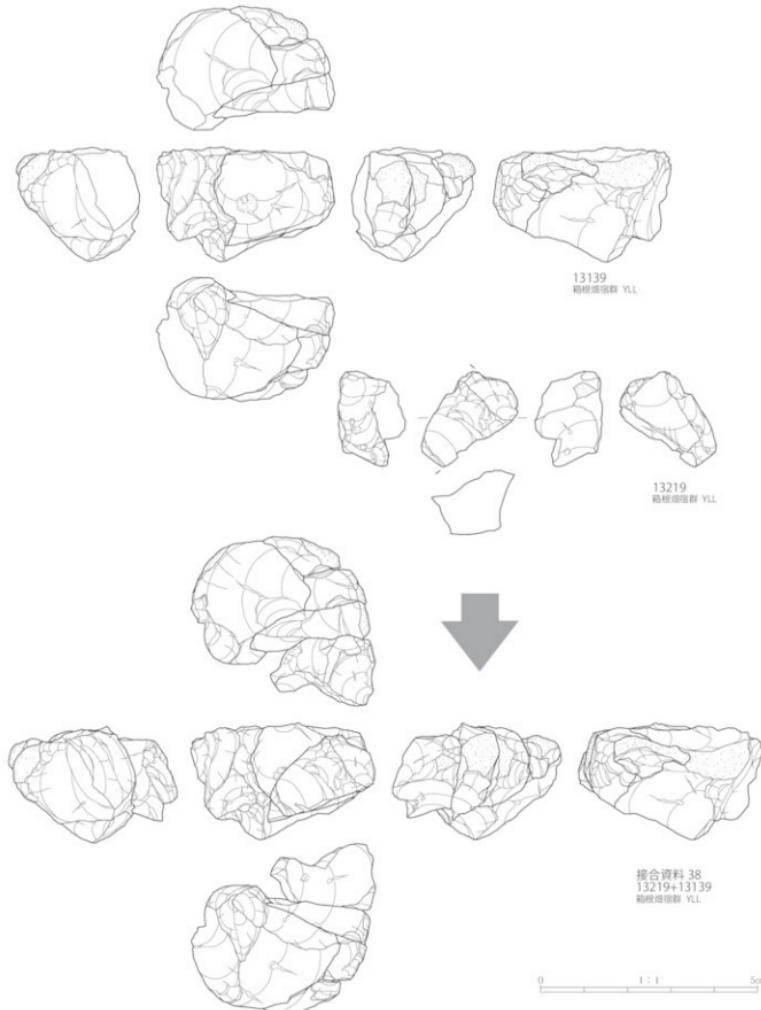


第258圖 1-10 地點 YL層準 接合資料 (4)

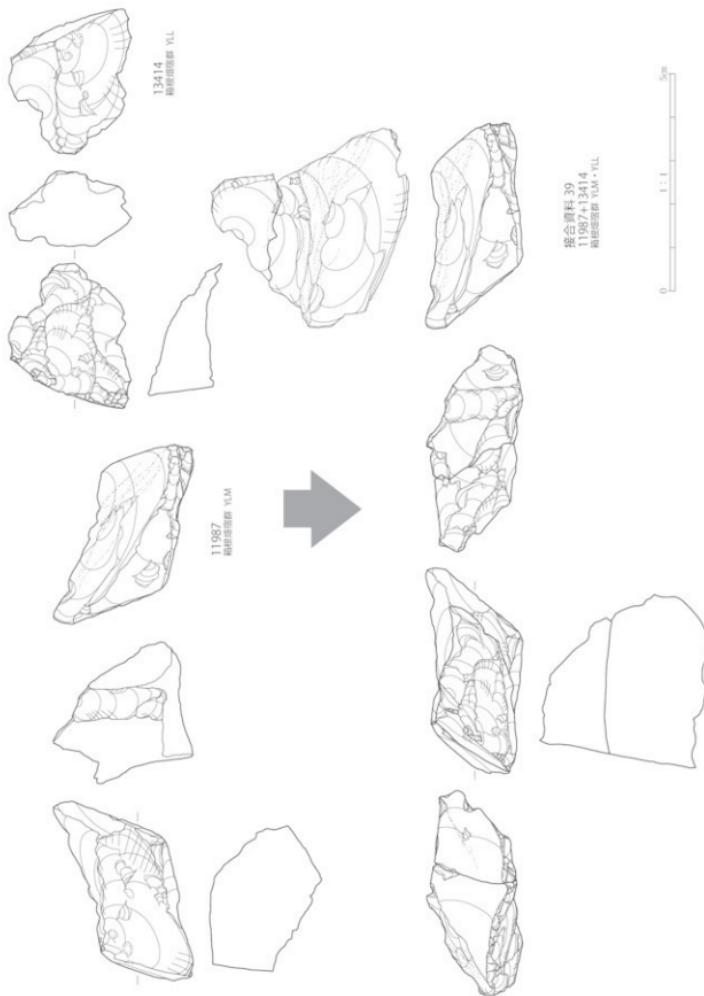


0 1 2 3 5cm

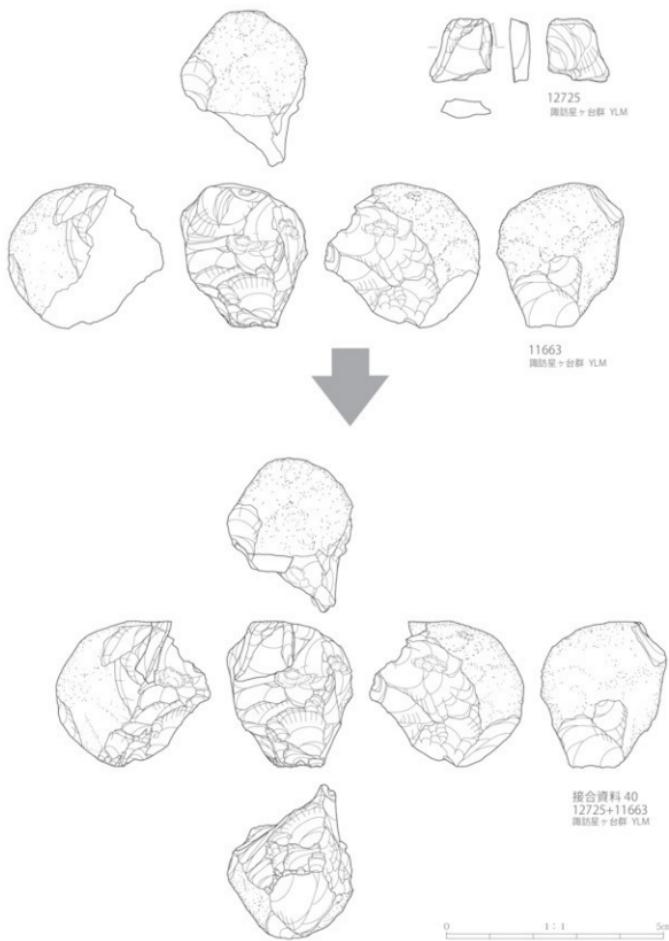
第259圖 1-10 地點 YL 層準 接合資料 (5)



第260圖 1-10 地點 YL 層準 接合資料 (6)



第261圖 1-10地點 YL層準 接合資料 (7)



第262圖 1-10地点 YL層準 接合資料(8)

**接合資料 No.41** (第 263 図 7643、12254、13100、12451)

第 24 ブロックより出土した石核と剥片 3 点の接合資料である。12451 は前述した石核 a 類に分類される単設打面の石核である。自然面の形状から亜角礫の原石を素材とする。打面、作業面には細かな調整が確認される。12254 と 13100 は同一の剥離の際に偶発的な同時割れを起こしたものと推察される。

**接合資料 No.42** (第 264 図 12015、13238)

第 24 ブロックより出土した剥片 2 点の接合資料である。背面構成から複設打面の石核より剥離される。打面は平坦打面であり、同一の剥離の際に偶発的な同時割れを起こしたものと推察される。

**接合資料 No.52** (第 265 図 12165、12252)

第 22 ブロックより出土した剥片 2 点の接合資料である。背面構成から複設打面の石核より剥離される。剥片剥離の際の偶発的な同時割れを起こしたものと推察される。

**接合資料 No.67** (第 266 図 12492、13713)

第 25 ブロックより出土した石刃 2 点の接合資料である。中間部のやや下側で折損する。背面構成から単設打面の石核より剥離される。この石刃をみると、石核は大きくて 4 ~ 5cm 程度と考えられ、本地点における石器群の小型化の傾向が窺われる資料である。

**接合資料 No.73** (第 266 図 7245、7399)

第 25 ブロックより出土した中間部で折損した彫刻刀形石器の接合資料である。素材となる石刃は単設打面の石核より剥離される。彫刀面は左側縁部に作出され、削片を剥離する際に折損したものと推察される。

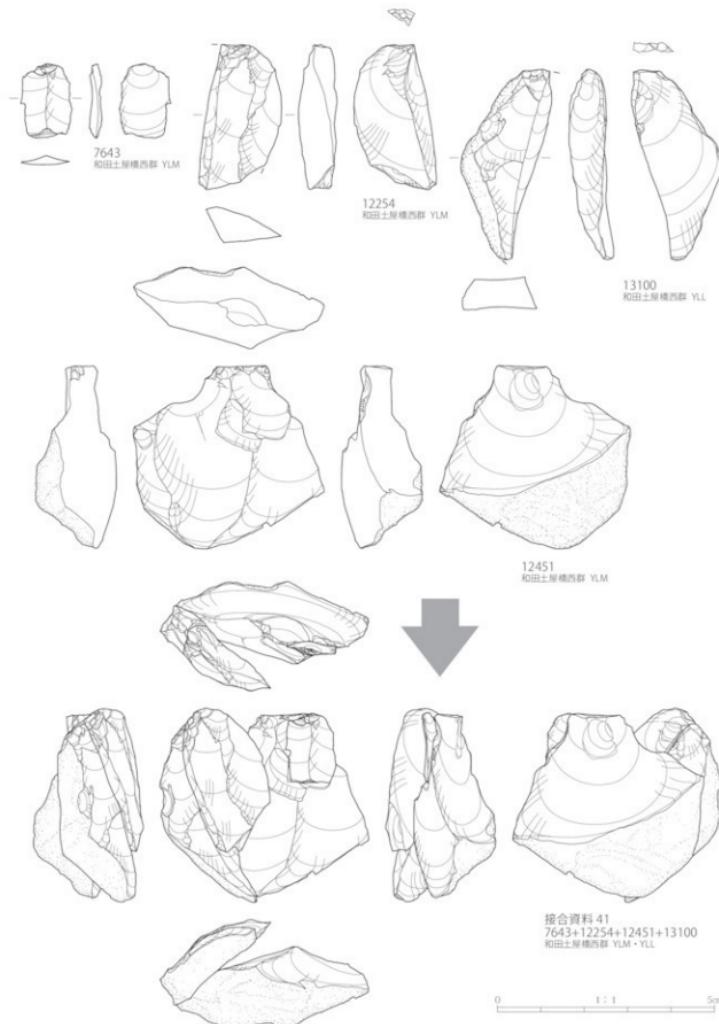
**接合資料 No.81** (第 267 図 12355、13186)

第 24 ブロックより出土した剥片 2 点の接合資料である。背面構成から複設打面をもつ石核より剥離される。折れ面には球果流紋岩が観察され、これが原因となって偶発的な割れを起こしたものと推察される。

**接合資料 No.82** (第 268 図 8045、12570)

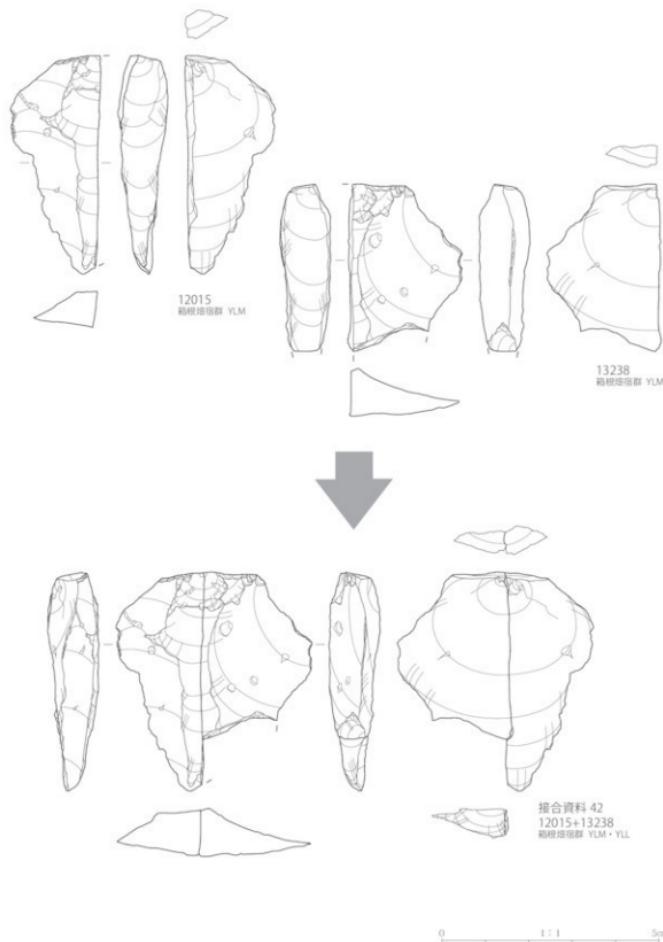
第 25 ブロックより出土した彫刻刀形石器と彫刀面再生削片の接合資料である。縱長剥片を素材とし、打点部を基部方向へ用いる。彫刀面は左側縁部に作出される。右側縁部には連続する細かな二次加工が施される。8045 は彫刀面再生削片であり、主要剥離面には使用の際に生じた微細な剥離痕を有する。

第7章 1-10地点

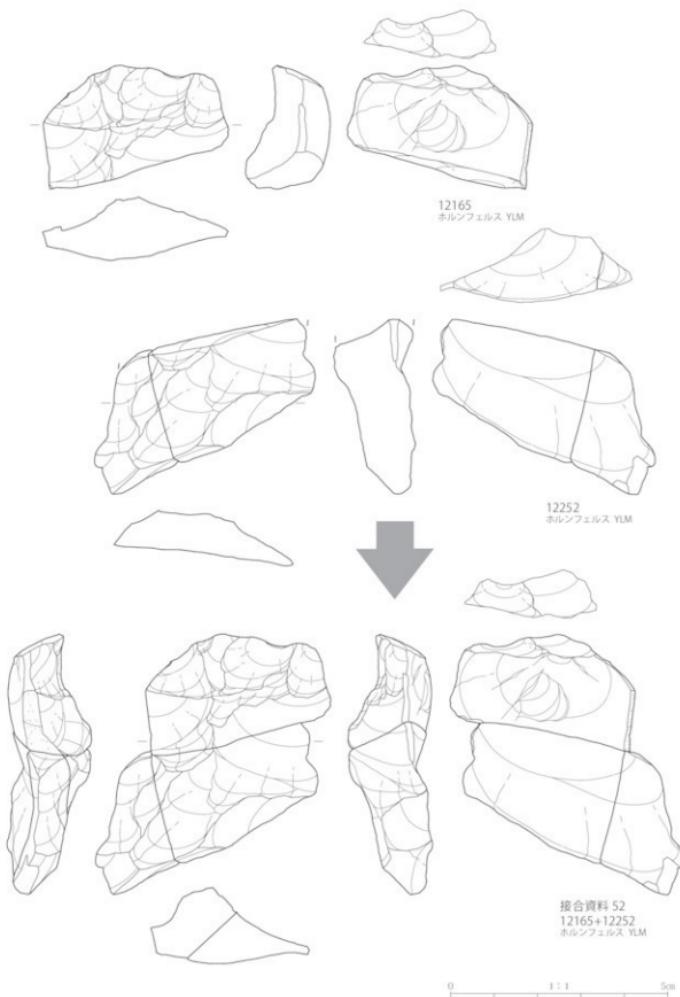


第263圖 1-10地点 YL層準 接合資料 (9)

第7章 1-10地点

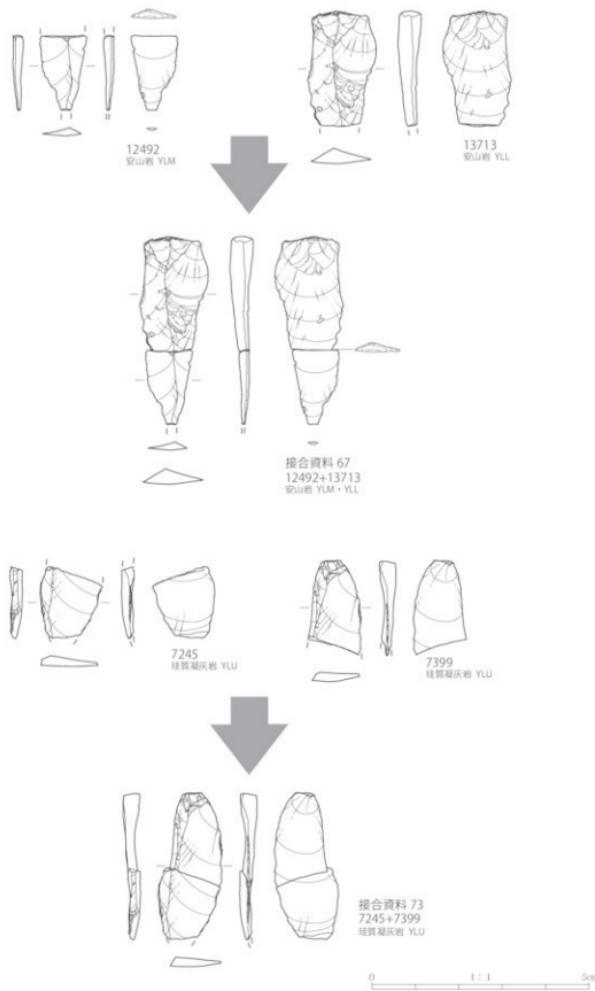


第264圖 1-10 地點 YL層準 接合資料 (10)

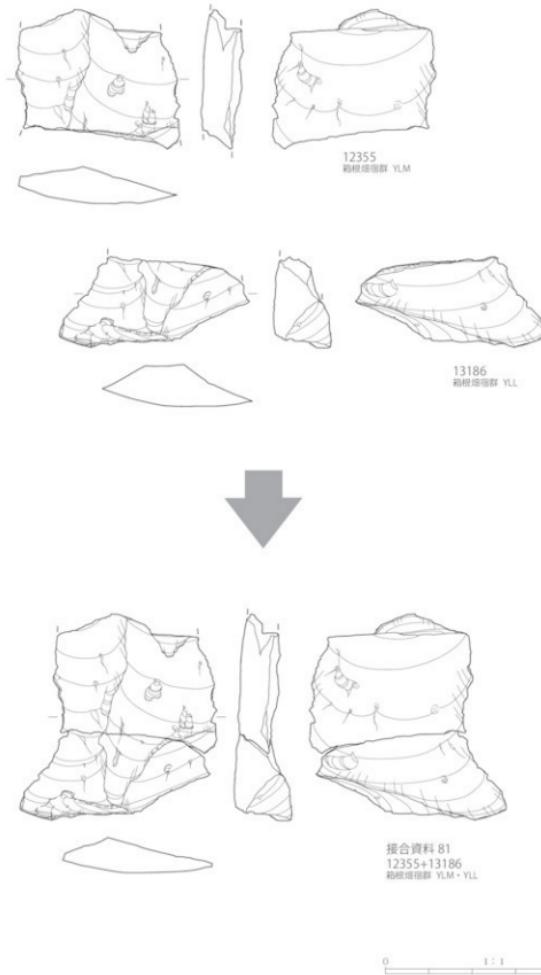


第265図 1-10地点 YL層準 接合資料(11)

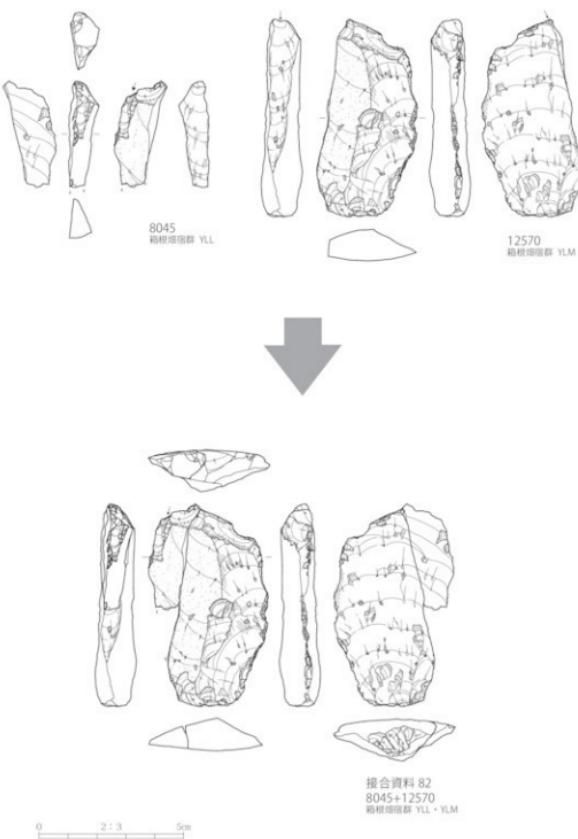
第7章 1-10地点



第266圖 1-10 地點 YL層準 接合資料 (12)



第267圖 1-10地點 YL層準 接合資料(13)



第268圖 1-10 地點 YL層準 接合資料 (14)

## 第2節 NL～BBII層の遺構・遺物

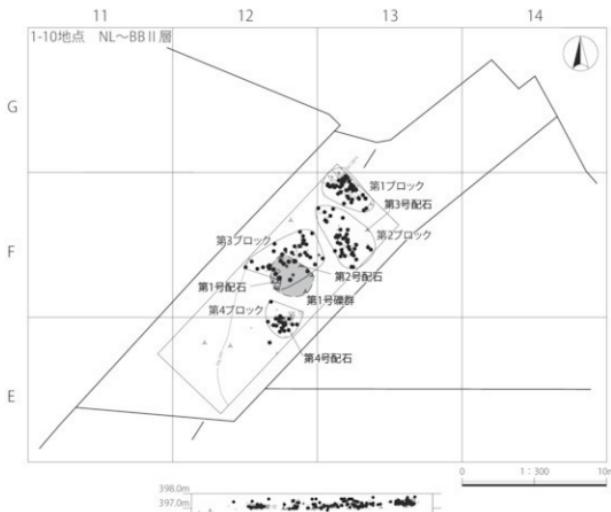
1-10地点ではYLL層までの掘削が完了した後、調査区内に3×3mの下層遺物の有無を確認するためのグリッドを4箇所設定し、一次調査を行った。この結果、すべてのグリッドのNL～BBII層にて、石器、礫が検出されたため、この範囲を二次調査区に設定し、遺構、遺物の検出作業を行った。この結果、4箇所の石器ブロックに分類される287点の石器と単独の石器3点、1箇所の礫群に分類される6点の礫と4基の配石、単独礫4点が出土した。以下に検出された遺構、遺物を記載する。

### 1. 検出された遺構

本地点のNL～BBII層にかけて、290点の石器が出土し、このうち287点が4箇所の石器ブロックとして確認された。また、礫群は1基検出されており、石器ブロックとほぼ同位置で重複する。配石は4基検出されており、石器ブロックと重複する配石2基、礫群に重複する配石が2基、配石のみが1基検出されている。以下に各遺構を詳述する。

#### (1) 石器ブロック

検出された石器は、上述のように287点が4箇所の石器ブロックとして確認されており、これらには、石器ブロックのみで構成される第1・2ブロック、礫群、配石と重複する第3ブロック、配石と重複する第



第269図 1-10地点 NL～BBII層 全体図

4 ブロックがある。以下に詳述する。

#### 第1ブロック（第270図）

本ブロックは、調査区北東端部のF・G-13 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸 3.36m、短軸 2.04m である。垂直分布は、標高 397.06 ~ 397.77m、比高差は 0.71m である。出土層位は NL ~ BB II 層であり、BB II 層に垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、石核 1 点、二次加工ある剥片 3 点、剥片 40 点、碎片 71 点の合計 115 点である。接合資料はブロック内で 4 個体確認されており、接合資料 50 は剥片 2 点が接合する。接合資料 51 は二次加工ある剥片と剥片が接合する。接合資料 51 は剥片 2 点、碎片 1 点が接合する。接合資料 76 は剥片 2 点が接合する。また、ブロック内で被熱の痕跡が確認される単独礫 1 点、炭化物 7 点が出土している。

#### 第2ブロック（第270図）

本ブロックは、調査区北東部のF-13 グリッドで確認されている。他の遺構との重複はない。石器分布範囲の規模は、長軸 4.60m、短軸 2.28m である。垂直分布は、標高 396.89 ~ 397.74m、比高差は 0.85m である。出土層位は NL ~ BB II 層であり、BB II 層に垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、剥片 39 点、碎片 32 点の合計 71 点である。接合資料はブロック内で 1 個体、ブロック間で 2 個体確認されており、ブロック内での接合資料では、接合資料 49 は剥片 2 点が接合する。ブロック間の接合資料では、接合資料 46 は本ブロックの剥片が第3ブロックの剥片と接合する。接合資料 48 は本ブロックの剥片が第4ブロックの剥片と接合する。また、ブロック内で炭化物 1 点が出土している。

#### 第3ブロック（第271図）

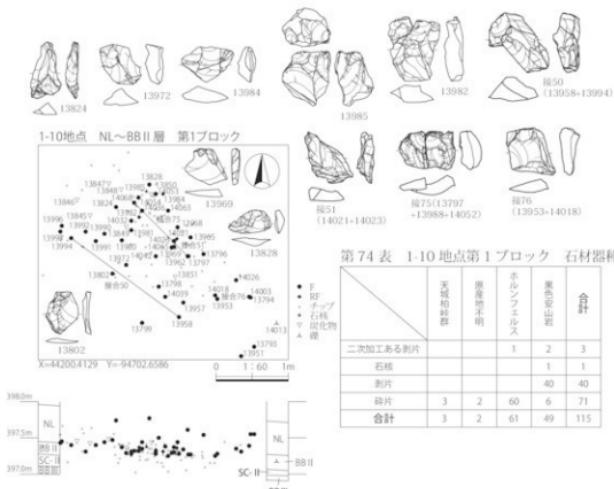
本ブロックは、調査区中央部のF-12・13 グリッドで確認されている。第1号礫群、第1・2号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 5.16m、短軸 3.00m である。垂直分布は、標高 396.86 ~ 397.63m、比高差は 0.77m である。出土層位は NL ~ BB II 層であり、BB II 層に垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、ナイフ形石器 1 点、石核 6 点、二次加工ある剥片 3 点、使用痕ある剥片 1 点、剥片 36 点、碎片 22 点の合計 69 点である。また、ブロック内で 2 個体、ブロック間で 1 個体の接合が確認される。ブロック内での接合資料では、接合資料 45 は剥片 3 点が接合する。接合資料 47 は剥片 2 点が接合する。ブロック間接合では本ブロックの剥片と第2ブロックの剥片が接合する。

#### 第4ブロック（第271図）

本ブロックは、調査区中央部のE・F-12 グリッドで確認されている。第4号配石と重複する。石器分布範囲の規模は、長軸 2.64m、短軸 2.21m である。垂直分布は、標高 396.98 ~ 397.63m、比高差は 0.65m である。出土層位は NL ~ BB II 層であり、BB II 層に垂直分布が集中する傾向がある。出土石器は、剥片 21 点、碎片 11 点の合計 32 点である。また、ブロック内で単独礫 2 点、炭化物 8 点が出土している。出土した礫には被熱の痕跡は確認されない。

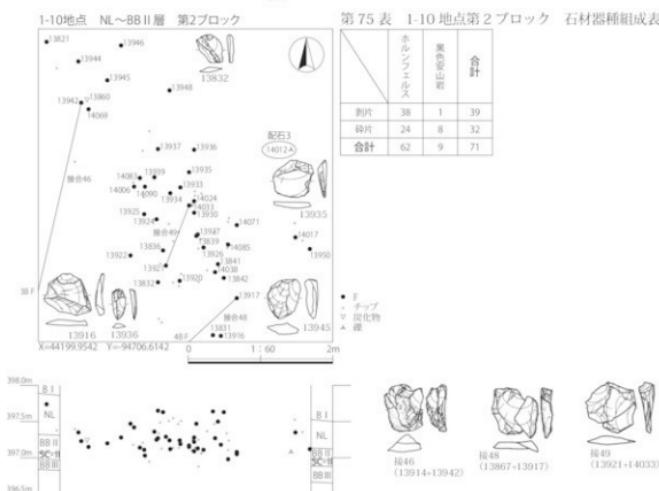
第73表 1-10 地点 NL ~ BB II 層 石材器種組成表

	箱根御所群	天城船越群	東京港群	ホシノフルス	東武山群	日高原群	合計
ナイフ形石器	1						1
二次加工ある剥片				4	2		6
使用痕ある剥片		1					1
石核				7			7
剥片	1	1		128	5	2	137
碎片	3	2	109	23	1	138	
合計	2	5	2	248	30	3	290



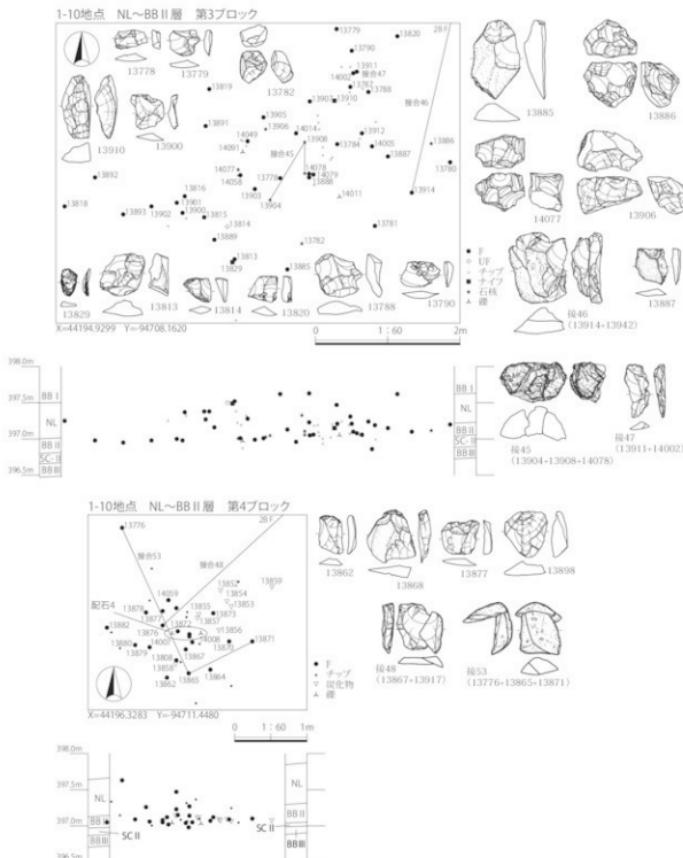
第74表 1-10地点第1ブロック 石材器種組成表

	天城町 利根郡	鹿嶺 不明	ホルンフェルス	黒色 山岩	合計
二次加工ある鉄片			1	2	3
石核			1	1	1
鉄片			40	40	
鉄片	3	2	60	6	71
合計	3	2	61	49	115



第270図 1-10地点 NL～BBⅡ層 第1・2ブロック、第3号配石遺物分布図

接合資料はブロック内で1個体、ブロック間で1個体が確認された。ブロック内の接合資料では、接合資料53は剥片3点が接合する。ブロック間の接合資料では、接合資料48は本ブロックの剥片が第2ブロックの剥片と接合する。また、出土した炭化物のうち1点(13854)の放射性炭素年代測定を行ったところ、 $27,996 \pm 125$ BPであった。詳細は第11章の自然科学分析を参照していただきたい。



第271図 1-10地点 NL～BBⅡ層 第3・4ブロック、第4号配石遺物分布図

第76表 1-10地点第3ブロック 石材器種組成表 第77表 1-10地点第4ブロック 石材器種組成表

	新規発見 数	既知 数	ホル ンブル ス	裏 表 面	計 算
ナイフ形石器	1				1
二次加工ある剣片		3			3
使用歴ある剣片	1				1
石核		6			6
剣片	1	1	29	3	36
砂片			20	2	22
合計	2	2	58	5	69

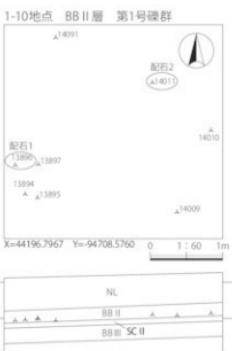
	新規発見 数	既知 数	ホル ンブル ス	裏 表 面	計 算
剣片	20	1			21
砂片	4	6	1	11	
合計	24	7	1	32	

## (2) 碓群

礫群は、第3ブロック、第1・2号配石とほぼ同位置で検出されており、これらの配石には被熱した痕跡が確認されることから礫群構成礫の可能性が高いものと推察されるが、ここでは個別遺構として扱うこととする。以下に詳述する。

第1号礫群（第272図）

本礫群は、調査区中央部のF-12グリッドで確認されている。第3ブロック、第1・2号配石と重複する。礫の分布範囲の規模は、長軸2.53m、短軸2.14mである。垂直分布は標高396.98～397.08mであり、比高差は0.1mである。検出層位はBB II層である。構成する礫は6点であり、総重量3.007gを測る。このうち4点に被熱の痕跡が認められる。接合資料は無い。



第78表 1-10地点礫群・配石組成表

	長軸 m	短軸 m	礫 数	新規発見 数	既 知 数	保 持 点 数
第1号礫群	2.53	2.14	6	3.007	4	
第1号配石				1,153	1	
第2号配石				1,053	1	
第3号配石				939	1	
第4号配石				2,522		

第272図 1-10地点 NL～BB II層 第1号礫群、第1・2号配石遺物分布図

### (3) 配石

配石は4基確認されている。これらのうち、第1号礫群と重複する、第1・2号配石には被熱した痕跡が確認され、礫群構成礫としての機能を有していた可能性が高いものと推察される。以下に詳述する。

#### 第1号配石（第272図）

第1号配石は、調査区中央部のF-12 グリッドで確認されている。第1号礫群と重複しており、第2号配石と約2.2m離れた距離で検出された。第1号礫群の構成礫3点と約0.3～0.4mの距離で密集した状況で検出される。出土層位はBBII層であり、出土レベルは標高396.98mである。礫は重量1,153gの板状礫であり、被熱の痕跡が認められる。

#### 第2号配石（第272図）

第2号配石は、調査区中央部のF-12 グリッドで確認されている。第1号礫群の北東外縁付近に位置しており、第1号配石と約2.2m離れた距離で検出された。出土層位はBBII層であり、出土レベルは標高397.06mである。礫は重量1,053gの板状礫であり、礫には著しい被熱の痕跡が認められる。

#### 第3号配石（第270図）

第3号配石は、調査区北東部のF-13 グリッドで確認されている。第2ブロックの北東外縁付近で検出された。出土層位はBBII層であり、出土レベルは標高397.09mである。礫は重量939gの亜角礫であり、礫には被熱の痕跡が認められる。

#### 第4号配石（第271図）

第4号配石は、調査区中央部のE-12 グリッドで確認されている。第4ブロックのほぼ中央部で検出された。約0.4m離れて出土した2点が接合する。出土層位はBBII層であり、出土レベルは標高397.05mである。礫は重量2,522gの亜角礫である。

## 2. 出土遺物

本調査地点の NL ~ BB II 層で確認された石器は、前述したように第 1 ブロック～第 4 ブロックで出土した 287 点、散在的に出土した 3 点の計 290 点で構成されている。これら石器類の器種の内訳は、ナイフ形石器 1 点、石核 7 点、二次加工ある剥片 6 点、使用痕ある剥片 1 点、剥片 137 点、碎片 138 点である。以下では、各器種の特徴を把握しながら、石器群の様相を捉えていきたい。

### (1) 石器

#### ナイフ形石器（第 273 図 13829）

1 群 c 類のものが 1 点出土した。13829 は、単設打面の石核から剥離された剥片を素材とし、打点部を刃部方向へ用いる。打点部はプランティング加工によって大きく整形され、除去されている。プランティングは主要剥離面からの一方向から施されており、急角度を呈する。

#### 二次加工ある剥片（第 274 図 13982 ~ 14021）

6 点出土している。いずれも剥片の側縁部や端部に二次加工を施すものであり、これらは、当該期のいずれかの器種を製作するために二次加工が施されたものであるが、調整が明確ではないことから二次加工ある剥片としている。素材は全て剥片であり、石刃素材のものは認められない。剥片は単設打面の石核より剥離されたもの（13984、13885）、複設打面の石核より剥離されたもの（13782、13910、13982、14021）がある。

#### 使用痕ある剥片（第 274 図 13814）

13814 は、単設打面の石核より剥離された剥片の上端部に使用の際に生じたと考えられる微細な剥離痕が観察される。打面は調整打面であり、一部自然面が残存する。

#### 石核（第 275 ~ 276 図 13886 ~ 14078）

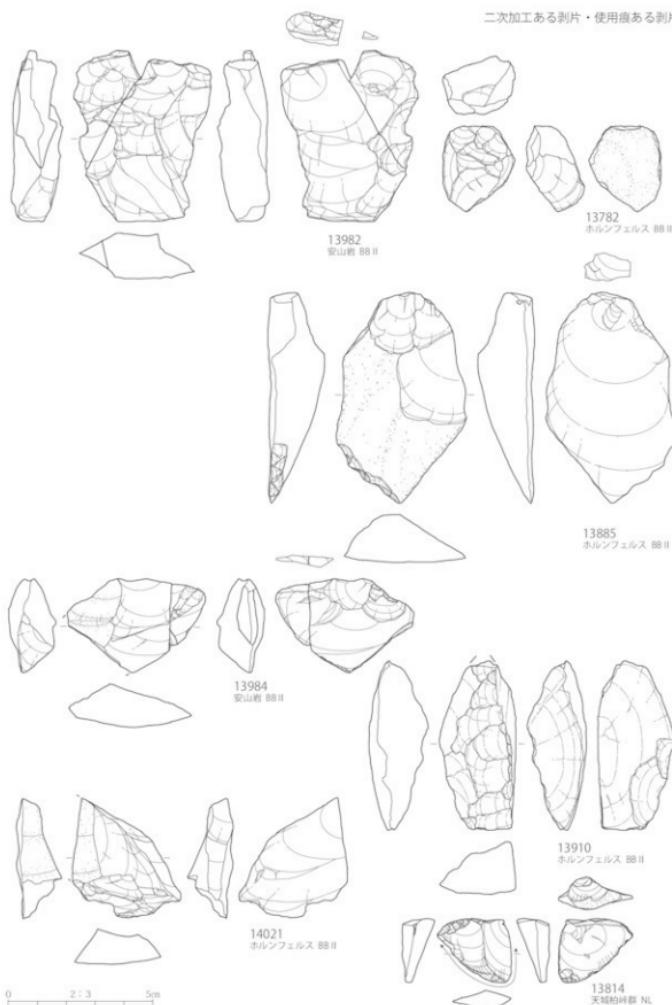
いずれの石核も打面を 90 度転移しながら剥片を剥離する複設打面の石核である。単設、両設打面の石核は確認されないが、細かな打面調整が認められるもの（13985、13886、14077）が 3 点確認される。僅か 7 点と限られた資料のため明言はできないが、本地点の NL ~ BB II 層においては明確な石刃技法は認められず、円礫、亜円礫の原石を用いて、打面転移を行なながら剥片剥離を行い、目的的な剥片を獲得していくものと推察される。

ナイフ形石器



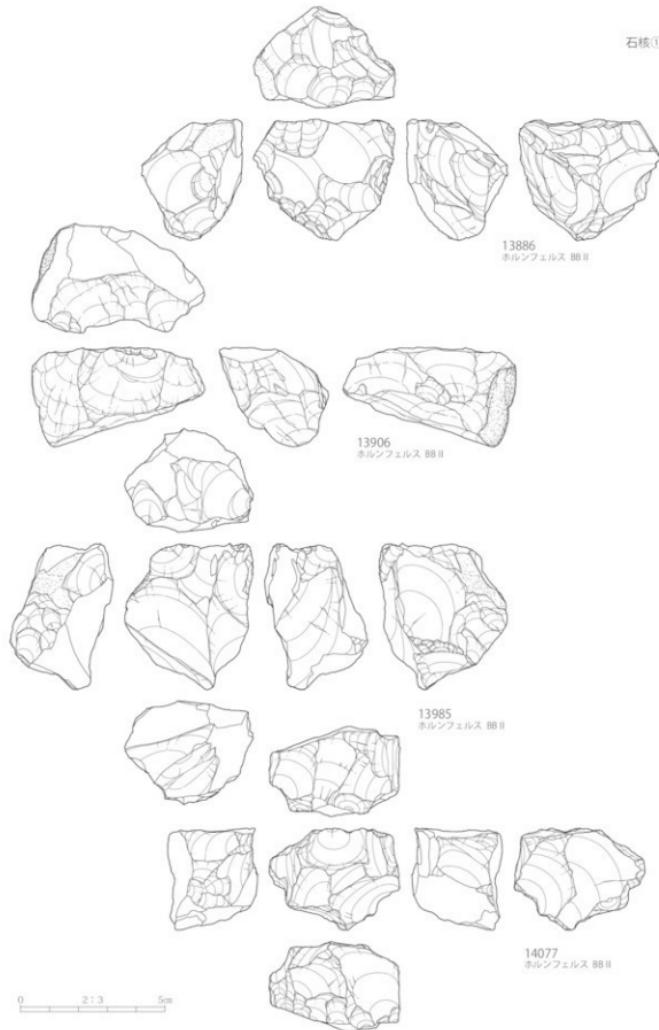
第 273 図 1-10 地点 NL ~ BB II 層 出土遺物 (1)

二次加工ある剥片・使用痕ある剥片

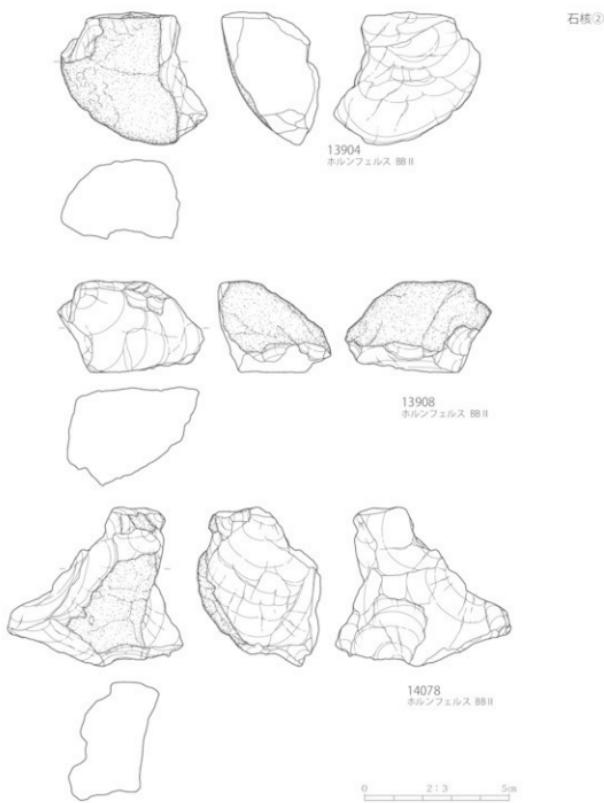


第274図 1-10地点 NL～BB II層 出土遺物(2)

第7章 1-10地点



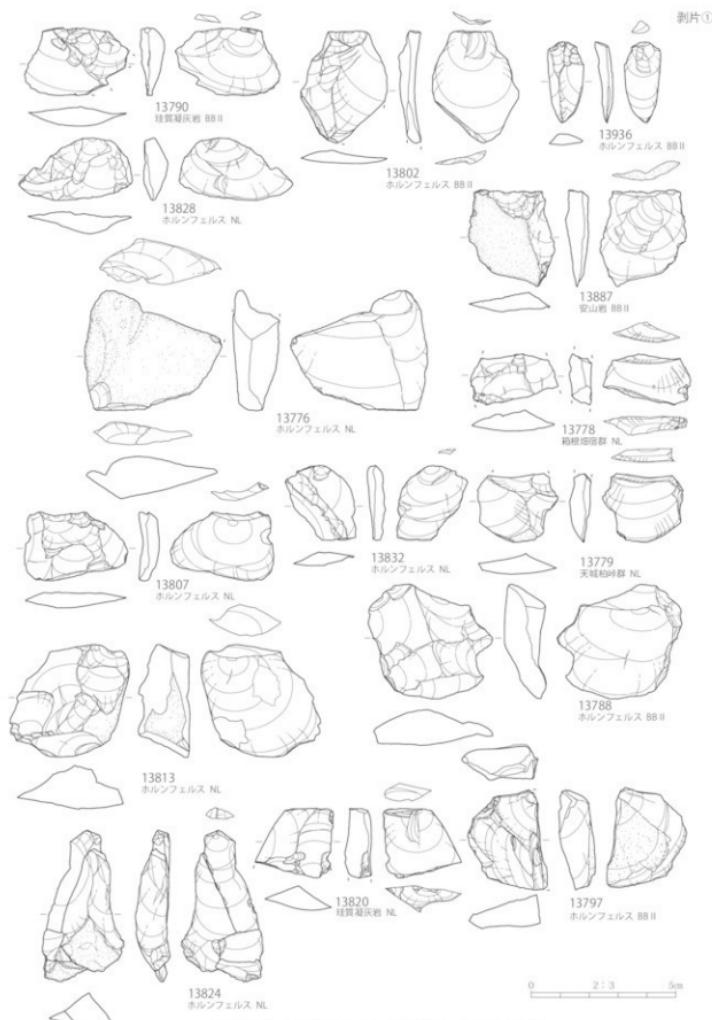
第275図 1-10地点 NL～BB II層 出土遺物（3）



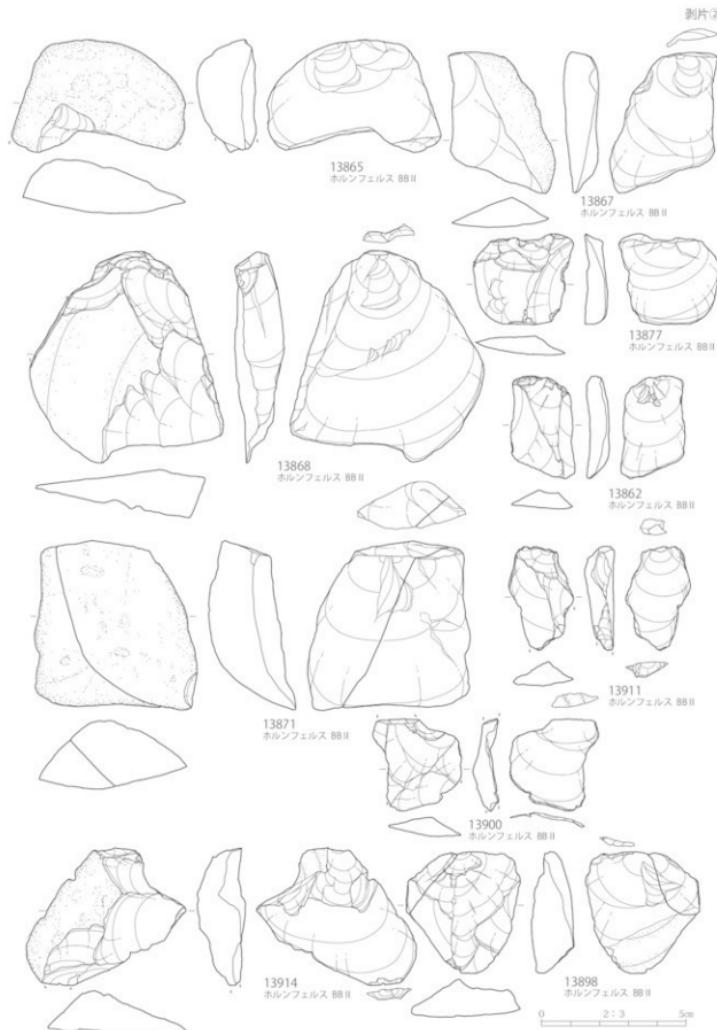
第276図 1-10地点 NL～BB II層 出土遺物(4)

## 剥片(第277～280図 13790～14033)

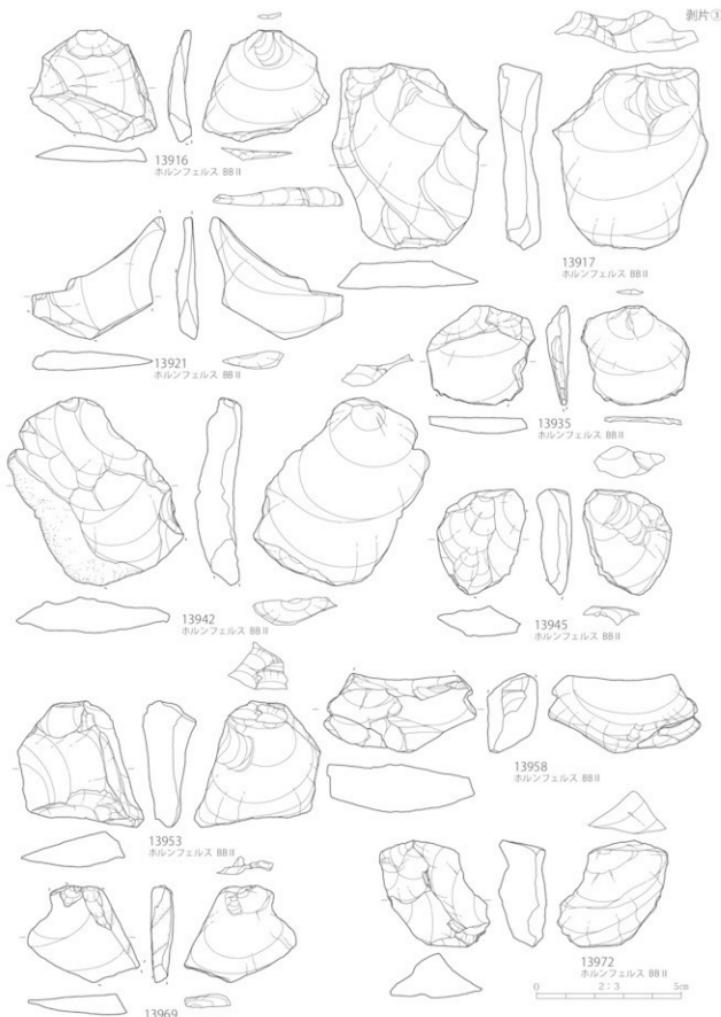
137点出土したうち40点を図示した。単設打面の石核より剥離されたもの(13790、13802、13828、13936、13887)、他は全て複設打面の石核より剥離されたものである。前述した石核においても単設、両設打面の石核は確認されず、本層の剥片剥離技術が单一の剥片剥離技術に依存した剥片剥離を行い、目的的な剥片を獲得していたものと考えられる。



第277図 1-10地点 NL～BBII層 出土遺物(5)

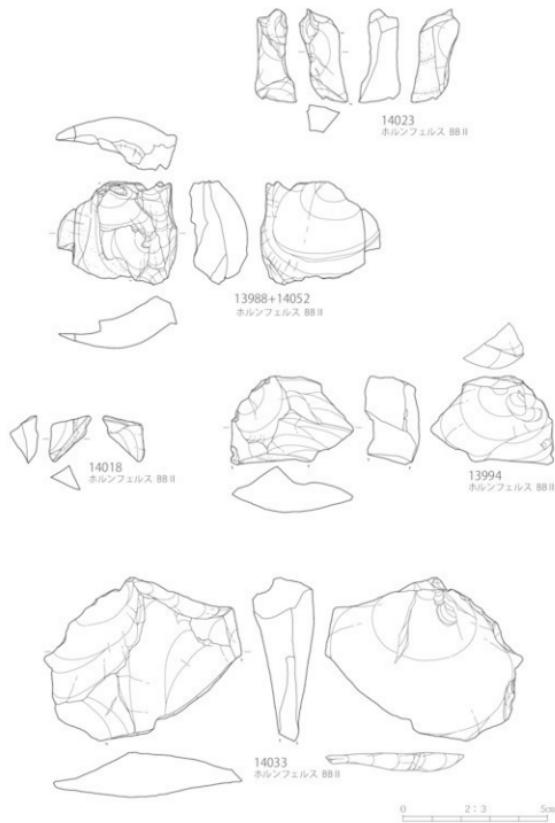


第278図 1-10地点 NL ~ BB II層 出土遺物 (6)



第279図 1-10地点 NL ~ BB II層 出土遺物 (7)

剥片④



第280図 1-10地点 NL ~ BB II層 出土遺物 (8)

(2) 接合資料

本調査地点のNL～BBII層で確認された接合資料は、10個体である。以下に詳述する。

**接合資料 No.45** (第281・282図 13904、13908、14078)

第3ブロックより出土した石核3点の接合資料である。器面全体が著しく風化、摩耗しており、背面には自然面を有する。接合状況から原石は拳大の円盤であり、ほぼ半割した状態のものを3分割している。分割後の目的的な剥片剥離は行われない。

**接合資料 No.46** (第283図 13914、13942)

第2ブロックより出土した剥片と第3ブロックより出土した剥片の接合資料である。背面構成から、複設打面を持つ石核から剥離されており、90度の打面転移を行なながら剥片剥離が行われる。13914は剥片剥離時の偶発的な割れによって打点部を欠損する。13914を剥離後、同一方向より13942が剥離される。

**接合資料 No.47** (第284図 13911、14002)

第3ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。器面全体が著しく風化、摩耗する。背面構成から複設打面を持つ石核より剥離されており、剥片剥離の際に偶発的な同時割れを起こしたものと推察される。

**接合資料 No.48** (第284図 13867、13917)

第2ブロックより出土した剥片と第4ブロックより出土した剥片の接合資料である。背面構成から、複設打面を持つ石核より剥離されている。打面は平坦打面である。

**接合資料 No.49** (第285図 13921、14033)

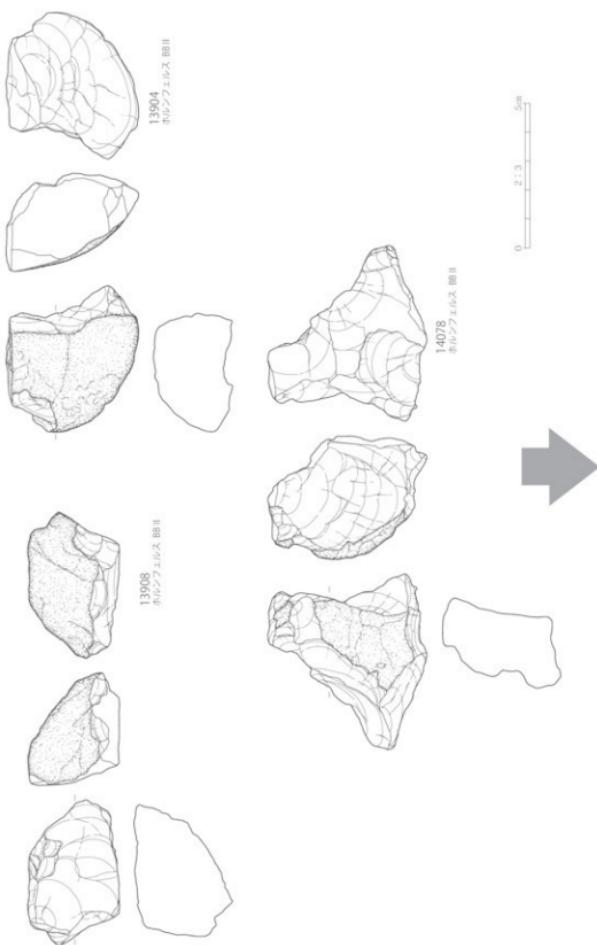
第2ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。背面構成から、複設打面を持つ石核より剥離されている。剥片剥離の際に偶発的な同時割れを起こしたものと考えられる。打面には細かな調整が施される。

**接合資料 No.50** (第286図 13958、13994)

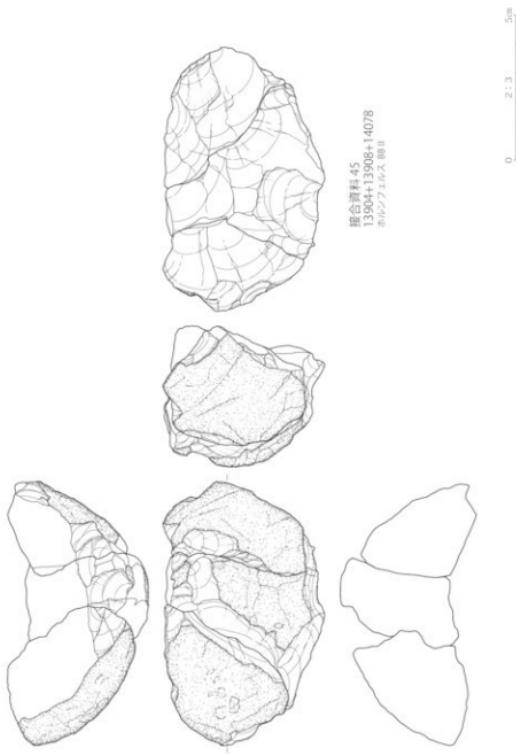
第1ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。剥離面には風化、摩耗は確認されない。背面構成から、複設打面を持つ石核より剥離されている。どちらの剥片も剥片剥離の際に折損している。13944に残る打面は平坦打面である。

**接合資料 No.51** (第286図 14021、14023)

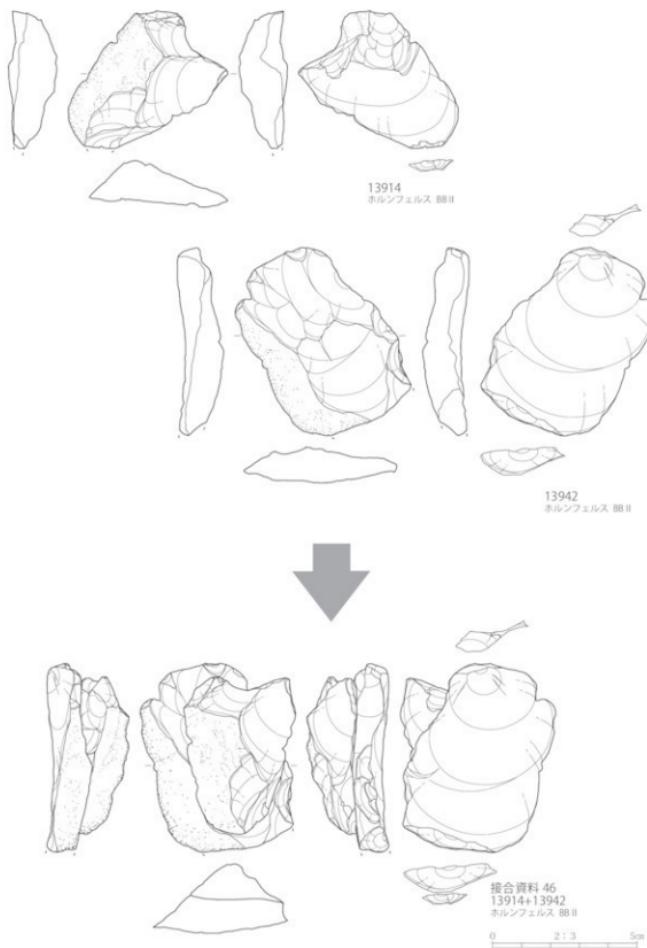
第1ブロックより出土した二次加工ある剥片と剥片の接合資料である。背面構成から、複設打面を持つ石核より剥離されている。剥片剥離の際に節理面により同時割れを起こしたものと考えられる。



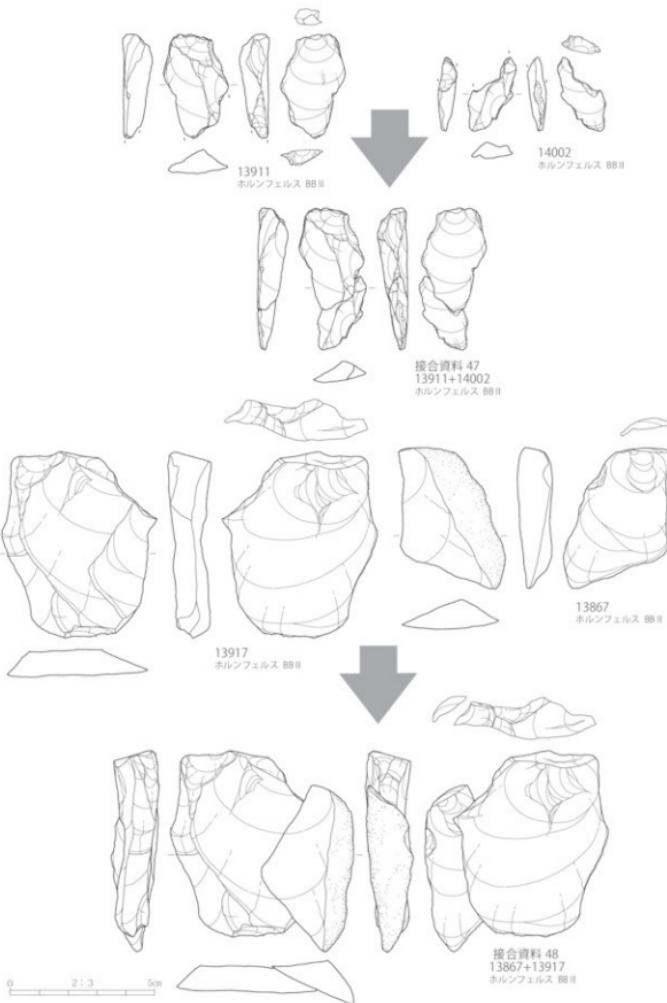
第281図 1-10地点 NL ~ BB II層 接合資料 (1)



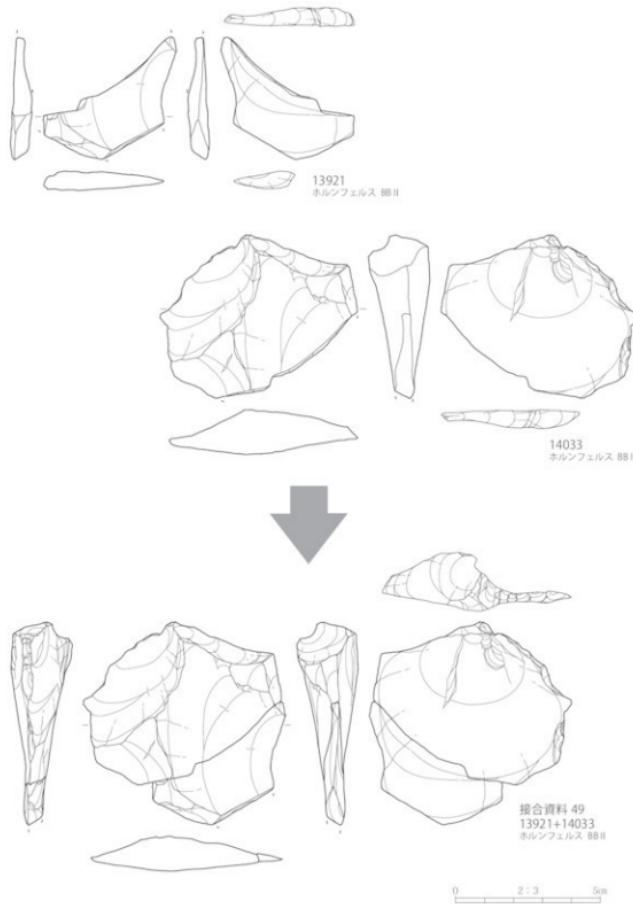
第282圖 1-10 地點 NL ~ BBII層 接合資料 (2)



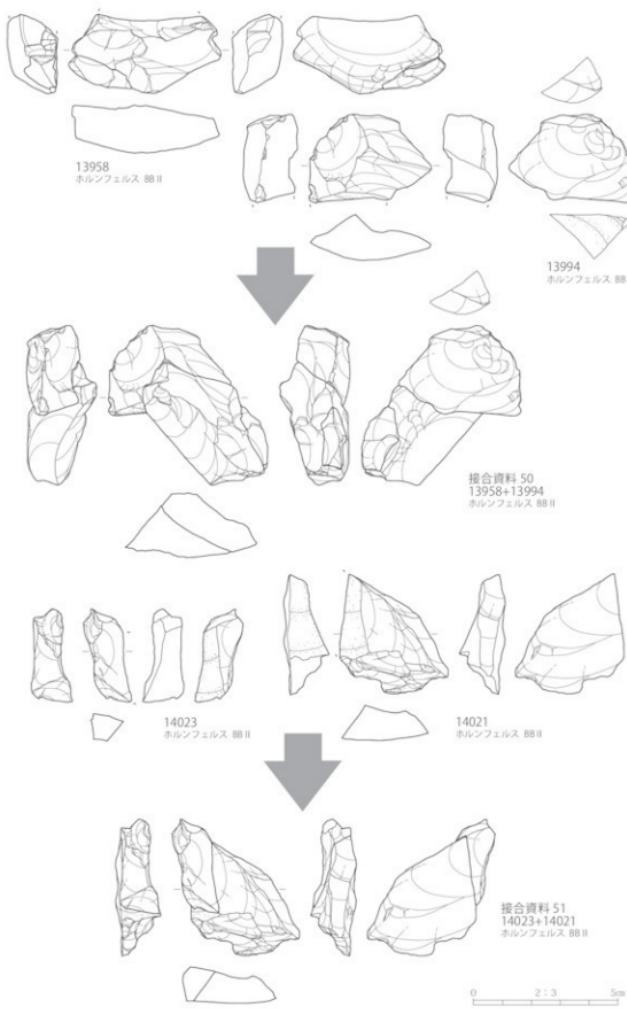
第283図 1-10地点 NL ~ BB II層 接合資料 (3)



第284図 1-10地点 NL～BBII層 接合資料(4)



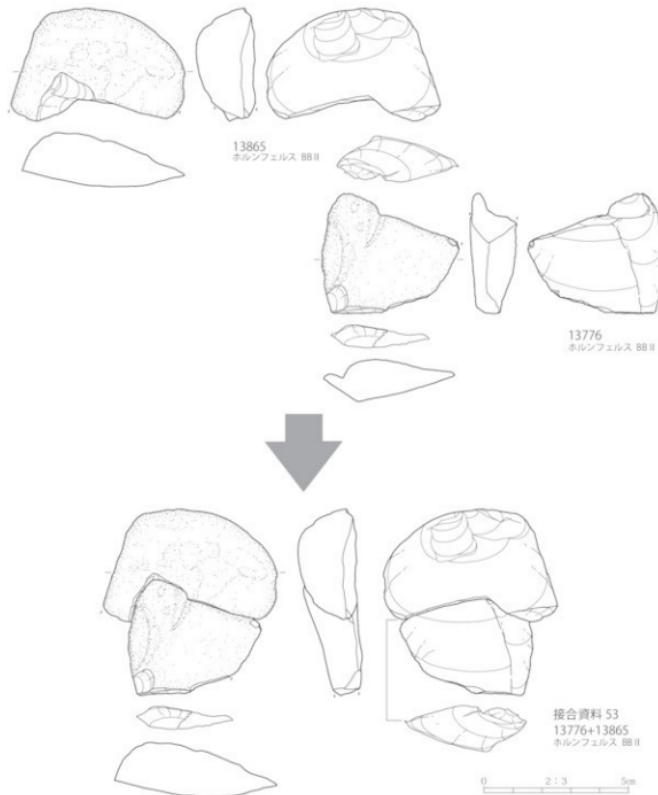
第285図 1-10地点 NL～BB II層 接合資料(5)



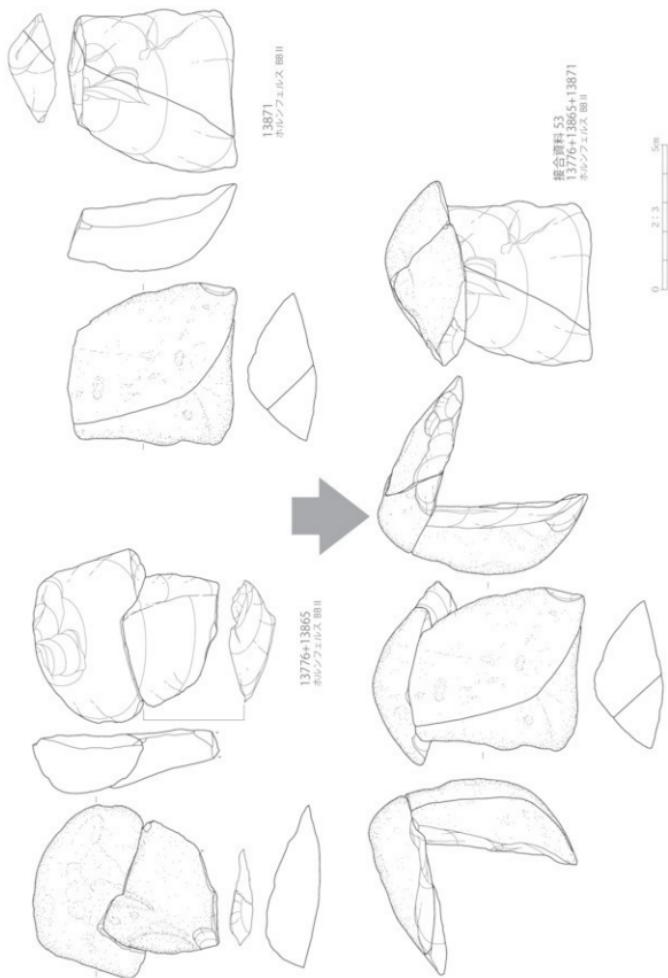
第286図 1-10地点 NL～BB II層 接合資料（6）

接合資料 No.53 (第287・288図 13776、13865、13871)

第4ブロックより出土した剥片3点の接合資料である。いずれの剥片も自然面を有しており、原石は拳大の円礫である。13865、13776は、自然面の平坦面を打面として剥離されており、この際に同時に割れを起こしたものと考えられる。この剥離の後、90度の打面転移を行い、13871を剥離する。



第287図 1-10地点 NL～BBII層 接合資料(7)



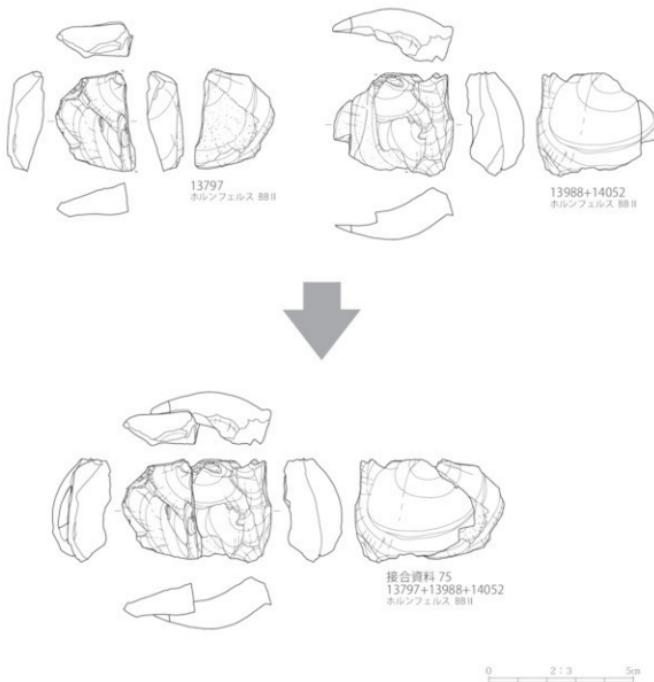
第288図 1-10地点 NL ~ BBⅡ層 接合資料 (8)

接合資料 No.75 (第289図 13797、13988、14052)

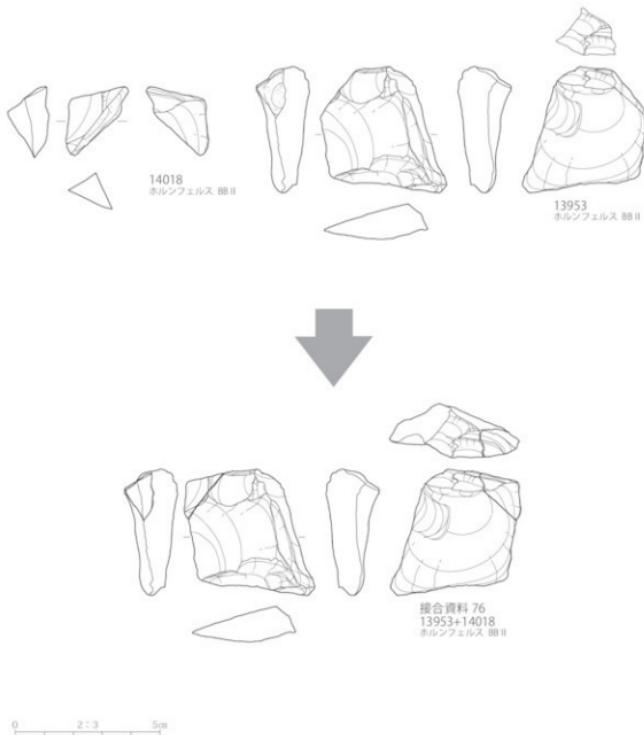
第1ブロックより出土した剥片2点、碎片1点の接合資料である。背面構成から複設打面を持つ石核より剥離される。打面は平坦打面であり、3点ともに同一剥離の際に節理面により偶発的な同時割れを起こしたものである。

接合資料 No.76 (第290図 13953、14018)

第1ブロックより出土した剥片2点の接合資料である。背面構成から複設打面を持つ石核より剥離される。打面は平坦打面であり、2点ともに同一剥離の際に節理面により偶発的な同時割れを起こしたものである。



第289図 1-10地点 NL～BBII層 接合資料 (9)



第290図 1-10地点 NL～BB II層 接合資料 (10)

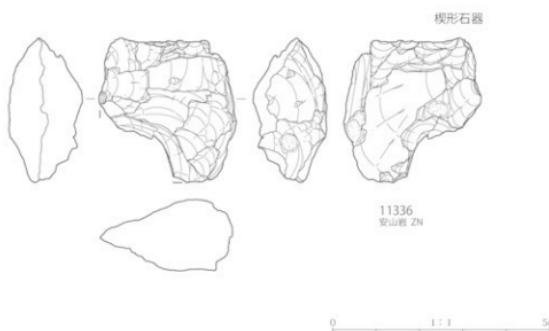
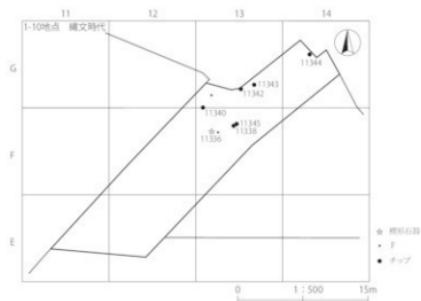
### 第3節 繩文時代の遺物

本地点のZN層から10点の石器が出土した。楔形石器1点、剥片6点、碎片3点である。このうち楔形石器1点を図示した。以下に詳述する。

#### 1. 出土遺物

##### 楔形石器（第291図 11336）

複設打面の石核より剥離された剥片を素材とする。上下端部には衝撃に伴う剥離痕が観察される。石材は安山岩である。



第291図 1-10地点 繩文時代 遺物分布図・出土遺物